中津市文化財調査報告 第 102 集

中津城下町遺跡37次調査

大分県中津市殿町における児童館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２１

中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬渓など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。また、近年は自動車関連会社などの進出・稼働により工業の町としての新たな側面も見せ始めています。

一方、経済活動の発展・促進に付随した開発事業は、埋蔵文化財へ影響を与えることがあります。令和２年度はこうした開発事業にともなう試掘・確認調査が、東九州道などへのアクセス道路整備及び市街地周辺の宅地化などにより、前年度に引き続き増加傾向にあります。埋蔵文化財を取り巻く環境は厳しいところではありますが、文化財は現代に生きる我々が責任をもって未来へ伝えていかなくてはなりません。

本書はこうした開発の中で、中津市殿町における児童館建設に先立ち、中津市教育委員会が実施した中津城下町遺跡 37 次調査の発掘調査報告書です。調査により江戸時代以降の城下町や武家屋敷に関連する施設が確認され、当地域の歴史を考えるうえで貴重な資料となりました。

本書が歴史教育や学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護やその理解への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力を賜りました関係各位、並びに調査に従事してくださった方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

令和３年３月 31 日

中津市教育委員会

教育長　粟田　英代

例　　言

１．本書は、中津市立児童館建設に伴い、大分県中津市殿町 1380 番 1 で平成 29 年度に実施した、中津城下町遺跡 37 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
２．調査は、平成 30 年 1 月 22 日から中津市教育委員会が実施した。
３．本書に掲載した遺構の略称は、建物跡をＳＢ、井戸跡をＳＥ、土坑をＳＫ、溝状遺構をＳＤ、不整形土坑をＳＸ、ピットをＳＰと表記した。
４．遺構の実測図作成及び写真撮影は、主として調査担当者の浦井直幸・丸山利枝・衞藤美紀・末永弥義のほか、宮津しのぶ・村上由美子が行った。
５．出土遺物の整理作業は、安倍方恵・粟田真弥・衛藤京子・高榎裕美・土橋厚子が担当した。
６．出土遺物の実測･トレース･写真撮影は、安倍･岩男純子･衛藤京子･吉上かおり･木村風里･久原彩･高榎・末永が行った。
７．本書で使用した座標は、世界測地系第Ⅱ座標系による。
８．本書に掲載した中津城下町遺跡周辺主要遺跡等分布図は、国土地理院発行の 1/50,000「中津」･「宇佐」を改変したものである。
９．今回の調査で出土した遺物及び検出した遺構の図面・写真等の記録は、中津市教育委員会に保管している。
10．本書の執筆・編集は末永が行った。

本文目次

第１章　調査の経過と組織 …… 1
　第１節　調査の経過 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
第２章　遺跡の地理的・歴史的環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の方法と成果 …… 6
　　１　建物跡 …… 7
　　２　井戸跡 …… 9
　　３　土坑 …… 11
　　４　溝状遺構 …… 76
　　５　その他の遺構 …… 78
第４章　調査のまとめ …… 108

挿図目次

第１図　中津城下町遺跡周辺主要遺跡等分布図（縮尺 1/50,000）…… 4
第２図　中津城下町遺跡 37 次調査地位置図（縮尺 1/5,000）…… 5
第３図　中津城下町遺跡 37 次調査全体図（縮尺 1/200）…… 6
第４図　建物跡実測図１（縮尺 1/50）…… 7
第５図　建物跡実測図２（縮尺 1/50）…… 8

第６図　井戸跡実測図（縮尺 1/30）…… 9
第７図　２号井戸跡出土遺物実測図１（縮尺 1/3）…… 10
第８図　２号井戸跡出土遺物実測図２（縮尺 1/3・1/4）…… 11
第９図　土坑実測図１（縮尺 1/40）…… 13
第 10 図　１号・２号・３号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 14
第 11 図　３号土坑出土遺物実測図１（縮尺 1/3）…… 15
第 12 図　３号土坑出土遺物実測図２（縮尺 1/3）…… 16
第 13 図　３号土坑出土遺物実測図３（縮尺 1/3）…… 17
第 14 図　３号土坑出土遺物実測図４（縮尺 1/3）…… 18
第 15 図　３号土坑及び３号・４号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 20
第 16 図　３号・４号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 21
第 17 図　３号・４号土坑及び４号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 23
第 18 図　４号土坑出土遺物実測図１（縮尺 1/3）…… 24
第 19 図　４号土坑出土遺物実測図２（縮尺 1/3）…… 25
第 20 図　４号土坑出土遺物実測図３（縮尺 1/3）…… 26
第 21 図　４号土坑出土遺物実測図４（縮尺 1/2・1/3・1/4）…… 27
第 22 図　５号・６号・７号・８号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 29
第 23 図　土坑実測図２（縮尺 1/40）…… 31
第 24 図　９号・10 号・11 号・12 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 32
第 25 図　12 号・13 号・14 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 33
第 26 図　14 号・15 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 35
第 27 図　15 号・16 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 36
第 28 図　16 号・17 号・18 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 38
第 29 図　土坑実測図３（縮尺 1/40）…… 39
第 30 図　18 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 40
第 31 図　18 号・19 号・20 号・21 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 41
第 32 図　21 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 43
第 33 図　22 号・23 号・24 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 45
第 34 図　24 号土坑出土遺物実測図１（縮尺 1/3）…… 47
第 35 図　24 号土坑出土遺物実測図２（縮尺 1/3）…… 48
第 36 図　24 号土坑出土遺物実測図３（縮尺 1/3）…… 49
第 37 図　24 号土坑出土遺物実測図４（縮尺 1/3）…… 50
第 38 図　24 号土坑出土遺物実測図５（縮尺 1/3）…… 51
第 39 図　24 号土坑出土遺物実測図６（縮尺 1/3）…… 52
第 40 図　24 号土坑出土遺物実測図７（縮尺 1/3）…… 53
第 41 図　土坑実測図４（縮尺 1/40）…… 56
第 42 図　24 号・25 号・26 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 57
第 43 図　26 号・27 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 58
第 44 図　28 号土坑・29 号土坑上層・29 号土坑中層出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 59
第 45 図　29 号土坑中層・29 号土坑下層出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）…… 62
第 46 図　30 号・31 号・32 号・33 号・34 号・35 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 63

第 47 図　土坑実測図５（縮尺 1/40）…… 64
第 48 図　36 号・37 号・38 号・39 号・40 号・41 号・42 号土坑出土遺物実測図
（縮尺 1/2・1/3）…… 67
第 49 図　土坑実測図６（縮尺 1/40）…… 68
第 50 図　43 号・45 号・46 号・47 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 69
第 51 図　土坑実測図７（縮尺 1/40）…… 70
第 52 図　47 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 72
第 53 図　47 号・49 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 73
第 54 図　50 号・51 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 75
第 55 図　51 号土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 76
第 56 図　溝状遺構実測図１（縮尺 1/50）…… 77
第 57 図　溝状遺構実測図２（縮尺 1/50）…… 79
第 58 図　３号・４号・５号溝状遺構出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3・1/4）…… 80
第 59 図　１号不整形土坑出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 81
第 60 図　２号・３号不整形土坑、36 号・44 号・52 号・54 号ピット出土遺物実測図
（縮尺 1/2・1/3・1/8）…… 83
第 61 図　60 号・62 号・68 号・69 号・72 号・73 号・82 号ピット出土遺物実測図
（縮尺 1/2・1/3）…… 84
第 62 図　包含層出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 85
第 63 図　表面採集遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 86
第 64 図　幕末期の中津城下町絵図 …… 110

表目次

第１表　出土遺物観察表…… 88
第２表　出土瓦観察表…… 107

図版目次

図版１　（１）中津城下町遺跡 37 次調査地全景（北から）　（２）調査区全景（南から）
図版２　（１）調査区全景（北から）　（２）調査区北部（南東から）
（３）調査区北部（東から）
図版３　（１）調査区中央部（東から）　（２）調査区中央部（東から）
（３）調査区中央部（南東から）　（４）調査区中央部（東から）
（５）調査区南部（南東から）　（６）調査区南部（西から）
図版４　（１）調査区北端部（東から）　（２）調査区北端部（西から）
（３）２号建物跡（北東から）　（４）２号建物跡集石（東から）
（５）１号井戸跡（東から）　（６）２号井戸跡（東から）
（７）２号井戸跡（南から）
図版５　（１）２号井戸跡出土遺物　（２）１号土坑（南から）
（３）２号土坑（南から）　（４）３号・４号土坑（南西から）
（５）３号土坑（南西から）　（６）４号土坑（東から）

（7）４号土坑木製品出土状況（西から）

図版６　（1）３号土坑出土遺物１　（2）３号土坑出土遺物２
（3）３号土坑出土遺物３　（4）３号土坑出土遺物４
（5）３号土坑出土遺物５　（6）３号・４号土坑出土遺物
（7）４号土坑出土遺物１　（8）４号土坑出土遺物２

図版７　（1）４号土坑出土遺物３　（2）４号土坑出土遺物４
（3）４号土坑出土遺物５　（4）４号土坑出土遺物６
（5）５号・６号土坑出土遺物　（6）８号・９号土坑（東から）
（7）９号土坑（南から）　（8）10 号土坑（西から）
（9）11 号・12 号土坑（北西から）

図版８　（1）15 号土坑（南から）　（2）16 号土坑（北から）
（3）16 号土坑土層　（4）17 号土坑（東から）
（5）21・22 号土坑（西から）　（6）18 号土坑（西から）
（7）18 号土坑土層　（8）24 号土坑（北西から）
（9）26 号・27 号・28 号土坑（南から）

図版９　（1）9 号・12 号・13 号土坑出土遺物　（2）14 号・15 号土坑出土遺物
（3）16 号土坑出土遺物　（4）18 号土坑出土遺物
（5）20 号・21 号土坑出土遺物　（6）21 号土坑出土遺物
（7）22 号土坑出土遺物　（8）24 号土坑出土遺物１

図版 10（1）24 号土坑出土遺物２　（2）24 号土坑出土遺物３
（3）24 号土坑出土遺物４　（4）24 号土坑出土遺物５
（5）24 号土坑出土遺物６　（6）25 号・26 号土坑出土遺物
（7）27 号土坑出土遺物　（8）28 号土坑出土遺物

図版 11（1）31 号土坑（西から）　（2）32 号土坑（南から）
（3）33 号土坑（東から）　（4）34 号土坑（東から）
（5）35 号土坑（北から）　（6）37 号土坑（北から）
（7）38 号・39 号土坑（東から）　（8）40 号土坑（北から）

図版 12（1）41 号土坑・１号不整形土坑（南から）　（2）43 号土坑（南東から）
（3）45 号土坑（北東から）　（4）45 号土坑獣骨出土状況
（5）47 号土坑（北から）　（6）50 号土坑（南東から）
（7）51 号土坑（北東から）

図版 13（1）29 号土坑上層・中層・下層出土遺物　（2）29 号土坑下層出土遺物
（3）29 号土坑中層出土遺物　（4）32 号・34 号土坑出土遺物
（5）35 号・36 号・37 号土坑出土遺物
（6）38 号・41 号・42 号・45 号土坑出土遺物
（7）46 号・47 号土坑出土遺物　（8）47 号土坑出土遺物１

図版 14（1）47 号土坑出土遺物２　（2）47 号土坑出土遺物３
（3）49 号・50 号・51 号土坑出土遺物　（4）５号溝状遺構出土遺物
（5）１号・２号・３号・４号溝状遺構（西から）　（6）１号溝状遺構（北から）
（7）１号・２号・３号・４号溝状遺構（東から）　（8）５号溝状遺構（東から）

図版 15 （1） ５号溝状遺構（西から）　（2） ５号溝状遺構東端土層
（3） ５号溝状遺構西部土層　（4） ５号溝状遺構遺物出土状況
（5） ５号溝状遺構編み籠出土状況
図版 16 （1） ３号不整形土坑（西から）　（2） １号不整形土坑出土遺物
（3） ３号不整形土坑出土遺物
（4） ２号・３号不整形土坑、52 号・73 号ピット出土遺物
（5） 包含層出土遺物　（6） 表面採集遺物１
（7） 表面採集遺物２

第１章　調査の経過と組織

第１節　調査の経過

中津城下町遺跡は山国川河口付近の東岸に位置し、中津城を中心にして北東－南西方向の長さ約2.0km、北西－南東方向の幅 0.7km に展開する城下町で、現在もほぼ全域が市街地として継続しており住宅が密集している。今回の 37 次調査地は城下町の中央部付近で、中津城の南方約 0.8km に位置する。

当該地において市の公共施設である童心会館が改築されることになり、平成 29 年 10 月 23 日に文化財保護法第 94 条第 1 項の通知があった。敷地内にあった旧童心会館の建物が撤去されたのち、中津市教育委員会で平成29年11月13日･28日に確認調査を実施した。調査は建物建築予定地を対象とし、南北方向に 4 本のトレンチを設定して行った。調査の結果、北部は旧建物の基礎により部分的に削平されていたが、中央部から南部にかけて土坑 6 基・溝状遺構 2 条などの複数の遺構が確認され、近世陶磁器を中心とした遺物が出土した。

本調査は新築する建物の範囲全体を対象とし、平成 30 年 1 月 22 日から開始した。調査区は南北41.8 m・東西 9.5 mの長方形の形状を呈し、表土や新しい時期の整地層は重機により剥土した。遺構検出面は地表下約 0.9 m前後の明黄灰色弱粘質土層とし、以後は人力により掘削を進めた。遺構は調査区全体にわたって密に分布したため、切り合い関係の検出は不確実な箇所があった。また、調査期間中は降雨が多く､深い遺構では湧水もあり､排水作業に時間を要した。加えて排土置き場が狭小であった点なども作業の進行に影響した。現地における作業は埋戻しも含めて平成 30 年 3 月 29 日に終了した。

検出した遺構は、縮尺 1/100 の遺構配置図と、1/20 の全体実測図、及び一部個別の 1/20 実測図により記録した。また、写真はデジタルカメラにより撮影をして、記録保存した。

今回の中津城下町遺跡の調査面積は 350㎡である。

現地調査終了後、出土遺物の整理作業ならびに調査報告書の刊行作業は平成 31 年度から令和 2 年度にかけて実施した。

第２節　調査の組織

中津城下町遺跡 37 次の発掘調査及び調査報告書刊行にともなう事業執行の組織は次のとおりである。

発掘調査（平成 29 年度）

調査主体	中津市教育委員会	
	教育長	廣畑　　功
調査事務	教育次長	白木原　忠
	社会教育課長	高尾　良香
	社会教育課文化財室長	高崎　章子
	社会教育課管理・文化振興係主幹	大森　　健・磯貝　　奏
	社会教育課管理・文化振興係係員	湊　　恵・陽　麻里奈・渡邊奈津子
	社会教育課文化財室文化財係主幹	花崎　　徹
調査担当	社会教育課文化財室文化財係嘱託	末永　弥義

調査報告書刊行（令和２年度）

調査主体	中津市教育委員会	
	教育長	粟田　英代
調査事務	教育次長	大下　洋志
	社会教育課長	岩丸　祐子
	社会教育課歴史博物館長	高崎　章子
	社会教育課管理・文化振興係主幹	田中　　茂・河野さくら
	社会教育課管理・文化振興係係員	速水　　誠・藤原　梨恵
	社会教育課歴史博物館博物館・文化財係主幹	花崎　　徹
	社会教育課歴史博物館博物館・文化財係副主任研究員	浦井　直幸
調査担当	社会教育課歴史博物館博物館・文化財係会計年度任用職員	末永　弥義

平成 29 年度の発掘調査に従事した作業員は次のとおりである。

安倍　方恵・今木　功一・岩男　純子・衛藤　京子・小川　禮子・奥田　　誠・奥中　廣雪・加来　晴美・金崎ミチ子・川野　和夫・久原　　彩・後藤　　哲・末廣　洋子・祐成　本文・田中　政恵・鶴岡　克美・中上　好孝・長倉　朱見・中坂真基子・本田　廣和・松隈　　忍・松村たか子・宮津しのぶ・村上由美子・山本　秀一

また、令和２年度の整理作業及び報告書作成業務に従事した作業員は次のとおりである。

安倍　方恵・岩男　純子・粟田　真弥・衛藤　京子・吉上かおり・木村　風里・久原　　彩・高榎　裕美・土橋　厚子

第２章　遺跡の地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

大分県中津市は県の北部に位置し、面積は 491㎢に及ぶ。四至は北方が瀬戸内海西端の周防灘に開け、西が福岡県に、東が宇佐市に、南は玖珠町と日田市に接している。市の西部を北流する一級河川山国川は英彦山（標高約 1,200 m）を源とし、下流域では福岡県との県境をなすとともに広い沖積平野「沖代平野」を形成する。上中流域は山稜が複雑に延び、その中央部を占める国指定の名勝耶馬渓は流域約 50km に展開する。耶馬渓は頼山陽の命名によるもので、一帯は耶馬日田英彦山国定公園の一部となっている。また、市の東部には犬丸川が北東に流れるが、沖代平野と犬丸川の間には標高 10 m～ 30 m程度の洪積台地「下毛原台地」が広がっている。

第２節　歴史的環境

市内には旧石器時代以降の遺跡が数多く分布し、その一部は発掘調査されている（第１図参照）。

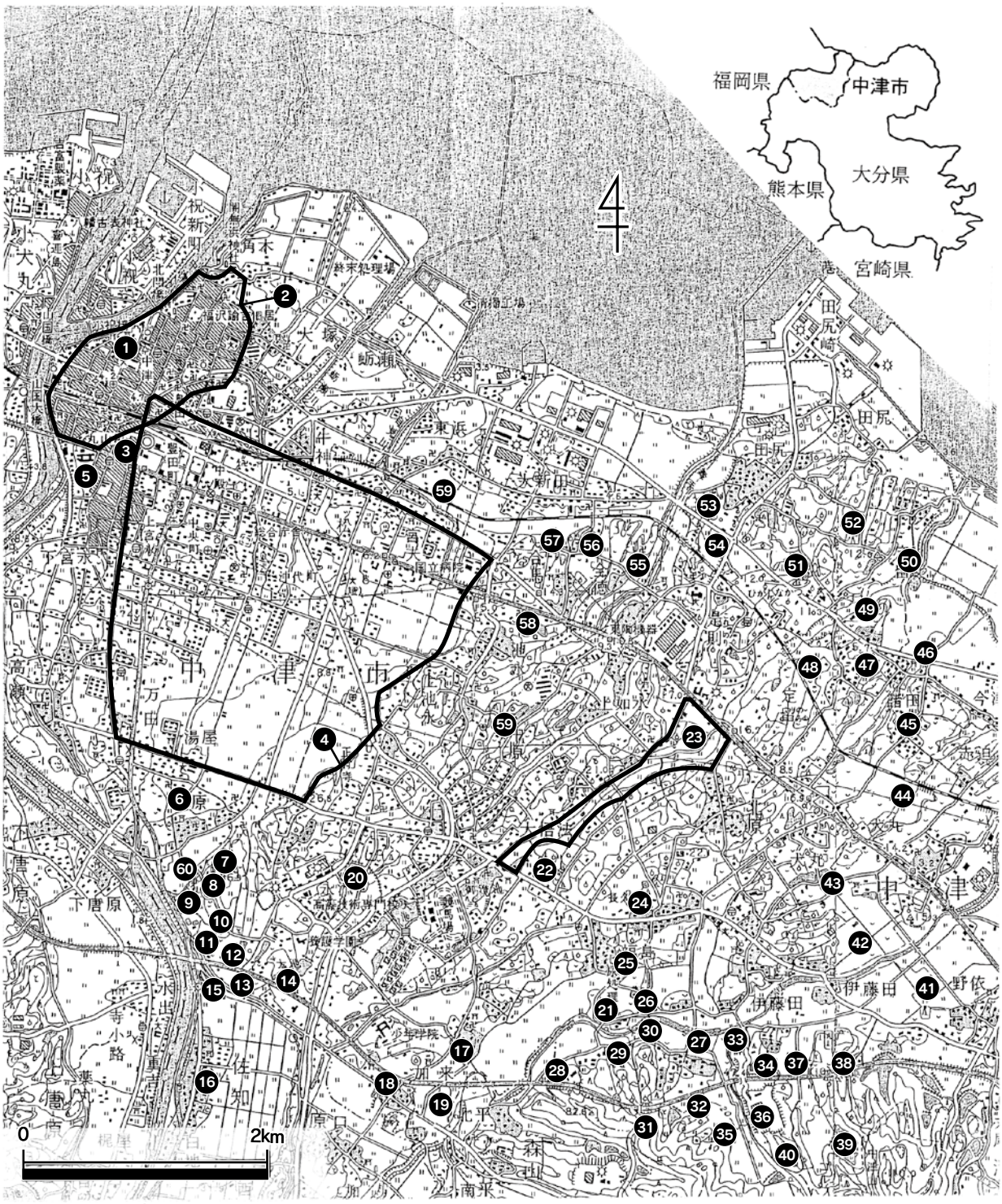
旧石器時代　旧石器時代の遺跡はまだ少ないが、諸田南遺跡（44）で尖頭器やナイフ形石器が出土している他に、才木遺跡（35）・法垣遺跡（19）などでも石器が出土している。

縄文時代　縄文時代になると、上畑成遺跡（43）で早期の無文土器が出土し、早期末から前期の黒水遺跡（18）では陥し穴が発見されている。後期・晩期に属する植野貝塚では牙製垂飾具・貝輪などの装身具や魚類・動物の骨などが出土し、高畑遺跡では土偶も発見されている。集落跡では古田遺跡が調査されているが、法垣遺跡は竪穴住居跡以外にも掘立柱建物跡が検出された重要な遺跡である。

弥生時代　弥生時代になると山国川や犬丸川流域の沖積平野で水稲耕作が拡大していったと考えられる。前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）や諸田遺跡（45）で貯蔵穴が発掘されている。中期では福島遺跡（25）で住居跡とともに二列埋葬の土壙墓群が確認されている。また、森山遺跡（28）では前期末から後期初頭の集落全域が把握されている。

古墳時代　古墳時代では集落や生産遺跡・墳墓などの各種の遺跡が確認されている。集落関係では後期に属する中須遺跡・十前垣遺跡・諸田遺跡・定留遺跡（47）などが調査されている。これらのうち十前垣遺跡では移動式カマドが出土し、諸田遺跡ではＬ字カマドを有する住居跡や鞴の羽口が発見され、渡来人の系譜に属する人々の存在が推測されている。須恵器を生産した城山窯跡群（36）や草場窯跡（37）・踊ヶ迫窯跡（38）・ホヤ池窯跡（39）・大谷窯跡（40）などからなる野依伊藤田窯跡群は犬丸川中流の丘陵地帯に位置し、一部は奈良時代まで継続している。古墳では下毛原台地北部の亀山古墳（58）以外の多くの墳墓は台地の南西部に営まれている。５世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が築造され、５世紀後半から７世紀前半には上ノ原横穴墓群（11）が造営される。また､三保地域には後期になると岩井崎横穴墓群（29)･城山古墳群（34)･城山横穴墓群（33）などが築造される。７世紀から９世紀の相原山首遺跡では方墳が作られている。

白鳳～平安時代　７世紀末の白鳳期に創建された相原廃寺跡（6）は沖代平野の南端部に位置するが、その北方約 500 mを隔てて西北西－東南東方向に官道「勅使街道」が整備される。沖代地区条里跡（4）はこの官道を南限として沖代平野の広範囲に施行されている。古代の下毛郡衙の正倉跡である長者屋敷官衙遺跡（20）も８世紀後半に官道の南側に建設されている。８世紀後半を中心とする時期である。集落では三口遺跡（60）で 10 世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土している。



1.中津城跡
2.中津城下町遺跡
3.豊田小学校校庭遺跡
4.沖代地区条里跡
5.高畑遺跡
6.相原廃寺
7.相原山首遺跡
8.鶴市神社裏山古墳
9.坂手隈城跡
10.弊旗邸古墳
11.上ノ原横穴墓群
12.勘助野地遺跡
13.上ノ原平原遺跡
14.大池南遺跡
15.佐知久保畑遺跡
16.佐知遺跡
17.加来居屋敷遺跡
18.黒水遺跡
19.法垣遺跡
20.長者屋敷官衙遺跡
21.ボウガキ遺跡
22.大悟法地区条里跡
23.原遺跡
24.田丸城跡
25.福島遺跡
26.福島地下式横穴
27.前田遺跡
28.森山遺跡
29.岩井崎横穴墓群
30.犬丸川流域遺跡
31.洞ノ上窯跡
32.安平遺跡
33.城山横穴墓群
34.城山古墳群
35.才木遺跡
36.城山窯跡群
37.草場窯跡
38.踊ヶ迫窯跡
39.ホヤ池窯跡
40.大谷窯跡
41.野依遺跡
42.野依地区条里跡
43.上畑成遺跡
44.諸田南遺跡
45.諸田遺跡
46.天貝川遺跡
47.定留遺跡
48.定留貝塚
49.和間貝塚
50.定留鬼塚遺跡
51.是能遺跡
52.田尻大迫遺跡
53.舞手橋東段上遺跡
54.是則遺跡
55.全徳遺跡
56.ガラヌノ遺跡
57.合馬遺跡
58.亀山古墳
59.東浜遺跡
60.三口遺跡

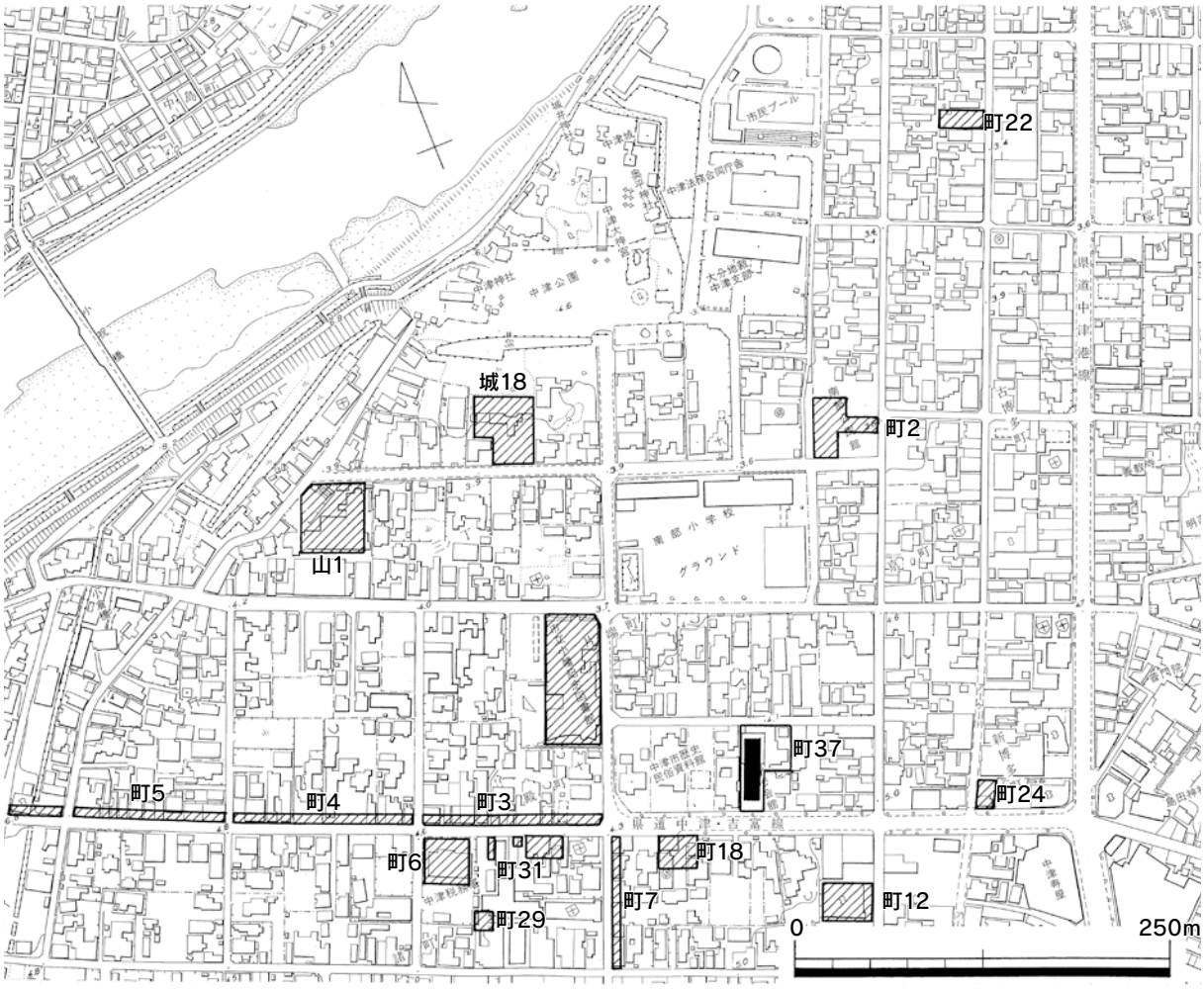
第1図　中津城下町遺跡周辺主要遺跡等分布図（縮尺1/50,000）

中世　中世の遺跡としては植野古城遺跡・諸田遺跡・中尾城跡・犬丸城跡などがあるが、諸田遺跡では堀に囲まれた居館跡が調査され、中尾城跡では土塁が現存する。犬丸城跡は犬丸氏の居城で、黒田官兵衛の豊前入国に従わず一揆に加わり、黒田氏に攻め落とされる。16 世紀末には黒田氏が入封して中津城（1）が築城されるが、石垣に高度な構築技法が採用された九州最古の近世城郭とされている。

近世以降　1600 年関ヶ原の合戦の後、黒田氏に替わり細川氏が入部し、城と城下町（2）が整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する 1632 年に完成し、その後 1717 年に奥平氏が入部する。

中津城下町遺跡 37 次調査地の周辺遺跡

中津城下町遺跡ではこれまで公共施設・病院・福祉施設・保育園・店舗・集合住宅・個人住宅・道路関係など各種の開発行為に先立ち発掘調査を実施してきている（第２図）。２次調査は公民館建設に伴う調査で、中津城の石垣や石列等の遺構を確認している。３次～５次調査は県道の拡幅・改良工事に伴うもので、5,072㎡に達する面積を調査し、柱穴・井戸・土坑・溝等の多数の遺構と近世陶磁器を中心とした多量の遺物を出土した。７次調査は市道拡幅に伴う調査で、城下町の江戸時代の御水道を確認している。このような調査により中津城や城下町の構造、そこに生活する人々の実態が次第に明らかになってきている。



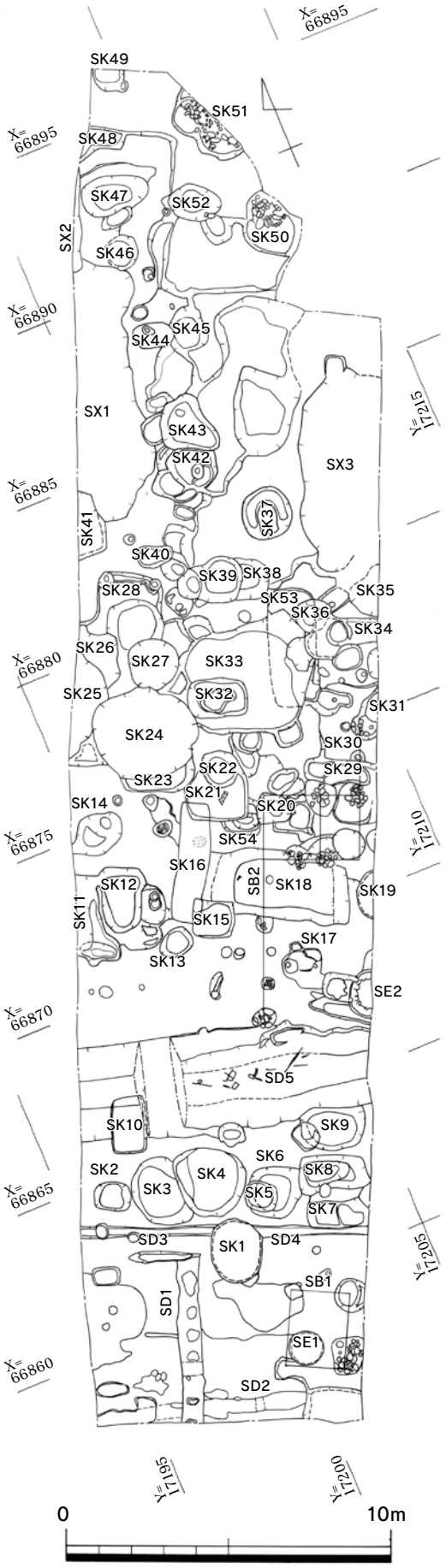
第2図　中津城下町遺跡37次調査地位置図（縮尺1/5,000）
（「町」は中津城下町遺跡、「城」は中津城跡、「山」はおかこい山の略称）

第３章　調査の方法と成果

中津城下町遺跡 37 次調査地は中津市殿町 1380 番地 1 に所在する。当遺跡は山国川が瀬戸内海西端の周防灘に注ぐ河口の沖積地に立地するが、先述したとおり 1588（天正 16）年の黒田勘兵衛孝高の入城以降に本格的に城下町として整備された。その後も現在に至るまで市街地として継続しており、住宅の建て替えなどが繰り返されてきた。さらに、城下町の各所で実施してきた発掘調査で少量ではあるが須恵器や土師器が出土することから、古墳時代以降の遺跡が分布することも想定される。

今回の調査地は城下町遺跡の中央部付近で、中津城中心部から南側に延びる南北道路を現存の堀から約 250 m南進したのち、東方に約 100 m入った一画に位置する。周辺は東西・南北方向の道路によって整然と区画されている。現在の標高は４～５ｍほどであるが、これは江戸時代以降約 400 年間の宅地造成によってかさ上げされた結果によるものである。城下町整備の初期は現在よりやや低かったと考えられ、今回の発掘調査時の遺構検出面も標高４ｍ弱である。

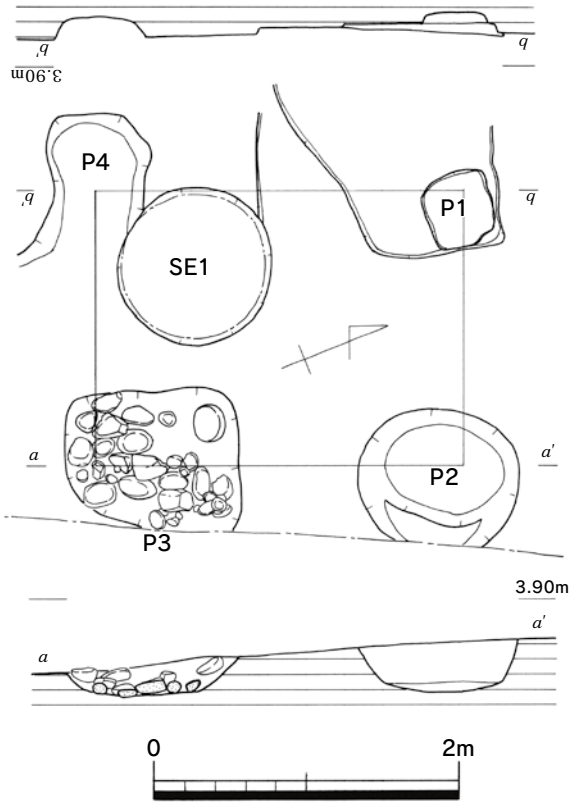
今回の調査区は施設整備予定地の西側に建築される建物部分に設定し、南北 41.8 m･東西 9.5 mの長方形の平面形を呈する（第３図）。基本的な層序は現地表面から下位に向かって約 50㎝が現代造成土、さらに 40㎝が近代～現代の造成土であり、その下が今回遺構検出面とした基盤層（明黄灰色弱粘質土）となる（第 57 図参照）。ただし、近代～現代の造成土中にはいくつかの土層の変化がみられることから、この土層中に整地層を検出することも可能であったかもしれない。遺構の分布状況は全体的に非常に密であり、特に中央部付近は切り合いが激しく、基盤層がわずかにしか確認できないほど密集していた。調査で確認した遺構のうち、番号を付した主な遺構は建物跡２棟・井戸２基・土坑 54 基・溝状遺構５条などであるが、これら以外にも不整形の土坑状の遺構や多数のピットが検出された。



第3図　中津城下町遺跡37次調査全体図（縮尺1/200）

1　建物跡

今回の調査で建物跡とした遺構は、礎石または柱の根石を据えるためのピットや、根石の集石の配置が直線的な規則性をもつと判断した遺構である。このような根石の集石を伴う遺構は調査区の中央部から南部にかけて分布しているが、それぞれの集石のグルーピングは恣意的であり、本来の建物の正確な復元とはなっていないことも危惧される。



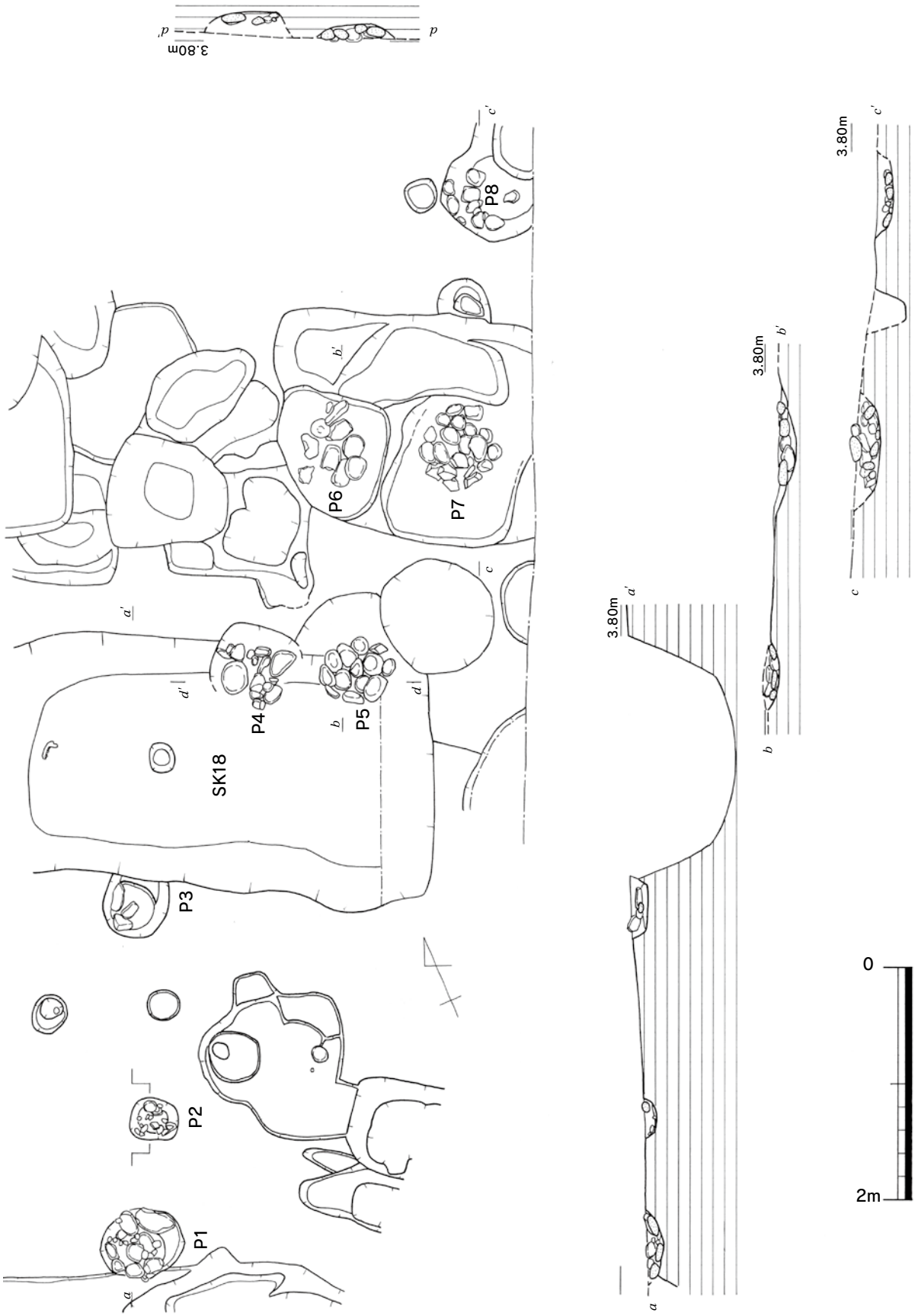
第4図　建物跡実測図1（縮尺1/50）

１号建物跡（第４図）

１号建物跡は調査区南端部に位置し、遺構検出面の標高は約 3.6 mである。検出した遺構は方１間に配置された、一部集石を伴うピット４基からなる。規模は南北 2.40 m・東西 1.80 mと南北に長いが、調査区外の東方に延びる可能性がある。各ピットの平面形はＰ２が楕円形を呈するが、他は基本的に方形である。大きさは最小のＰ１で長さ 50㎝、最大のＰ３では 115㎝をはかる。深さは最も深いＰ２で 30㎝である。集石はＰ２・Ｐ３で検出したが、Ｐ２については図化していない。Ｐ３で検出した集石は５～ 25㎝の大きさの円礫である。南北方向を主軸と想定すると建物の方位はＮ－21°－Ｅである。なお、この建物跡内の南西隅からは１号井戸が確認されたが、１号建物跡との時期関係は不明である。各ピット内からは遺物が出土していない。

２号建物跡（第５図）

２号建物跡は調査区の中央部付近に位置する集石を伴うピット群からなり、一部のピットは大型土坑ＳＫ 18 を切る。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。検出した遺構は８基のピットからなり、各ピットの配置はＰ１・Ｐ２・Ｐ３が南北に並び、Ｐ３から北方に 2.0 m隔てた地点で東方に屈折しＰ４・Ｐ５と続くが、この屈折点はＳＫ 18 と切り合っているためピットを検出できなかった可能性がある。Ｐ５のさらに北方にＰ６・Ｐ７が東西方向に並び、Ｐ８はＰ７の北方に配置している。全体として南北の長さが 9.12 mに達する。各ピットの間隔はＰ１－Ｐ２が 1.12 m、Ｐ２－Ｐ３が 1.88 m、Ｐ４－Ｐ５が 0.90 m、Ｐ５－Ｐ６が 1.87 m、Ｐ６－Ｐ７が 1.12 m、Ｐ７－Ｐ８が 2.25 mである。これらのピットの平面形は隅丸方形ないし円形であるが、Ｐ５・Ｐ７は他の遺構と切り合い、平面形は不明である。大きさは最小のＰ２で長さ 42㎝、最大のＰ６は長さ 105㎝をはかる。深さは遺構検出面から 10 ～ 20㎝である。ピット内に配置された集石は円礫で、最大で長さ 35㎝であるが、径 15 ～ 20㎝のものが多い。南北方向を主軸と仮定すると建物の方位はＮ－ 24°－Ｅである。ただし、検出したこれらのピット群は時期が不明であり、単一ではなく複数の建物にともなう遺構の可能性もある。
遺物はＰ２から陶器・青磁・瓦質土器、Ｐ３から陶胎染付・瓦質土器・土師質土器・土師器の皿などの小片が少量出土しているが、図示できるものはない。



第5図　建物跡実測図2（縮尺1/50）

２　井戸跡

井戸跡は調査区の南側で２基が確認された。

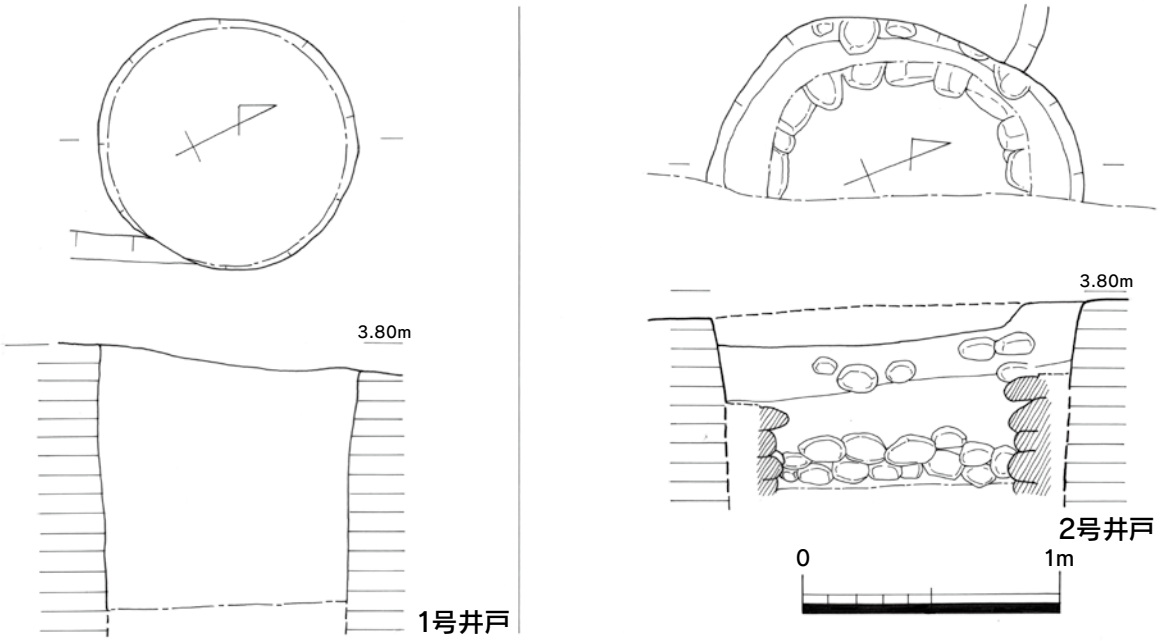
１号井戸跡（第６図）

１号井戸跡は調査区南端部に位置し、遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構は壁面の石積みや木枠などを伴わない素掘りの井戸である。平面形はほぼ円形で、大きさは検出面で直径 1.08 mである。壁面はほぼ垂直で、深さは 1.05 mまで掘削したが底面には達していない。埋土は暗灰色弱砂質土に基盤層由来のブロック土を含むことから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は出土していない。

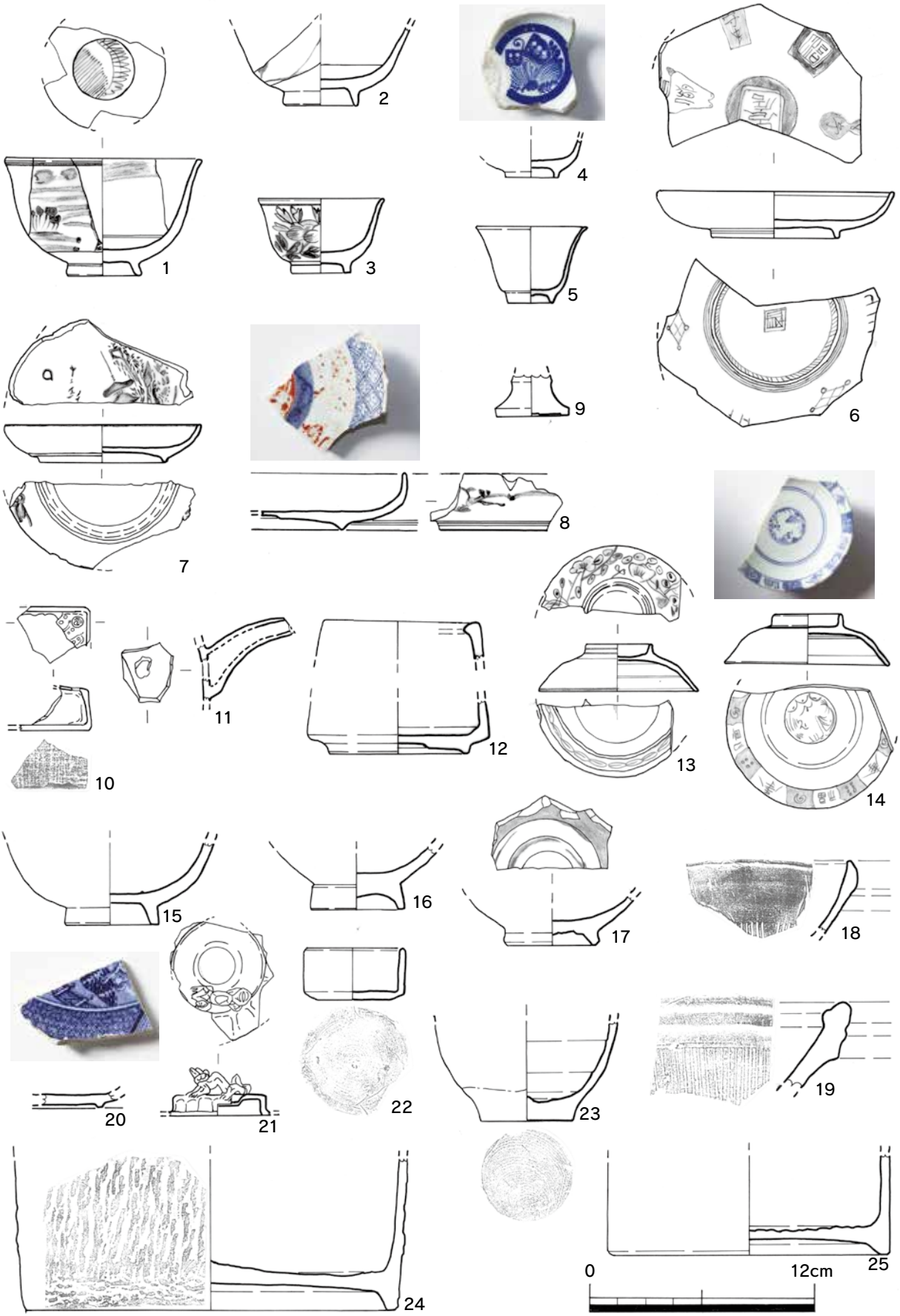
２号井戸跡（第６図）

２号井戸跡は調査区中央よりやや南側に位置し、遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構は東半が調査区外となっている。平面形は基本的に円形と考えられ、大きさは検出面で直径 1.49 mである。壁面は検出面から深さ 0.30 mまでは一部に円礫が残存するが、新しい時期の撹乱を受けている。それより深い部分では全面に長さ 20㎝前後のやや扁平な円礫が積み上げられている。壁面はほぼ垂直で、深さは 0.72 mまで掘削したが底面には達していない。

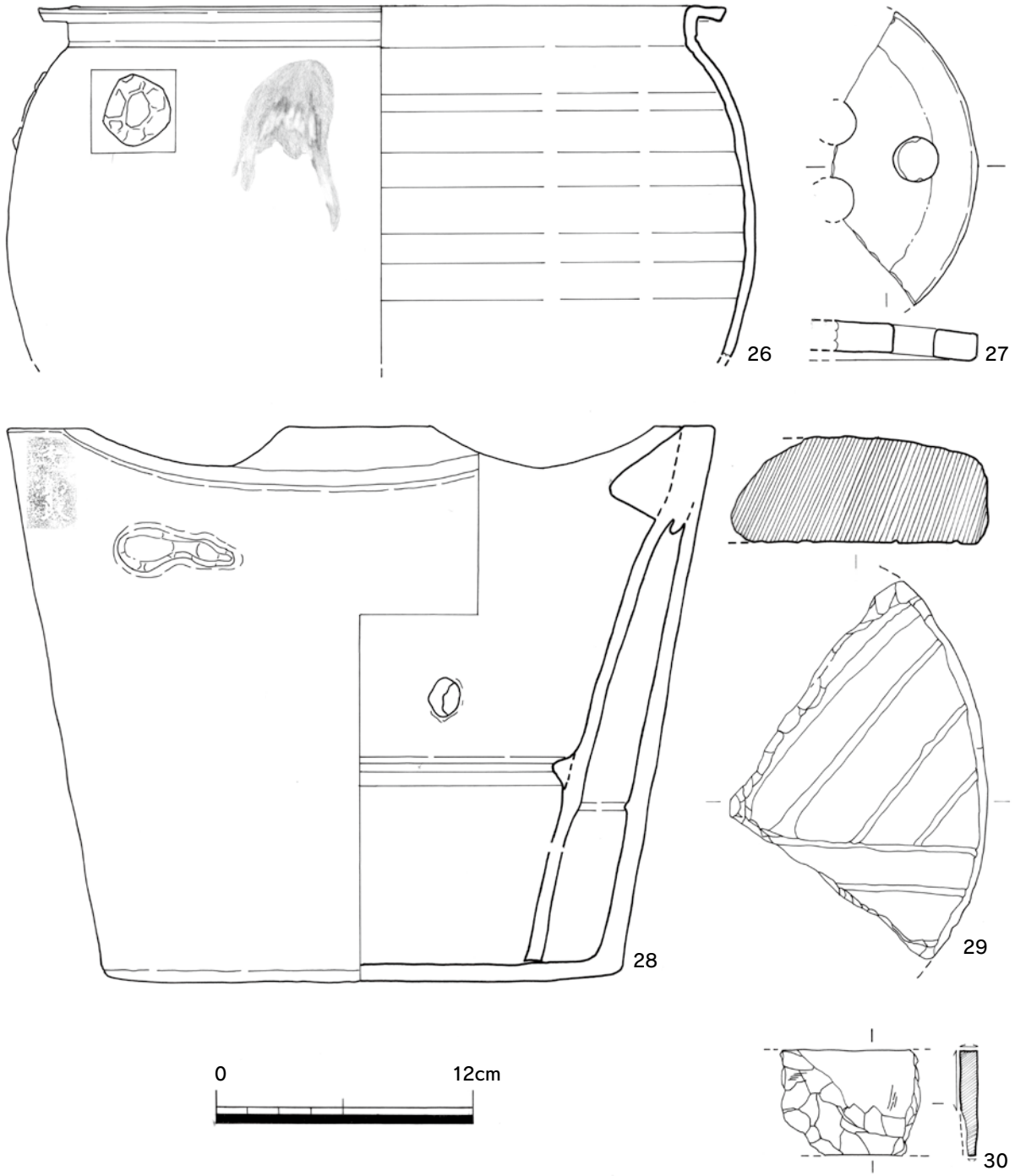


第6図　井戸跡実測図（縮尺1/30）

遺物は埋土中から陶器の碗・擂鉢・合子・徳利・甕、磁器の碗・小坏・皿・蓋・猪口・急須・火入れ・仏飯器・水滴、瓦質土器の火鉢、土師質土器の火鉢・焜炉・焜炉の火皿・甕などの土器類が多量に出土し、他に石臼・砥石などの石製品、瓦類、煉瓦も出土している（第７図・第８図）。1 ～ 14 は磁器で、1 は外面や見込にススキの丸文を描く端反碗である。2 は見込に目跡を残す碗である。3・4 は小坏で、4 の見込の文様は型紙摺りか。5 は白磁の猪口で、6 ～ 8 は皿である。7 の内面には塔の風景が描かれ、8 は 1710 ～ 1770 年代の肥前の色絵である。9 は仏飯器、10 は水滴で立方体の形態を呈し、底面に布目痕を残す。11 は白磁の急須、12 は青磁の火入れである。13・14 は染付の蓋で、13 の内面には鎖つなぎ文、14 の内面には「福」と「壽」の文字が交互にめぐらされており、ともに 19 世紀前半のものかと考えられる。15 ～ 20 は陶器で、15 は飴釉、16 は灰釉、17 は鉄釉を施す碗である。18･19 は擂鉢、19 は備前系か。20 は内面が型紙摺りの皿である。21 は土師質土器の急須等の蓋と考えられ、カエルのつまみを付ける。外面に布目痕が残り、関西系である。22・23 は陶器で、22 が合子、23 が徳利か。



第7図　２号井戸跡出土遺物実測図1（縮尺1/3）



第8図　2号井戸跡出土遺物実測図2（縮尺1/3、29は1/4）

24 は瓦質土器の火鉢で、外面全体に回転印文を施す。25 は土師質土器の火鉢、26 は陶器の甕で 18 世紀後半の高取系か。27・28 は土師質土器で、28 が焜炉、27 が火皿である。28 の外面上位には瓢箪形の取手を貼り付け、「安〇政」の刻印を施す。29 は石臼、30 は砥石である。

3　土坑

土坑として番号を付した遺構は調査区全体に広く分布し、その数は 54 基にのぼる。平面形は円形・楕円形・方形・長方形など多様で、大きさも 1 m程度のものから 4 mを超えるものまである。他の遺構と切り合うものも多い。

１号土坑（第９図）

１号土坑は調査区南部に位置し、４号溝状遺構を切る。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は楕円形で、大きさは検出面で長径 1.98 m・短径 1.55 mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.48 mまで掘削したが床面に達していない。内部にはコークス状の炭の粒が多量に堆積していた。遺構の用途は廃棄土坑と考えられ、比較的新しい時期の遺構と考えられる。

遺物は磁器の碗が少量出土している（第 10 図）。31 は色絵の磁器で、筒型碗かと考えられる。

２号土坑（第９図）

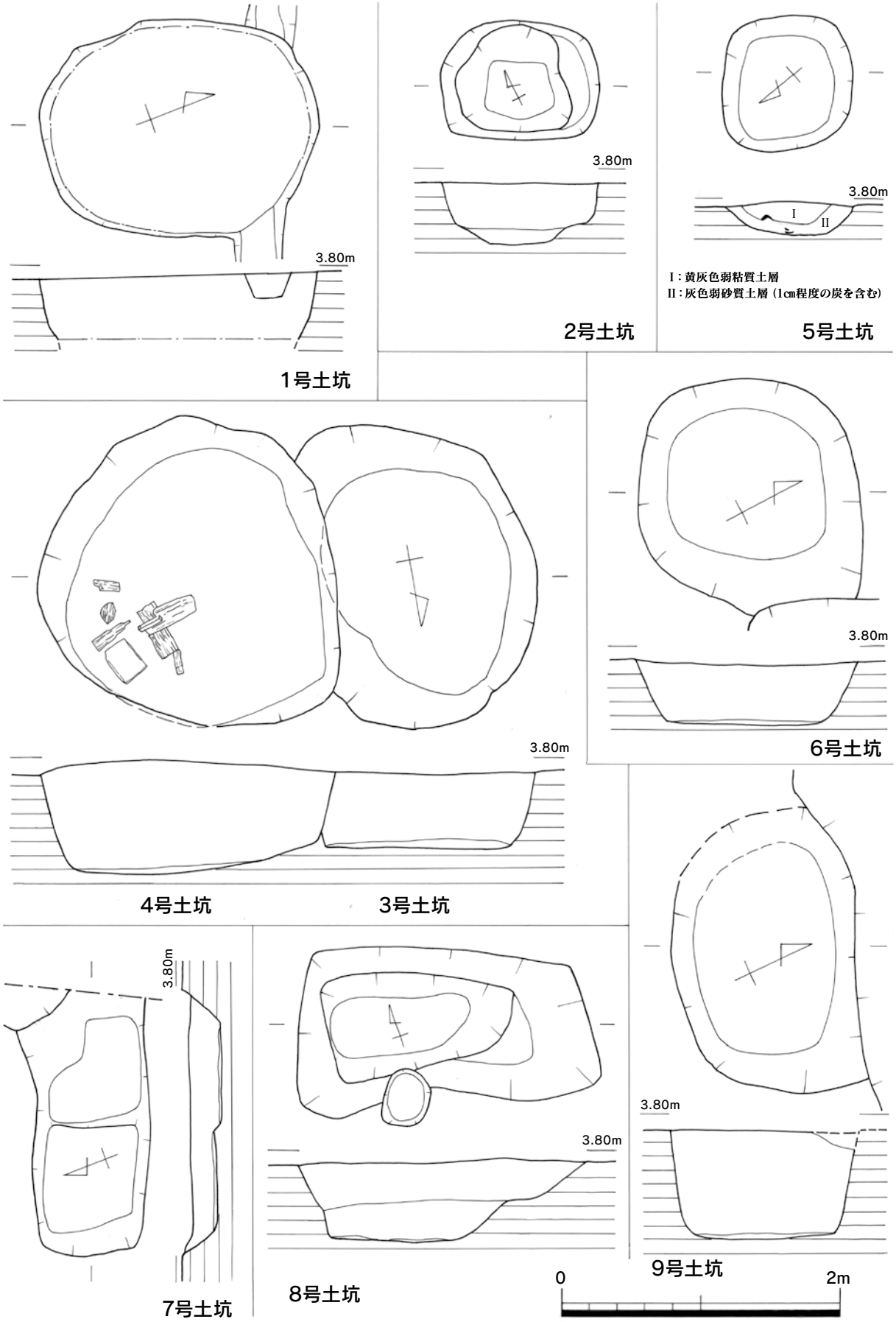
２号土坑は調査区南部の西側に位置し、遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は隅丸長方形で、大きさは検出面で長さ 1.12 m・幅 0.86 mである。壁面は上位に向かってやや開き気味で、深さは 0.47 mである。床面は東側の短辺に平坦面をもち、中央部は一段深くなっている。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN－61°－Wである。

遺物は陶器の碗・擂鉢・瓶、磁器の白磁碗・青磁、土師質土器、土師器の皿、平瓦などが中量出土している（第 10 図）。32・33 は陶器の碗で、ともに藁灰釉を施す。

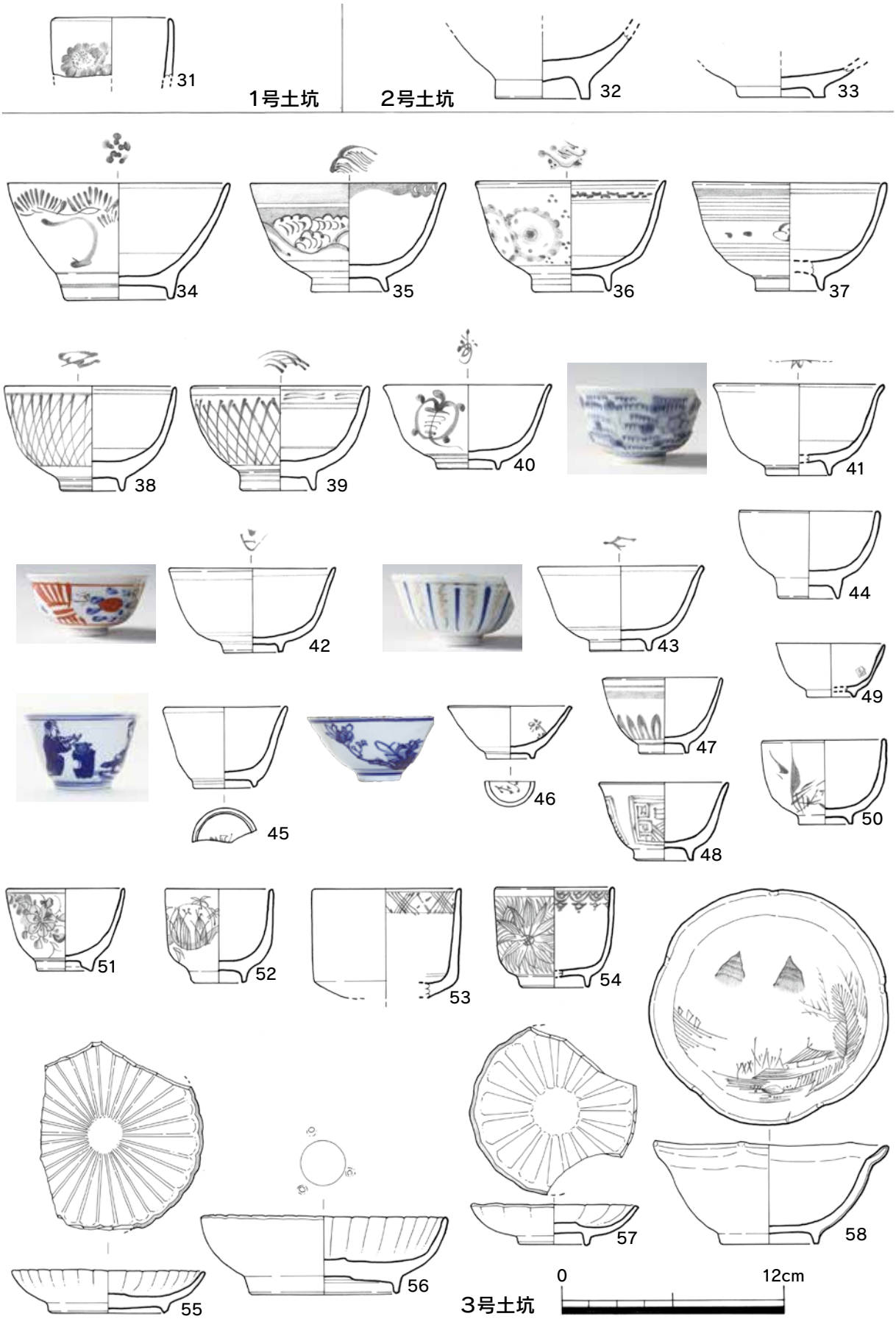
３号土坑（第９図）

３号土坑は２号土坑の東側に隣接し、９号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構は平面形が楕円形で、大きさは検出面で長径 2.30 m、短径が 1.67 m以上である。壁面は床面から 70°程度の角度で立ち上がり、深さは 0.56 mである。床面は水平な平坦面をなす。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

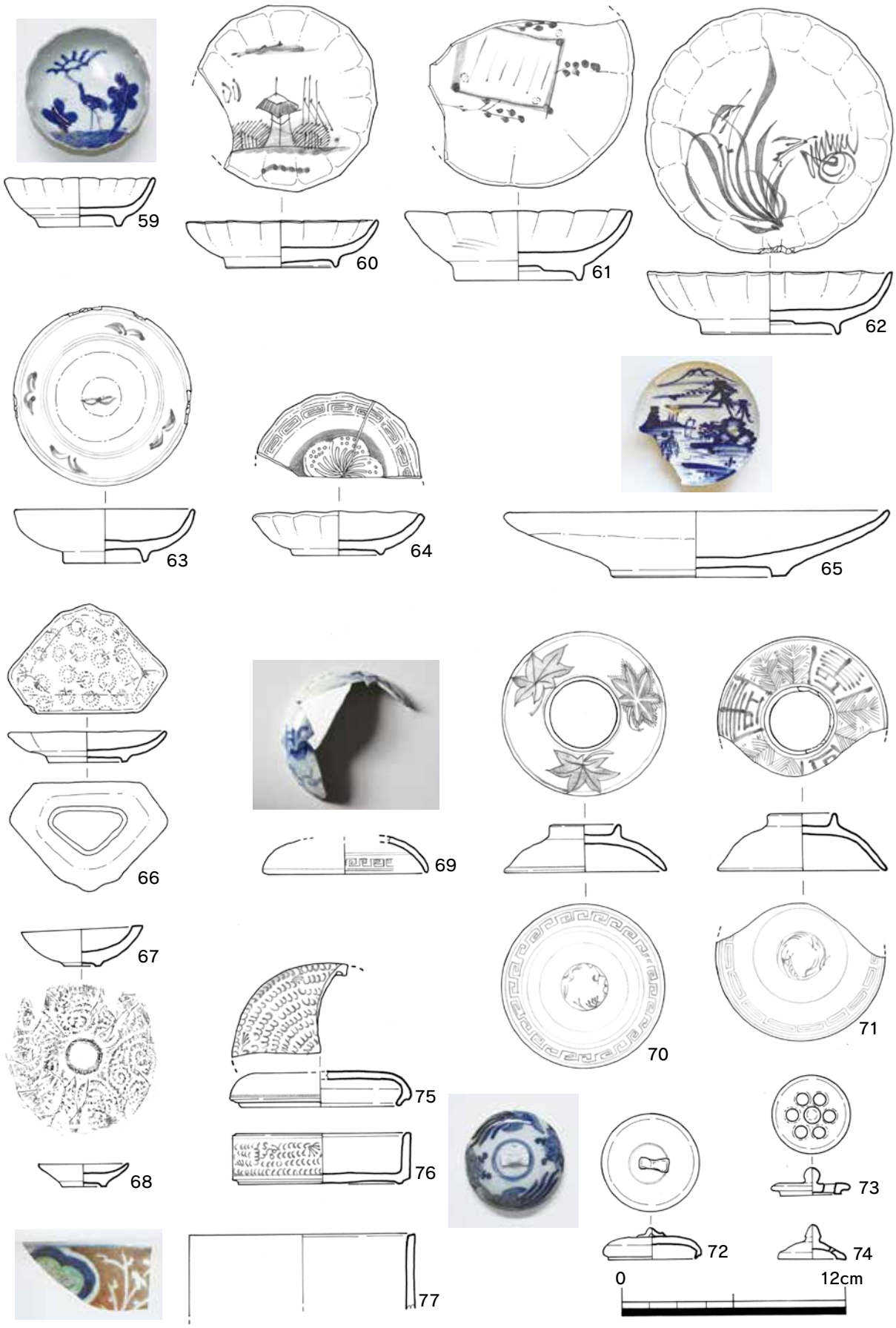
遺物は陶器の碗・小坏・皿・蓋・鉢・擂鉢・急須・土瓶・行平・片口・火入れ・灯明受け皿・徳利、磁器の碗・小坏・皿・蓋・紅皿・鉢・猪口・湯飲み・段重・急須・火入れ・仏飯器・灯明受け皿・戸車・ままごと道具、瓦器の火鉢、瓦質土器の焜炉・甕、土師質土器の蓋・灯明受け皿・焙烙・こね鉢・焜炉・焜炉の火皿、土師器の皿などの土器類のほか、土製品の人形、軒丸瓦・丸瓦・砥石・煙管・鉄釘・ガラス片・貝など非常に多量に出土している（第 10 図～第 15 図）。34 ～ 49・51 ～ 73・75 ～ 87 は磁器である。これらのうち 34 ～ 44 は碗で、36・41 が 1820 ～ 1860 年代の肥前の端反碗、39 が 1850 ～ 1860 年代のくらわんか手である。42・43 は色絵で、口径 9㎝前後と小振りである。45 は猪口、46 ～ 49・51 は小坏で、46 の底面には「〇造」の文字が書かれ、49 の内面にも小さい方形の銘がある。50 は陶器の小坏である。52 ～ 54 は湯飲みに近い器形であり、53 は青磁染付で内面の口縁部近くに四方襷文をめぐらす肥前系の 18 世紀後半のものである。55 ～ 57 は菊花状の型打の皿で、口縁に口銹を施す。56 は見込に目跡を残し蛇ノ目凹型高台である。58 は青磁染付の鉢で、口縁が５弁の輪花状を呈し、内面には家や山と海浜風景を描く。59 ～ 66 も皿で、文様は見込に 59 が鶴、60 が風景、61 が巻物、63 が双葉、64 が梅花などがそれぞれ描かれている。口縁部は輪花状を呈するものが多く、蛇ノ目凹型高台のものも散見される。65 は口径 20㎝を超える中型品で、胎土がやや不良で陶器の可能性もあるが、内面の風景画はのびのびと描かれている。66 は平面形が変則的な五角形を呈する。67・68 は紅皿で、67 の外面には蛸唐草文の型打がある。69 ～ 75 は蓋で、69 ～ 71 は内面の口縁に雷文をめぐらし、70・71 の見込には松竹梅円形の文様を描く。72 は合子の蓋、73 は瑠璃釉で香炉の蓋か。74 は陶器の蓋である。75･76 は細かい花唐草文を描く段重の蓋と身のセットである。77 は色絵で、段重の身の可能性がある。78 は 79 の急須の蓋と考えられ、内面に「六〇」の文字が書かれている。外面にはともに繊細な草花文が描かれ、19 世紀代の関西系のものであろう。80 は太鼓を模した火入れである。81 ～ 83 は仏飯器で、81 は白磁、82・83 は蛸唐草文をめぐらす。84 はままごと道具の急須かと考えられ、型打で底面に布目痕が残る。85 ～ 88 は瓶で、86 には鳥・笹・松な



第9図　土坑実測図1（縮尺1/40）

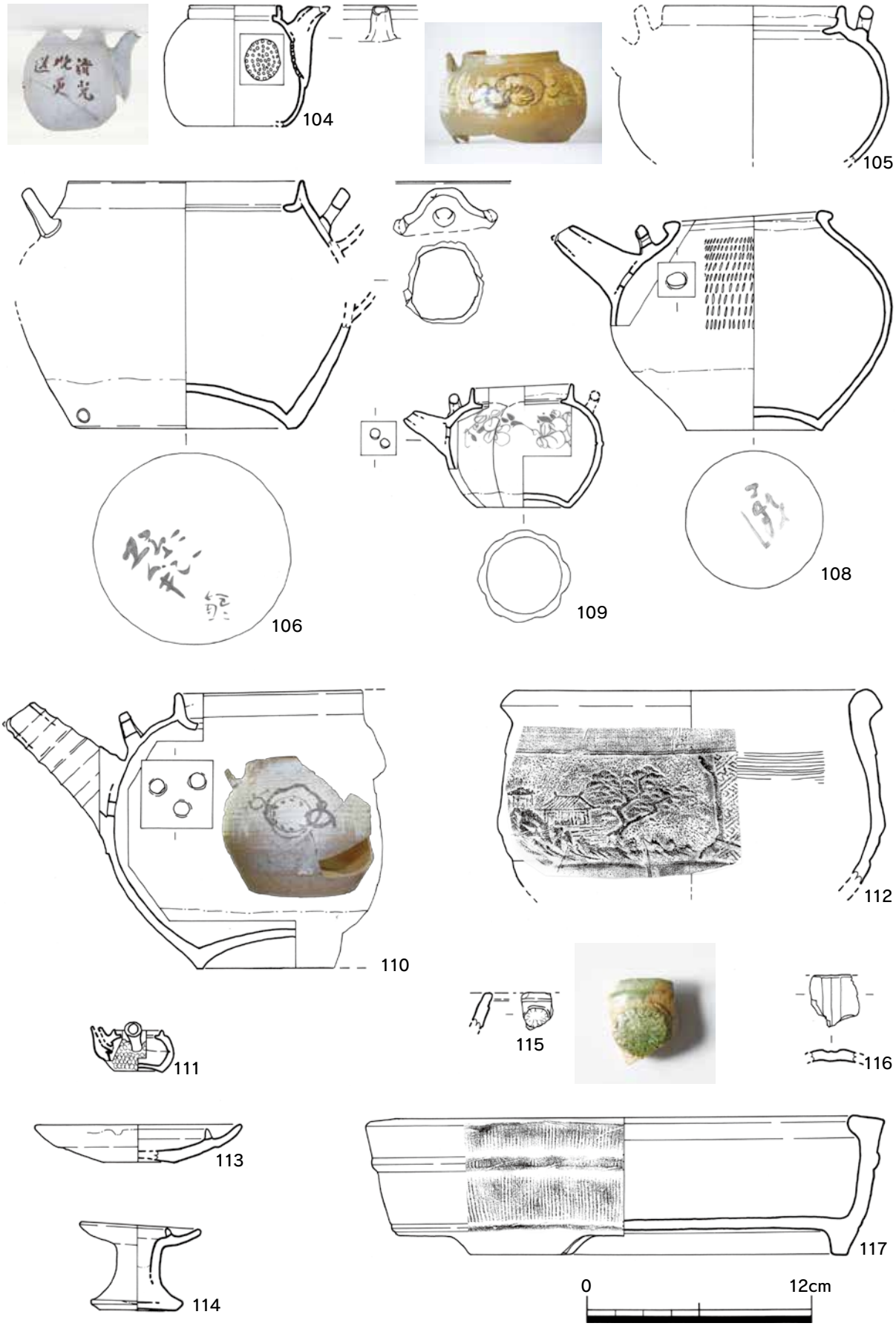


第10図　1号・2号・3号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）

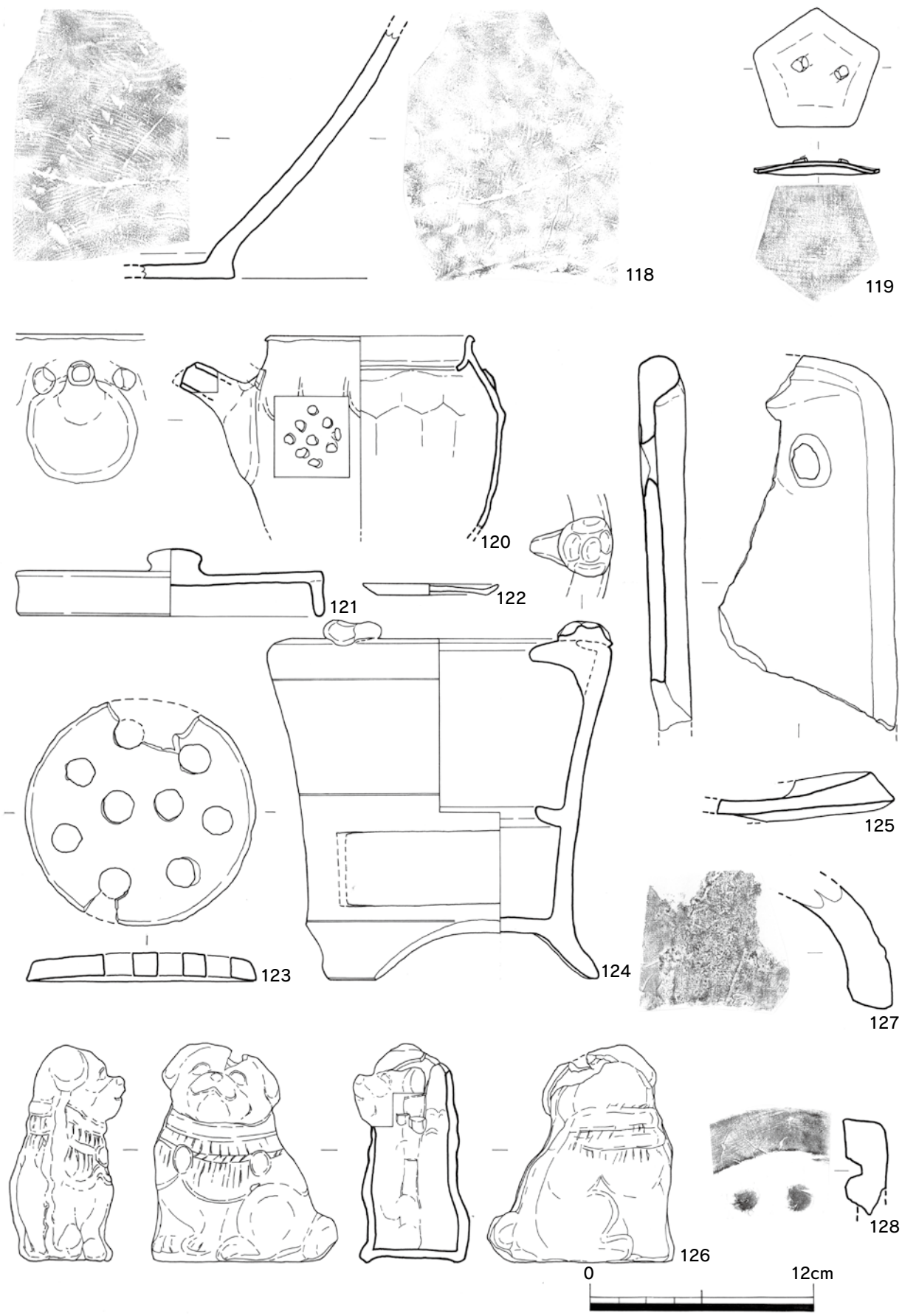


第11図　3号土坑出土遺物実測図1（縮尺1/3）

第12図　3号土坑出土遺物実測図2（縮尺1/3）



第13図　３号土坑出土遺物実測図3（縮尺1/3）



第14図　3号土坑出土遺物実測図4（縮尺1/3）

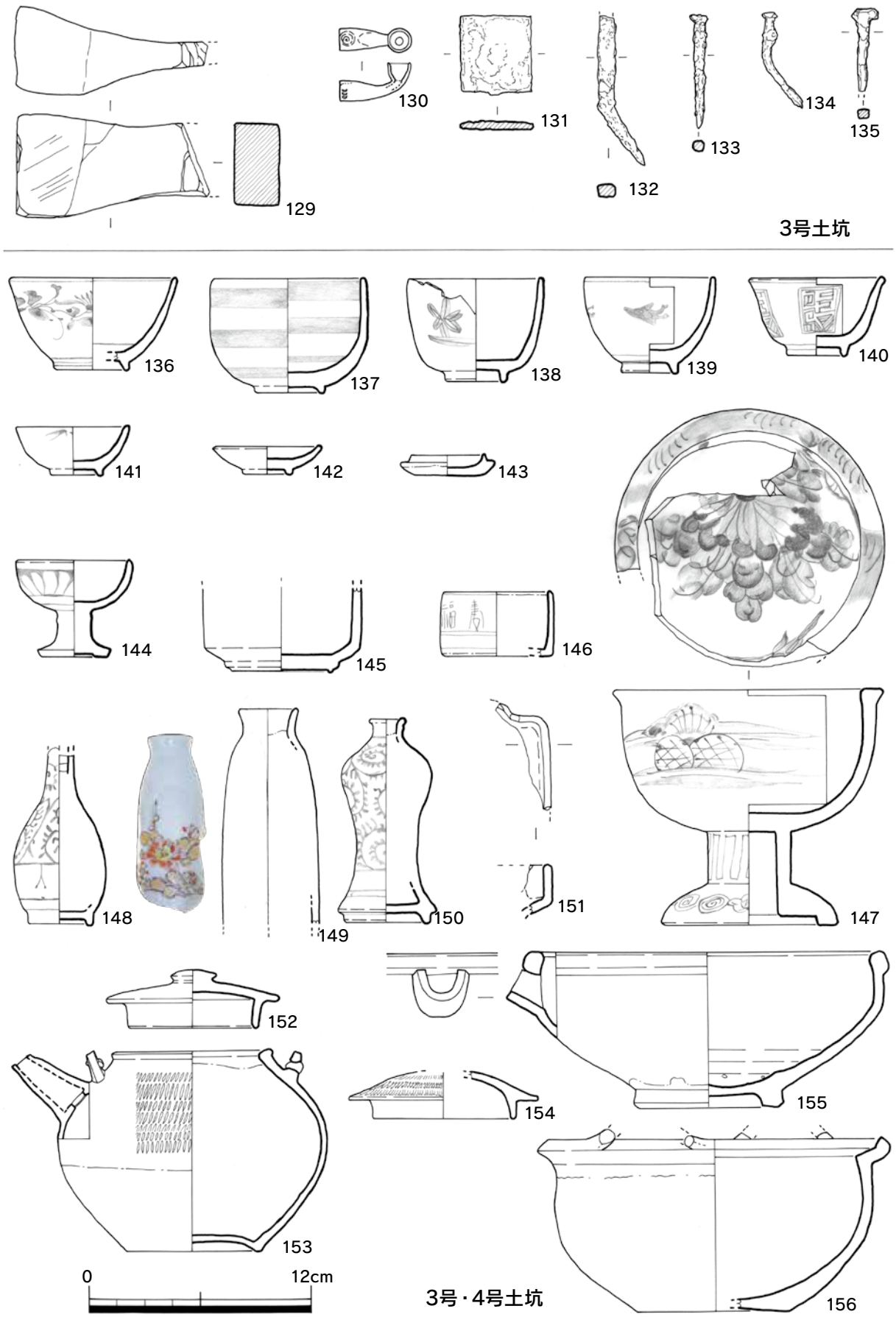
どが描かれている。89 は戸車、90 は器種不明品の脚部である。91 は青磁であるが器種不明である。92 は陶器の銅緑釉の小坏、93 は鉄釉を施す擂鉢、94 は灰釉の鉢で焼き継ぎがある。95 ～ 97 は陶器の行平で、96 の外面上半には飛び鉋を施す。97 は片口で、19 世紀代の関西系である。98 ～ 103 は蓋で、98 ～ 100 には鉄釉を施し、100 は白土のイッチン掛けを施す。102 は急須の蓋で、緑や褐色の釉で梅花を描く。103 はつまみが型打ちの亀である。104 は陶器の急須で、外面に「清光○○○」の文字が鉄釉で書かれている。105・106・108 ～ 110 は土瓶で、105・110 は白土のイッチン掛け、108 は飛び鉋、109 は牡丹の文様がある。また、106 と 108 の底面には墨書がある。これらは関西系の 19 世紀代のものが多い。111 はままごと道具の急須で、外面は鹿の子模様で、底面に布目痕がある。112 は瓦質土器の火鉢で、体部上半に海浜風景の型押しがある。113・114 はともに陶器の灯明受け皿で、関西系のものである。115 は二彩陶器の小片で、花文の貼り付けがある。116 は器種不明の陶器で、緑釉を施す。117 は瓦器の火鉢で、立面が逆台形の脚を３ヶ所に付ける。118 は瓦質土器の甕で、内面に青海波の調整痕が残る。119 は土師質土器の急須の蓋かと考えられ、平面形が五角形で内面に布目痕がある。120 は土師質土器の土瓶である。121 は火消し壺の蓋で、122 は土師器の皿である。123 は焜炉の火皿、124 は焜炉である。125 は用途不明の土製品で、平面形はちり取り状か。126 は土人形の狛犬で、前面と後面を別々に型押ししたのち接合している。127 は丸瓦で、内面に布目痕がある。128 は軒丸瓦の小片である。129 は方柱状の形態の砥石、130 は煙管、131 は正方形で板状の鉄製品であるが用途は不明である。132 ～ 135 は鉄製の釘である。

３号土坑と４号土坑は切り合い関係があるが、上層では前後関係が不明であったため、３号・４号土坑として遺物を取り上げた（第 15 図～第 17 図）。これらの遺物が 136 ～ 174 である。136 ～ 151 は磁器で、136 は草花文、137 は横シマを施す碗である。138 は湯飲みで、139 ～ 141 は小杯である。142 は白磁の紅皿かと考えられる。143 も白磁で、合子の身である。144 は赤絵の仏飯器で割菊文を描き、18 世紀後半から 19 世紀前半の肥前系のものであろう。145 は青磁の火入れ、146 は染付の段重である。147 は染付の盃洗の優品である。外面の坏部に風景・床几、脚柱状部に櫛歯文、脚端部に渦巻文･花文を、内面には鳥？や草花文を濃淡を微妙に使い分けて描いている。148･149 は瓶で、148 には蛸唐草文、149 には草花文がある。150 は仏花瓶で文様は 148 と同じ蛸唐草文を描く。151 は器種不明の青磁の型打の製品である。153 は外面の上半を飛び鉋で装飾する土瓶、152 はその蓋である。154 は土瓶の蓋で、飛び鉋を施す。155・157 は片口、156 は鍋で、ともに見込に小さい目跡が５個ある。158 は関西系の急須で、外面の口縁には雷文、体部には布目状の圧痕があり、底面に墨書が残る。159 は器種不明で、唐草文の型打の上に緑釉を施す。160 は小型の火入れで、高台の６カ所に切込がある。161 は瓦質土器の甕、162 は土師器の皿である。163 は在地系の土師器の甕である。164 ～ 166 は土師質土器の焙烙で、164・165 は高村の製品である。167・168 は土錘である。169 ～ 171 は土製品で、169 が彩色を施す帆掛け船、170 が外輪船で、171 は人物の人形である。172 は煙管、173・174 は笄である。

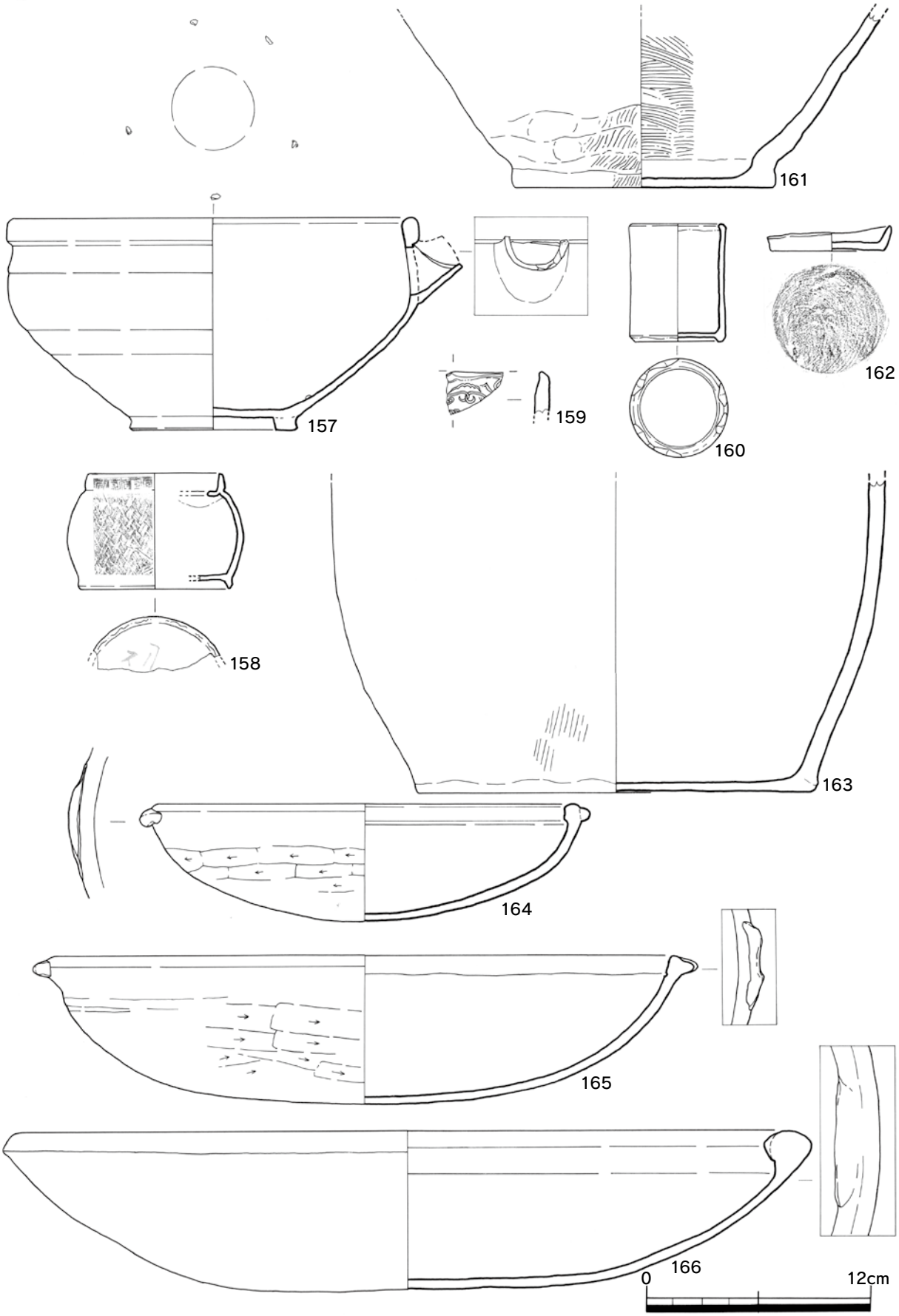
４号土坑（第９図）

４号土坑は３号土坑の東側を切っている。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形はやや不整形の楕円形で、大きさは検出面で長径 2.32 m・短径 2.28 mである。壁面は床面から 70°程度の角度で立ち上がり、深さは最深部で 1.07 mである。床面は中央部がやや皿状に窪むが平坦に近い。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・小坏・皿・蓋・鉢・擂鉢・急須・土瓶・鍋・行平・片口・茶壺・火入れ・灯明皿・灯明受け皿・秉燭・徳利・壷・植木鉢・ままごと道具、磁器の碗・小坏・皿・蓋・紅皿・猪口・急須・



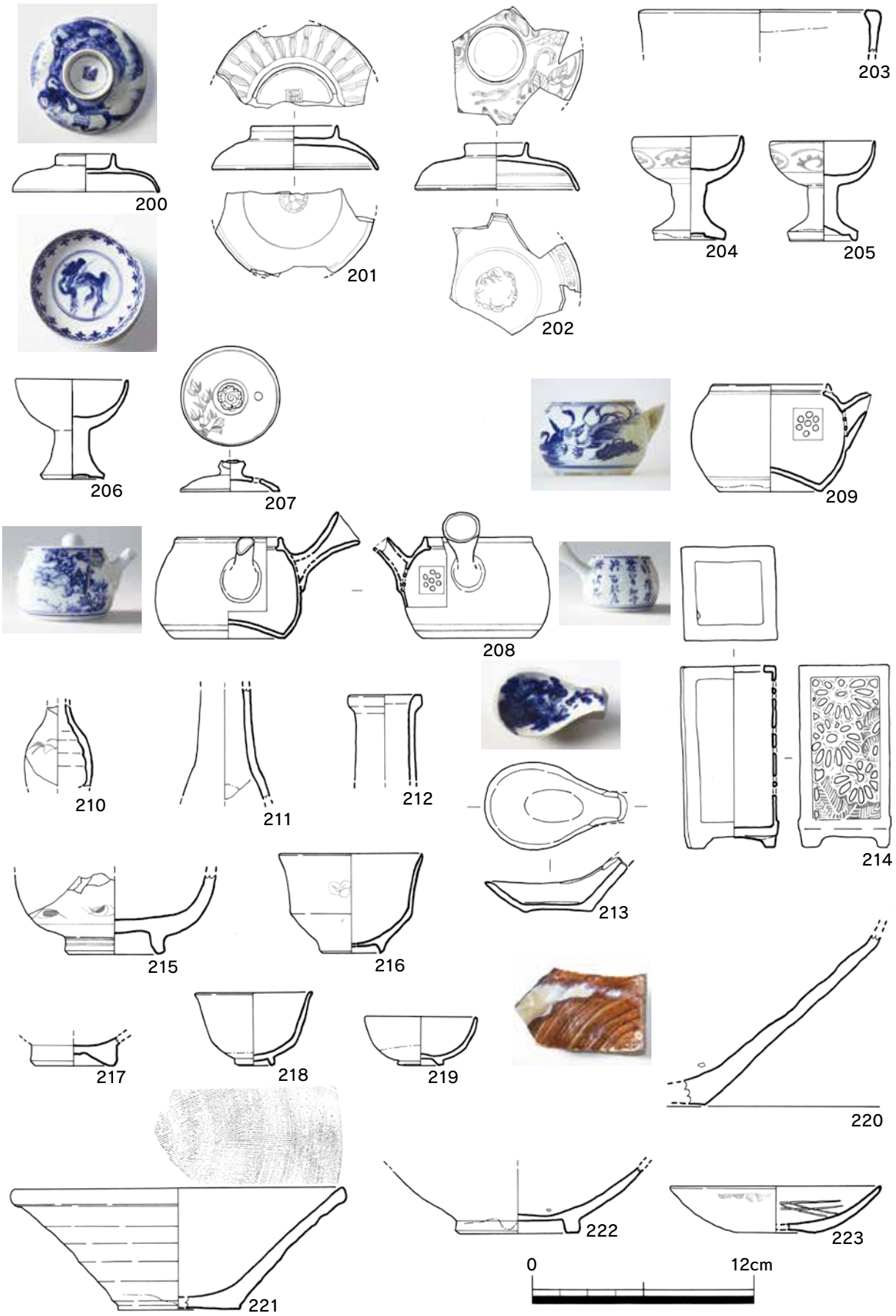
第15図　3号土坑及び3号・4号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



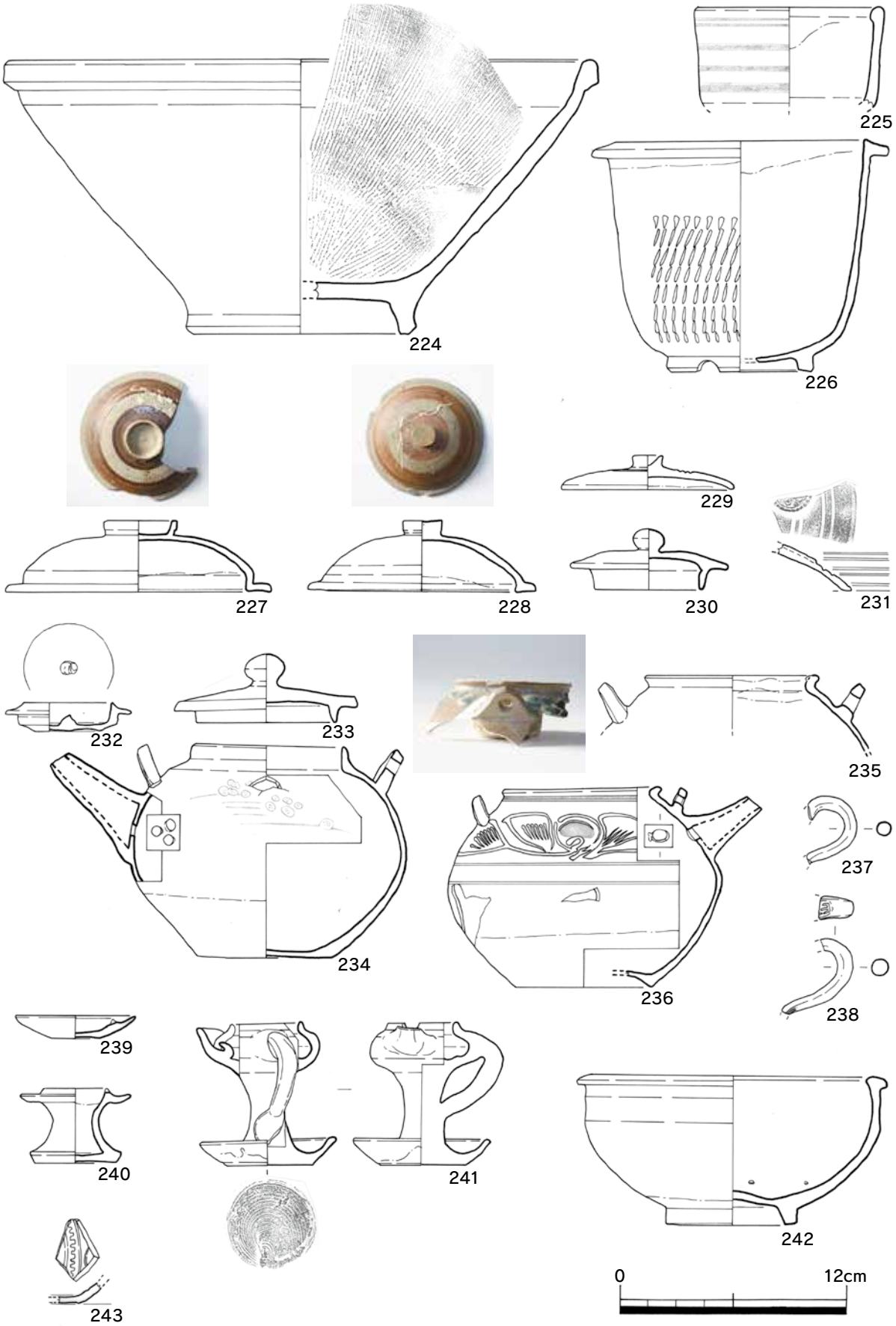
第16図　3号・4号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）

火入れ・瓶・仏飯器・蓮華・筆筒、瓦質土器の火鉢、土師質土器の蓋・急須・こね鉢・焙烙・甕、土師器の皿などの土器類のほか、土製品の人形、軒丸瓦・木製品・漆器・硯・碁石・煙管・不明銅製品など非常に多量に出土している（第 17 図～第 21 図）。175 ～ 214 は磁器で、このうち 175 ～ 181 は碗である。外面の文様は 175 が扇と草花、176 が梅花、178 が「實」の文字、179 が梅花と氷裂文、181 が葵を描いている。180 は赤と緑を使った色絵である。178・181 は瀬戸美濃と考えられる。182 ～ 187 と 189 ～ 191 は小坏である。182 は外面に梅樹・菊花を繊細に描き、底面には銘があり関西系の 19 世紀代のものである。183 は外面にススキの丸文があり、肥前系の波佐見の可能性がある 1820 ～ 1860 年代のものである。185 は白磁で口銹を施す。189 は内面に梅花・笹と、金泥の銘がある。190 は器壁が薄く、内面に山水・帆船を描き、焼き継ぎがある。191 の底面には銘がある。192 ～ 198 は皿で、193 は平面形が正方形を基本とし、各辺の両端と中央を外方につまみ出し、見込に鯉の滝登りを描く。194 も角皿で、見込には貝と波を描く。195 は外面に鉄釉を施す。196 は菱形の平面形で、見込に型打の文様がある。197 は青磁で、平面が六角形を呈し、見込に菊花文が型打されている。198 はやや大型の皿で、文様は外面が草花文、内面は龍と雲かと考えられる。199 は紅皿で外面に蛸唐草文の型打がある。200 ～ 202 は蓋で、200 は外面に笛吹童子と牛、内面に輪宝つなぎ文、見込に麒麟が描かれている。201 は見込に十字花、底面に銘がある。202 は外面に草花文、内面に雷文、見込に松竹梅円形を描く、203 は青磁の火入れである。204 ～ 206 は仏飯器で、204・205 は蛸唐草文を描くが、206 は染付がない。208 は急須で、207 はその蓋と考えられる。ともに外面に牡丹を描き、208 には詩歌も書かれている。209 も急須で、外面に鳥・川を描き、「〇〇造」の文字が書かれている。210 ～ 212 は瓶で、210 の外面には笹を描き、211 は青磁の製品である。213 は蓮華で、内面に菊花を描く。214 は筆筒で、方柱状の形態で底面の四隅には脚を付け、体部には菊花の透しに、葉を染付で描写する。215 ～ 236・239 ～ 253・257 ～ 259 などは陶器である。これらのうち 215 ～ 217 は碗で、215 は陶胎染付、216 は白土と鉄釉で梅花を描く関西系、217 は志野焼かと考えられる。218 は小杯で、銅緑釉と灰釉を施す上野・高取系の製品である。219 も小杯で白土を施す。220 は鉢で、鉄釉と灰釉を施し、見込に小さい目跡が残存する。221 は鉄釉を施す擂鉢である。222 は鉢かと考えられ、外面に灰釉、内面に鉄釉と一部灰釉を施す。223 は灯明皿で、内面にヘラ描きの沈線がある。224 はやや大型の擂鉢で高台を付し、鉄釉を施す。225 は陶胎染付の火入れで、肥前系の 18 世紀後半のものである。226 は植木鉢で、外面に鉄釉を施し、飛び鉋で施文する。227 ～ 233 は蓋である。227・228 は鉄釉と白土を使用する。231 には菊花かと考えられる円形の貼り付け文がある。233 は 234 の土瓶の蓋である。234 の外面には白土と鉄釉で梅花と推定される描画がある。235 の土瓶の口縁には口銹を施す。236 も土瓶で、体部上半に鳥崩し文を描いている。237・238 は土師質土器の急須の取手と考えられ、238 の上面には「〇山」の刻印がある。239・240 は灯明受け皿で、ともに 19 世紀代の関西系の製品である。241 は秉燭で、鉄釉を施す。242 は高台付きの鉢で、見込に小さい目跡がある。243 は皿の小片かと考えられ、全面に緑釉を施す。244 ～ 248 は行平で、244 は底部に３ヶ所ボタン状の脚を付ける。245･248 は外面に飛び鉋を施す。246 は小型品で、外面の中位以下に「ヱコ」と「〇〇」の墨書がある。249 は鍋で、口縁に半環状取手が２ヶ所にあり、ボタン状の小さい脚が３つ付く。250 は壷かと考えられ、内面に青海波の叩き調整痕がある。251 は器種不明であるが、取手がある手提げのカゴを模したような形態で、外面に銅緑釉を施す。252 は瓶で、外面の文様は風景か。253 は灯明受け皿、254 は土師質土器の急須の蓋で、獅子または犬を模した摘みを付け、表面に布目痕が残る。255・256 は土師質土器の急須で、255 の口縁には雷文の型押、256 には体部上位にモミジ葉の型押がある。257・258 は陶器の急須の小片で、表面に白土・透明釉を施し、ままごと道具か

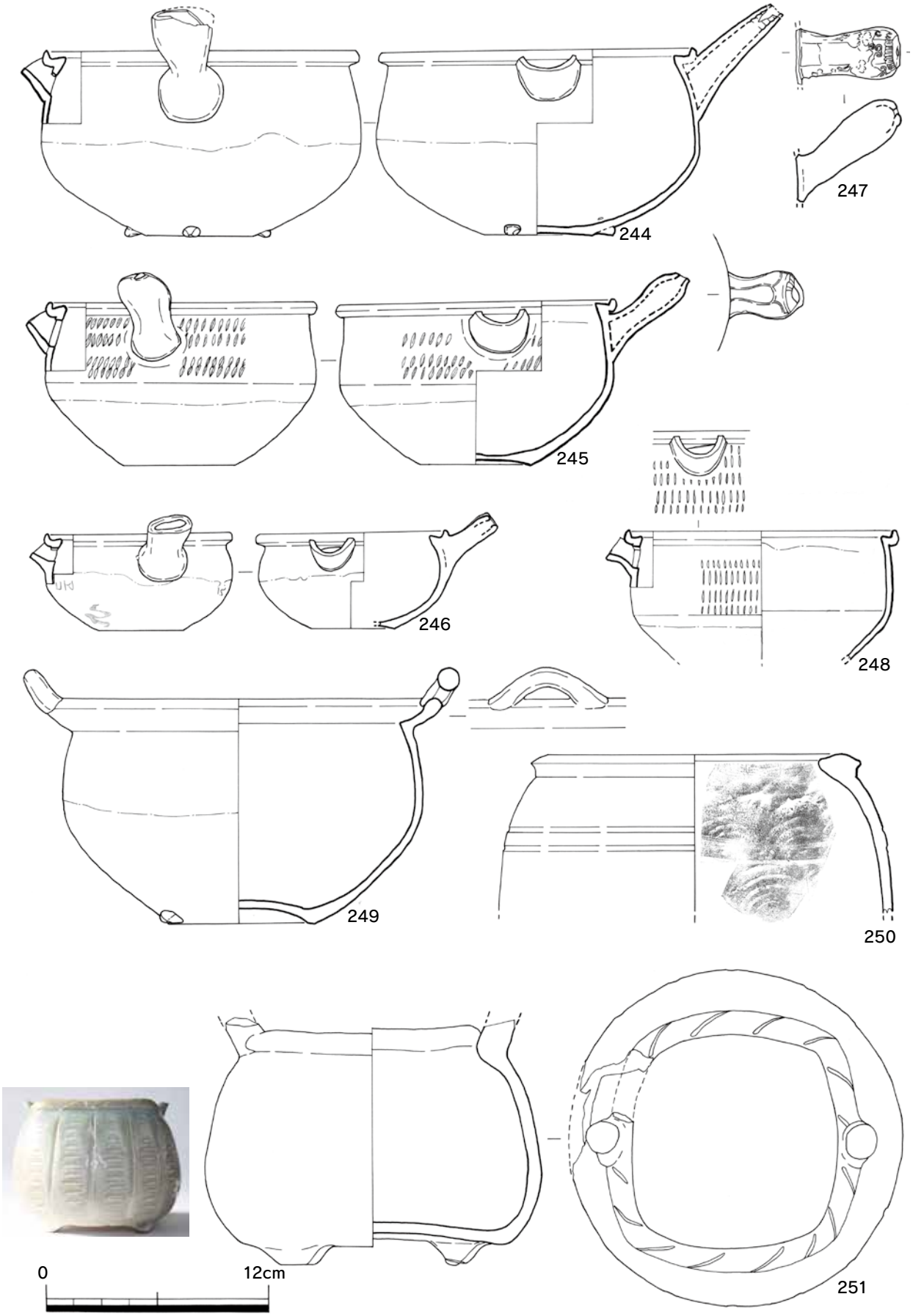
第17図　3号・4号土坑及び4号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



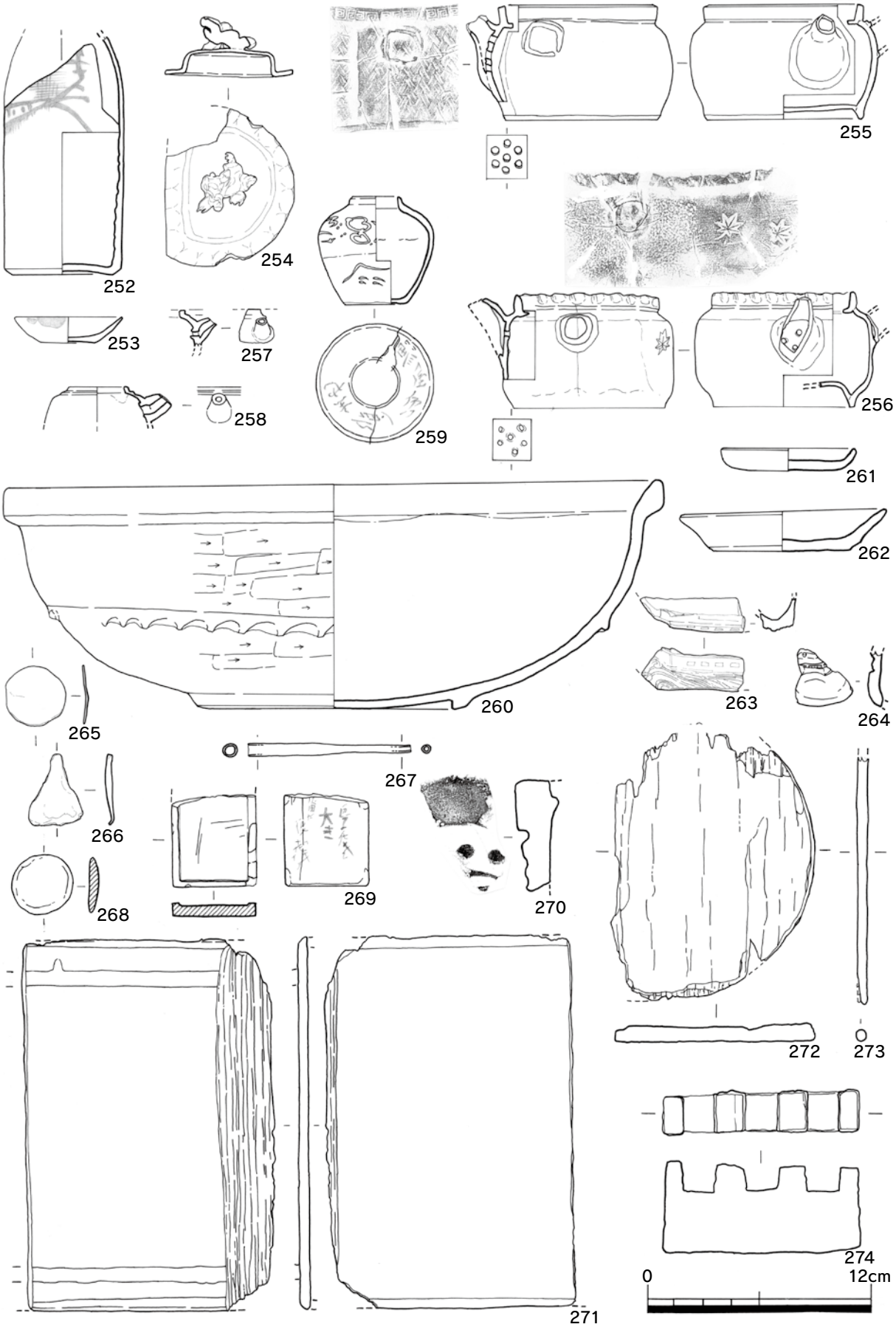
第18図　4号土坑出土遺物実測図1（縮尺1/3）



第19図　4号土坑出土遺物実測図2（縮尺1/3）



第20図　4号土坑出土遺物実測図3（縮尺1/3）



第21図　4号土坑出土遺物実測図4（縮尺1/3、ただし268は1/2、271は1/4）

と考えられる。259 は茶壺の可能性がある。体部の最大径部付近で上下別々に手づくねで製作している。外面に白土で花弁と点を描き透明釉を塗布する。上半の内面には「黒屋傳一郎主也」とふりがなの「クロヤデン」の墨書が残る。260 は土師質土器のこね鉢で、低い高台をもち、体部中位に波状の突帯をめぐらす。口縁は外面を肥厚させ、内面に赤色顔料を塗布する、高村の製品であろう。261・262 は土師器の皿である。263 は船の土人形、264 は人物の顔面であろう。265 は用途不明の銅製品、266 も用途不明の金属製品である。267 は煙管の吸口、268 は黒の碁石である。269 は小型の硯で、裏面に線刻による文字がある。270 は軒丸瓦である。271 ～ 274 は木製品で、271 は方形の蓋で全面に黒色の漆を塗布する。272 は曲げ物の底板か。273 は箸、274 は建築部材の切れ端か。

５号土坑（第９図）

５号土坑は４号土坑の東側に隣接し、６号土坑を切る。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は隅丸方形で、大きさは検出面で長さ 0.98 m・幅 0.92 m、深さは 0.24 mである。床面は皿状に窪む。遺物の出土状況からみて用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の鉢・蓋・猪口・土瓶・急須、磁器の碗・小坏・皿・猪口・急須・瓶・色絵碗・色絵段重、瓦質土器、土師質土器の焙烙・こね鉢・火消し壺、土師器の皿、棒状鉄製品・小刀などが多量に出土している（第 22 図）。275 ～ 282 は磁器で、275 は染付の碗、276 は色絵の碗で焼き継がある。277 ～ 279 は小杯で、277 は内外面に草花文、279 は外面に帆掛け船と櫛歯文を描く。280 は猪口で、内外面に呉須の小班点がある。281 は色絵の段重で、横シマをめぐらす。282 は急須で、梅樹を描く。283 は陶器の土瓶で、外面に梅花と流し掛けがみられる。284・285 は陶器の蓋で、285 には亀のつまみが付く。286 ～ 288 は土師質土器で、286 が火消し壺、287 が焙烙である。288 はこね鉢で、底面に突帯をめぐらし、内面には赤色顔料を塗布する。289 は土師器の皿である。290 は鉄製品で小刀の切先部分かと考えられる。

６号土坑（第９図）

６号土坑は５号土坑に切られて、重複する位置にあり、８号土坑にも切られる。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は隅丸方形に近く､大きさは検出面で長さ 1.65 m･幅 1.60 mである。壁面は 60°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは 0.47 mである。床面はほぼ水平である。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗・蓋、磁器の猪口、土師器の皿、銅銭などが少量出土している（第 22 図）。291 は白磁のソバ猪口である。292 は陶器の碗で、外面に草文を描く。293・294 は土師器の皿である。295 は陶器の蓋である。296 は寛永通寶である。

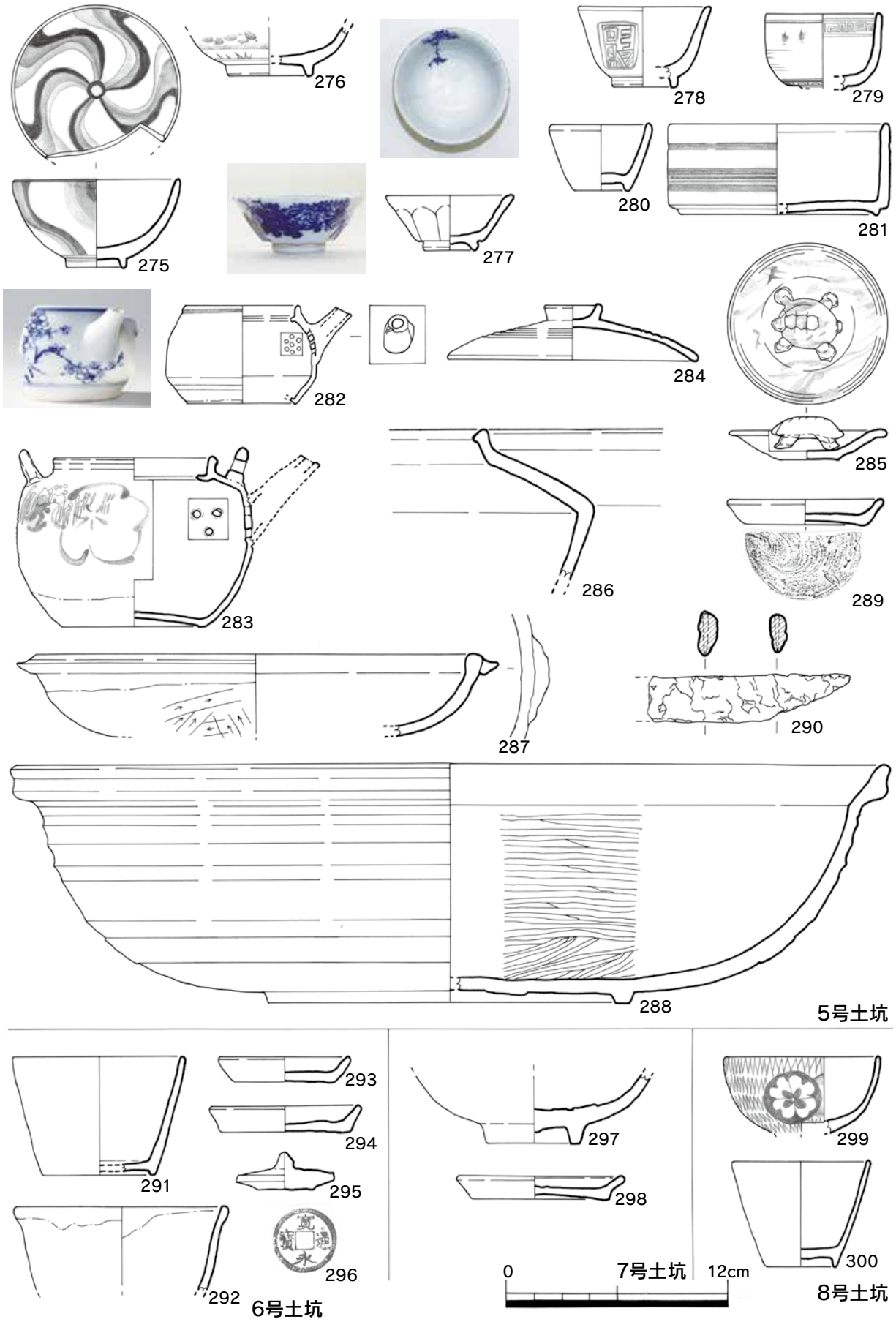
７号土坑（第９図）

７号土坑は６号土坑の南東に隣接し、東端が調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は東西方向に長い長方形で､大きさは検出面で残存長 1.90 m･幅 0.90 mである。深さは 0.24 mとやや浅い。壁面は小口側が 50°程度に広がりながら立ち上がる。床面は東半が西半より 5㎝ほど低くなっているが、両側とも水平である。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗、土師器の皿などが少量出土している（第 22 図）。297 は陶器の碗で、内外面に刷毛目を施し、見込に目跡があり、17 世紀代のものか。298 は土師器の皿である。

８号土坑（第９図）

８号土坑は７号土坑の北側に並行して検出された。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は７号土坑と同様な長方形で、大きさは検出面で長さ 2.15 m・幅 1.20 mである。壁面は全体的に大きく開く。東側の小口部分に狭い平坦面があり、床面は長さ 1.01 m・幅 0.43 mとやや狭くなり、



第22図　5号・6号・7号・8号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし296は1/2）

深さは最深部で検出面から 0.55 mである。遺構の用途は不明であるが、形状からみて７号土坑と同様と考えられる。

遺物は磁器の碗・猪口と碁石などが少量出土している（第 22 図）。299 は磁器の碗で、網目文の地文に花の丸文が浮かぶ。肥前の 1710 ～ 1750 年代のものである。300 は白磁の猪口である。

９号土坑（第９図）

９号土坑は８号土坑の北側に隣接し、北側が５号溝状遺構、西側が他のピットと切り合う。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構は平面形が楕円形で、大きさは検出面で長径 2.04 m、短径の残存幅は 1.31 mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.79 mと深い。床面は水平な平坦面をなし、大きさは長径 1.52 m・短径 1.03 mである。床面には内面に石灰分が付着した土師質土器の大甕が設置されていたことから、遺構の用途は便槽かと考えられる。

遺物は陶器の碗･皿･擂鉢･花瓶、磁器の碗･瓶、土師器の皿、漆器などが中量出土している（第 24 図）。301・302 は染付の碗で、外面に氷裂文を施す。303 は磁器の瓶である。304・305 は陶器の碗で、ともに流し掛けを施し、304 は高取系の製品か。307 は陶器の花瓶かと考えられ、平面が四角形を呈し、外面には型打文様を施す。308 は陶器の擂鉢、309 ～ 311 は土師器の皿である。

10 号土坑（第 23 図）

10 号土坑は調査区南部で３号土坑の北側に隣接し、５号溝状遺構を切る。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構は南北方向に長い長方形の平面形をなし、大きさは検出面で長さ 1.77 m・幅 1.11 mである。壁面は垂直に近く立ち上がる。床面に近い壁面の一部から暗灰色の粘土状の土が検出されたが、これは木質が腐食したものかもしれない。床面は平面形が長方形で長さ 1.66 m・幅 0.98 mで水平な平坦面をなす。埋土には基盤層に由来する灰黄色褐色弱砂質土や炭化物が少量含まれていた。遺構の性格は形状や遺物の量から考えて廃棄土坑とは考えにくく、埋葬施設の可能性がある。主軸の方位はＮ－ 19°－Ｅである。

遺物は磁器の小坏、土師質土器の片口、碁石などが少量出土している（第 24 図）。312 は染付の小坏で、外面の文様は草花文か風景であろう。313 は土師質土器の片口である。

11 号土坑（第 23 図）

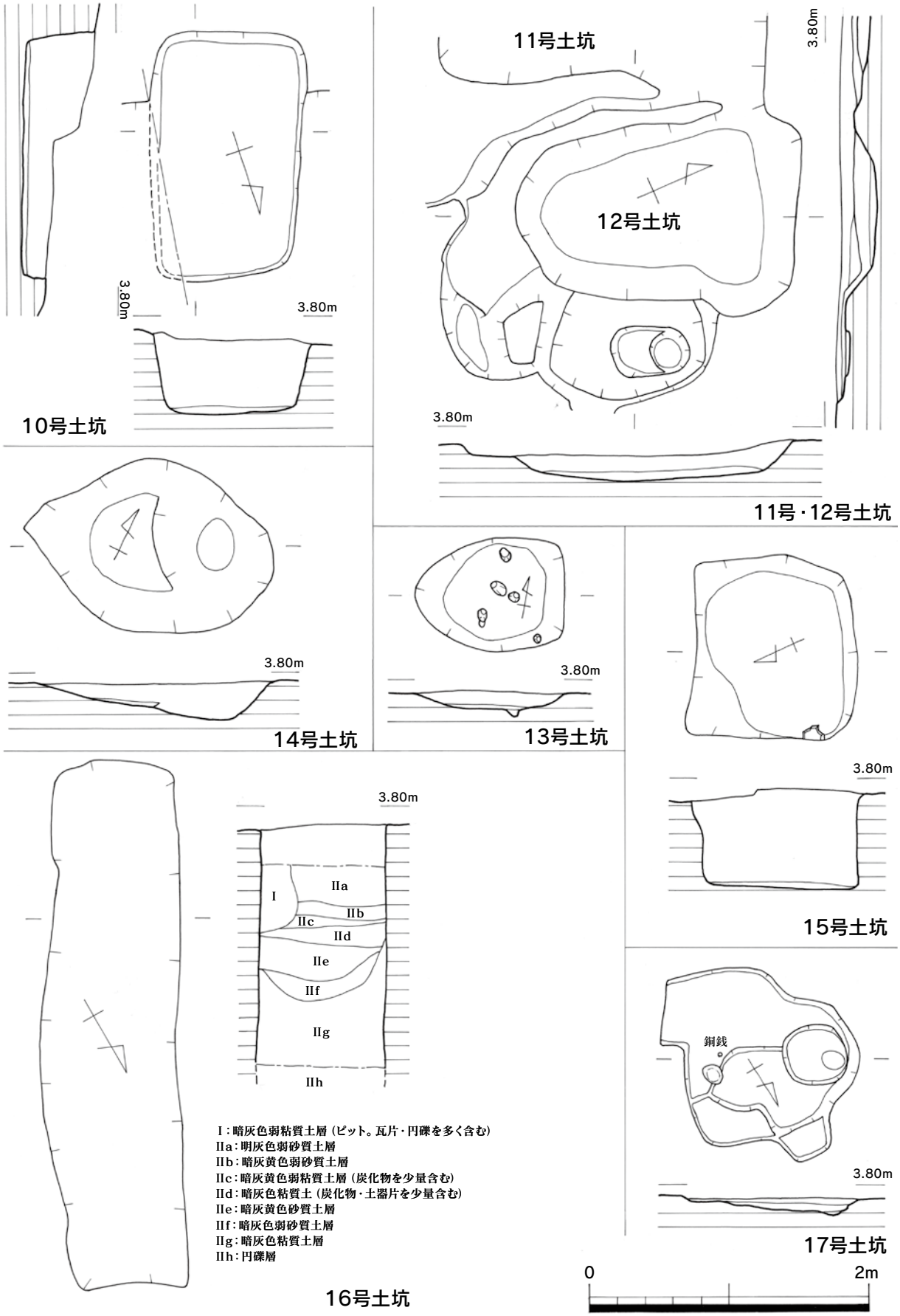
11 号土坑は調査区中央部よりやや南側に位置し、西側の大部分が調査区外となり、東側は 12 号土坑とわずかに切り合っている。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は方形に近い形態かと推定され、大きさは残存長 2.48 mである。深さは最深部で 0.15 mと浅い。埋土には炭化物を多く含む。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の擂鉢、磁器の猪口などが少量出土している（第 24 図）。314 は染付の猪口で、外面に草文を施し、見込には白色の泥状の付着物がある。315 は陶器の擂鉢である。

12 号土坑（第 23 図）

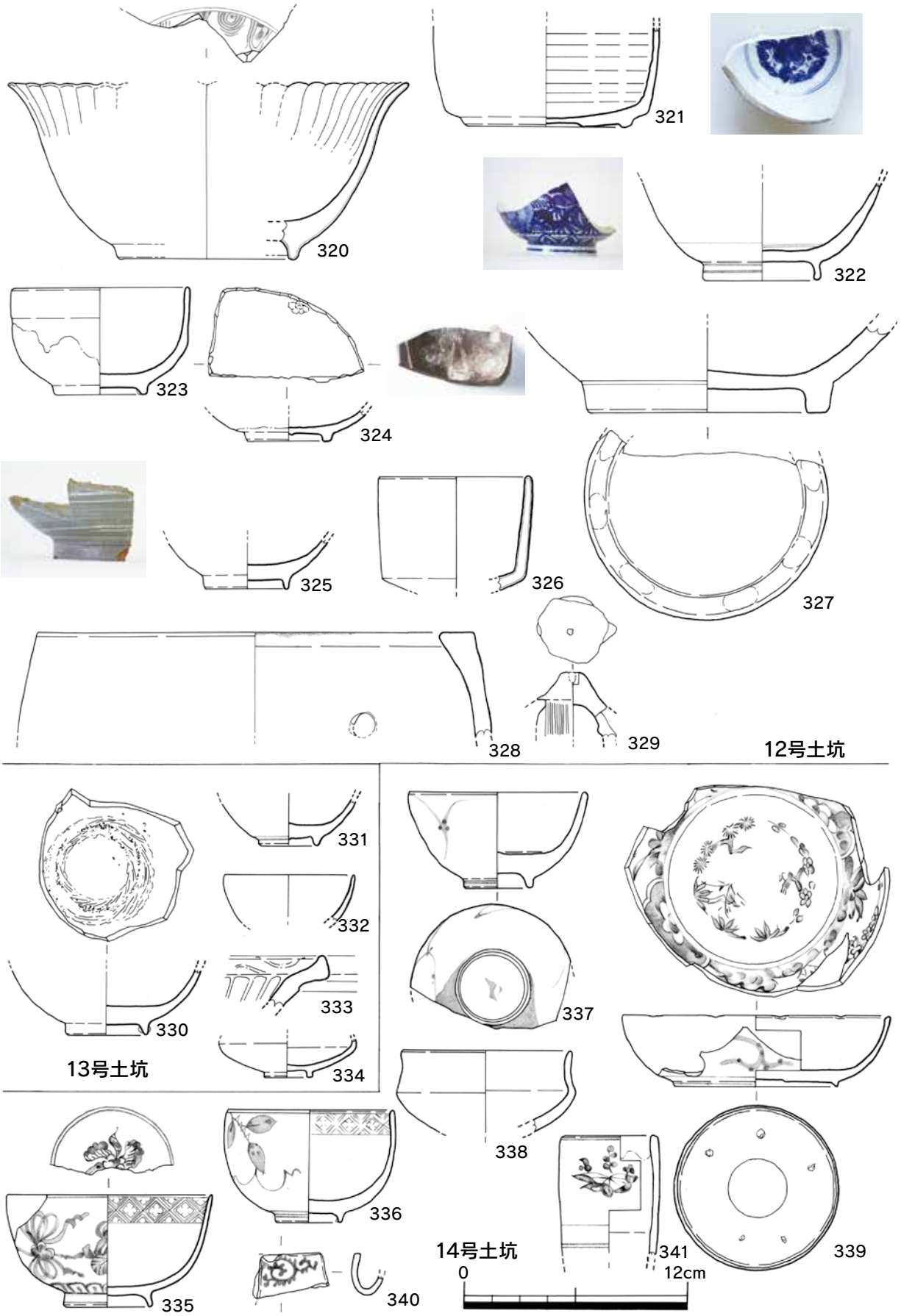
12 号土坑は 11 号土坑の東側に隣接し、他のピットと切り合う。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は隅丸長方形かと考えられ、大きさは検出面で長さ 2.50 m・幅 1.37 mである。壁面は大きく開き、深さは 0.35 mである。床面は中央部がわずかに窪むが、水平に近い。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗・鉢・湯飲み、磁器の皿・鉢・湯飲み・火入れ、土師質土器の焜炉、不明土製品などが中量出土している（第 24 図・第 25 図）。316 ～ 322 は磁器である。316 は湯飲みで、外面には松・竹・草文など、内面には四方襷文、見込にはコンニャク印判の五弁花がある。1740 ～ 1780 年代の肥前の製品か。317・318 は皿で、外面には花唐草文をめぐらし、317 の底面には渦福の銘がある。



第23図　土坑実測図2（縮尺1/40）

第24図　9号・10号・11号・12号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第25図　12号・13号・14号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）

319 は鉢かと考えられ、見込に風景が描かれ、底面には渦福の銘がある。320 は青磁染付の鉢で、口縁は細かい輪花状を呈する。321 は青磁の火入れかと考えられ、底部は蛇ノ目凹型高台である。322 は染付の鉢で。外面と見込に草花文を描く。323 ～ 327 は陶器である。323 ～ 325 は碗で、324 の内面には小さい梅花の文様がある。325 は内外面とも刷毛目をめぐらし、肥前の 17 世紀後半代の製品か。326 は湯飲みである。327 の鉢にも内外面には刷毛目をめぐらし、見込と高台端部に胎土目跡がある。328 は土師質土器の焜炉である。329 は用途不明の土製品で、上端に小孔がある。

13 号土坑（第 23 図）

13 号土坑は 12 号土坑の南東側に位置し、遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は基本的に楕円形に近く、大きさは検出面で長径 1.06 m・短径 0.83 mである。深さは 0.17 mと浅く、全体的に皿状の形状を呈する。床面を中心に径 5 ～ 10㎝ほどの浅い小ピットが 5 基検出された。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の鉢、磁器の碗・小坏などが少量出土している（第 25 図）。330・331 は染付の碗で、330 の見込には蛇ノ目釉剥ぎが残り、高台側面に砂目跡が付着する。332 は白磁の小杯である。333 は陶器の鉢で、内面は蓮弁状の型打である。334 は器種不明の陶器である。

14 号土坑（第 23 図）

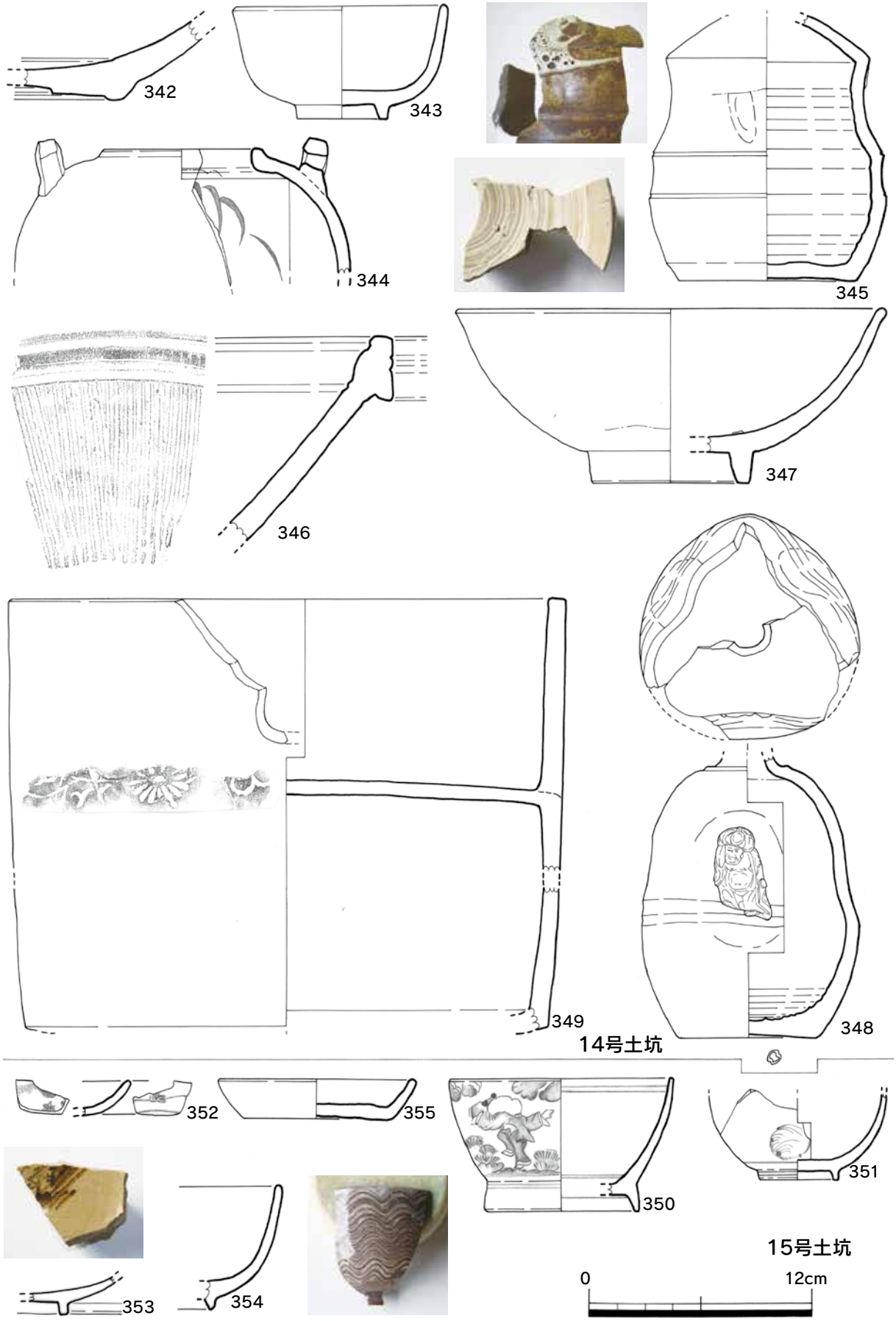
14 号土坑は 12 号土坑の北側に隣接し、遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形はやや不整形であるが楕円形に近い、大きさは検出面で長さ 1.90 m・幅 1.26 mである。壁面は大きく開き、深さは最深部で 0.32 mである。西側は半月形の平坦面があり、東側は床面が皿状に窪む。埋土は暗灰褐色の砂質土で、土器とともに炭化物を多量に含む。遺構の用途は廃棄土坑の可能性が高い。

遺物は陶器の碗・鉢・擂鉢・土瓶・徳利、磁器の碗・皿・鉢、土師質土器の焜炉などが中量出土している（第 25 図・第 26 図）。335 ～ 342 は磁器である。335 ～ 337 は染付の碗で、335・336 の外面には草花文や唐草文、内面には四方襷文がある。335 は肥前の 1740 ～ 1780 年代のものである。337 はくらわんか手で、底面に銘状の文様がある。338 は青磁の平形碗か。339 は染付の皿で、外面に唐草文、内面に梅花・草木文、見込に松竹梅円形が配されている。口縁はわずかに輪花状を呈し、底部は蛇ノ目凹型高台である。340・341 はともに器種不明で、文様は 340 の外面に蛸唐草文、341 の外面に桐が描かれている。342 は青磁の鉢で、底部が蛇ノ目凹型高台である。343 ～ 348 は陶器である。343 は碗で、口銹を施す。344 は土瓶で、白土・鉄釉で文様を描く。345 は徳利で、外面には白土の流し掛けがあり、高取系の 18 世紀後半以降の製品である。346 は陶器の擂鉢、347 は鉢で内外面に刷毛目を施し、見込に目跡がある。348 も徳利で、外面に大黒天の貼り付け文があり、底面に分銅形の刻印がある。17 世紀末～ 18 世紀前半の高取系 (上の原窯跡) である。349 は土師質土器の焜炉で、外面の中位に花唐草文の型押がある。

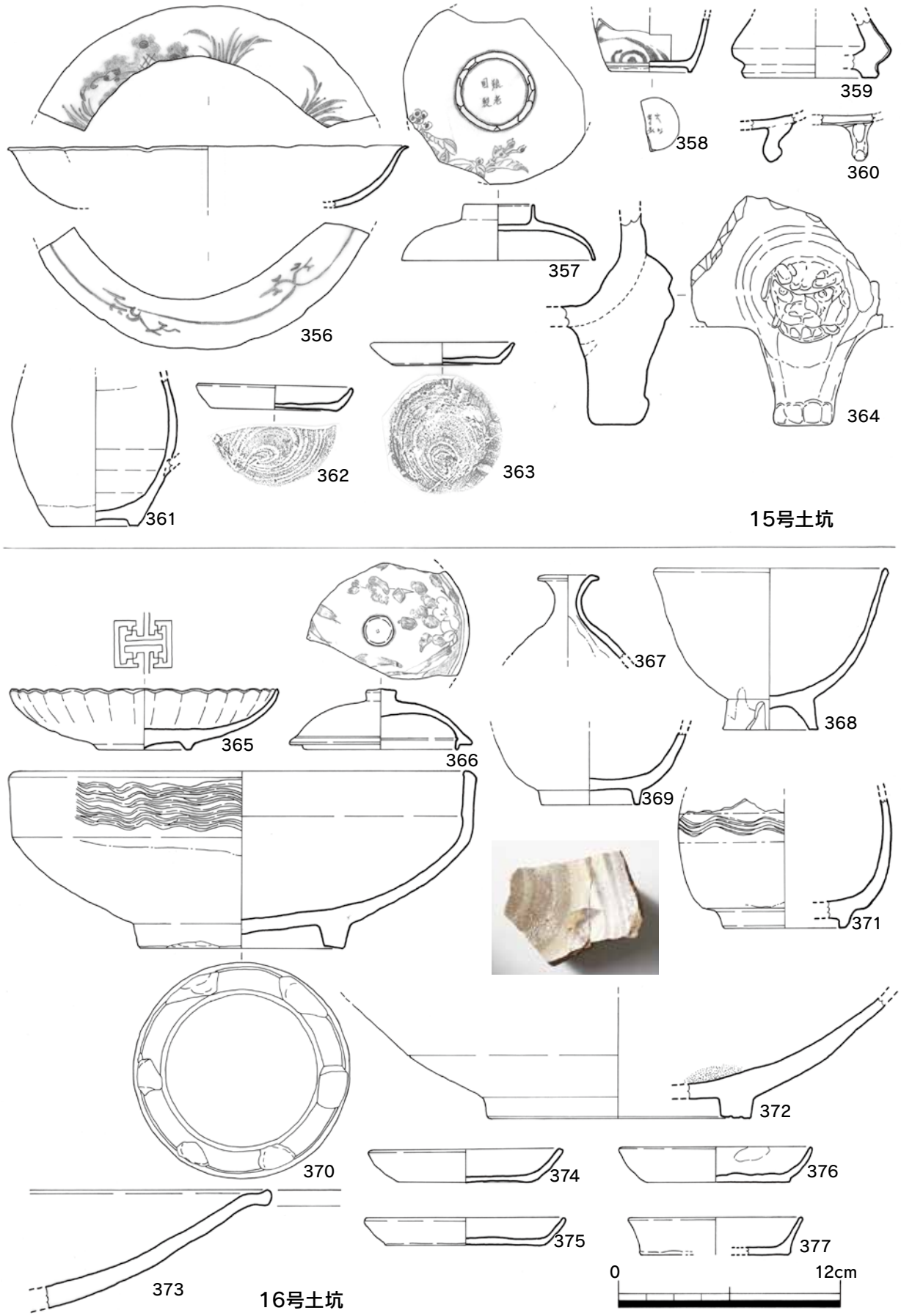
15 号土坑（第 23 図）

15 号土坑は 13 号土坑の東側に隣接し、16 号・18 号土坑を切る。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形はほぼ正方形で、大きさは検出面で長さ 1.32 m・幅 1.13 mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、深さは検出面から 0.65 mである。床面は水平で平坦である。埋土は基盤層に近い暗黄灰色砂質土が中心で、遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗・瓶、磁器の碗・皿・蓋・猪口・香炉・瓶・仏花瓶、瓦質土器の火鉢、土師器の皿などが中量出土している（第 26 図・第 27 図）。350 は磁器の広東碗で、外面に中国童子を描く。351 も磁器の碗で、外面には丸文のススキがある。352 は磁器の皿で、内外面に草花文を配する。353 は陶器の碗で、内面に風景を描く。354 も陶器の碗で、外面に刷毛目の波状文をめぐらす。18 世紀前半



第26図　14号・15号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第27図　15号・16号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）

の唐津系 (現川) と考えられる。356 は磁器の皿で、外面は唐草文、内面は草花文である。357 は磁器の蓋で、つまみの内側に「〇老〇製」の銘がある。358 は磁器の猪口で、底面に「大明年製」の銘がある。359 は青磁の仏花瓶、360 も青磁で香炉の脚かと考えられる。361 は陶器の瓶、362・363 は土師器の皿である。364 は瓦質土器の火鉢の脚部と推定され、獅子形の型押がある。

16 号土坑（第 23 図）

16 号土坑は 13 号土坑の北側に隣接し、15 号・21 号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は南北方向に長い長方形で、大きさは検出面で長さ 3.70 m・幅 1.00 mである。壁面は垂直に立ち上がり、深さは 1.72 mまで掘削したが、床面に達していない。埋土は砂質土と粘質土が互層に堆積するが、掘削した最下層は円礫層となっており、湧水をともなう。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN－ 30°－Eである。なお、当遺構の検出面で長径 0.40 m・短径 0.32 mのやや楕円形の焼土面を検出したが、当遺構の埋没後の遺構である。

遺物は陶器の碗・鉢・壷、磁器の皿・蓋・瓶、土師器の皿の他、漆器・土製人形・土錘・軒平瓦・軒丸瓦・丸瓦・煙管・鉄釘などが多量に出土した（第 27 図・第 28 図）。365 は青磁の皿で、見込に紗彩文の型打がある。肥前の 1640 年代頃の作か。366 は染付の蓋で、外面に草花文を描く。367 は白磁の瓶である。368・369 は陶器の碗で、368 の高台には切込がある。370 は陶器の鉢で、外面に波状文の刷毛目をめぐらし、高台には胎土目跡が６カ所にある。371 は陶器の壷で、外面に波状文の刷毛目をめぐらす。372・373 は陶器の鉢で、373 の内面には同心円状や波状の刷毛目をほどこす。見込に砂目跡があり、肥前の 18 世紀前半代のものか。374 ～ 377 は土師器の皿である。378 は土製品の舟、379・380 は土錘である。381 は丸瓦、382 は左三つ巴文かと考えられる軒丸瓦、383 は三つ葉文の軒平瓦である。384・385 は鉄釘、386 は用途不明の銅製品、387 は煙管である。

17 号土坑（第 23 図）

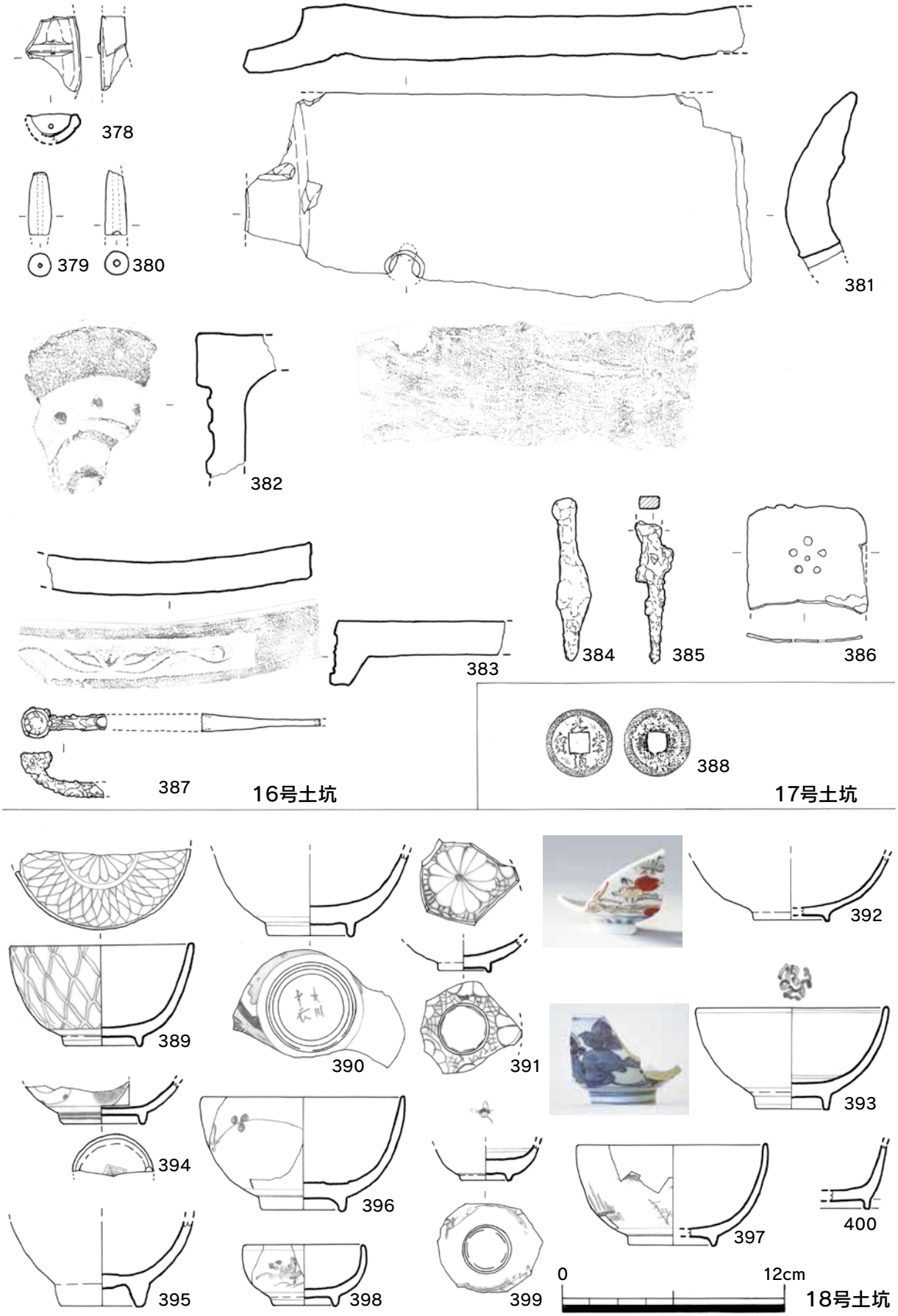
17 号土坑は 15 号土坑の南東側に位置し、遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形はやや不整形で他のピットと切り合い、大きさは長さ 1.26 m・幅 1.25 mである。深さは 0.17 mと浅く、床面は中央部が窪み気味である。遺構の用途は不明である。

遺物は遺構の南側の床面から「元豊通寶」と考えられる宋銭が出土している（第 28 図 388）。

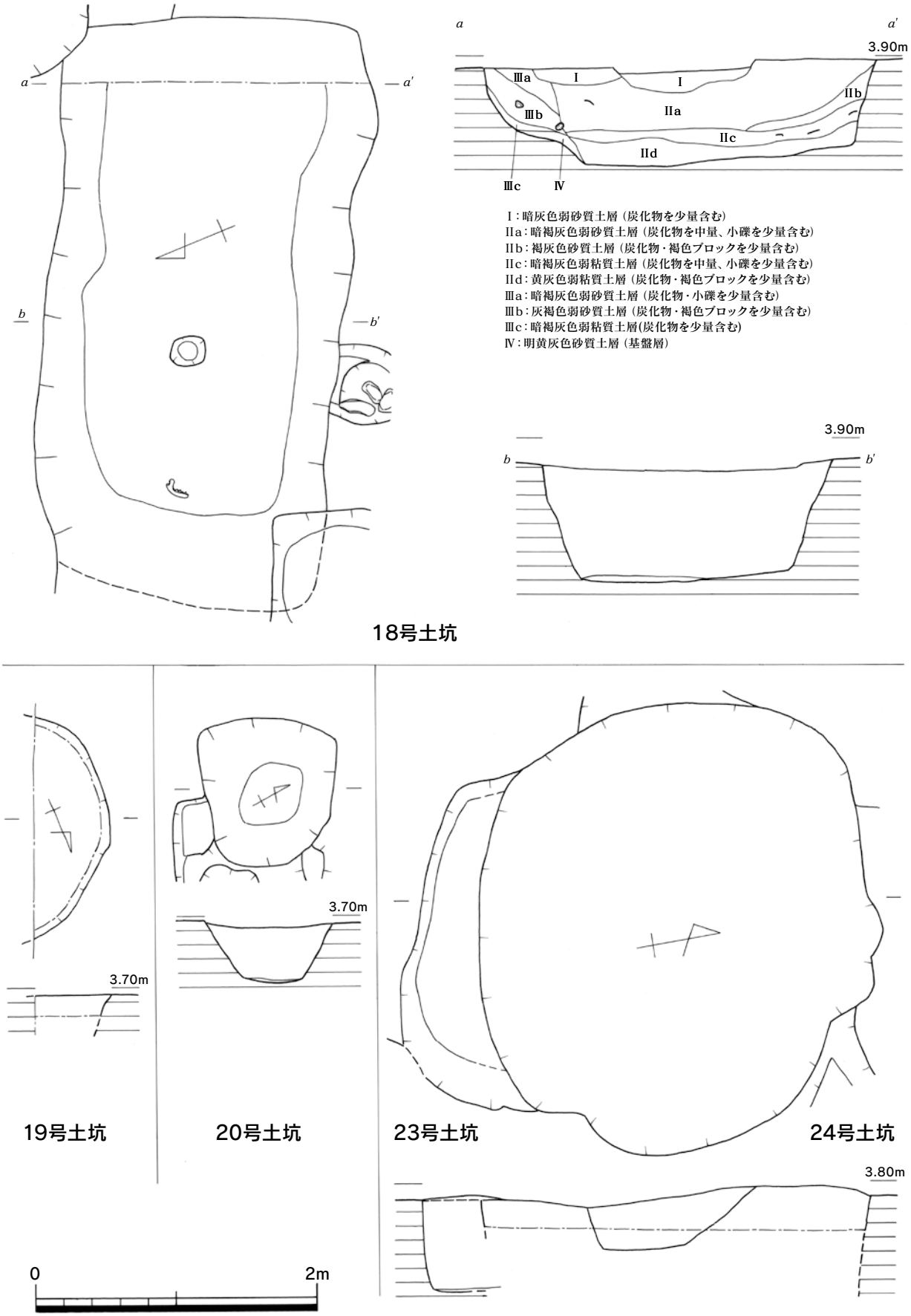
18 号土坑（第 29 図）

18 号土坑は調査区中央部のやや南側に位置し、15 号土坑や２号建物跡のＰ３・Ｐ４・Ｐ５などに切られる。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は東西方向に長い長方形で、大きさは検出面で長さ 4.25 m・幅 2.26 mと大型である。壁面は 70°程度の角度で立ち上がり、深さは最深部で 0.89 mと深い。床面は全体的にほぼ水平な平坦面をなし、大きさは長さ 3.05 m以上・幅 1.44 mである。床面の中央部よりやや西側で長径 25㎝の楕円形ピットを検出し、西端部からは獣骨の下顎骨が出土した。埋土は全体的に炭化物を含み、土質は上層では弱砂質土、下層では弱粘質土で基盤層に近い性質となる。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN－ 62°－Wである。

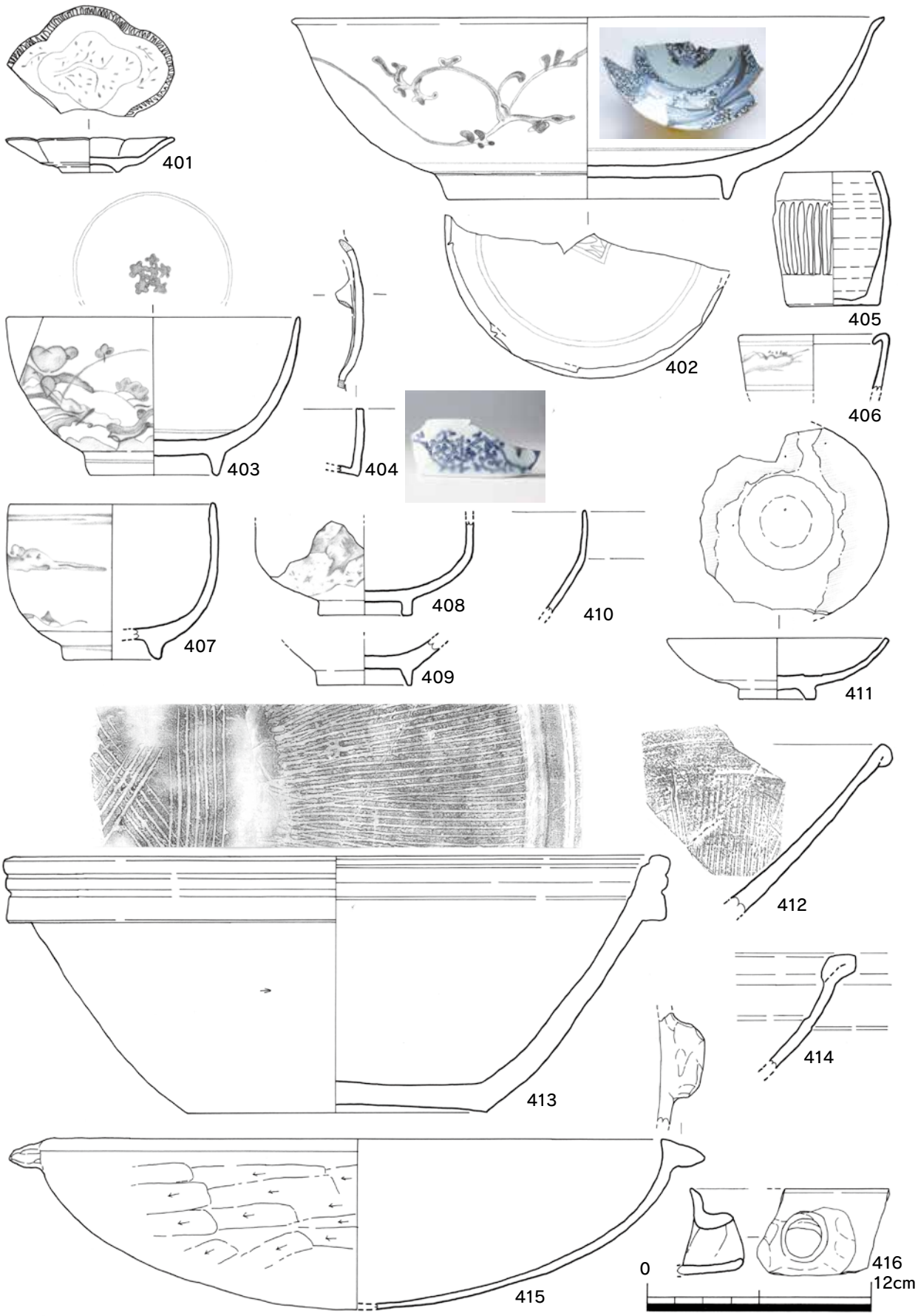
遺物は陶器の碗・皿・擂鉢、磁器の碗・小坏・皿・鉢・猪口・火入れ・瓶、土師質土器の焙烙・片口、土師器の皿などの多量の土器類の他、土製人形・木製品（漆器・曲げ物・箸？）砥石・鉄製品・獣骨などが出土している（第 28 図～第 31 図）。389 ～ 406 と 422 は磁器である。389 ～ 397 は碗で、389 は内外面に網目文、見込に菊花文を描き、底面に銘がある。18 世紀前半の肥前の製品である。390 の底面には「大明年製」の銘がある。391 は外面と見込に菊花文を描く。392 は色絵で、松・笹・花などを描く。393 は外面に草木文や動物らしき絵柄がある。394 は外面に雪輪文を描き、底面には渦福がある。396 は外面が梅樹かと考えられ、見込を蛇ノ目釉剥ぎする、1680 ～ 1770 年代の肥前



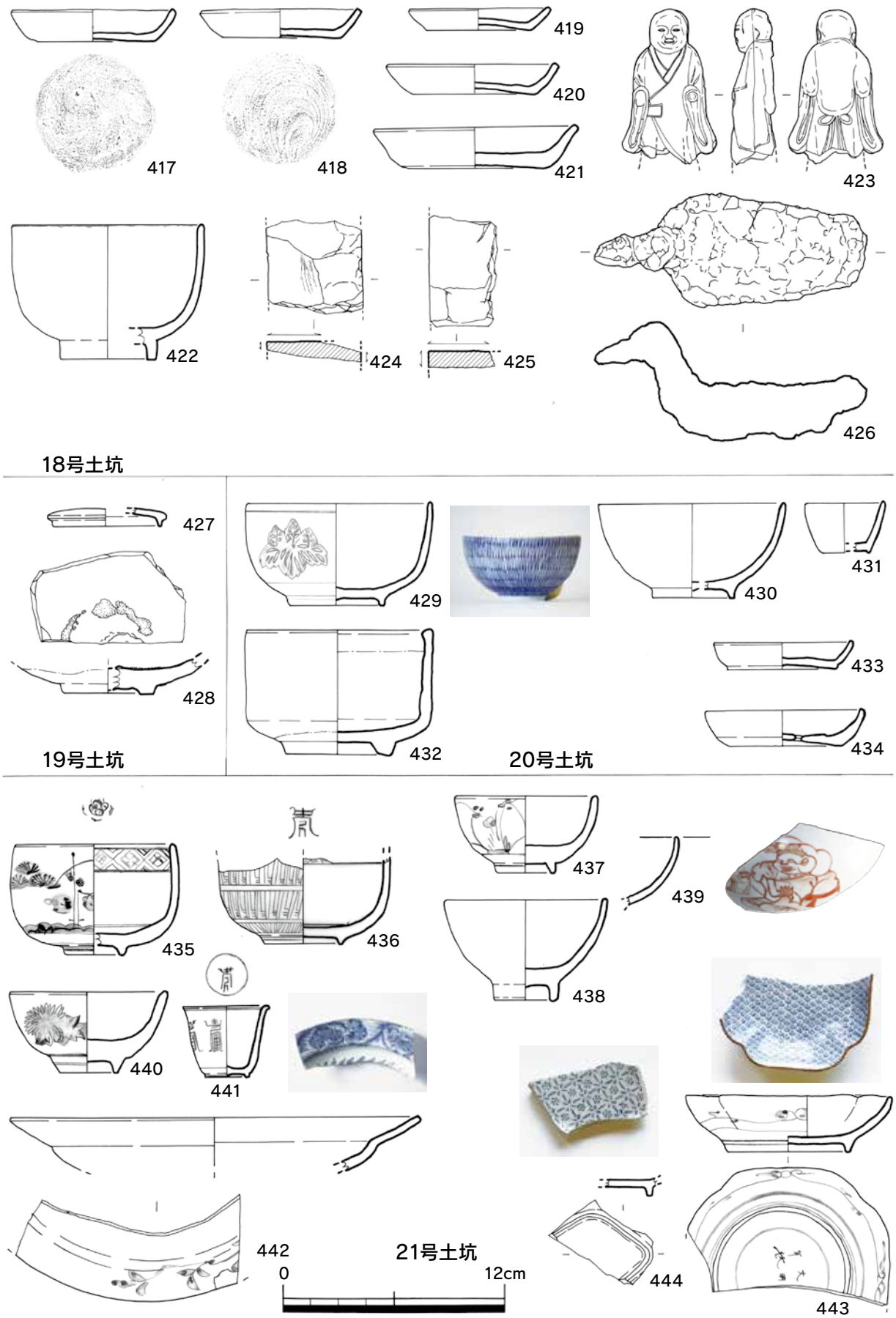
第28図　16号・17号・18号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし388は1/2）



第29図　土坑実測図3（縮尺1/40）



第30図　18号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第31図　18号・19号・20号・21号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）

（波佐見）の製品である。398・399 は小坏で、外面にはともに草花文を描く。400 は白磁の猪口である。401 は白磁の皿で、内面は型打の草木文を施す。402 はやや大型の鉢で、文様は外面が花唐草文、内面が蛸唐草文、見込が草花文で、底面に銘がある。403 も鉢で、外面に草木文、見込にコンニャク印判の五弁花を配し、底面には「大明年製」の銘がある。404 は器種不明で、外面に蛸唐草文を描く。405 は筒状の青磁で、器種は不明である。406 は火入れで、外面の文様は風景か。407 ～ 414 は陶器である。407 ～ 410 は碗で、407 は陶胎染付である。408 は鉄釉を施し、18 世紀前半の小石原系と考えられる。410 も鉄釉をほどこし、天目碗か。411 は皿で、銅緑釉を使用し、見込は蛇ノ目釉剥ぎである。412 ～ 414 は擂鉢で、412 には鉄釉を施す。414 は口縁を内側に折り曲げて厚くしている。415・416 は土師質土器で、415 が焙烙、416 が片口である。417 ～ 421 は土師器の皿である。422 は白磁の碗で、口銹を施す。423 は僧形の土人形である。424・425 は砥石で、ともに天草石か。426 は火のしの可能性がある鉄製品である。

19 号土坑（第 29 図）

19 号土坑は 18 号土坑の東側に位置し、東半は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は円形かと考えられ、大きさは検出面で 1.8 m程度と推定される。壁面はやや斜めに立ち上がり、深さは 0.21 mしか掘削していない。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗、磁器の蓋などが少量出土している（第 31 図）。427 は白磁で、合子の蓋かと考えられる。428 は陶器の皿で、見込は砂目跡が残り、中央が盛り上がる。17 世紀代の製品である。

20 号土坑（第 29 図）

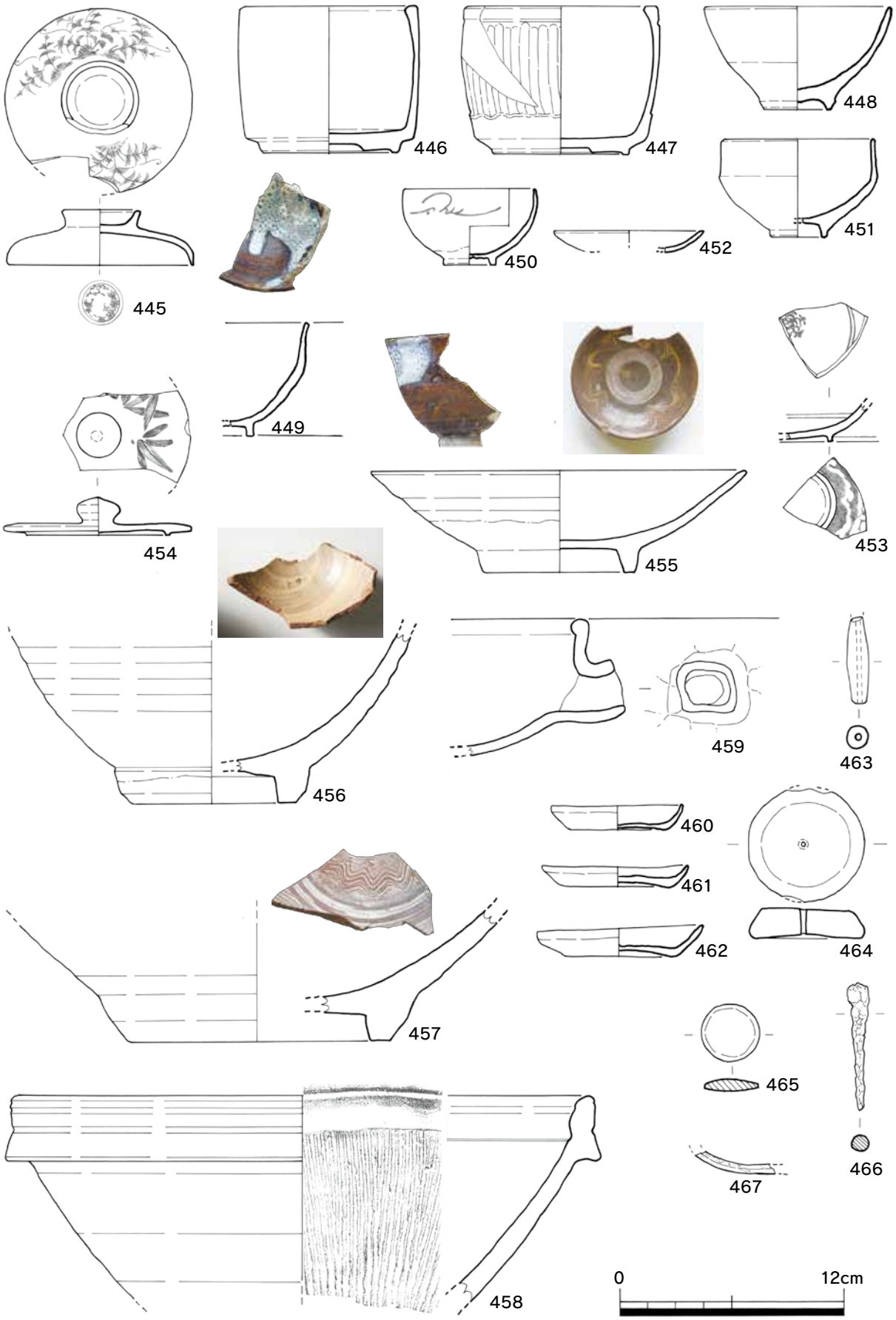
20 号土坑は調査区中央部付近で 18 号土坑の北側に位置し、54 号土坑を切る。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は隅丸方形で、大きさは検出面で長さ 1.05 m・幅 0.98 mである。壁面は 60°程度の角度で開きながら立ち上がる。深さは 0.45 mで、床面はほぼ平坦であるが、大きさは 0.42 m程度と狭い。遺構の用途は廃棄土坑の可能性がある。出土遺物の中に 29 号土坑と接合するものがあり、２つの遺構が同時併存したことも推定される。

遺物は陶器の碗・皿・擂鉢、磁器の碗・猪口、土師器の皿などが中量出土している（第 31 図）。429・430 は磁器の碗で、外面の文様は 429 がコンニャク印判の桐で、430 は網目文である。ともに 18 世紀前半代の肥前の作である。431 は白磁の猪口である。432 は陶器の碗で、外面に灰釉を施す。433・434 は土師器の皿である。

21 号土坑（第 41 図）

21 号土坑は 20 号土坑の西側に隣接し、16 号・54 号土坑を切り、22 号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約 3.6 mである。遺構の平面形はほぼ正方形で、大きさは検出面で長さ 1.93 mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.36 mとやや浅い。床面はほぼ水平な平坦面をなし、中央部付近から板状の木材を出土した。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・小坏・皿・蓋・鉢・擂鉢・壷・甕、磁器の碗・小坏・皿・蓋・猪口・火入れ、土師質土器の片口、土師器の皿など多量の土器類の他、土錘・碁石・煙管・鉄釘・紡錘車などが出土している（第 31 図・第 32 図）。435 ～ 447 は磁器である。435・436 は碗で、文様は 435 が外面が松・竹・梅、内面が四方襷文、見込が五弁花で構成され、436 は外面が「壽」崩し、内面が四方襷文？見込が「壽」である。ともに 18 世紀後半代の肥前のものである。437 ～ 440 は小杯で、437 は外面が草花文と鳥文を配する肥前（波佐見）の作である。438 は青磁で、439 は色絵で布袋を描く。440 は外面にコンニャク印判の菊花文を押す。441 は猪口で、外面と見込に「壽」字文を配する。442 ～ 444 は皿で、442 は内外面に草木文を描く。443 は角皿で、口縁が口銹で、底面に「太明年製」の銘がある。444 は型打で、



第32図　21号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし465は1/2）

高台が菱形の平面形をなす。445 は磁器の蓋で、見込に松竹梅円形を描く。446・447 は青磁の火入れで、ともに底部が蛇ノ目凹型高台である。448 ～ 458 は陶器である。448･449･451･453 は碗で、449 は内外面にワラ灰釉？の流し掛けを施す高取系の製品である。453 は陶胎染付で、見込は手書きの五弁花である。450 は小杯で、外面に鉄釉の絵がある。452 は小皿である。454 は扁平な蓋で、外面に笹の葉がめぐらされている。455 は中型の皿で、内面に刷毛目があり、見込は蛇ノ目釉剥ぎである。456・457 は鉢で、内面にはともに刷毛目を施す。457 は見込に重ね焼き痕があり、18 世紀前半代の唐津の製品である。458 は陶器の擂鉢で、関西系（堺？）のものである。459 は土師質土器の片口である。460 ～ 462 は土師器の皿である。463 は土錘、464 は紡錘車かと考えられる。465 は黒石の碁石、466 は鉄釘、467 は煙管である。

22 号土坑（第 41 図）

22 号土坑は 21 号土坑を切って北側に位置する。遺構検出面の標高は約 3.6 mである。遺構は平面形が円形に近く、大きさは検出面で長径 1.14 m・短径 1.12 mである。壁面は 70°程度の角度で立ち上がり、深さは 0.82 mとやや深い。床面は皿状に窪む。遺構の用途は廃棄土坑の可能性がある。

遺物は陶器の碗・皿・猪口、磁器の小坏・蓋、土師質土器の焜炉、土師器の皿など中量の土器類と漆器が出土している（第 33 図）。468 は磁器の小杯で、外面に草花文を描く。469 は磁器の鉢状の器形を呈し口縁には蓋の受け部がある。470 は磁器の蓋で、外面に花唐草文、内面に四方襷文を描く。471 ～ 473 は陶器の碗で、471 は鉄釉を施す天目か。473 は内面に白土の流し掛けを施す。474 は陶器の猪口で、外面に鶴を描き、高台の３ヶ所に切込がある。475 は陶器の皿で、見込は蛇ノ目釉剥ぎである。476 は土師器の皿である。477 は土師質土器で、器形はちり取り形で、下端に円孔がある。478 は土師質土器の焜炉である。

23 号土坑（第 29 図）

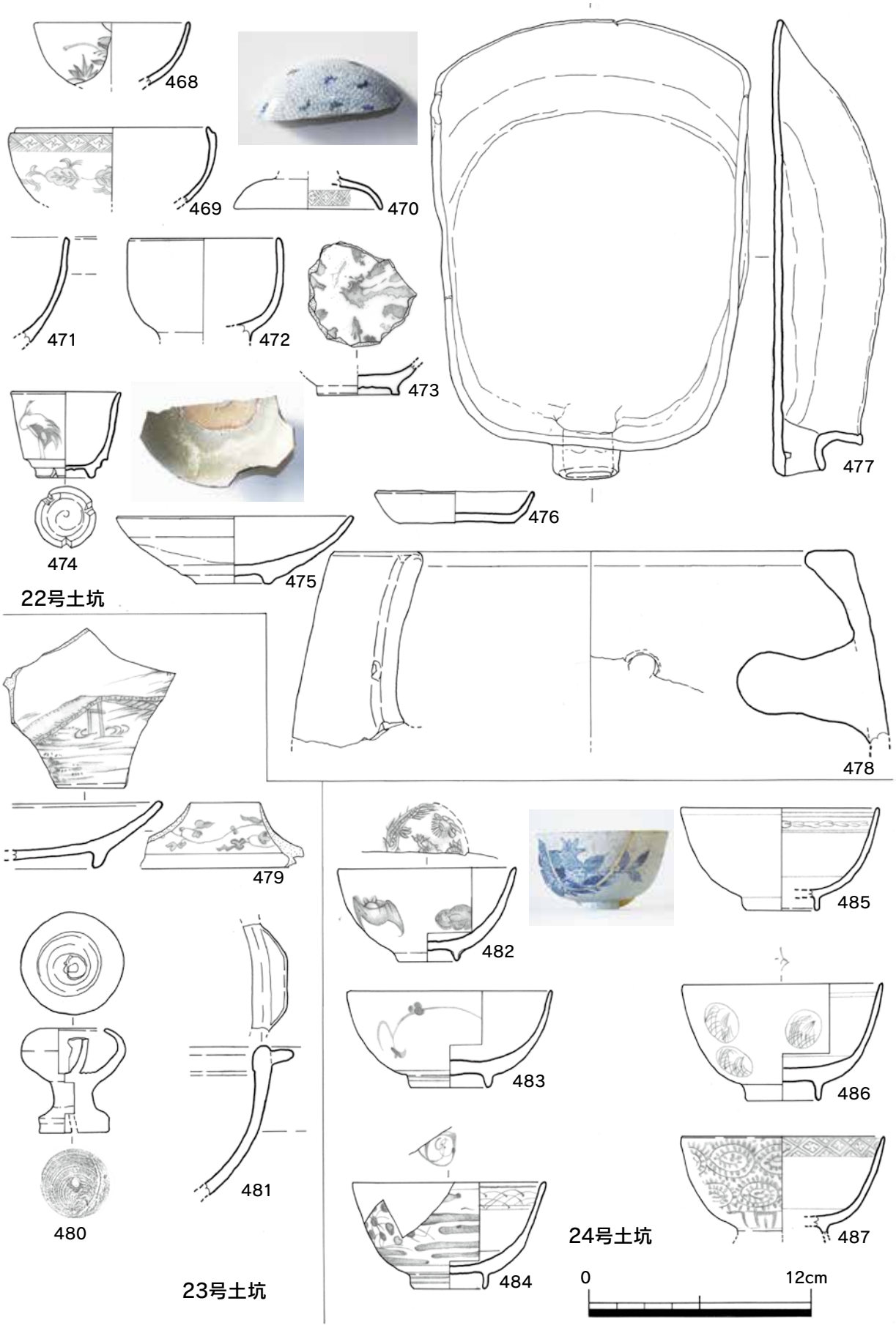
23 号土坑は 21 号土坑の北西側に隣接し、24 号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は隅丸方形と推定され、大きさは検出面で長さ 2.35 mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、深さは 0.63 mである。床面は検出した範囲では平坦である。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の秉燭、磁器の皿、瓦質土器の火鉢、土師質土器の焙烙など中量の土器類と、木片・種子などが出土している（第 33 図）。479 は磁器の皿で、外面に唐草文、内面に風景を描く。480 は陶器の秉燭、481 は土師質土器の焙烙であろう。

24 号土坑（第 29 図）

24 号土坑は調査区中央部付近に位置し、23 号土坑を切る。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は基本的に隅丸方形で、大きさは検出面で長さ 3.25 m・幅 2.75 mと大型である。壁面はほぼ垂直に立ち上がると推定されるが、深さは 0.30 mまでしか掘削していない。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

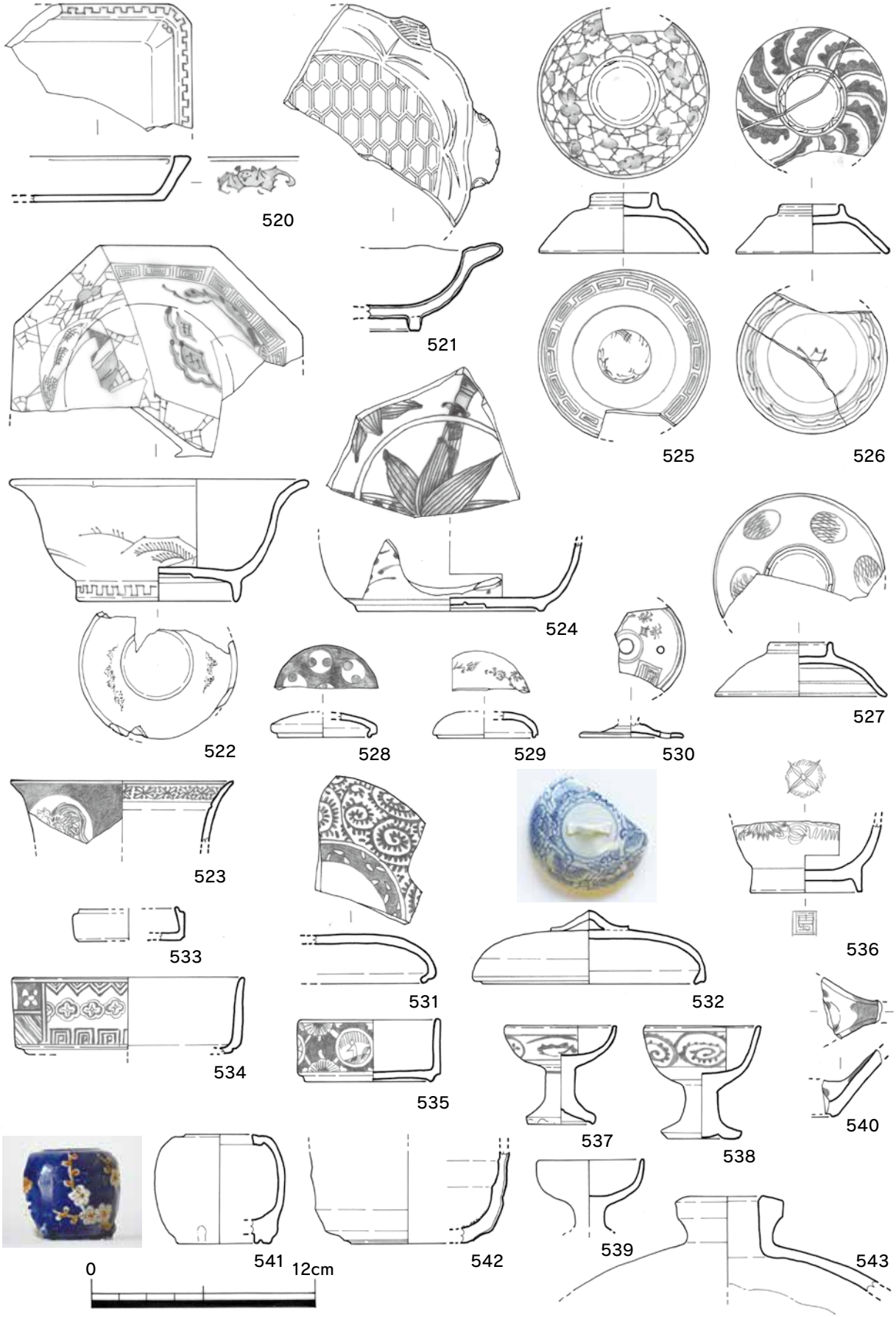
遺物は陶器の碗・小坏・皿・蓋・擂鉢・猪口・急須・土瓶・鍋・行平・片口・火入れ・灯明受け皿・徳利・燗瓶・壷、磁器の碗・小坏・皿・紅皿・蓋・鉢・猪口・湯飲み・段重・合子・火入れ・仏飯器・瓶・蓮華、瓦器の焜炉・壷、瓦質土器の鉢・火鉢、土師質土器の蓋・急須・こね鉢・焙烙・焜炉・焜炉の火皿・火消し壷、土師器の皿・蓋など非常に多量の土器類の他、土製人形・硯・碁石などが出土している（第 33 図～第 40 図）。482 ～ 550 は磁器である。このうち 482 ～ 501 は碗で、482 は外面に蝙蝠・雲、見込に龍を配する。483 は見込に蛇ノ目釉剥ぎを施す。484 は端反で、外面に草花文、内面に青海波を描く。485 は外面に柘榴の花、内面に鎖つなぎを描き、焼き継ぎがある。486 は外面にススキの丸文、



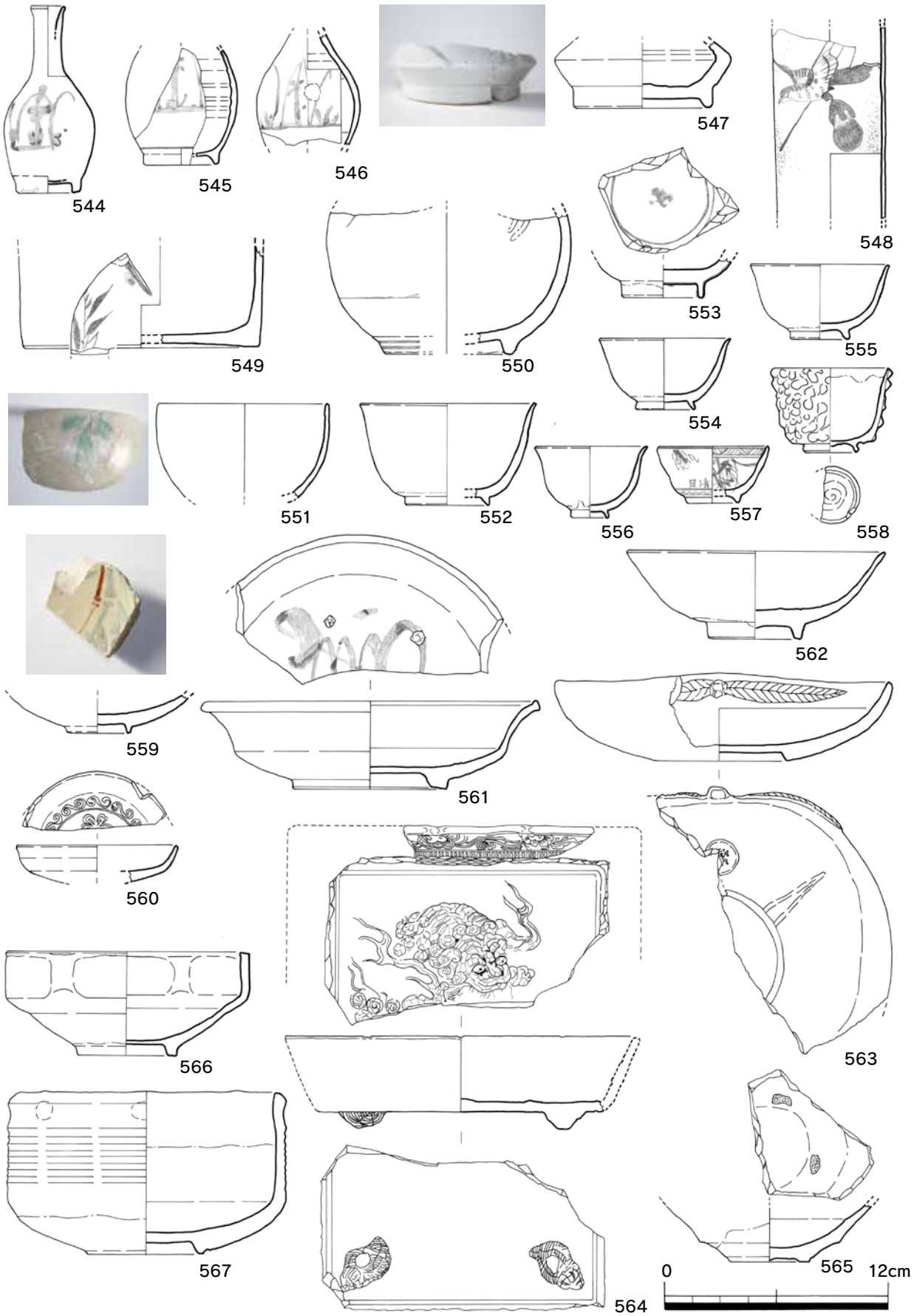
第33図　22号・23号・24号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）

487 は外面に蛸唐草文・櫛歯文、内面に四方襷文を配する。488・489 は外面に草花文を描く。490 は内外面に二重格子を描く、1820 ～ 1860 年代の肥前（波佐見）産である。491 は外面に梅花、492 は花文を配し、口縁はともに端反である。493 は内外面に梅花と氷裂文を描く。494 は外面に葵を描く瀬戸美濃系か。495 は口縁が端反で、口銹を施す。496 は白磁で、見込に「壽」の円形の型押がある。これも瀬戸美濃系か。497 は筒形に近く、外面に草花文・櫛歯文、見込に花文を配し、底面に銘がある。498 ～ 500 は色絵で、498 は朱・青・金色で外面に源氏香文・草花文を描く。499 は朱・金色で、外面に花文を描く。500 は器壁が薄く、朱・青・金色で外面に「壽」・花文を描く。501 は赤絵で、「○に　大坂　常」の文字を書く。502・503 は湯飲みで、502 は外面に菊花文？・唐草文、503 はススキの丸文がある。504 ～ 513 は小杯である。504 は外面に草花文を描き、底面には銘がある。505 は外面に蘇軾の後赤壁賦の漢詩がある。506 は白磁である。508 は色絵で、朱・金色で外面に雲などを描く。509・511 は赤絵である。510 は見込に鯉の滝登りを描き、口縁には口銹を施す。513 は色絵で、黒・朱・黄・金・青色で外面に唐草？・花弁などを描く。514・515・517・518 は皿で、514 は見込に巻物・梅樹を描き、３ヶ所に目跡を残し、底部は蛇ノ目凹型高台である。515 は白磁の菊花皿で、底部は蛇ノ目凹型高台である。517 は見込に蝶と丸文を配し、口縁に染付の口銹をめぐらす。518 は見込に風景を描く。516 は碗で、外面と見込にかぶを描く、18 世紀前半の朝妻の製品である。519 は白磁の紅皿である。520 は角皿で、外面に蝙蝠を描く。521 は青磁の皿で、全体的に亀形を呈し、内面は亀甲文の型打である。522 ～ 524 は鉢で、522 は八角形で、外面に風景・櫛歯文、内面に雷文・ススキの丸文・松などを配し、底部は蛇ノ目凹型高台である。523 は内面の口縁直下に蓋を受ける段をめぐらし、文様は外面が鶏の窓絵、内面が七宝文である。524 は外面に草花文、内面に植物を描き、底部は蛇ノ目凹型高台である。525 ～ 532 は蓋である。525 は外面に梅花・氷裂文、内面に雷文、見込に松竹梅円形を配する。526 は外面にねじり花を描き、焼き継ぎがある。527 は外面にススキの丸文を描き、486 の碗とセットになるものかもしれない。528 は瑠璃釉で、外面に分銅状の丸文があり、口縁に赤色顔料の付着がみられる。529 は合子の蓋状の器形で、外面に花文がある。530 は急須の蓋かと考えられ、外面に「○楽年製」の文字と銘がある。531・532 は段重の蓋で、531 は外面には蛸唐草文・花文があり、532 は蝶・牡丹を配する。533 は白磁で、合子の身と考えられる。534・535 は段重で、534 は外面に花文・鋸歯文・雷文を描き、535 は丸文（人物・乗馬武士）と花を配する。536 は碗かと考えられ、外面に草花文、見込に十字花を描く。537 ～ 539 は仏飯器で、537・538 は外面に蛸唐草文を描くが、539 は緑釉の無文である。540 は蓮華である。541 は器種不明の瑠璃釉で、外面に梅樹 (白土・茶色の釉) を描き、底部に 3 カ所の脚が付く。542 は青磁の火入れ、543 は染付の瓶かと考えられる。544 ～ 546 は小型の瓶で外面に草花文等を描く。547 は体部の張りが下位にある瓶である。548 は筒状の形態で器壁が薄く、外面に鷹・なすびを描き、吹墨がある。549 はやや大型の筒状で、底部に脚が付く。550 は体部が球形の瓶である。551 ～ 610 は陶器である。551 ～ 553 は碗で、551 は灰白色・薄緑色で外面に草花文を描く。553 は陶胎染付で、見込にコンニャク印判の五弁花を配す。554 ～ 556 は小杯で、554 は灰釉、555 は白色釉と透明釉、556 は灰釉と緑釉を施す。557・558 は猪口で、557 は外面に文字・櫛歯文、内面に竹などを細かく描く。558 は外面が虫喰釉状を呈し、高台に切込がある。559 ～ 561 は皿で、559 は色絵で内面に朱・黄緑色で竹を描く。560 は見込に花・唐草を白土の象嵌で描く、18 Ｃ後半以降の肥後・八代窯産かと考えられる。561 も皿で、鉄釉で見込に「壽」の文字を書く。関西系か。562 は鉢で、見込は蛇ノ目釉剥ぎである。563 は器形が桃形の皿で、全面に黒色釉を施し、側面に双葉の貼付があり、外面に二重丸に「楽」の印判があることから、楽焼であろう。564 は緑釉を用いた角皿で、型押で内面に花唐草文、見込に獅子を配する。底

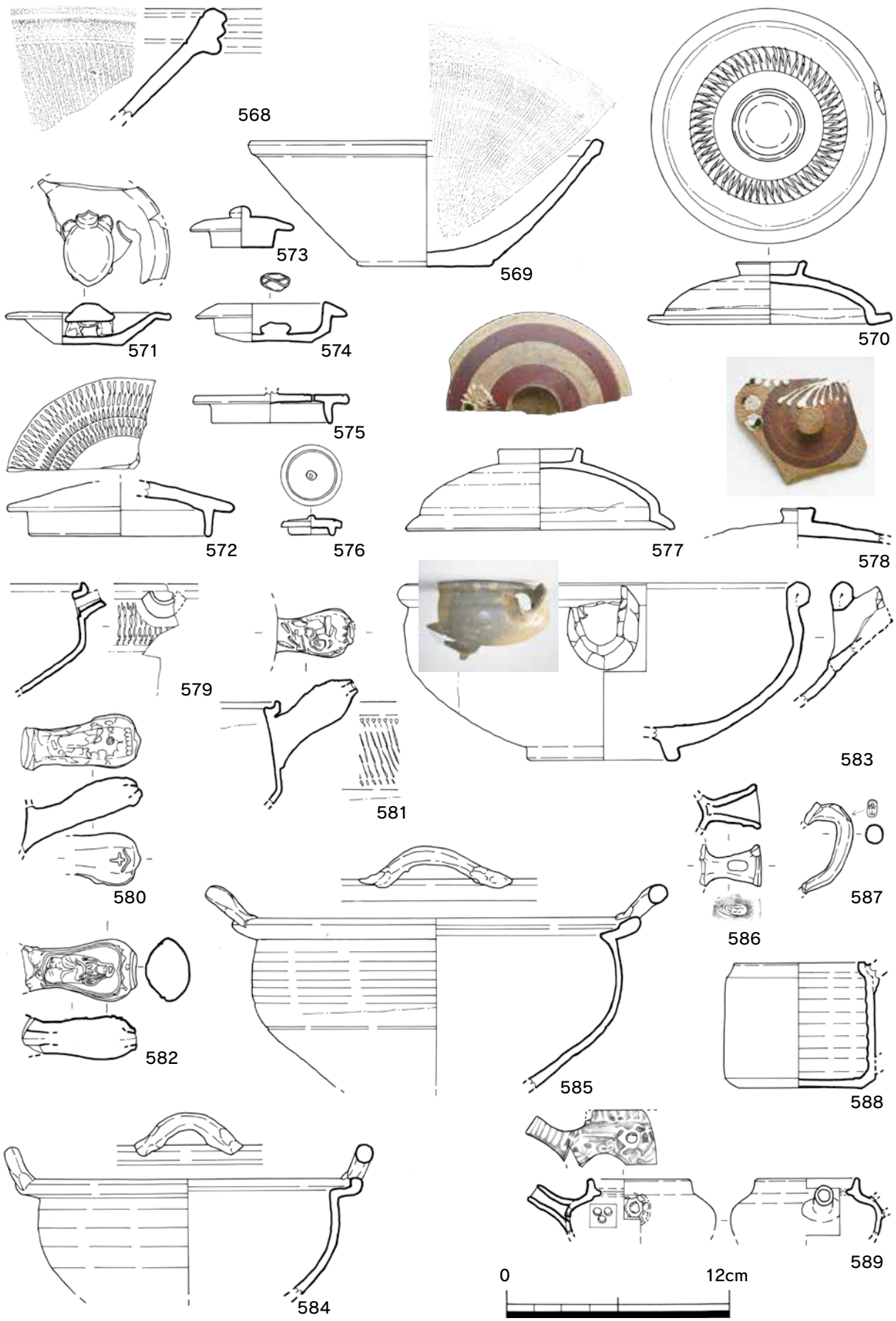
第34図　24号土坑出土遺物実測図1（縮尺1/3）



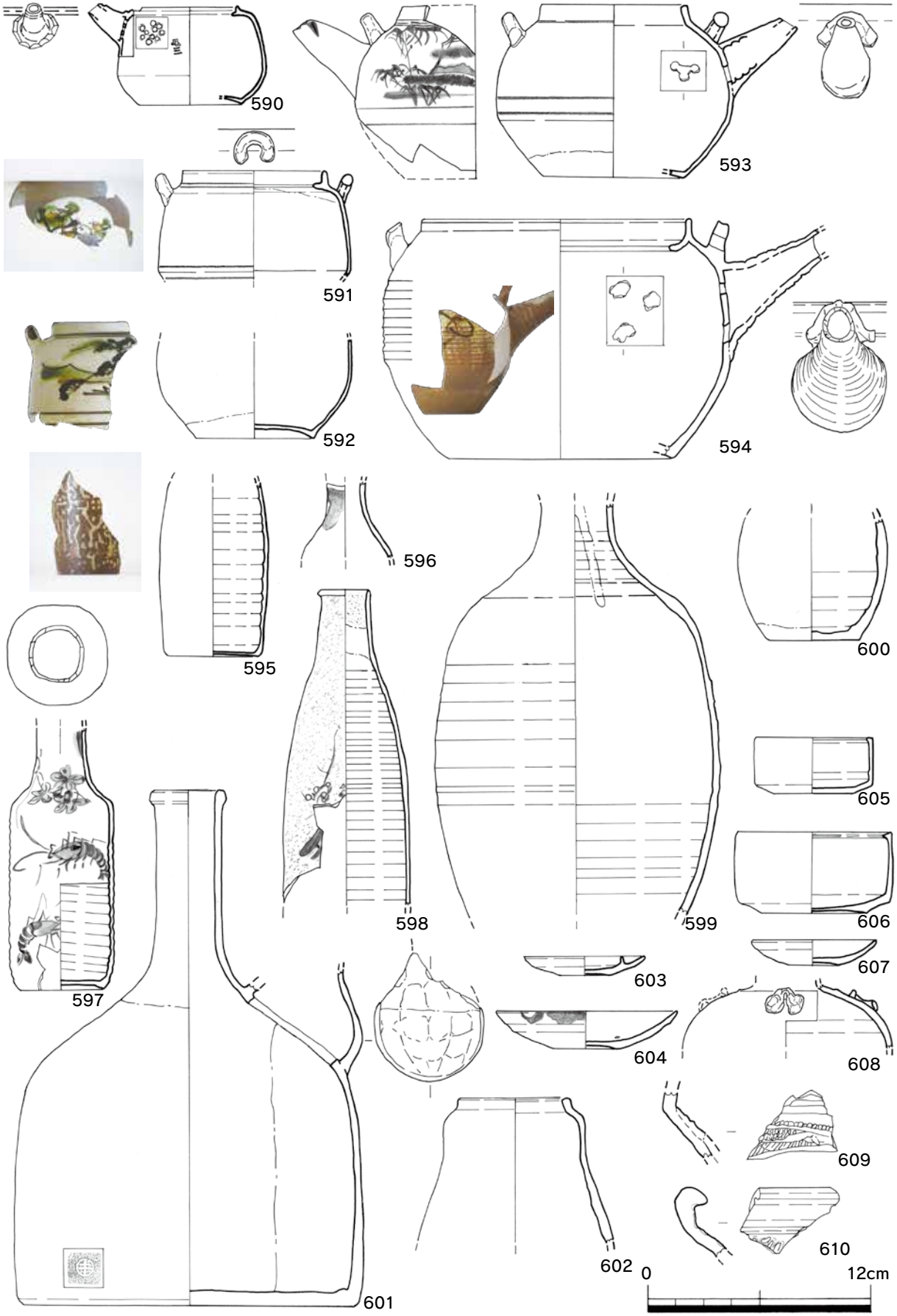
第35図　24号土坑出土遺物実測図2（縮尺1/3）



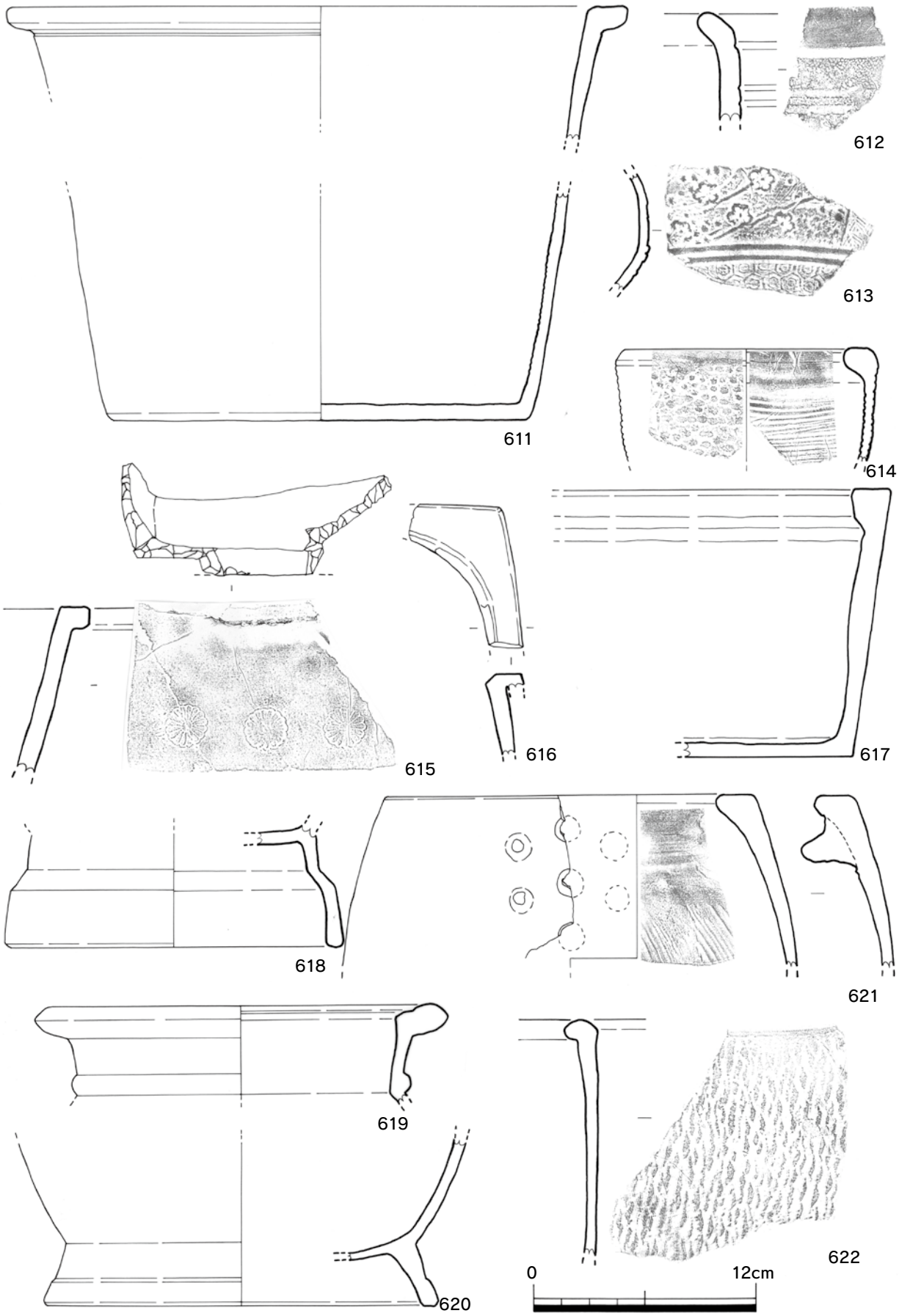
第36図　24号土坑出土遺物実測図3（縮尺1/3）



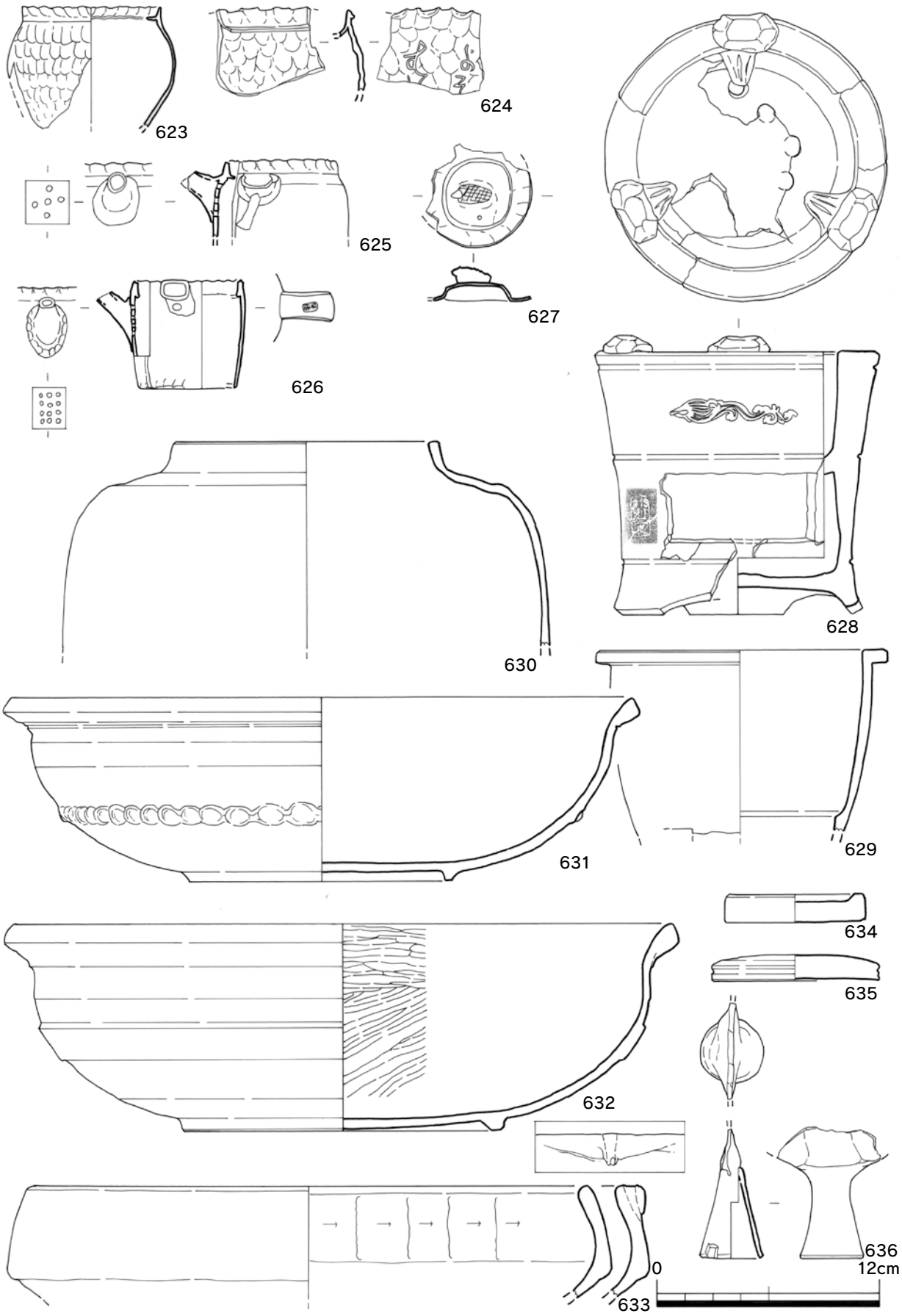
第37図　24号土坑出土遺物実測図4（縮尺1/3）



第38図　24号土坑出土遺物実測図5（縮尺1/3）



第39図　24号土坑出土遺物実測図6（縮尺1/3）



第40図　24号土坑出土遺物実測図7（縮尺1/3）

部の四隅には巻貝を模した脚が付く。565 も皿かと考えられるが、器高がやや高く、見込に目跡が残る。566・567 は鉢である。566 は八角形で、見込の３ヶ所に目跡がある。567 は体部が直立する器形である。568・569 は擂鉢で、ともに鉄釉を施し、568 は堺産かと考えられる。570 ～ 578 は蓋である。570 は外面に鉄釉と飛び鉋を施す関西系で、18 世紀後半のものである。571 はつまみに亀形を付ける。573 はワラ灰釉を使用する。576 は小型で、茶壺等の蓋か。577・578 は飛び鉋以外に、白土・緑釉を用い外面に花文等を描く。579 ～ 582 は行平である。579・581 は外面上半に飛び鉋を施す。580・582 は取手の破片である。583 は片口、584・585 は鍋である。鍋には鉄釉が施されている。586 ～ 590 は急須で、587 の取手には「松山」の刻印がある。588 の器形は円筒形である。589 は緑釉を用いて外面に草花文を描く。590 は外面に「虫？」の刻印がある。591 ～ 594 は土瓶である。591・592 は鉄釉・白土・青緑釉などを用いて外面に風景などを描く、関西系である。593 は外面に竹、594 は草花文を描く。595 ～ 598・600 は瓶である。595 は外面が白土の流し掛けで、18 世紀後半～ 19 世紀前半の小石原系である。596 は外面が緑釉の流し掛けである。597 は平面形が隅丸方形で器壁が薄く、海老・草花文を配する。598 は梅樹を描き全体に吹墨を施す。599 は徳利で、鉄釉と灰釉を使用する。601 は燗瓶で、鉄釉・灰釉・透明釉を施し、底面に「㊥」の刻印を押す。602 は器種不明であるが、茶壺の可能性がある。603 は灯明受け皿、604 は灯明皿である。605・606 は火入れで、小型のものである。607 もススが付着することから灯明皿として使用されていたようだ。608 は四耳壷で灰釉を施す。609・610 は壷かと考えられ、609 は凸帯に櫛歯の刺突文があり、緑色と鈍い朱色の釉を施す。610 は緑釉を施す。611 ～ 622 は瓦器または瓦質土器である。611 は鉢で、広い平底に、体部が直線的に外上方に立ち上がり、口縁が水平に短く外反する器形である。612 ～ 614・616・617 は火鉢である。613 の体部には松竹梅・亀甲文の型押文様がある。615 は板作りの器種不明品で、外面に菊花の印判を押す。617 は平面形が方形の製品である。618 は火鉢や壺状の器の脚部である。619・620 は壷かと考えられる。621 は焜炉で、在地の製品であろう。622 は器種不明で、外面に回転印文を施す。623 ～ 636 は土師質土器である。623 ～ 626 は急須で、関西系のものである。624 の外面にはひら仮名がヘラ書きされている。625・626 は板作りで、626 の取手の下面には「琴橋」の刻印がある。627 の蓋のつまみは松ぼっくりを模している。628・629 は焜炉である。628 は体部上半に龍状の押型があり、下半には「博多利三良」の刻印がある。630 は火消し壺である。631・632 はこね鉢、633 は焙烙である。631 の外面には波状の突帯、632 は低平な突帯をめぐらす。633 は 18 世紀前半頃の関西系と考えられる。634・635 は蓋かと考えられ、634 は焼塩壺のものか。636 は器種不明で、取手の部品か。637 ～ 640 は土師器の皿である。641 は硯、642 は陶製品の人物と犬の人形である。

25 号土坑（第 41 図）

25 号土坑は 24 号土坑の北西に隣接し、26 号土坑を切るが、西側の大半が調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.4 mである。遺構の平面形は不明であるが、大きさは検出した範囲で 3.50 m をはかる。壁面は大きく開くものと考えられ、深さは 0.10 mまでしか掘削していない。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗・鉢・擂鉢・秉燭、磁器の碗・小坏、土師質土器のこね鉢・甕、土師器の皿など中量の土器類の他、砥石が出土している（第 42 図）。643 ～ 645 は磁器の碗である。643 は内外面に網目文、見込に花文を描き、底面に渦福の銘がある。1700 ～ 1750 年代の肥前の製品である。644 はくらわんか手で、外面に折枝文・雪輪草花文を描く。645 は色絵で、外面に草花文・鳥を描く。646 は陶器の碗である。647 は陶器の鉢で、底部は蛇ノ目高台である。648 は土師質土器の甕である。649 は陶

器の擂鉢、650 は陶器の秉燭である。651 は土師質土器のこね鉢で、外面に波状の突帯をめぐらす。652 は土師器の皿である。653 は鉄製の鎹である。

26 号土坑（第 41 図）

26 号土坑は 25 号土坑に切られて北東側に位置し、西側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.4 mである。遺構の平面形はやや不整形な方形に近いものと推定され、大きさは検出した部分で長さ 1.64 mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.30 mまで掘削したが床面に達していない。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗・皿・湯飲み・徳利・茶壺・甕、磁器の碗・蓋・紅皿、瓦質土器の火鉢、土師質土器の焙烙、土師器の皿などの多量の土器類とともに、砥石･銅銭などが出土している（第 42 図･第 43 図）。654 ～ 657 は磁器の碗である。文様は 654 が外面に風景（山水）と折れ松葉、655 が内外面に輪宝繋文、見込に五弁花、656 が外面に龍と雲、657 は見込に昆虫を描く。658 は磁器の蓋で、外面の文様は丸文散らしである。659 は白磁の紅皿である。660 ～ 662 は陶器の碗である。660 は筒形の器形で、陶胎染付で外面に丸文を描く。661 は内外面とも流し掛けで、上野･高取系である。663 は陶器の皿で、見込と高台端部に砂目跡がある。664 は陶器の甕で、鉄釉とワラ灰釉を施す。665 は陶器の瓶の底部で、外面に墨書がある。666 は陶器の器種不明品で、胎土が黒色で、外面の下端に三角形の中に短剣状のものを配した文様をめぐらしている。667 は陶器の茶壺である。668 は瓦質土器の火鉢で、外面に馬と「河濱亭」の刻印がある。669 は土師器の皿で、670 は土師質土器の焙烙である。671 は砥石で、石材は天草石である。672 は寛永通寶である。

27 号土坑（第 41 図）

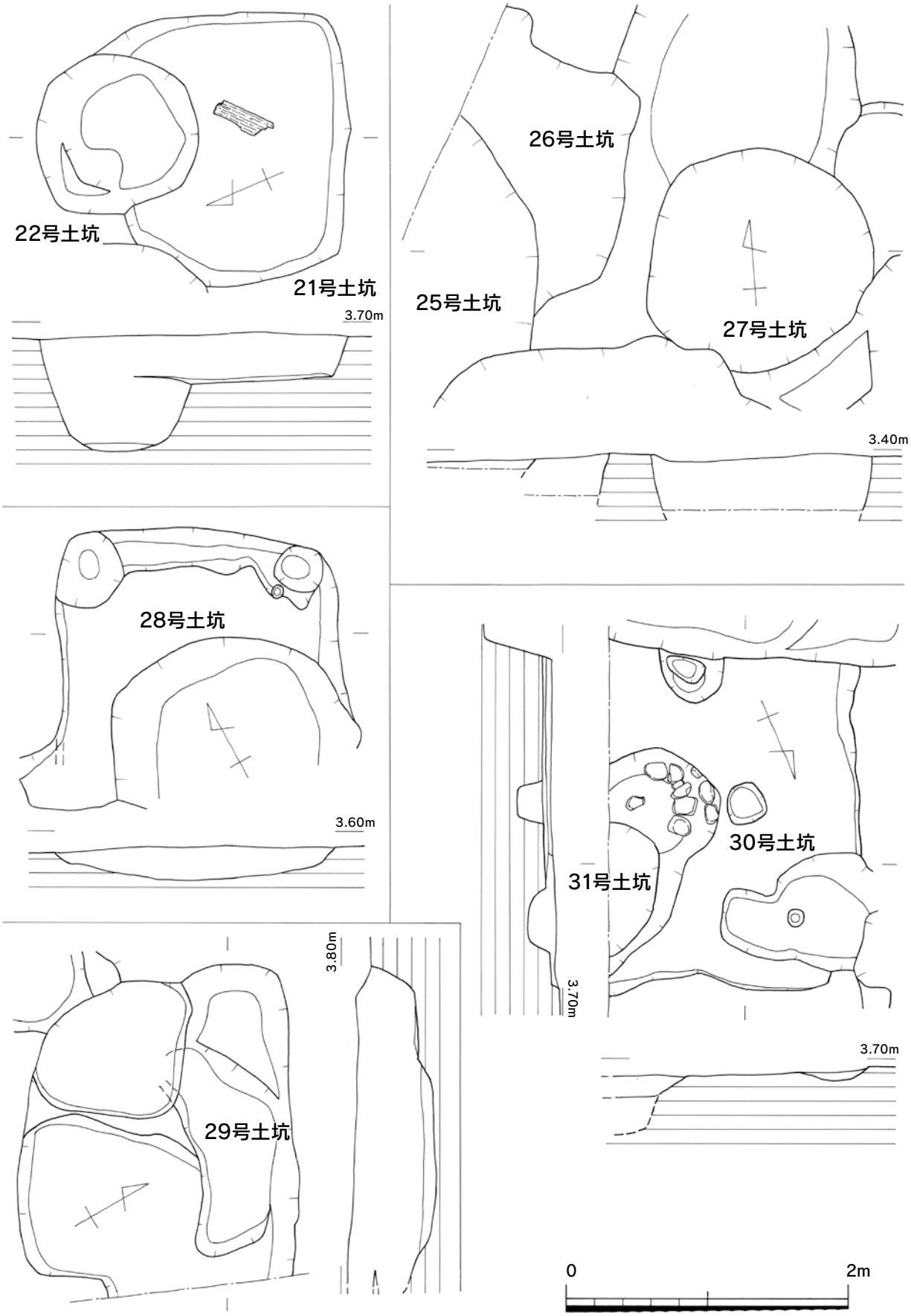
27 号土坑は 26 号土坑の東側に隣接し、遺構検出面の標高は約 3.4 mである。遺構の平面形はほぼ円形で、大きさは検出面で長径 1.60 m･短径 1.58 mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.44 mまで掘削したが床面には達していない。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・擂鉢・灯明受け皿、磁器の碗・小坏・皿・蓋・油壺、土師器の皿などの多量の土器類とともに、漆器・軒桟瓦・砥石・銅銭などが出土している（第 43 図）。673 ～ 681 は磁器である。673・674 は碗で、外面に 673 は風景（山水）と折れ松葉、674 は花と虫を描く。675 は小杯で、外面に草文と、濃み地白抜き文の唐草文を施す。676 は白磁の小杯である。677 は皿で、外面に唐草文、見込に五弁花を配し、底部は蛇ノ目凹型高台である。1730 ～ 1780 年代の肥前の製品である。678・679 は蓋で、文様は 678 では外面に草花文、内面に四方襷文、見込に丸文を配する。679 は外面に菊花文を描く。680 は色絵の油壺であろう。681 は器種不明品の取手部と考えられ、ワラ灰釉を施す。682 ～ 686 は陶器である。682・683 は無文の碗である。684 は器種不明の小片で、唐草文の型打に緑釉を施す。685 は灯明受け皿、686 は擂鉢である。687 ～ 691 は土師器の皿である。692 は砥石で、石材は天草石であろう。693 は「寛永通寶」の文銭である。694 は軒桟瓦で、丸瓦部分は左三ッ巴である。

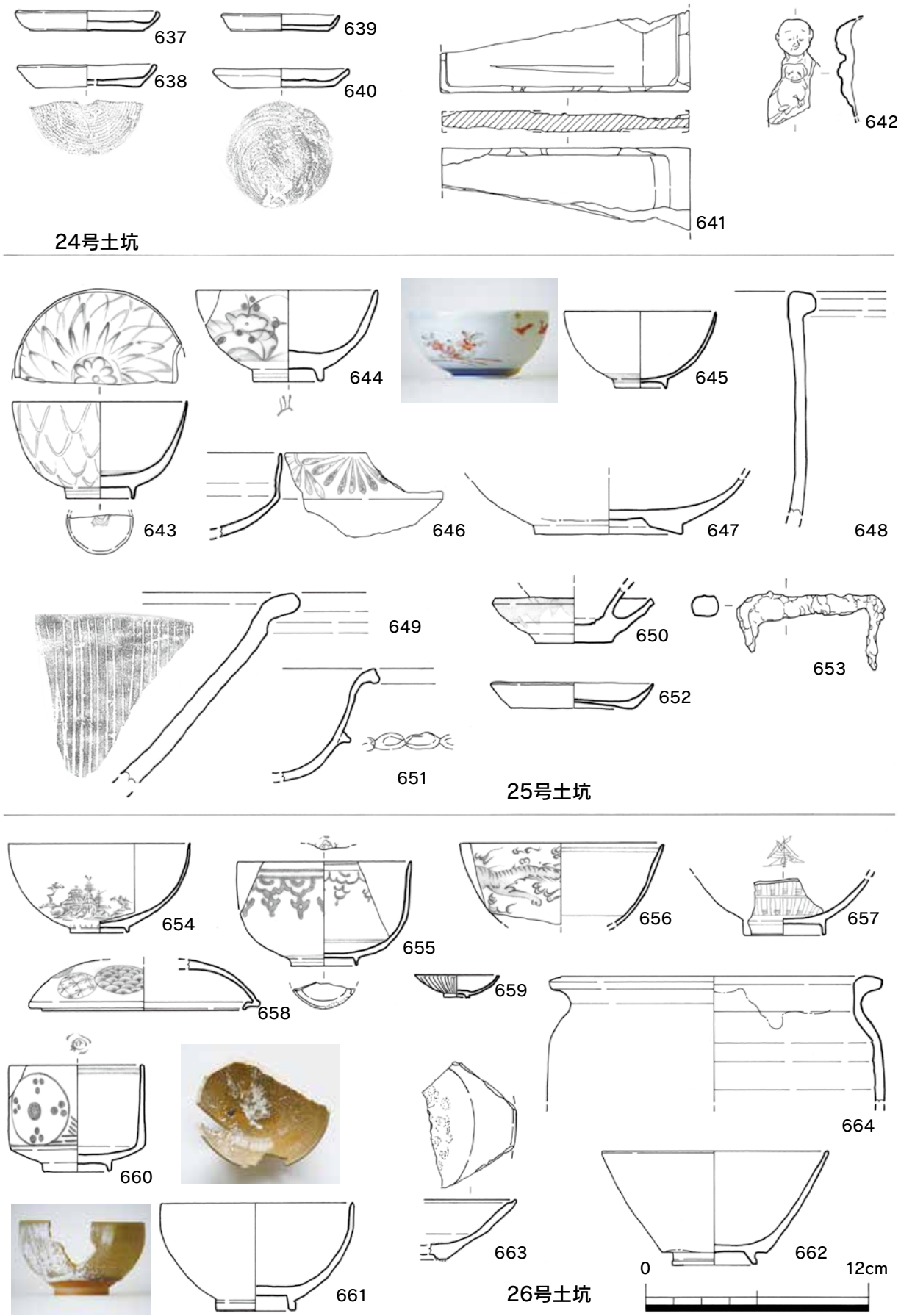
28 号土坑（第 41 図）

28 号土坑は 26 号土坑の北東に隣接し、南側は他の土坑に切られている。遺構検出面の標高は約 3.5 mである。遺構の平面形は方形で、大きさは検出面で 2.10 mである。壁面は大きく開きながら立ち上がり、深さは 0.23 mと浅い。床面は皿状にやや窪み、北側と東側の隅には径 35㎝～ 45㎝の円形ピットがあり、両者をつなぐ北東辺の壁際では幅 25㎝前後の溝状遺構が検出された。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

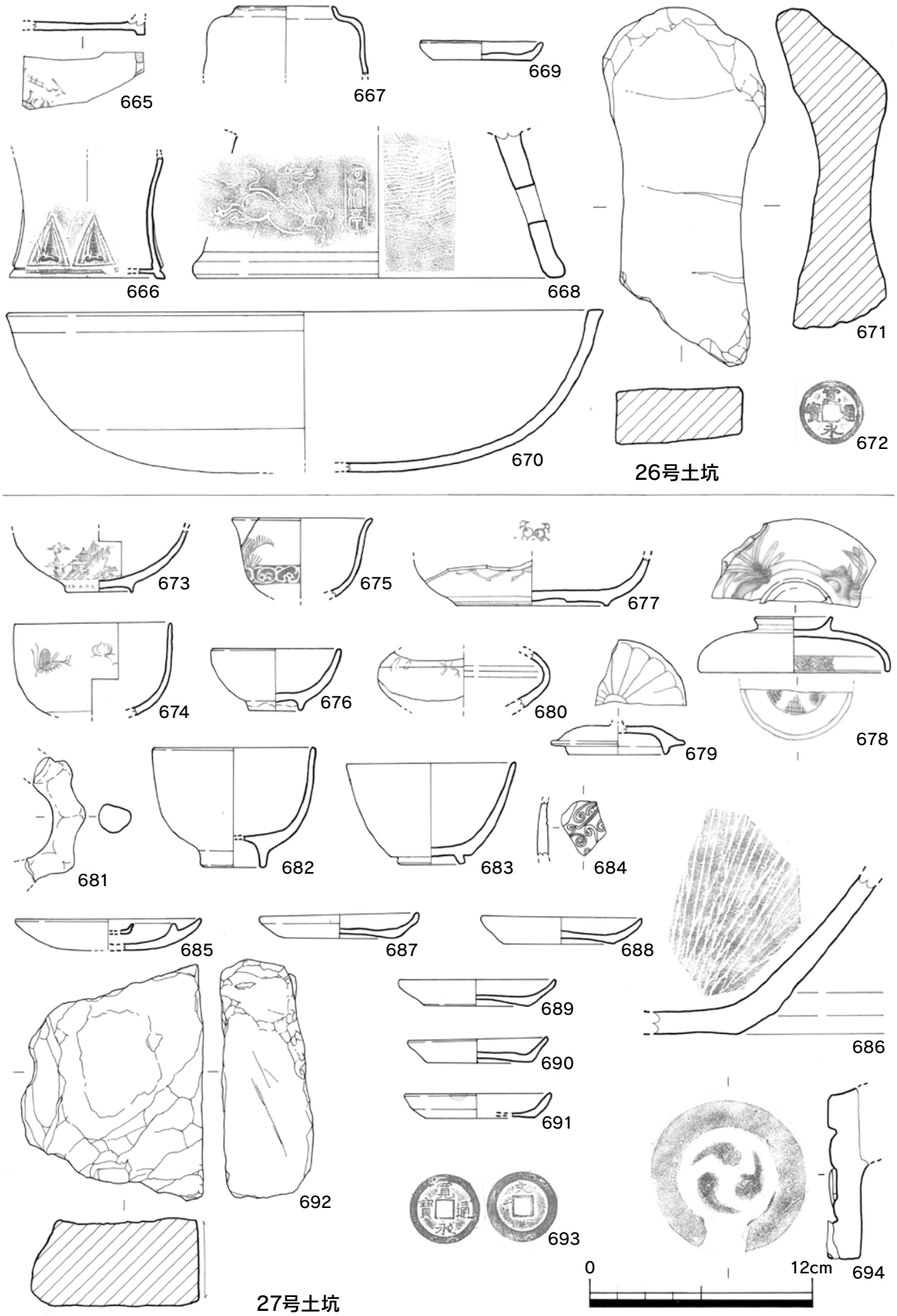
遺物は陶器の碗･鉢･火入れ･甕、磁器の碗･小坏･皿･蓋、瓦質土器、土師質土器のこね鉢･焙烙･壷･甕、土師器の皿などの中量の土器類とともに、丸瓦が出土している（第 44 図）。695・696 は磁器の碗で、



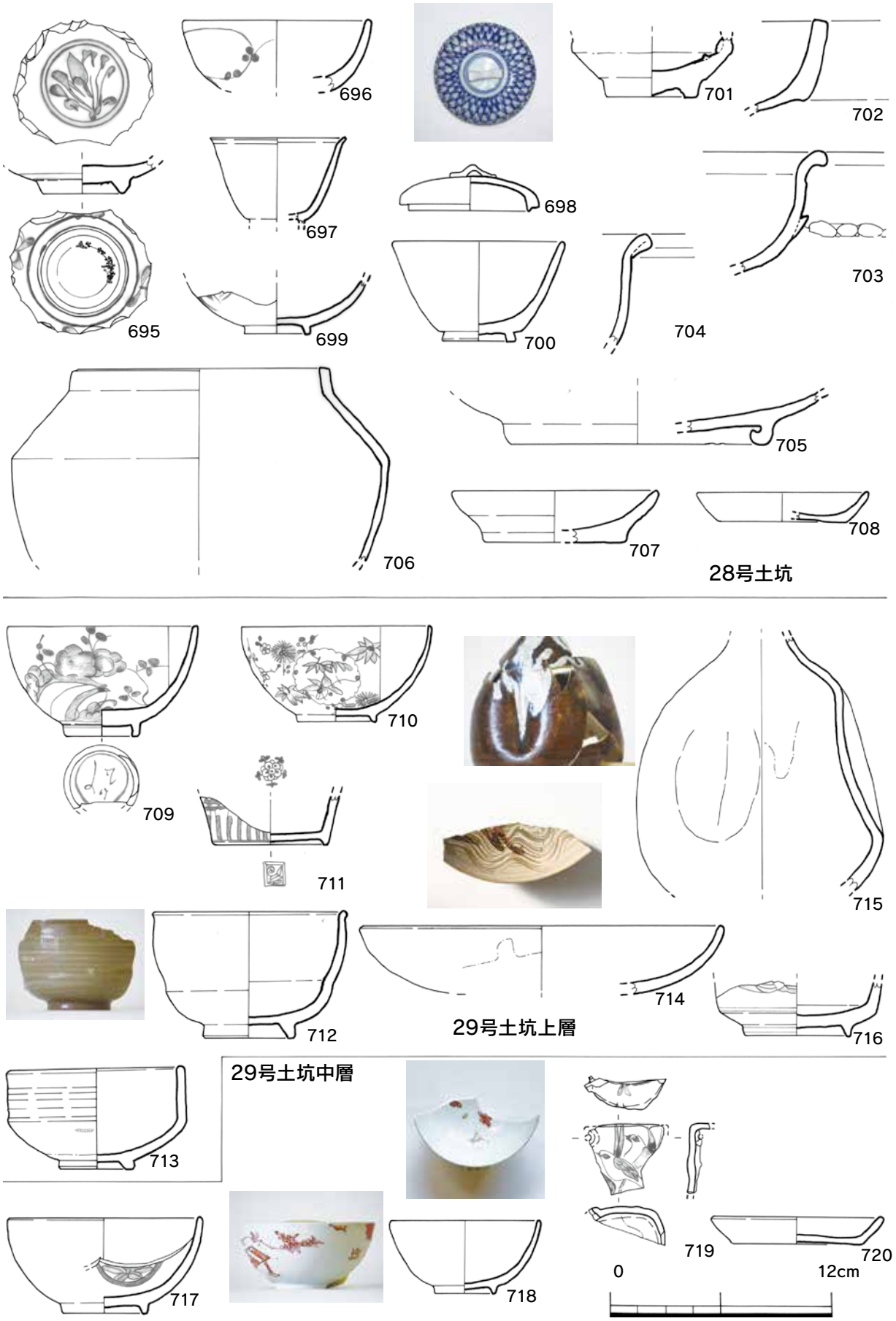
第41図　土坑実測図4（縮尺1/40）



第42図　24号・25号・26号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第43図　26号・27号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし672・693は1/2）



第44図　28号土坑・29号土坑上層・29号土坑中層出土遺物実測図（縮尺1/3）

695 は見込に草文を描き、底面に砂目跡が残る。696 は外面に梅樹を描く、くらわんか手か。697 は白磁の小杯である。698 は磁器の蓋で、外面に網目文がある。699・700 は陶器の碗で、699 は外面に草花文を描く色絵である。701 は陶器の器種不明品である。702 は土師質土器の焙烙、703 ～ 705 はこね鉢、706 は壷である。703 の外面には波状の突帯をめぐらす。707・708 は土師器の皿である。

29 号土坑（第 41 図）

29 号土坑は調査区中央部の東側壁面近くに位置し、30 号土坑を切り、２号建物跡のＰ６・Ｐ７に切られる。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は基本的に隅丸方形を呈し、大きさは検出面で長さ 2.25 m・幅 1.97 mである。壁面は 70°程度の角度で立ち上がり、深さは最深部で 0.45 mである。床面は東部の一部が一段低くなっている。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・皿・鉢・擂鉢・片口・徳利、磁器の碗・小坏・皿・紅皿・蓋・猪口・水滴、土師質土器の片口・焙烙・甕、土師器の皿などの多量の土器類とともに、砥石・煙管が出土している（第 44 図・第 45 図）。709 ～ 716 は上層出土品である。709・710 は磁器の碗で、文様は 709 では外面に梅・草花文、710 は外面に雪輪文・松竹梅？を施す。711 は磁器の猪口で、見込に五弁花、底面に渦福を描く。712・713 は陶器の碗で、712 は内外面に刷毛目を施す。713 は見込に目跡がある。714 は陶器の皿で、内面に白土と鉄釉で波状文の刷毛目をめぐらす。715 は陶器の徳利で、体部を一部へこませ、鉄釉にワラ灰釉を流し掛けする。18 世紀前半代の高取系か。716 は磁器の器種不明品である。

717 ～ 724 は中層出土品である。717 は磁器の碗で、外面に丸文を描く。718 は磁器の色絵の小杯で、外面に花見風景？（鳥･梅樹･縁台？）、内面に花文を配する。肥前の 1710 ～ 1740 年代の製品か。719 は磁器の水滴で、外面に型押と染付で鳥・木を描く。720 は土師器の皿である。721 は陶器の大型の擂鉢で、高台下半には漆喰状の付着物がある。722 は土師質土器の焙烙である。723 は土師質土器の大甕で、口径約 44.0㎝をはかり、内面には青海波タタキのちナデの調整痕がある。724 は煙管である。

725 ～ 730 は下層出土品である。725 は磁器の皿で、内外面に草花文を描く。726 は磁器の蓋で、外面に草花文・網目文を施し、1710 ～ 1740 年代の肥前の製品である。727 は白磁の紅皿である。728 は陶器の片口で、刷毛目によって外面に波状文、内面に渦文をめぐらす。729 は陶器の鉢で、内面に刷毛目の波状文をめぐらし、見込に目跡がある。18 世紀前半代の唐津の製品である。730 は土師質土器の片口で、高村産である。

30 号土坑（第 41 図）

30 号土坑は 29 号・31 号土坑に切られ、東側が調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は方形かと考えられ、大きさは検出長 2.32 mである。深さは最深部でも 0.06 mとごく浅く、床面は水平な平坦面をなす。遺構の用途は不明である。

遺物は磁器の皿、土師器の皿が少量出土している（第 46 図）。731 は磁器の皿で、見込に鳥と雲を描く。732 は土師器の皿である。

31 号土坑（第 41 図）

31 号土坑は 30 号土坑を切り、２号建物跡のＰ８と切り合い、東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は不明である。大きさは検出長 0.98 mである。深さは調査範囲内の最深部で 0.45 mである。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の皿、磁器の湯飲み･皿･蓋、土師質土器の焙烙、土師器の皿などが少量出土している（第 46 図）。737 は磁器の湯飲みで、型紙摺りにより外面に菊花文・櫛歯文、内面に輪宝繋文を施文する。

19 世紀後半の肥前製か。738 は土師質土器の焙烙で、関西系である。

32 号土坑（第 47 図）

32 号土坑は 24 号土坑の東側に隣接し、上面を 33 号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は隅丸長方形で、大きさは 33 号土坑の床面で長さ 1.82 m･幅 1.25 mである。壁面は 60°程度の角度で開きながら立ち上がり、床面の深さは検出面から 1.13 mと深い。床面は中央部付近が不整形に深さ 0.10 m程度窪む。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN－74°－Wである。

遺物は陶器の碗・鉢・擂鉢・火入れなどの土器類と木製品・獣骨が中量出土している（第 46 図）。733 は陶器の碗で、鉄釉を施す。734 は陶器の火入れ、735 は陶器の鉢で、ともに釉薬は灰釉か。736 は陶器の擂鉢で、鉄釉を施し、1600 ～ 1650 年代の肥前製である。獣骨は牛馬等の歯である。

33 号土坑（第 47 図）

33 号土坑は 27 号土坑の東側に隣接し、32 号・53 号土坑を切る。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は隅丸長方形で、大きさは検出面で残存長 3.85 m・幅 3.34 mとやや大型である。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.73 mである。床面はほぼ水平な平坦面を呈する。遺構の用途は不明であるが、出土遺物がごく少ないことから廃棄土坑ではないと考えられる。

遺物は磁器の小坏、土師器の皿などが少量出土している（第 46 図）。739 は白磁の小杯である。740 は土師器の坏で、底部に板目が残る。

34 号土坑（第 47 図）

34 号土坑は 33 号土坑の東側に位置し、36 号土坑と切り合い、東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は東西方向に長い溝状を呈し、大きさは検出長 2.24 m･幅 1.30 mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.61 mである。床面は水平に近い。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。主軸の方位はN－76°－Wである。

遺物は陶器の灯明受け皿、磁器の碗・皿・猪口・双耳瓶、土師質土器の焙烙・甕、土師器の皿、土製人形などが中量出土している（第 46 図）。741 ～ 743 は磁器の碗である。741・743 は染付で、文様は 741 が外面に花唐草文、743 が外面に丸文を描く。742 は青磁で、見込にヘラ彫りがあり、龍泉窯系である。744 は磁器の猪口である。745 は青磁の双耳瓶で、耳部は半環状を連ねる。746 は磁器の皿で、外面に唐草文、内面に菊花文、見込に五弁花を配し、底面には「大明年製」と想定される銘がある。747 は陶器の灯明受け皿、748 は土師質土器の甕である。749 ～ 751 は土師器の皿である。752 は土人形の大黒天である。

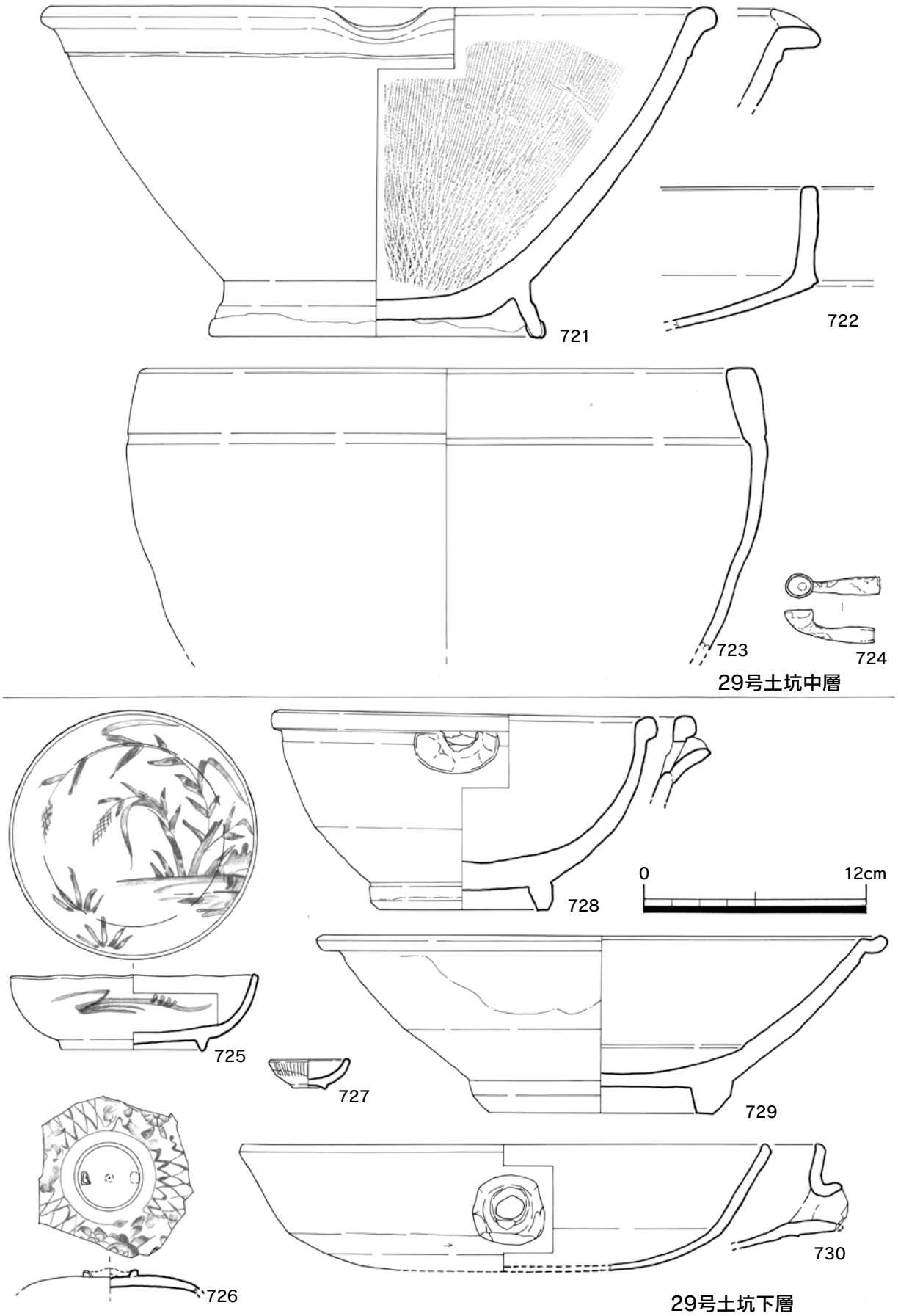
35 号土坑（第 47 図）

35 号土坑は 34 号土坑の北側に隣接し、3 号不整形土坑と切り合い、東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形はやや不整形で、大きさは検出した部分で長さ 1.63 m・幅 0.90 mである。深さは 0.46 mまで掘削したが床面に達していない。遺構の用途は廃棄土坑である。

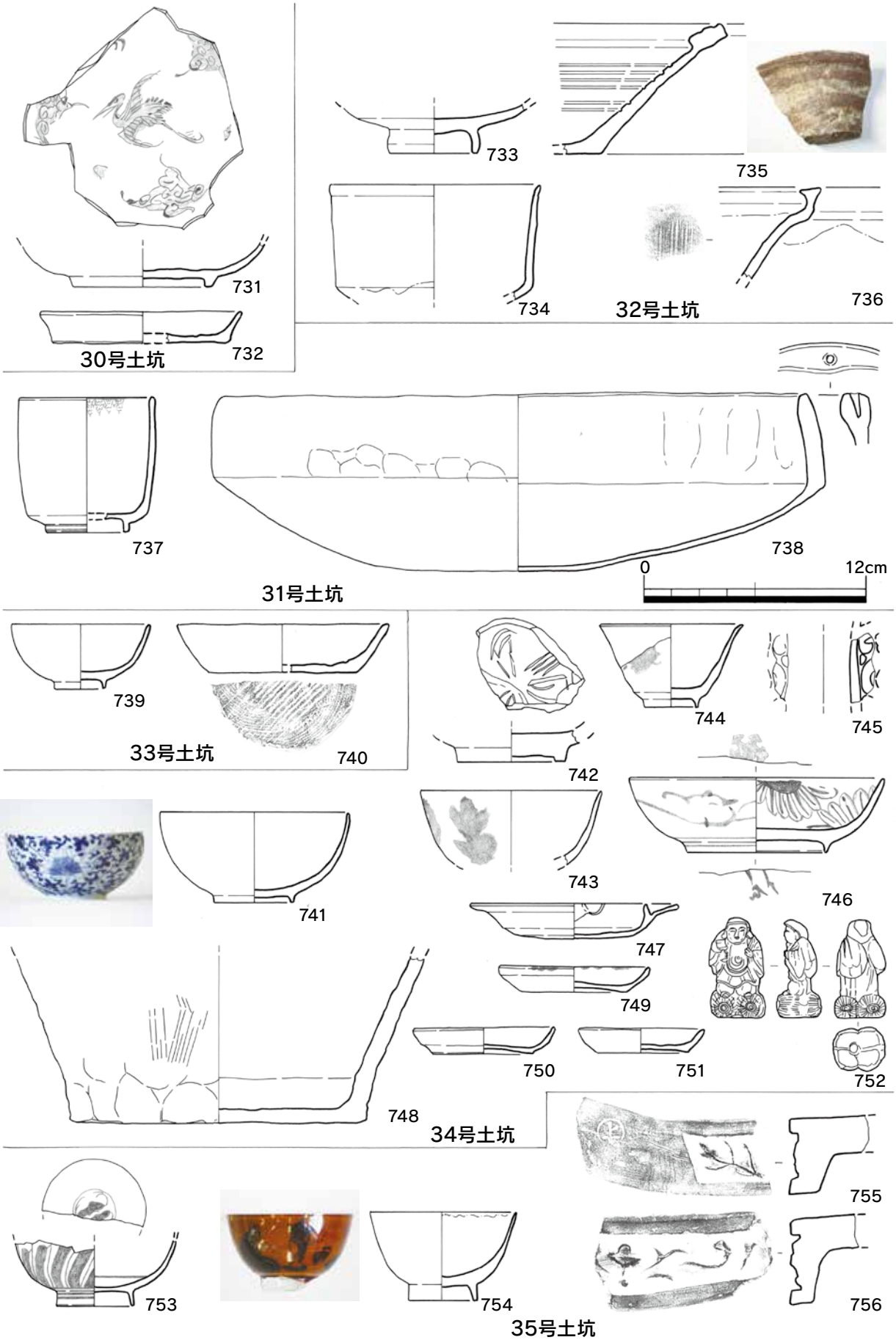
遺物は磁器の碗・小坏、土師質土器とともに軒平瓦等の瓦類が多量に出土している（第 46 図）。753 は磁器の碗で、見込の絵柄はコウモリか。754 は磁器の飴釉の小杯で、外面に喫茶する人物他と「〇〇風雅」の文字が書かれている。755・756 は軒平瓦で、755 が柏葉文、756 が橘文である。

36 号土坑（第 47 図）

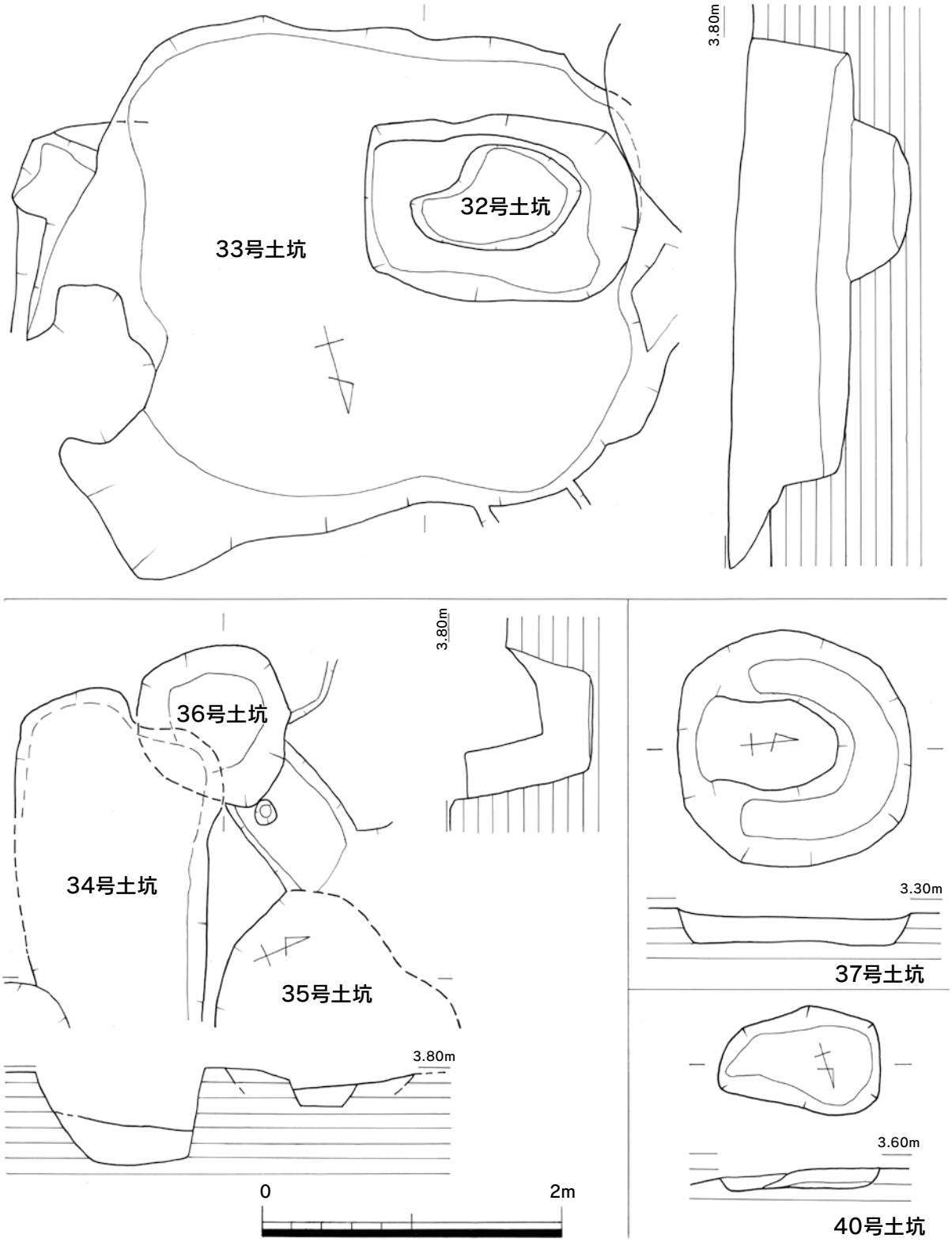
36 号土坑は 35 号土坑の西側に位置し、53 号土坑を切り、34 号土坑と切り合う。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構の平面形は円形に近く、大きさは検出面で長径 1.13 m･短径 1.03 mである。壁面は垂直に近く、深さは 0.85 mとやや深い。床面は水平である。遺構の用途は廃棄土坑かと考えら



第45図　29号土坑中層・29号土坑下層出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし723は1/4）



第46図　30号・31号・32号・33号・34号・35号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第47図　土坑実測図5（縮尺1/40）

れる。

遺物は陶器の皿、磁器の碗・湯飲み・油壺、土師質土器の焙烙、土師器の皿など中量の土器類と漆器が出土している（第 48 図）。757 は磁器の碗、758 は磁器の湯飲みである。759 は磁器の油壺で、鉄釉と青磁を併用している。760 は陶器の皿で、内面に刷毛目を施す。761 は土師質土器の焙烙、762・763 は土師器の皿である。

37 号土坑（第 47 図）

37 号土坑は調査区のやや北部に位置し、遺構検出面の標高は約 3.3 mである。当遺構周辺から北側は広範囲にわたって削平による撹乱を受けている。遺構の平面形はほぼ円形で、大きさは検出面で長径 1.57 m･短径 1.55 mである。壁面は 70°程度の角度で立ち上がり､深さは検出面から最深部で 0.35 mである。床面は中央部と南側を囲むように馬蹄形に窪んでいる。遺構の用途は不明である。

遺物は磁器の碗・猪口、土師器の皿などが中量出土している（第 48 図）。764 は磁器の碗で、外面に花文を施す。765 は磁器の猪口、766 ～ 769 は土師器の皿である。

38 号土坑（第 49 図）

38 号土坑は 37 号土坑の南側に位置し､39 号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は隅丸方形で、大きさは検出面で残存長 1.40 m・幅 1.33 mである。壁面は 50°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは 0.57 mである。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。主軸の方位はN－ 72°－Wである。

遺物は陶器の碗・皿・徳利、磁器の瓶、土師器の皿など中量の土器類と砥石・煙管が出土している（第 48 図）。770 は青磁の瓶で、高台内側に砂目跡がある。771 は陶器の碗で、鉄釉を施し、天目か。772 は陶器の皿で、1610 ～ 1650 年代の肥前の製品と考えられる。773・774 は陶器の徳利で、774 は瓢形である。775 は土師器の皿である。776 は煙管で、木質が残存する。

39 号土坑（第 49 図）

39 号土坑は 33 号土坑の北側に位置し、38 号土坑を切る。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は隅丸方形に近く、大きさは検出面で長さ 1.42 m・1.25 mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.93 mとやや深い。床面は水平な平坦面をなす。遺構の用途は不明である。

遺物は土師器の高坏や土錘・木製品が少量出土している（第 48 図）。777 は土師器の高坏で、８世紀代のものか。778 は土錘である。

40 号土坑（第 47 図）

40 号土坑は 39 号土坑の西側に位置し、遺構検出面の標高は約 3.5 mである。遺構の平面形は基本的に隅丸長方形を呈し、大きさは検出面で長さ 1.07 m・幅 0.68 mである。壁面はやや開きながら立ち上がり、深さは 0.27 mとやや浅い。床面は東側がやや低くなっている。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN－ 71°－Wである。

遺物は磁器の小坏と煙管などが少量出土している（第 48 図）。779 は磁器の小杯､780 は煙管である。

41 号土坑（第 49 図）

41 号土坑は 40 号土坑の西側に位置し、１号不整形土坑を切り、西側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.6 mである。遺構の平面形は方形に近いものと推定され、大きさは検出部分で長さ 2.02 m・幅 0.88 mである。壁面は開きながら立ち上がり、深さは 0.20 mまで掘削したが床面に達していない。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の皿・徳利、磁器の碗などが少量出土している（第 48 図）。781 は磁器の碗で、底面に銘がある。782 は白磁の碗で、口縁が玉縁を呈する。783 は陶器の皿、784 は陶器の徳利か。

42 号土坑（第 49 図）

42 号土坑は調査区北部で 41 号土坑の北西に位置し、43 号土坑と切り合う。遺構検出面の標高は約 3.5 mである。遺構の平面形は楕円形に近く、大きさは検出面で長径 1.56 m・短径 1.24 mである。壁面はやや開きながら立ち上がり、深さは検出面から 0.61 mである。床面は水平な平坦面をなすが、中央部付近で浅いピットが検出された。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗、磁器の皿、土師器の皿など中量の土器類の他、土人形・碁石・銅銭などが出土している（第 48 図）。785 は磁器の皿で、見込の文様は不明である。786 は陶器の碗で、高台内側に砂目跡がある。787 は土師器の皿、788 は動物の土人形である。789 は黒石の碁石、790 は銅銭であるが種別は不明である。

43 号土坑（第 49 図）

43 号土坑は 42 号土坑と北側で切り合い、遺構検出面の標高は約 3.5 mである。遺構の平面形はやや不整形で、大きさは検出面で長さ 2.06 m・幅 1.50 mである。壁面は 70°程度の角度でやや開きながら立ち上がり、深さは 0.56 mである。床面はほぼ水平な平坦面をなし、長さ 30㎝の円礫が検出された。遺構の用途は不明である。

遺物は土師器の皿と鉄釘が少量出土している（第 50 図）。791 は土師器の皿、792 は鉄釘である。

44 号土坑（第 49 図）

44 号土坑は 43 号土坑の北側に位置し、45 号土坑を切る。遺構検出面の標高は約 3.5 mである。遺構の平面形は楕円形に近く、大きさは検出面で長さ 1.14 m・幅 0.79 mである。深さは 0.17 mと浅く、床面は水平な平坦面をなす。床面のやや北西部で長径 0.37 mのピットが検出された。遺構の用途は不明である。

遺物は出土していない。

45 号土坑（第 49 図）

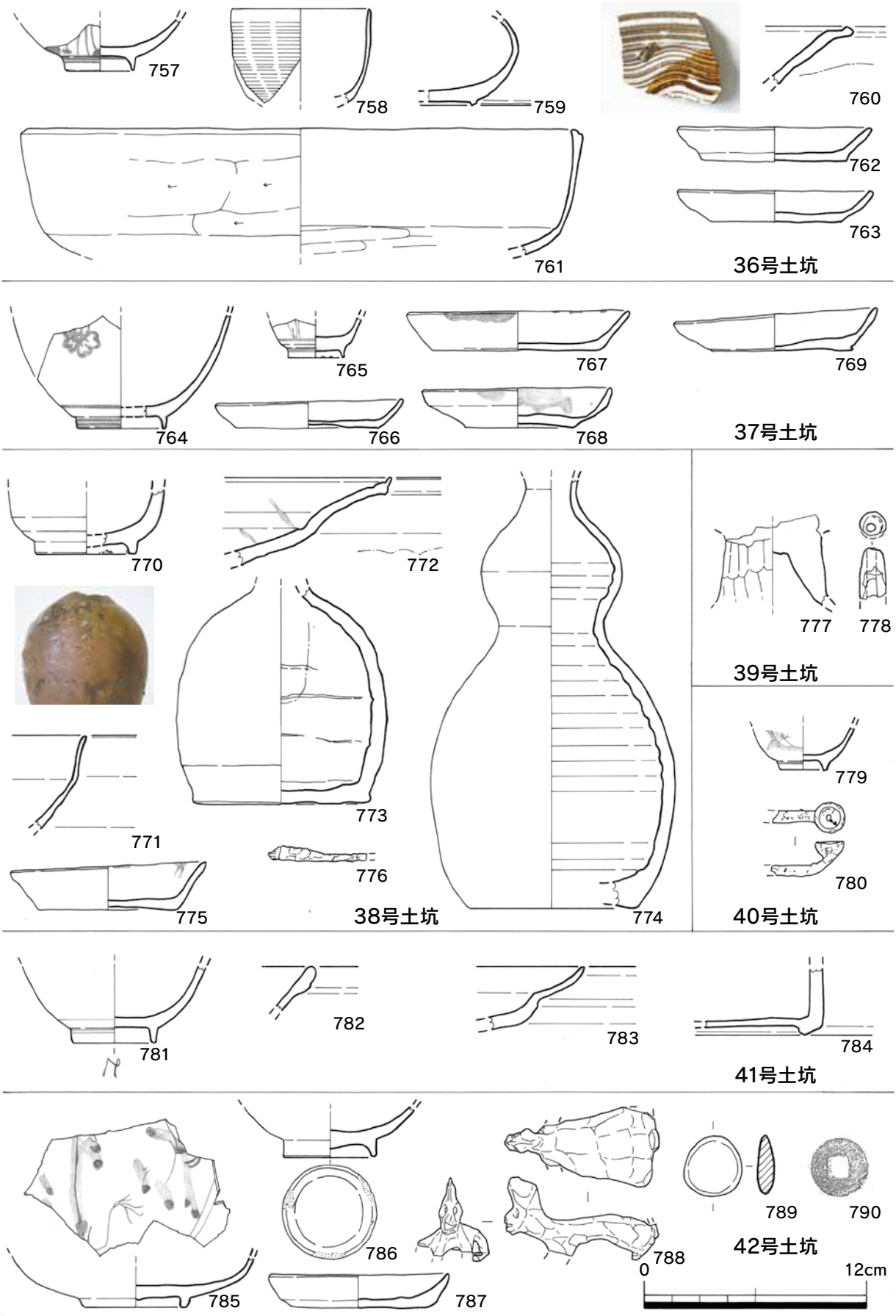
45 号土坑は西側が 44 号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約 3.5 mである。遺構の平面形は楕円形に近く、大きさは検出面で長径 1.35 m・短径 1.22 mである。壁面は 65°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは 0.33 mである。床面はやや皿状に窪む。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗･鉢･擂鉢･甕、磁器の皿･鉢･猪口･瓶、土師器の塩壺などの中量の土器類と土製円板･獣骨などが出土している（第 50 図）。793 ～ 795 は磁器の皿で、793 の内面は花弁の型打で、見込には花文を描く。1610 ～ 1630 年代の肥前の製品である。794 は型打の角皿で、内面から見込に唐草文を描く。795 は瑠璃釉で、見込は型打の雲か。796 は白磁の猪口、797 は磁器の瓶で外面に花文を施す。798 は青磁の鉢で、底面に輪状に鉄釉を施している。799・800 は陶器の碗で、799 は陶胎染付で外面に唐草文を描く。801 は陶器の鉢で、内面に刷毛目と流し掛けがみられる。802 は陶器の擂鉢、803 は陶器の甕で褐釉を施す。804 は土師器の塩壺、805 は土製品の円板で瓦質土器を転用している。

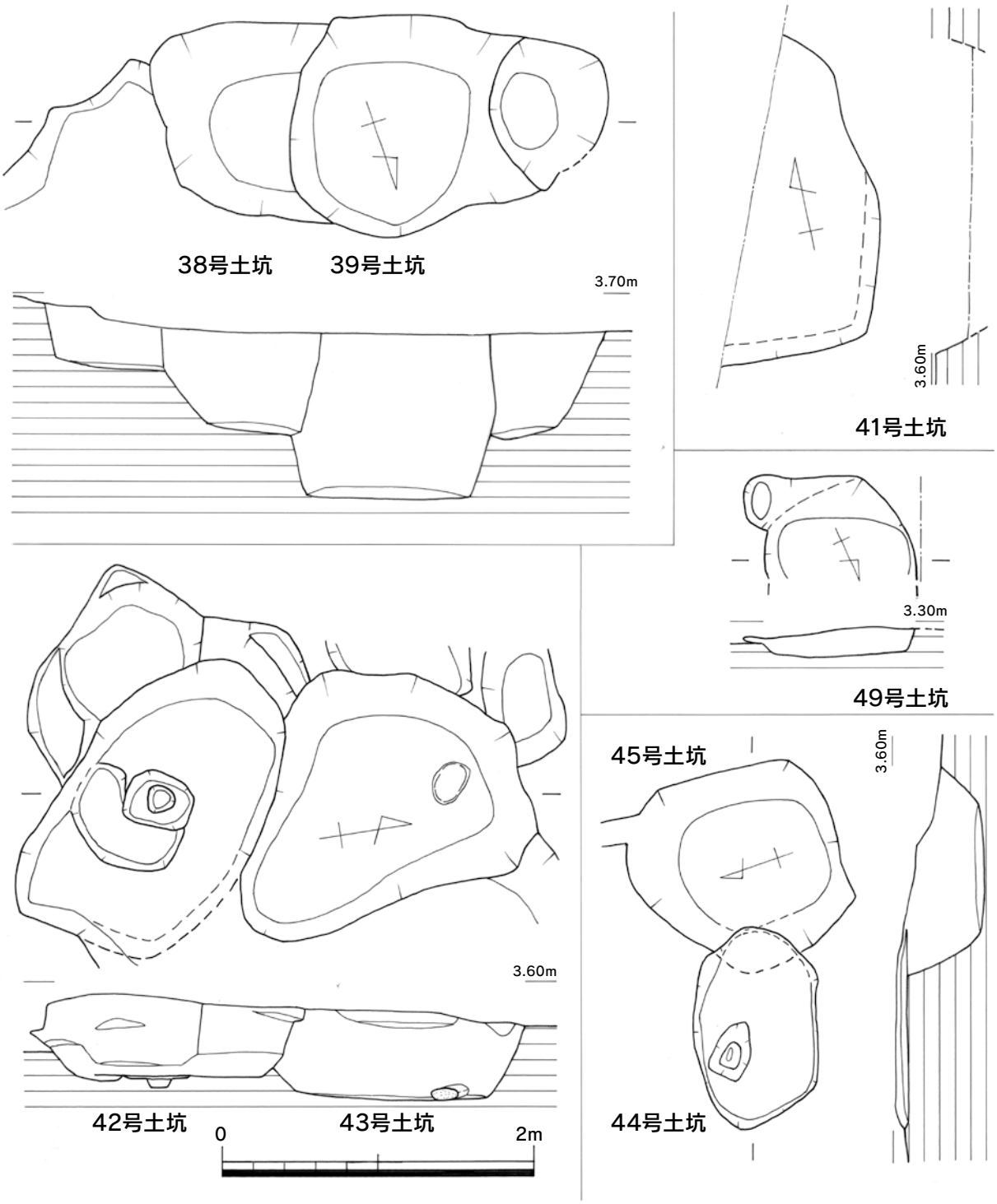
46 号土坑（第 51 図）

46 号土坑は調査区の北端部近くに位置し、1 号不整形土坑と切り合う。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形はほぼ円形で、大きさは検出面で径 0.96 mである。壁面は 65°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは 0.36 mである。床面は中央部がやや窪む。遺構の用途は不明である。

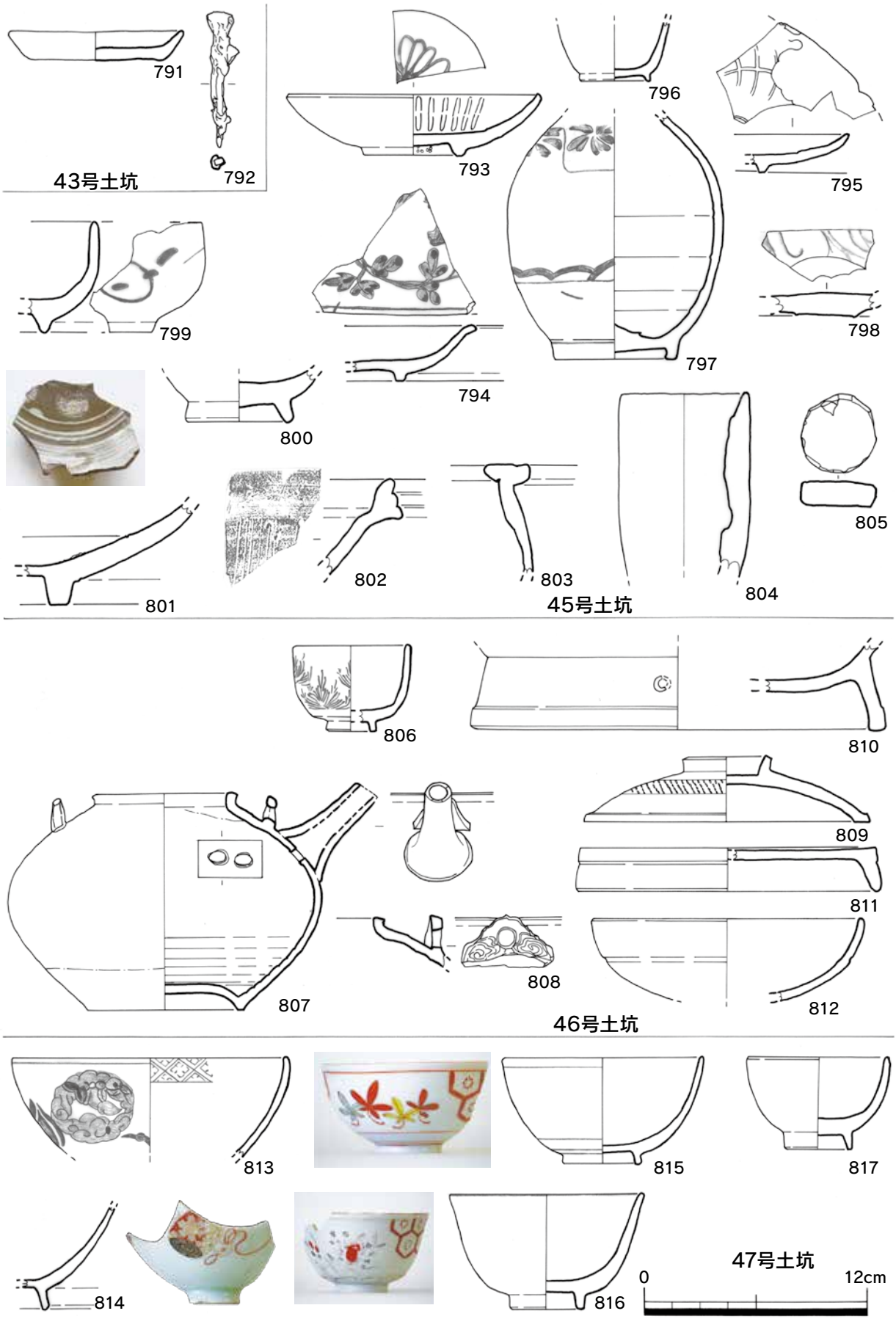
遺物は陶器の蓋･土瓶、磁器の小坏、瓦器の火鉢、土師器の坏･蓋などが少量出土している（第 50 図）。806 は磁器の小坏で、外面に松葉と折れ松葉を配する。807・808 は陶器の土瓶で、807 はワラ灰釉、808 は鉄釉を施す。809 は陶器の蓋で、外面に飛び鉋をめぐらす。810 は瓦器の火鉢、811 は土師質



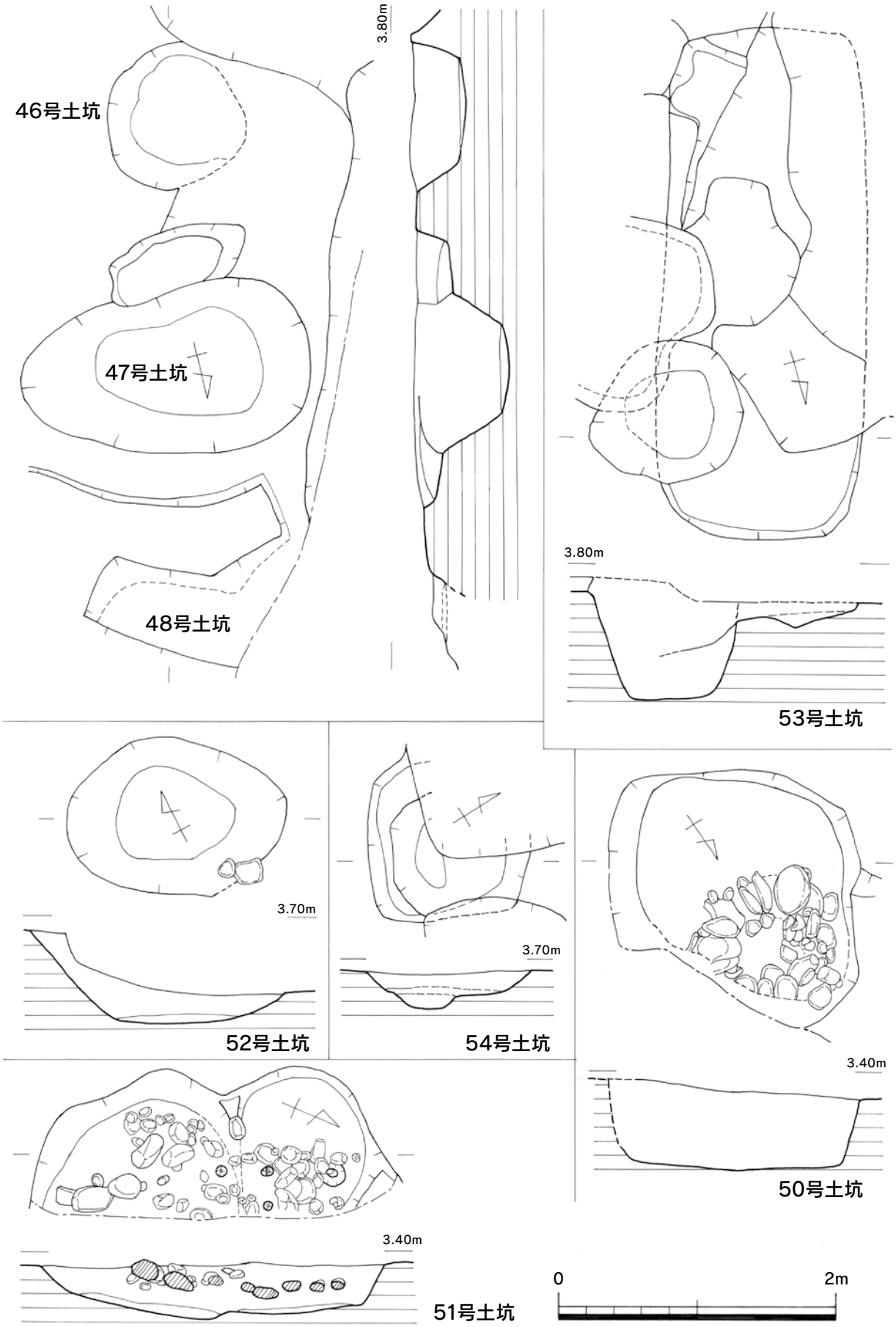
第48図　36号・37号・38号・39号・40号・41号・42号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし789・790は1/2）



第49図　土坑実測図6（縮尺1/40）



第50図　43号・45号・46号・47号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第51図　土坑実測図7（縮尺1/40）

土器の蓋、812 は土師器の坏である。

47 号土坑（第 51 図）

47 号土坑は 46 号土坑の北側に位置し、遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構の平面形は楕円形で、大きさは検出面で長径 2.07 m・短径 1.21 mである。壁面は 60°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは 0.59 mである。床面は皿状に窪む。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の小坏・皿・蓋・擂鉢・行平・瓶、磁器の碗・小坏・皿・蓋・瓶・仏飯器、瓦器の火鉢、瓦質土器の鉢、土師質土器のこね鉢・壷、土師器の坏・皿など中量の土器類と、土錘・軒桟瓦・人形・木製品・石製品・ガラス片などが出土している（第 50 図・第 52 図・第 53 図）。813 ～ 817・819 ～ 826 は磁器である。このうち 813 ～ 816 は碗で、813 の外面には丸文と鳥、内面には四方襷文を描く。814 は色絵と薄い青磁釉を使用して外面に小槌を描く。底面に「波佐見焼」の刻印がある。815・816 は色絵で、外面の文様は 815 が亀甲文と紅葉文、816 が亀甲文と草花文で、ともに口紅を施す。817 は白磁の小杯である。818 は陶胎染付の皿で、内面に草文、見込に梅花文を描く。819 ～ 822 は磁器の皿で、819 が型打の青磁で、内面に風景を描く。820 は六弁の輪花で、外面に海浜風景（島・帆掛け舟）、内面に型打の同心円、見込に山水風景を配する。底部は蛇ノ目凹型高台である。821 は体部外面に鉄釉を施す。822 は八角皿で、内面に草花文を描く。823 は色絵の段重の蓋で、外面に中国童子・草花文・格子などを描く。824 も蓋で、外面に蝶を描く。825 は仏飯器で、外面に輪宝繋文をめぐらす。826 は青磁の瓶である。827・828 は陶器の小杯で、827 は外面に鳥のような文様を描き、高台に切込が３つあり、萩焼と考えられる。829 は陶器の皿、830 は陶器の蓋でつまみは亀である。831・832 は陶器の行平で、外面に飛び鉋を施す。833 は陶器の擂鉢、834 は陶器の瓶である。835 は土師質土器の壷、837 は土師質土器のこね鉢である。836 は土師器の坏、838 は瓦質土器の鉢である。839 は土錘、840 は土製品の人物である。841 は軒桟瓦で、丸瓦の部分は右三ッ巴である。842 は器種不明の石製品で、石材は滑石である。

48 号土坑（第 51 図）

48 号土坑は 47 号土坑の北側に位置し、北側が削平を受け、西側は調査区外になっている。遺構検出面の標高は約 3.6 mである。遺構の平面形は方形かと考えられ、大きさは残存部分で長さ 1.18 m・幅 1.15 mである。深さは検出面から 0.17 m掘削したが床面には達していない。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗、磁器の碗、土師質土器のこね鉢、土師器の皿、土製人形などが少量出土している。

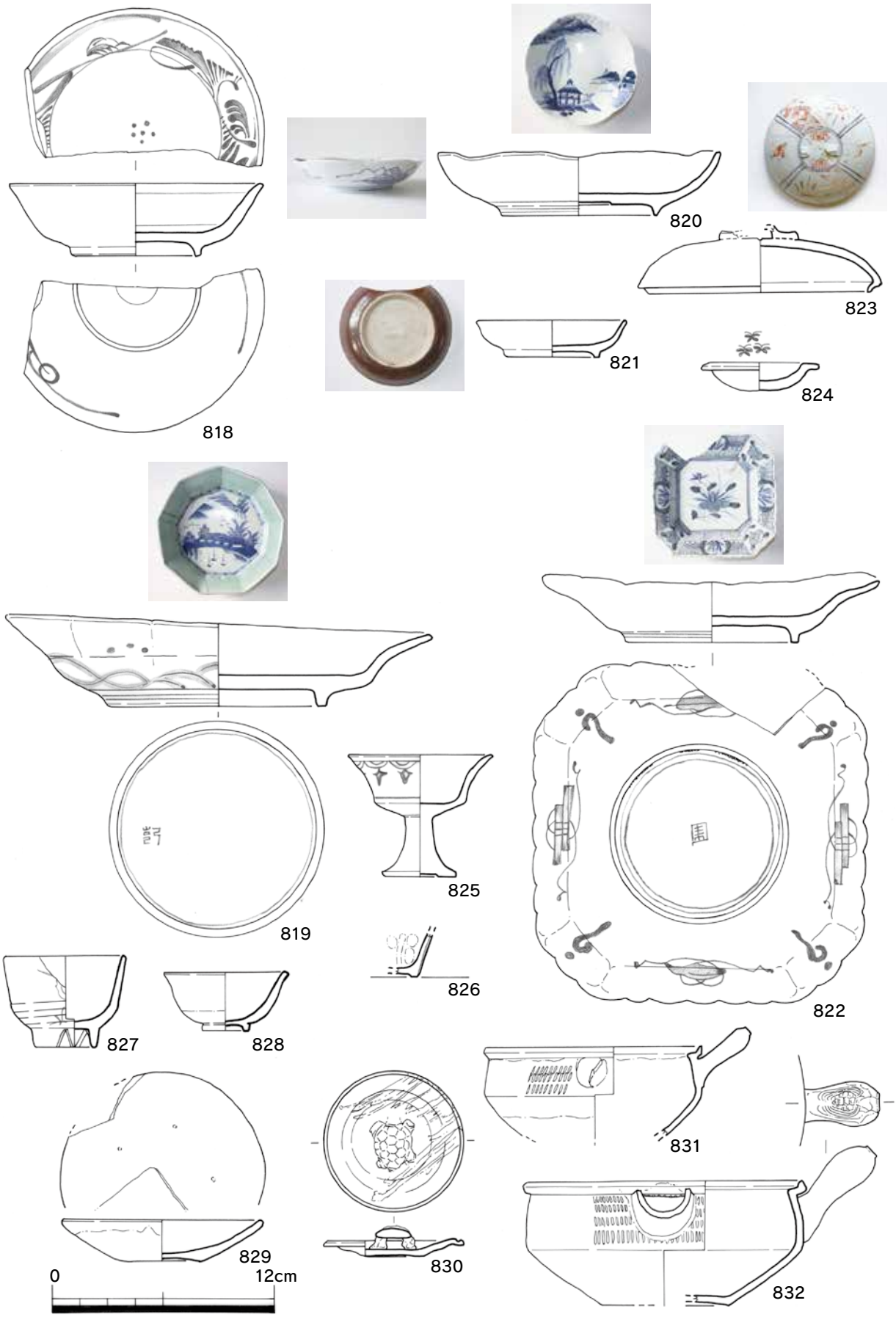
49 号土坑（第 49 図）

49 号土坑は調査区北西隅に位置し、北側が調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.3 mである。遺構の平面形は隅丸方形ないし楕円形と推定され、大きさは検出した部分で長さ 0.68 m・幅 0.95 mである。深さは 0.21 mで、床面は水平に近い。遺構の用途は不明である。

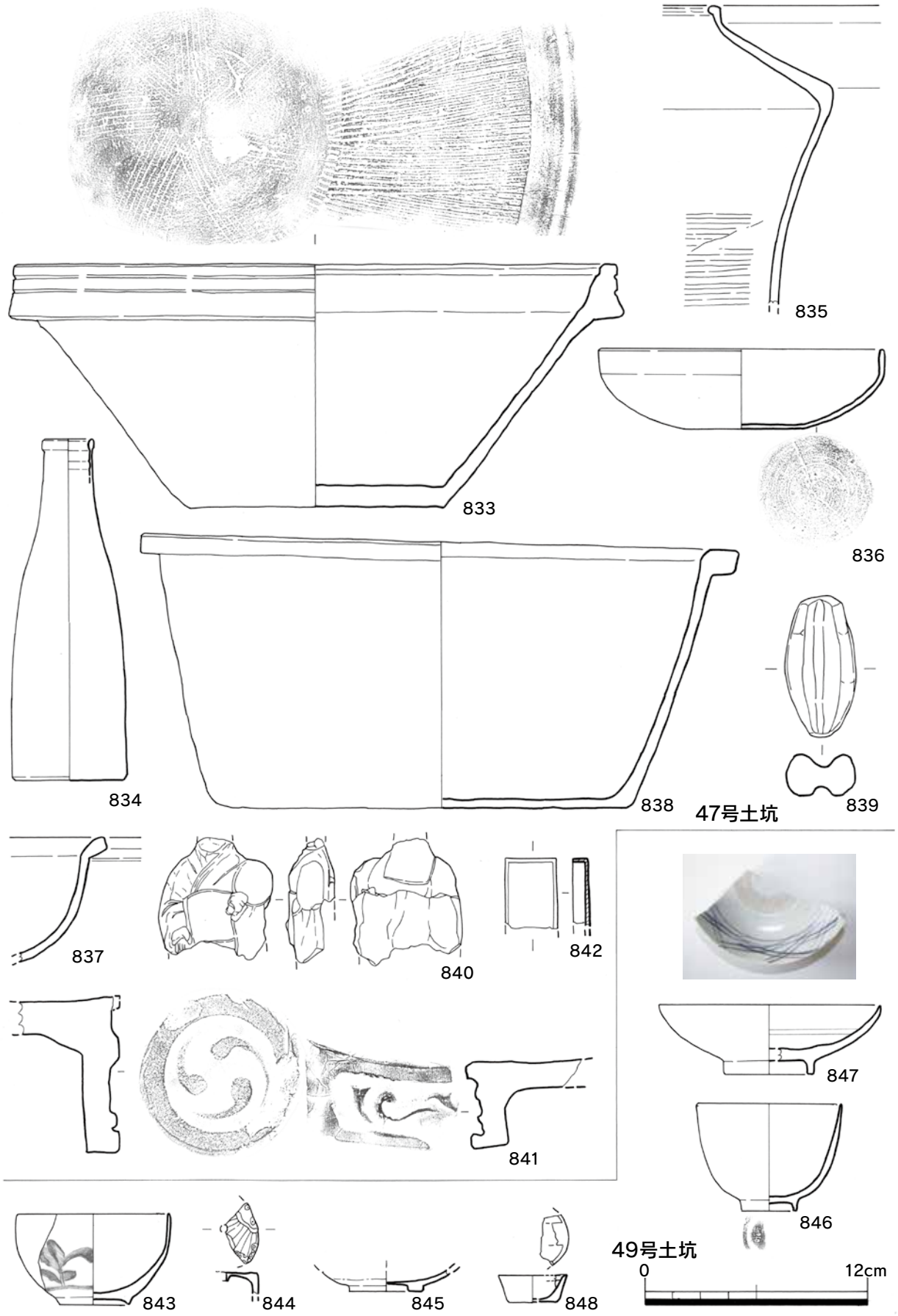
遺物は陶器の小坏・ままごと道具、磁器の碗・小坏・皿・水滴などが少量出土している（第 53 図）。843 は磁器の小杯で、外面に草花文を描く。844 は磁器の水滴で、上面に型打文様がある。845・846 はともに陶器の小杯である。846 の底面には「萬古」の刻印がある。847 は磁器の皿で、内面に二重格子を描き、見込は蛇ノ目釉剥ぎである。848 は陶器のままごと道具で器種は不明である。

50 号土坑（第 51 図）

50 号土坑は調査区北端部に位置し、北東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.3 mである。遺構の平面形は基本的に隅丸方形かと考えられ、大きさは検出面で長さ 1.80 m・幅 1.30 mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.50 mである。遺構内の北部には長さ 35㎝以下の円



第52図　47号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第53図　47号・49号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）

礫が環状に積み上げられている。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗・皿・花瓶、磁器の碗・皿、土師質土器のこね鉢などが中量出土している（第 54 図）。849 は磁器の碗で、外面に風景を描く。850・851 は磁器の皿で、851 は外面に唐草文、内面に風景、見込に五弁花を配し、口縁は口銹、底面に「太明成〇〇製」の銘がある。852 は陶器の碗、853 は陶器の皿である。854 は陶器の花瓶かと考えられ、平面形が六角形で、外面に円形の刺突文を施す。855 は土師質土器のこね鉢で、底面に装飾突帯をめぐらす高村産である。

51 号土坑（第 51 図）

51 号土坑は 50 号土坑の北側に位置し、東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約 3.3 mである。遺構の平面形は円形の土坑が２基連続したような瓢箪形に近い形状を呈し、大きさは検出した部分で長さ 2.62 m・幅 1.10 mである。深さは 0.36 mで、床面は北半がほぼ水平であるが、南半は中央に向かって深くなっている。床面の中央部から北側では径 0.15 m以下の円形小ピットが５基検出され、杭跡かと考えられる。なお、遺構内からは径 20㎝前後の円礫が多量に出土した。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗・小坏・皿・擂鉢・火鉢、磁器の碗・小坏・皿・蓋・火入れ・仏飯器・瓶、瓦質土器の火鉢、ガラス瓶、土製人形、種子などが中量出土した（第 54 図・第 55 図）。856 ～ 869 は磁器である。856・857・860 は碗で、文様は 856 は外面に蝙蝠・蓮の花・「壽」、見込に瓢箪、857 は外面に植物、860 は外面に格子文を描く。これらは 18 世紀後半から 19 世紀初めの肥前の製品である。858･859 は小杯である。861 は磁器の皿で、外面に唐草文、内面に花唐草文、見込に五弁花を配する。862・863 は蓋で、863 は外面に鳥・花を描き、内面に紅が付着することから紅入れの蓋と考えられる。864・865 は火入れで、864 は底部が蛇ノ目凹型高台である。866 は仏飯器、867・868 は瓶で、868 の外面には草木文を描く。869 は壷で、外面に連続渦巻き文をめぐらし、口銹を施す。870 ～ 877 は陶器である。870 ～ 873 は碗で、871 の内外面には刷毛目を施し、872 の外面には松葉を描く。874 は大型の擂鉢、875 は皿で見込に型打文様がある。876 は器種不明の二彩陶器である。877 は火鉢か。878 は瓦質土器の火鉢で、外面に刺突文がある。879 は陶製品の人形で鉄釉を施し、布袋かと考えられる。

52 号土坑（第 51 図）

52 号土坑は 51 号土坑の南側に位置し、遺構検出面の標高は約 3.6 mである。遺構の平面形は楕円形で、大きさは検出面で長径 1.58 m・短径 1.12 mである。壁面は 50°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは最深部で 0.64 mである。床面はわずかに皿状に窪む。遺構の用途は不明である。

遺物は出土していない。

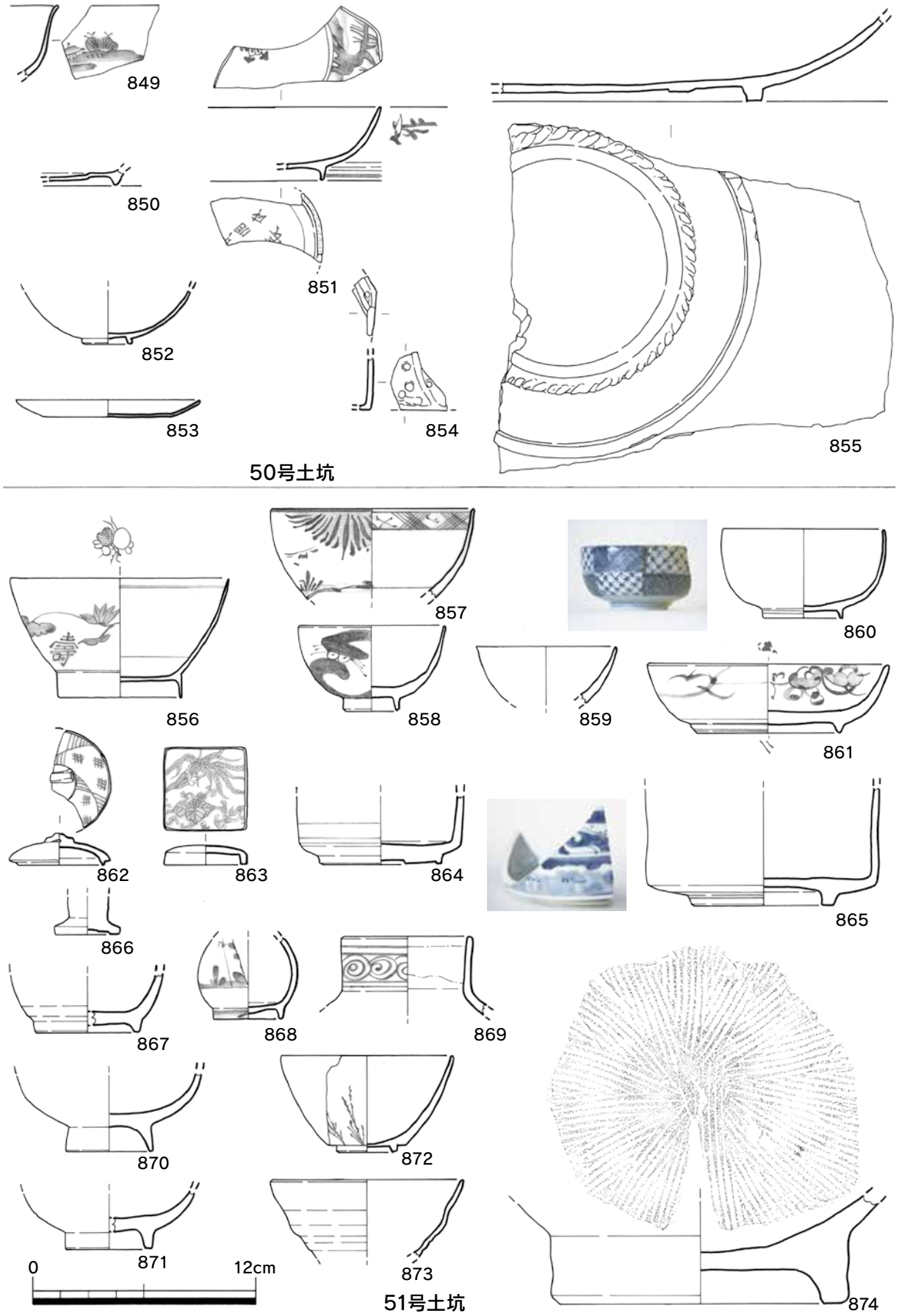
53 号土坑（第 51 図）

53 号土坑は調査区中央部付近に位置し、33 号・36 号土坑など複数の遺構に切られる。遺構検出面の標高は約 3.6 mである。遺構の平面形は南北方向に長い長方形で、大きさは検出面で長さ 3.66 m・1.47 mである。深さは 0.15 mと浅く、床面は平坦である。遺構の用途は不明である。主軸の方位はＮ－ 16°－Ｅである。

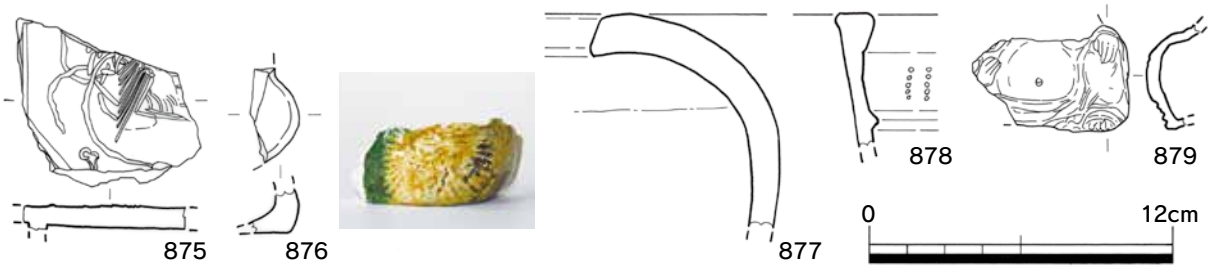
遺物は出土していない。

54 号土坑（第 51 図）

54 号土坑は調査区中央部付近に位置し、20 号・21 号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約 3.6 mである。遺構の平面形は方形で、大きさは検出面で長さ 1.18 m・幅 1.17 mである。壁面は 40°程度の角度で大きく開き、深さは最深部で 0.30 mである。床面の南半は一段低くなっている。遺構の用



第54図　50号・51号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第55図　51号土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）

途は不明である。

遺物は出土していない。

４　溝状遺構

明確な溝状遺構として番号を付した遺構は調査区の南部で５条確認された。大きさは５号溝状遺構は幅が広いが、他は小規模な遺構である。方位はすべて城下町の町割りとほぼ並行し、１号溝状遺構が南北方向で、他は東西方向である。

１号溝状遺構（第 56 図）

１号溝状遺構は調査区南端に位置し、３号溝状遺構に切られ、２号溝状遺構を切り、南側は調査区外に延びる。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構は南北方向に直線的に延び、大きさは検出面で幅 0.63 m、長さは 5.17 m分検出したが、北側は３号溝状遺構と接する部分から途切れている。深さは 0.05 mと浅く、床面は基本的に平坦であるが、長さ 30㎝前後の不整形の浅いピットが７基検出された。床面の標高は南北両端とも 3.71 mと同じである。主軸の方位はN－ 21°－Eである。

遺物は出土していない。

２号溝状遺構（第 56 図）

２号溝状遺構は調査区南端部に位置し、１号溝状遺構に切られ、東西両方向は調査区外に延びる。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構は直線的に延び､大きさは検出面で幅が 0.46 m､長さは 8.22 分を検出した。西側で一部途切れ、東端は他の遺構と切り合う。深さは 0.05 mと浅く、床面は全体的に平坦で、標高は西端が 3.75 m、東端が 3.79 mと、相対的に東側がやや高くなっている。主軸の方位はN－ 72°－Wである。

遺物は須恵器と瓦質土器の小片が微量出土している。

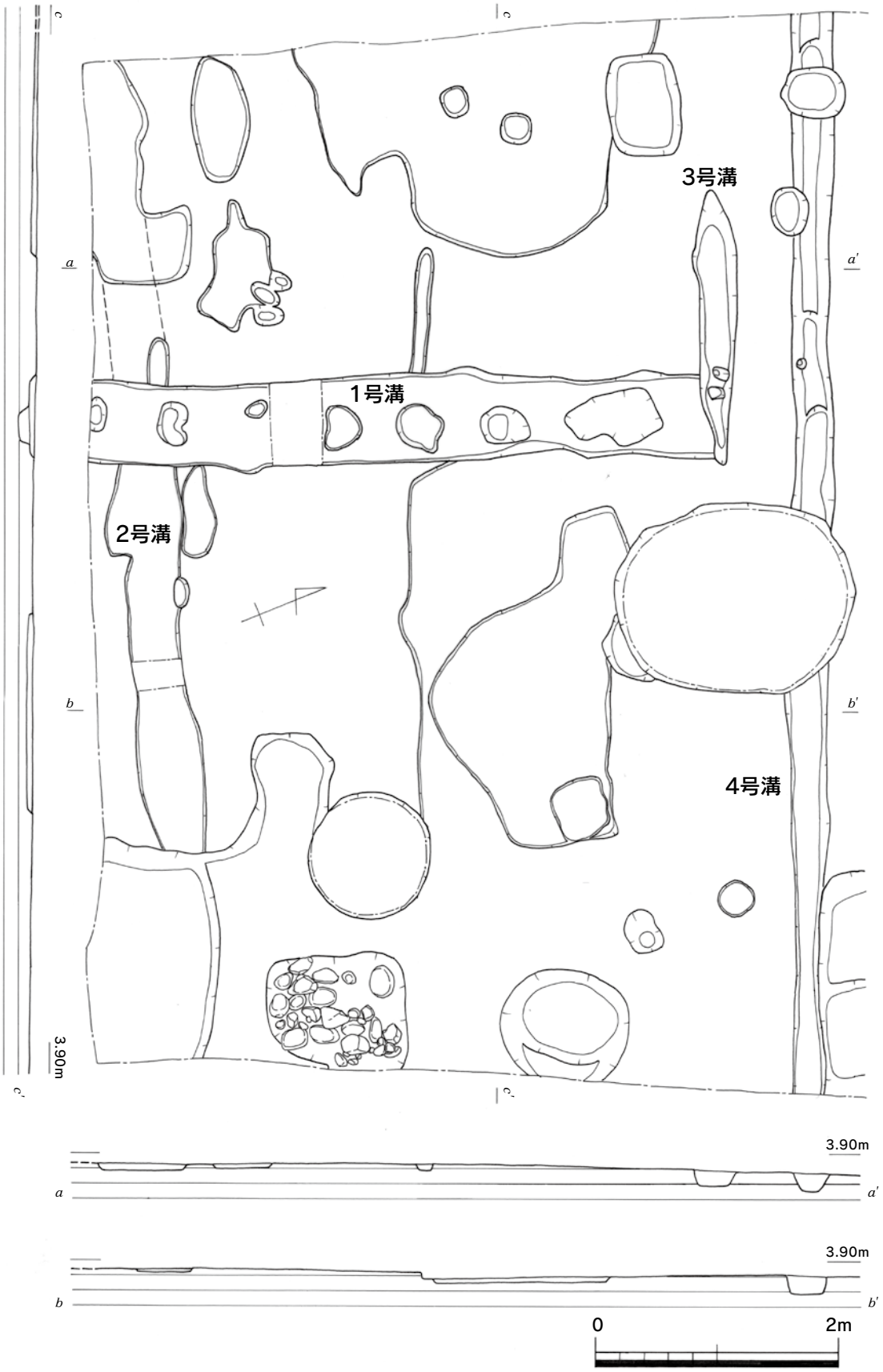
３号溝状遺構（第 56 図）

３号溝状遺構は１号溝状遺構の北端に位置し、１号溝状遺構を切る。遺構検出面の標高は約 3.8 m である。遺構は東西方向に延びるが短く、大きさは検出面で幅 0.36 m、長さは 2.25 mのみ残存した。深さは 0.13 mで、床面は平坦であるが、東側で径 10㎝程度の小ピット２基を検出した。埋土は灰色の弱砂質土で、炭化物を微量含む。主軸の方位はN－ 72°－Wである。

遺物は土師質土器の鉢や瓦質土器が少量出土している（第 58 図）。880 は土師質土器の鉢で、口縁直下に細い突帯をめぐらす。

４号溝状遺構（第 56 図）

４号溝状遺構は３号溝状遺構の北側に並行して走り、１号土坑に切られ、東西両方向は調査区外に延びる。遺構検出面の標高は約 3.8 mである。遺構は直線的に延び、大きさは検出面で幅 0.35 m、長さは 8.87 m分を検出した。深さは最深部で 0.20 mとやや深く、床面は西側の３ヶ所に低い段差があ



第56図　溝状遺構実測図1（縮尺1/50）

る。断面の形状は逆台形を呈する。床面の標高は西端で 3.61 m、東端で 3.64 mと、わずかに東側が高くなっている。埋土は灰色の弱砂質土である。主軸の方位はN－72°－Wである。なお、２号･３号･４号溝状遺構は主軸の方位が一致し、それぞれの間隔は２号・３号間が芯々で 4.81 m、３号・４号間が 0.77 mである。

遺物は土師質土器、土師器の皿、用途不明石製品などが少量出土している（第 58 図）。881・882 は土師器の皿である。

５号溝状遺構（第 57 図）

５号溝状遺構は４号溝状遺構の北側に位置し、10 号土坑に切られ、東西両方向は調査区外に延びる。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構は直線的に延び、大きさは最大幅 3.07 m、長さは 9.00 m分を検出した。深さは西側の最深部で 1.16 mをはかるが、中央部付近については床面と基盤層の土質が類似していたため掘り過ぎてしまった。この部分は木製品等が出土した面が本来の床面となる。壁面はやや上位で角度が変わる部位もあるが、基本的に 60°程度の角度で開く。床面は中央がやや皿状に窪むが、溝全体としては逆台形の断面形となる。標高は西端で 2.49 m、東端で 2.76 mであることから、溝内では東から西に水が流れていたと考えられる。遺構内の埋土は上層（Ⅳａ・Ⅳｂ・Ⅳｃ層）は黄灰色ないし暗褐灰色の弱砂質土層で、中層（Ⅳｄ層）は径５～ 10㎝程度の円礫層、下層（Ⅳｅ層）は暗黄灰色の弱粘質土層である。基盤層は上位から中位では明黄灰色弱粘質土、下位では暗灰色粘土層となる。主軸の方位はN－74°－Wである。

遺物は主に中層及び下層から多量に出土し、陶器の碗・皿・鉢・擂鉢・徳利・壷、磁器の碗・皿・段重、瓦質土器の擂鉢、土師質土器の擂鉢、土師器の皿、弥生土器の甕、坩堝などの土器類の他、瓦類･木製品（棒状・板状・漆器・編み籠）・笄・碁石・鉄釘・人骨（頭骨）・獣骨・種子などがある（第 58 図）。883・884 は磁器の碗で、883 は外面に草花文を描き、884 は青磁である。885 は磁器の皿で、見込に花文を描く。886・887 は陶器の碗、888 は陶器の皿である。889・890 は陶器の擂鉢、892 は陶器の壷である。891・893 は陶器の徳利である。894 は瓦質土器の擂鉢で、底部内面に波状に櫛目を入れる。895 は土師器の皿、896 は土師器の鉢または坏の脚部か。898 は坩堝である。899 は漆器の皿で、暗赤褐色の色調を呈する。900 は木製の櫛、901 は板状の木製品である。902 は黒石の碁石、903 は笄で、魚のような線刻がある。人骨は成人の頭骨と考えられ、一部に切創による溝状の痕跡が残る。

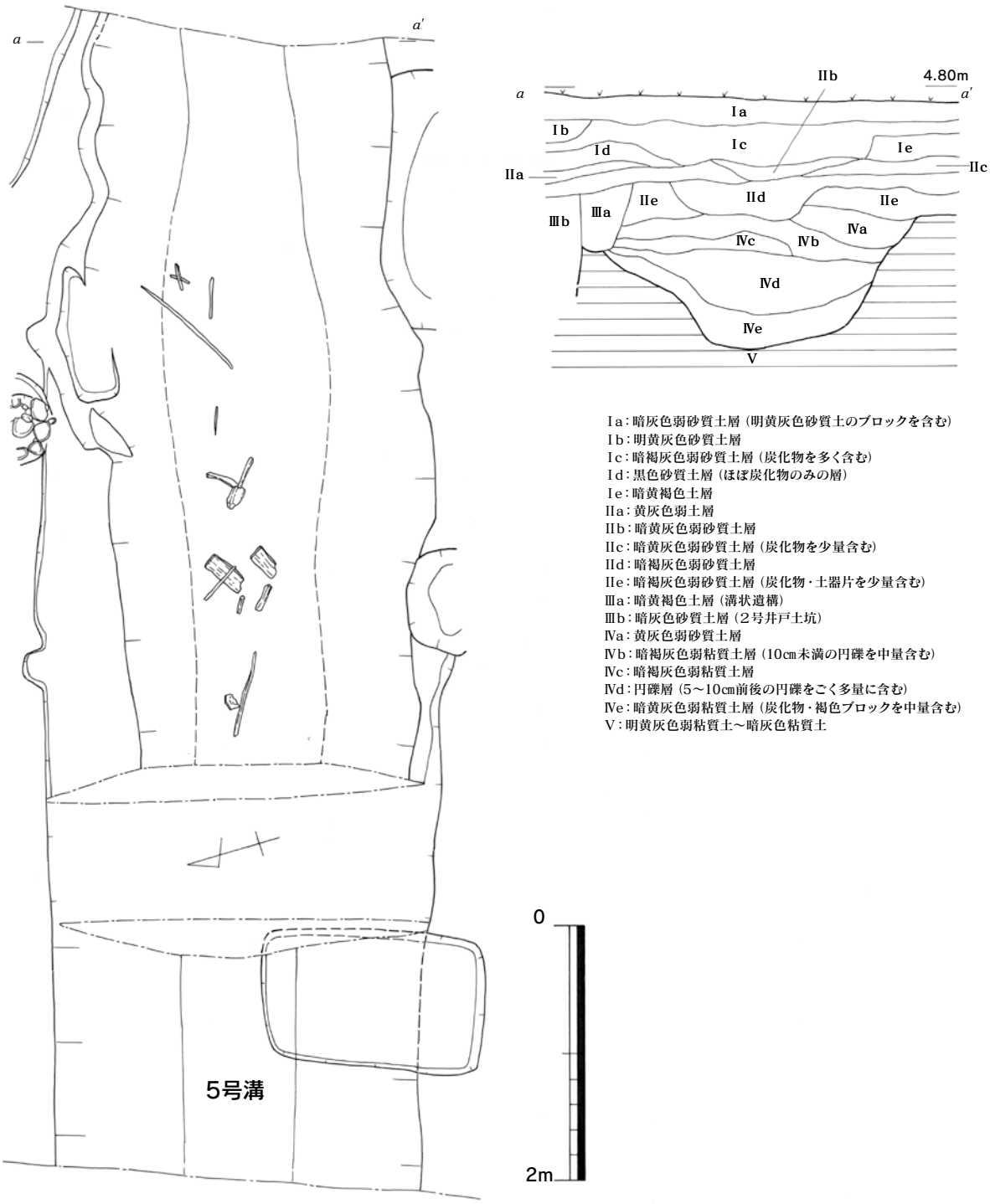
５　その他の遺構

その他の遺構としては不整形の大型土坑（ＳＸ）やピット（ＳＰ）がある。不整形土坑のうち番号を付したものは調査区の北側に３基が集中する。ピットは調査区全体に大小のものが多数分布する。不整形土坑の個別実測図は掲載しないが、調査区内の位置は第３図を参照していただきたい。

１号不整形土坑（第３図参照）

１号不整形土坑は調査区北部の西側に位置し、41 号土坑・２号不整形土坑に切られ、西側は調査区外に大きく広がると考えられる。遺構検出面の標高は約 3.4 mである。遺構は検出面で長さ 9.40 m・幅 2.42 mを確認した。深さは 0.2 mほど掘削したが床面には達していない。ただし、検出した壁面の角度からみて深い遺構ではないようである。埋土は掘削した深度までは暗灰色の弱砂質土である。

遺物は陶器の碗・皿・鉢・秉燭、磁器の碗・小坏・皿・鉢・仏飯器、土師器の坏・皿の他、瓦類・砥石・碁石・煙管などが多量に出土している（第 59 図）。904 ～ 913 は磁器である。904 は白磁の碗、905・906 は青磁の碗である。907 は小杯で、底面に「大明成化年製」の銘がある。908 は鉢で、見込に「月」の文字がある。909 ～ 912 は皿で、909 は見込に松、910 は内面に斜格子、見込に風

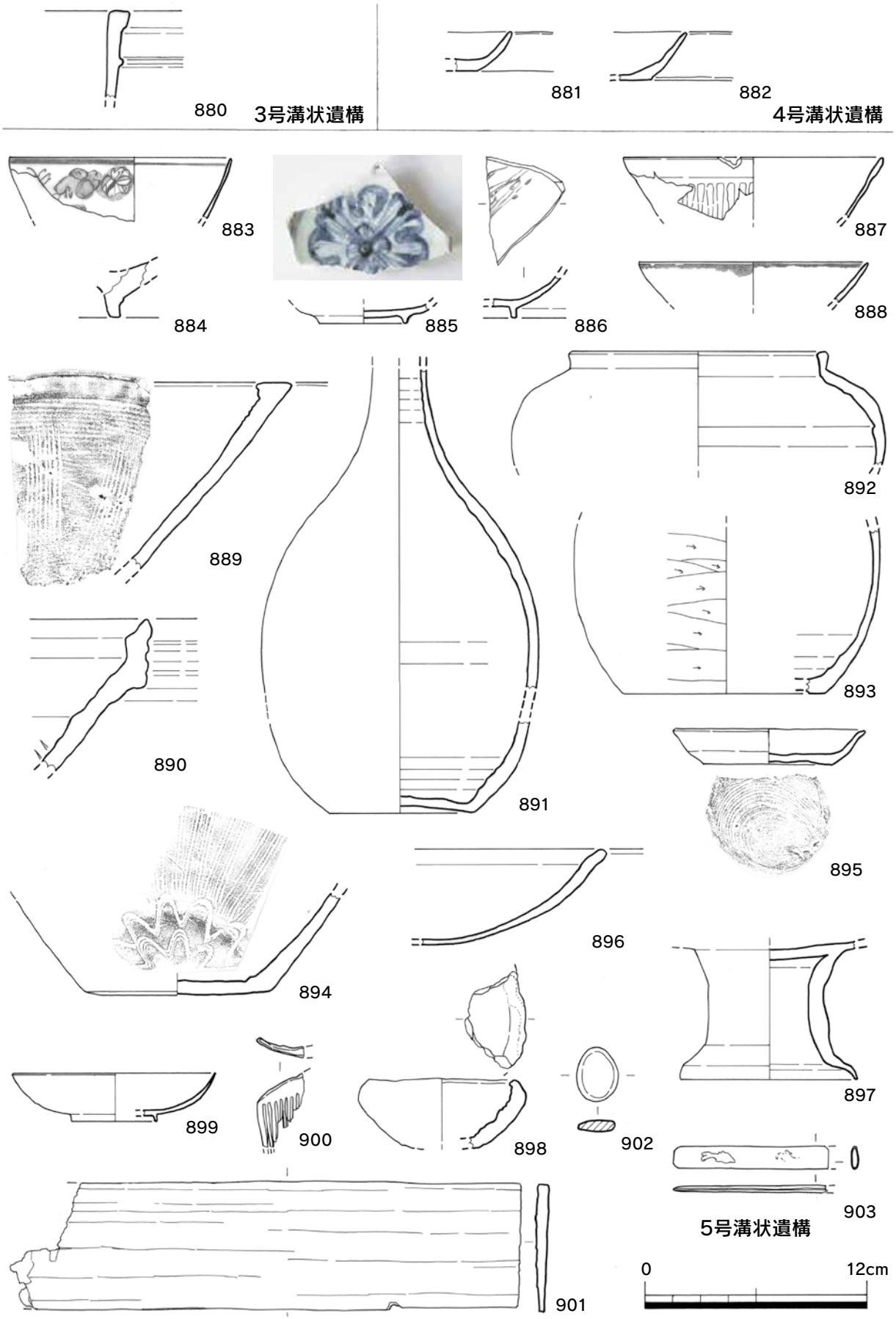


第57図　溝状遺構実測図2（縮尺1/50）

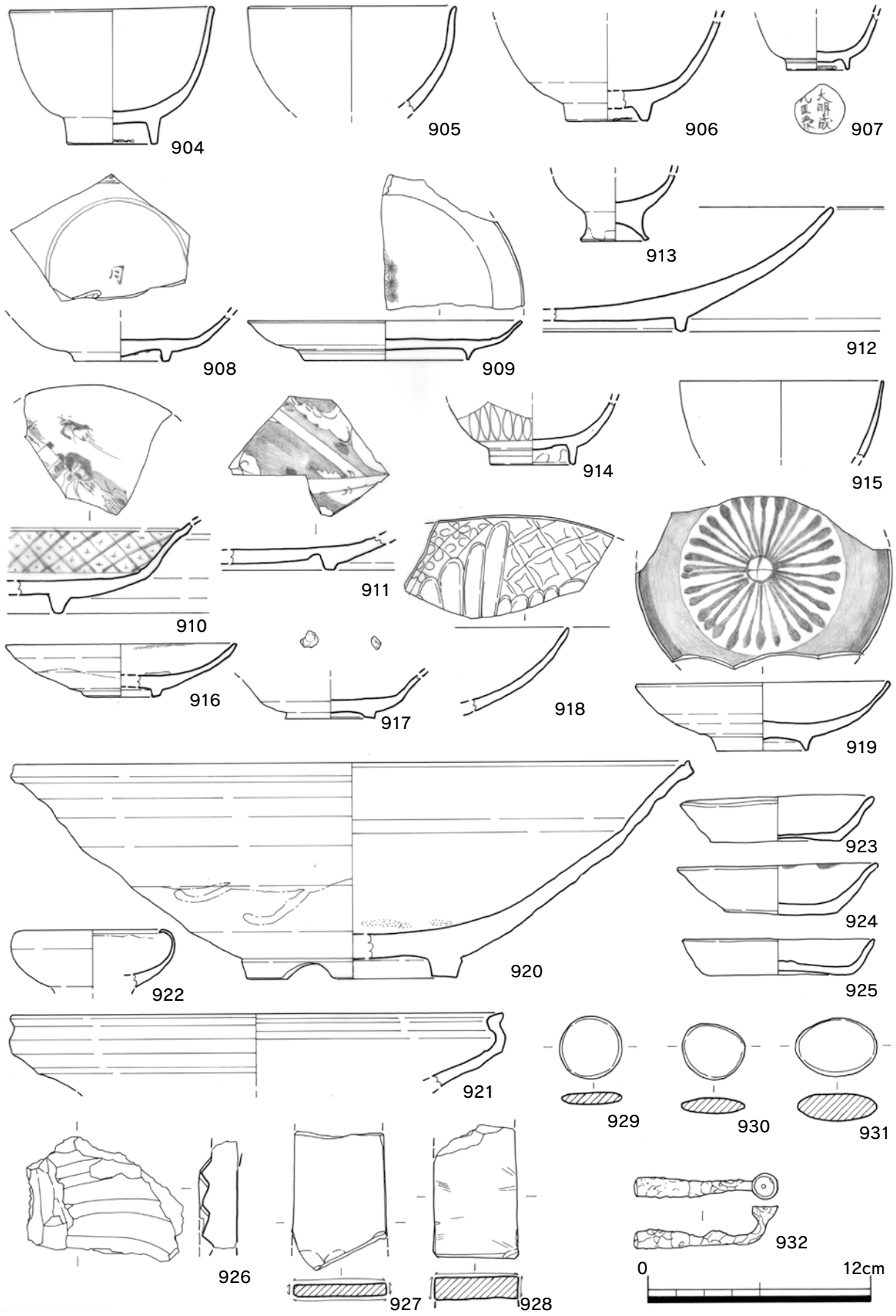
景を描く。913 は白磁の仏飯器である。914 ～ 917・919 ～ 922 は陶器である。914・915 は碗で、914 の外面に網目文を施す。916 ～ 920 は皿で、917 は見込に目跡がある。918 は青磁で、1680 ～ 1740 年代の肥前（波佐見）製か。919 は鉄釉を使用し、見込に花文を描く。920 は大型品で、見込に目跡を残し、1610 ～ 1650 年代の肥前製である。921 は鉢、922 は秉燭か。923 ～ 925 は土師器の坏である。926 は道具瓦の破片かと考えられ、断面三角形の突帯を並行して貼り付けている。927・928 は砥石である。929 ～ 931 は碁石で、929･930 が黒石、931 は白石である。932 は煙管である。

２号不整形土坑（第３図参照）

２号不整形土坑は１号不整形土坑を切って北側に位置し、大部分が西側の調査区外に延びている。



第58図　3号・4号・5号溝状遺構出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし901は1/4、902は1/2）



第59図　1号不整形土坑出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし929・930・931は1/2）

遺構検出面の標高は約 3.4 mである。遺構は検出面で長さ 3.25 m･幅 0.20 mを確認した。深さは 0.3 mほど掘削したが床面には達していない。
遺物は陶器の土瓶、磁器の碗・蓋などが少量出土している（第 60 図）。933 は磁器の碗で、外面に中国童子を描く。934 は 933 とセットと考えられる蓋で、外面に中国童子・草花文を描く。935 は陶器の土瓶で、鉄釉を施す。

３号不整形土坑（第３図参照）

３号不整形土坑は１号不整形土坑の東側に位置し、35 号土坑と切り合い、東側は調査区外に延びている。遺構検出面の標高は約 3.7 mである。遺構は検出面で長さ 5.20 m・幅 2.75 mを確認した。深さは検出面からの最深部で 0.36 mである。埋土は暗灰色の弱砂質土が中心で、土器類以外に円礫を多く含んでいる。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

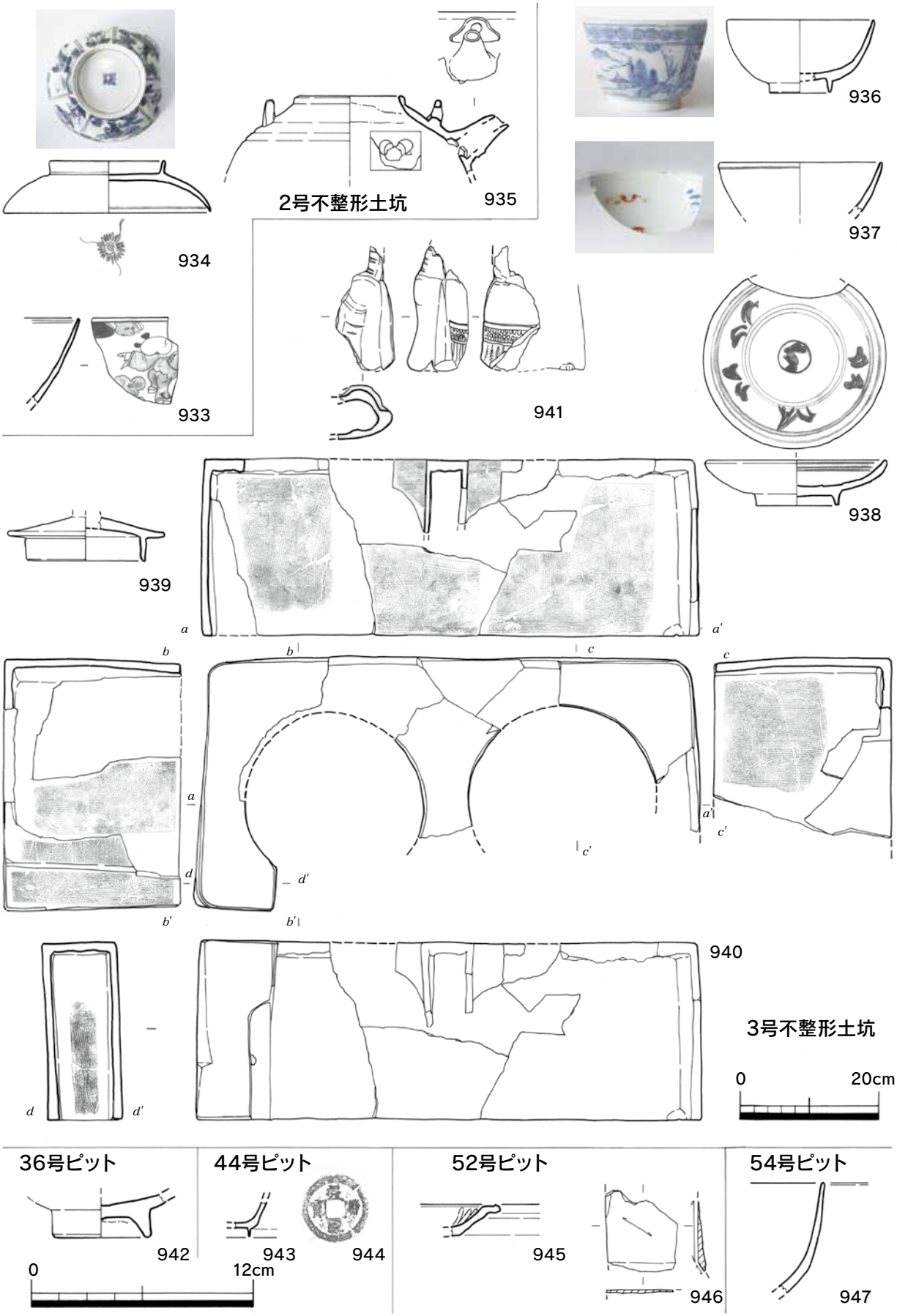
遺物は陶器の蓋、磁器の小坏･皿、土師質土器のカマド、土製人形などが中量出土している（第 60 図）。936・937 は磁器の小杯で、936 の外面には風景と連続渦巻文を描く。938 は磁器の皿で、内面に双葉状の文様を配し、見込に蛇ノ目釉剥ぎを施す。939 は陶器の蓋で、外面に花文を描く。940 は土師質土器のカマドで、長さ 72.8㎝・幅 36.5㎝・高さ 25.7㎝をはかる。焚口は２口あり、板作りで外面にミガキ、内面にハケの調整を施す。941 は土人形で、化粧まわしをつけた力士であろう。

ピット他（第３図参照）

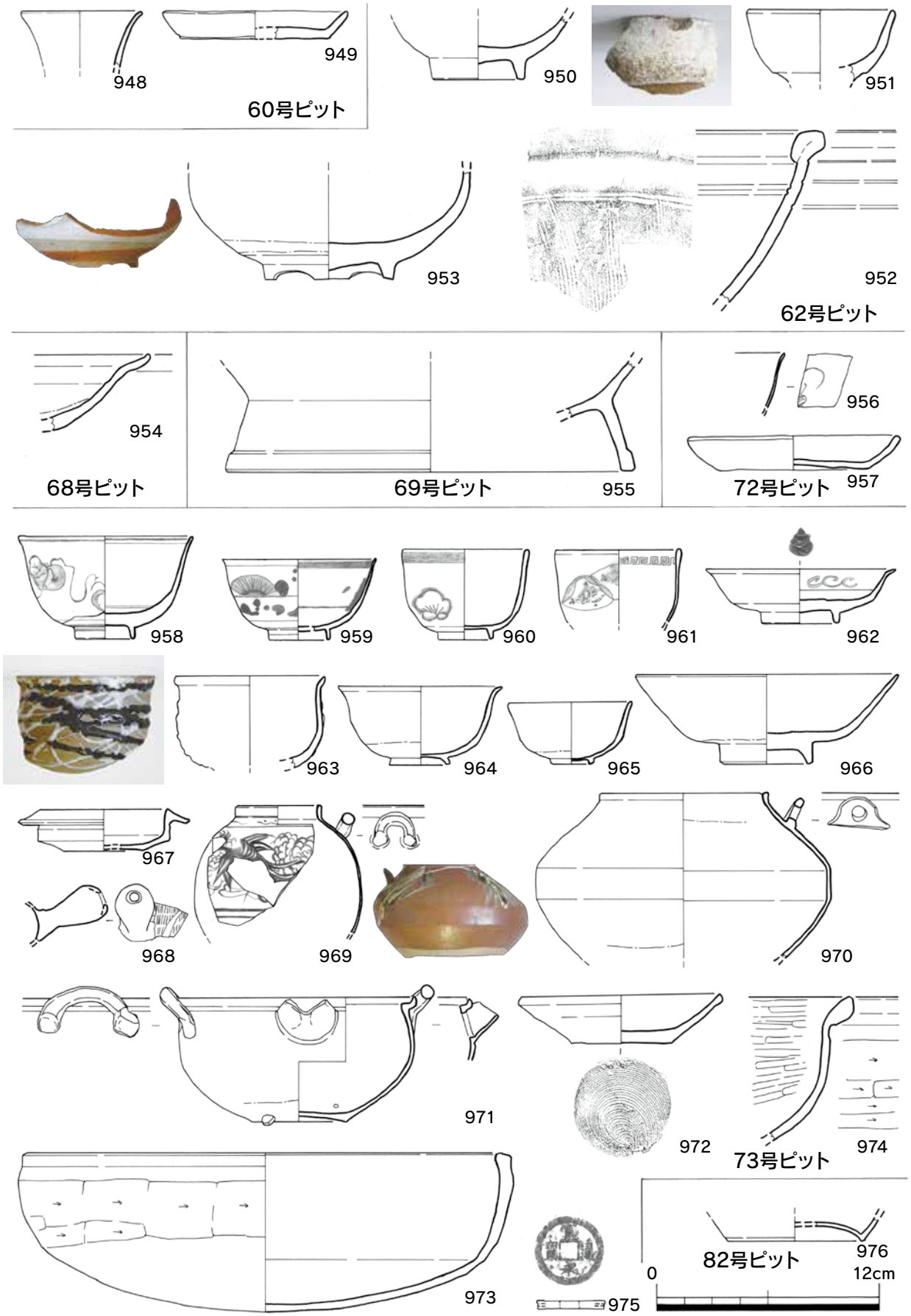
ここでピットとした遺構は柱穴状・土坑状・溝状など多様な形状を呈するが、相対的にやや小型の遺構である。遺構番号は調査時の遺構番号をそのまま使用したため欠番が多くある。各遺構の詳細は記述しないが、調査区内の位置については第３図を参照していただきたい。主な出土遺物のみ以下に記載する（第 60 図・第 61 図）。

942 は 36 号ピットから出土した陶器の碗である。943・944 は 44 号ピットの出土品で、943 が白磁の猪口、944 が種別不明の銅銭である。945･946 は 52 号ピットの出土品で、945 が陶器の皿で、内面に花弁状の凹凸がある。946 は鉄製品の鎹である。947 は 54 号ピットから出土した陶器の碗である。948・949 は 60 号ピットの出土品で、948 が白磁の小坏、949 が土師器の皿である。950 ～ 953 は 62 号ピットの出土品である。950 が磁器の碗、951 が陶器の小坏、952 が陶器の擂鉢、953 は陶器の壷で白土と緑釉で外面に施文する。954 は 68 号ピットから出土した陶器の皿である。955 は 69 号ピットから出土した瓦質土器の火鉢で、脚部の破片である。956・957 は 72 号ピットの出土品で、956 が磁器の小坏、957 が土師器の皿である。958 ～ 975 は 73 号ピットの出土品である。958 は磁器の碗で、外面につる草をめぐらし、19 世紀代の瀬戸美濃製か。959 は磁器の小杯で、外面に松を描く。960・961 は磁器の湯飲みで、960 は外面に梅花・丸文、961 は内面に雷文を描く。962 は磁器の皿で、内面に濃み地白抜き文で鎖状の連続文をめぐらし、見込は蛇ノ目釉剥ぎである。963 は陶器の碗で、外面には白土・鉄釉でビラ掛けを施す。19 世紀前半の萩焼である。964・965 は陶器の小杯、966 は陶器の皿で、966 の見込は蛇ノ目釉剥ぎである。967 は陶器の蓋で、関西系である。968 は陶器の急須、969・970 は陶器の土瓶で、968 の外面には飛び鉋を施す。969 は外面に鳳凰？と雲、970 は外面に笹を描く。971 は陶器の鍋、972 は陶器の皿である。973 は土師質土器の焙烙、974 は土師質土器のこね鉢である。975 は３枚重なった銅銭で、最上面は寛永通寶である。976 は 82 号ピットから出土した陶器の瓶または急須であろう。

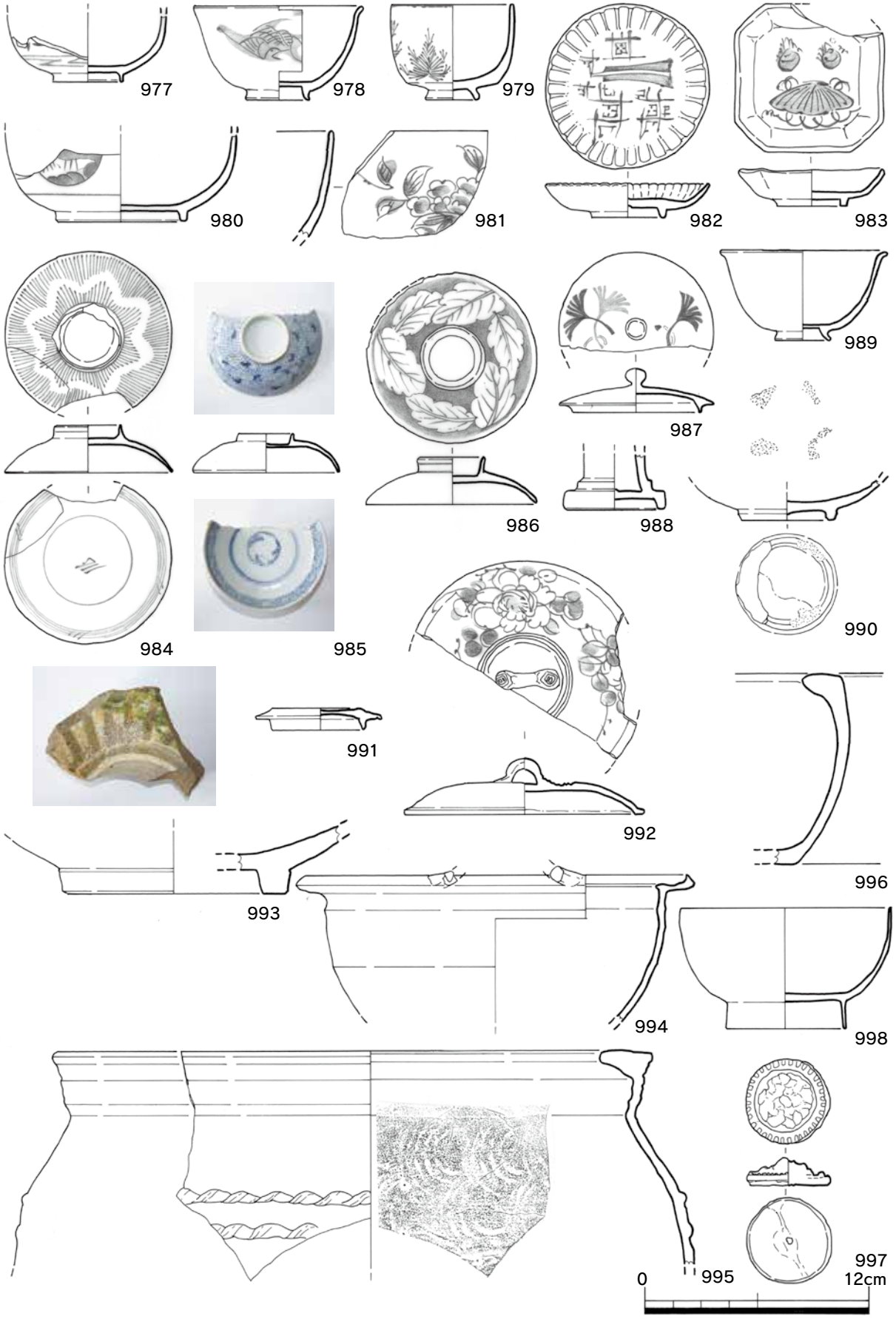
977 ～ 997 は遺構検出面より上の包含層から出土した遺物である（第 62 図）。977 ～ 988 は磁器である。977・978 は碗で、外面の文様は 977 が風景、978 は鶴を描く。979 は小杯で、外面に松葉文を描き、口銹を施す。980・981 は鉢で、外面の文様は 980 が窓絵、981 は草花文である。982・



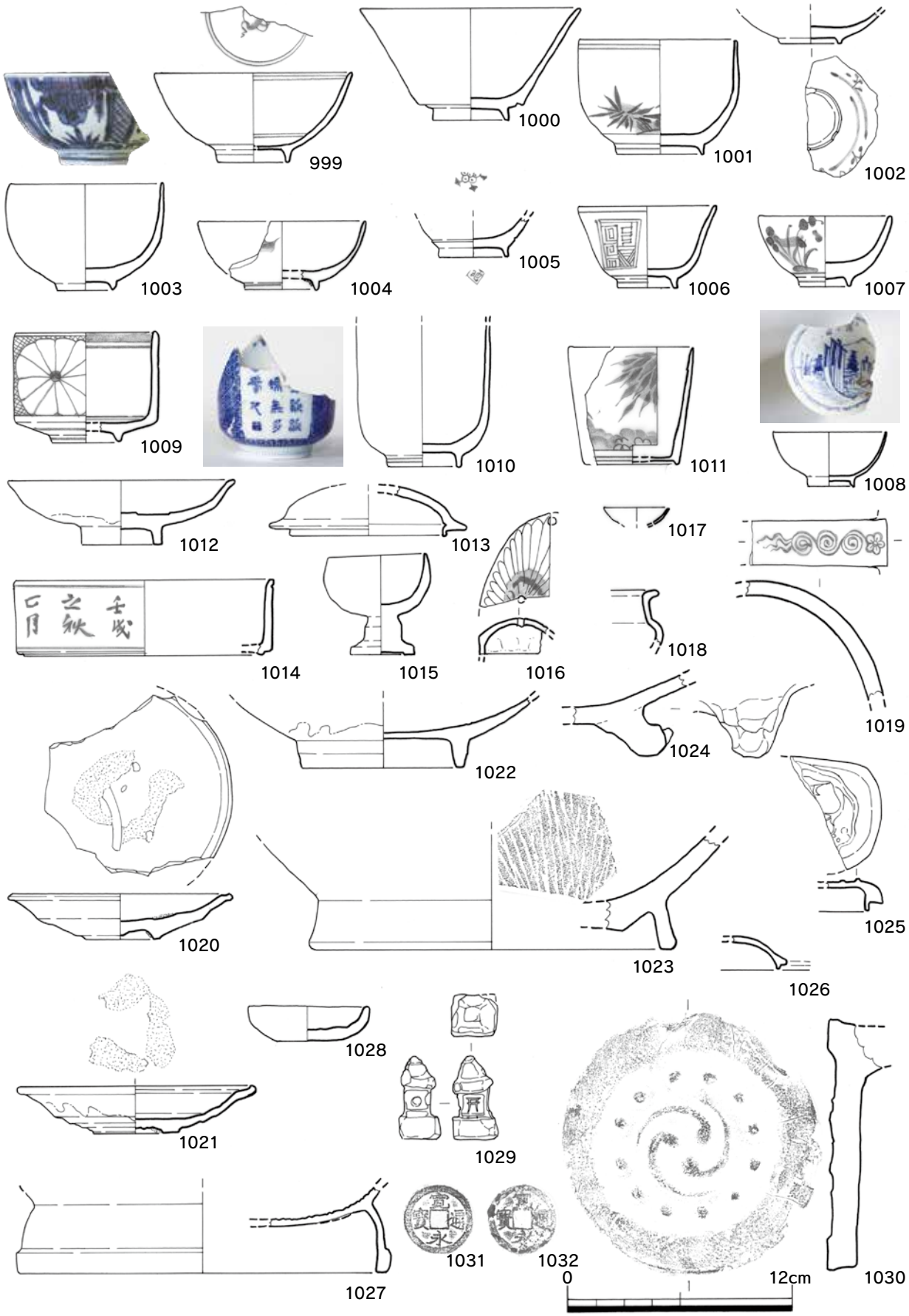
第60図　2号・3号不整形土坑、36号・44号・52号・54号ピット出土遺物実測図
（縮尺1/3、ただし940は1/8、944は1/2）



第61図　60号・62号・68号・69号・72号・73号・82号 ピット出土遺物実測図（縮尺1/3、ただし975は1/2）



第62図　包含層出土遺物実測図（縮尺1/3）



第63図　表面採集遺物実測図（縮尺1/3、ただし1031・1032は1/2）

983 は皿で、見込の文様は、982 が閉じた扇、983 が貝である。984 ～ 987 は蓋で、985 は外面に花唐草文、内面に四方襷文、見込に松竹梅円形を配する。986 は外面に木の葉、987 は銀杏の葉と実を描く。988 は仏花瓶か。989 ～ 995 は陶器である。989 は小坏、990 は皿であろう。991・992 は蓋で、992 は外面に草花文を描く。993 は皿、994 は鍋、995 は甕で外面に波状突帯をめぐらし、内面に青海波タタキの調整痕が残る。996 は瓦質土器の火鉢、997 は器種不明の土製品である。998 は木製の碗で、漆または赤色顔料塗布している。

999 ～ 1032 は表面採集遺物である（第 63 図）。999 ～ 1019 は磁器である。999 ～ 1001・1009 は碗で、999 は外面に草木文、1001 は外面に植物を描く。1000 は白磁である。1009 は筒形を呈し、外面に菊花・格子を描く。1002 ～ 1008 は小杯で、文様は 1002 が外面に草木文、1005 が見込に五弁花、1007 が外面に草花文、1008 が内面に海浜風景を描く。1003 は青磁である。1007 は 1680 ～ 1770 年代の肥前（波佐見）の製品である。1010 は湯飲みで、外面に詩歌・櫛歯文、内面に輪宝繋文を配する。1011 はソバ猪口で、外面に植物を描く。1012 は青磁の皿で、見込は蛇ノ目釉剥ぎで、砂目跡も残る。1013 は磁器の蓋、1014 は段重で外面に詩歌を記す。1015 は白磁の仏飯器、1017 は紅皿である。1016 は型打の水滴で、外面は菊花文である。1018 は瑠璃釉で、香炉であろう。1019 は取手状の器種不明品で、外面に渦文と花文を配する。1020 ～ 1025 は陶器である。1020・1021 は皿で、ともに見込に砂目跡があり、1650 年代より古いものである。1022 は鉢で、内面に刷毛目をめぐらす。1023 は擂鉢、1024 は鉢の脚部である。1025 は蓋で、外面に型打の草木文を施す。1026 は瑠璃釉の蓋である。1027 は瓦質土器の火鉢、1028 は土師器の蓋か。1029 は土製品の灯籠である。1030 は軒丸瓦で、左三ッ巴である。1031・1032 は寛永通寶である。

第1表　出土遺物観察表

出土遺構	遺物番号	器種	法量(cm)			成形	装飾			底面内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径	底径		絵付釉薬	文様	装飾特徴				
SE2	1	磁器・碗	6.2	(10.4)	4.0	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文 内:圏線 見込:丸文(ススキ)・圏線					反転復元 端反碗
SE2	2	磁器・碗	(4.3)		4.0	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文? 見込:圏線		見込に目跡			反転復元
SE2	3	磁器・小杯	4.0	6.6	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・牡丹					
SE2	4	磁器・小杯	(2.0)		2.8	ロクロ	染付・透明釉	見込:丸文(蝶)・圏線	型紙摺り?				
SE2	5	磁器・猪口	4.0	(6.0)	2.6	ロクロ	白磁						反転復元 貫入有り
SE2	6	磁器・皿	2.5	(12.6)	6.8	ロクロ	染付・透明釉	外:源氏香文?・? 内:? 見込:「福」・?		銘有り			反転復元
SE2	7	磁器・皿	2.0	(10.4)	(6.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・蝶? 見込:風景(塔・草木)	口紅(染付)				反転復元
SE2	8	磁器・皿	3.0			ロクロ	色絵・透明釉	外:唐草文・圏線 内:四方襷文・梅花文			肥前	1710～1770年代	貫入有り 釉色は青・赤・金色
SE2	9	磁器・仏飯器	(2.2)		4.0	ロクロ	白磁						蛇ノ目凹型高台
SE2	10	磁器・水滴	(2.2)	(3.8)		型打	白磁	外:?(型押)					底部に布目痕
SE2	11	磁器・急須	(4.4)			ロクロ	白磁						注口基部の孔は1つ
SE2	12	磁器・火入れ	不明		7.4	ロクロ	青磁						蛇ノ目凹型高台 底面に砂目跡
SE2	13	磁器・蓋	2.5	(8.5)	つまみ径3.5	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅樹 内:圏線・鎖つなぎ 見込:?			肥前	19C前半?	反転復元
SE2	14	磁器・蓋	2.7	8.9	つまみ径3.7	ロクロ	染付・透明釉	外:「福」「壽」・?・圏線 内:「福」「壽」・? 見込:松竹梅円形・圏線			肥前	19C前半?	反転復元
SE2	15	陶器・碗	(4.2)		(4.0)	ロクロ	飴釉			見込に目跡			反転復元
SE2	16	陶器・碗	(3.4)		5.0	ロクロ	灰釉						
SE2	17	陶器・碗?	(2.6)		5.1	ロクロ	鉄釉?			見込は蛇ノ目釉剥ぎ			反転復元
SE2	18	陶器・擂鉢	(3.8)			ロクロ	鉄釉						
SE2	19	陶器・擂鉢	(4.5)			ロクロ					備前?		口縁外側面に2条の凹線
SE2	20	陶器?・皿	(0.8)			ロクロ	染付	見込:七宝文・風景?	型紙摺り?				
SE2	21	土師質土器・蓋	(2.5)			型打?					関西系		カエルのつまみ 中央に孔有り 外面に布目痕
SE2	22	陶器・合子?	2.7	(5.4)	3.8	ロクロ	透明釉			糸切り			反転復元・貫入有り
SE2	23	陶器・徳利	(5.2)		4.8	ロクロ	鉄釉			糸切り			反転復元
SE2	24	瓦質土器・火鉢	(8.0)		(19.8)	ロクロ			回転印文				反転復元 内面ヘラケズリ
SE2	25	土師質土器・火鉢	(5.4)		(14.8)	ロクロ							反転復元 内外面ともヘラケズリ
SE2	26	陶器・甕	(16.4)	(32.0)		ロクロ	鉄釉・透明釉	外:流し掛け(鉄釉)・貼付文様			高取系	18C後半?	反転復元
SE2	27	土師質土器・焜炉の火皿?	(1.8)	(18.0)		ロクロ							
SE2	28	土師質土器・焜炉	25.7	(33.0)	(24.0)	ロクロ		外:「安〇政」(刻印)					反転復元 外面ナデ、内面ハケ目 瓢箪形の取手
SE2	29	石製品・石臼	径約36	厚さ6.7									石材:花崗岩 重さ2,437g
SE2	30	石製品・砥石	長さ(6.4)	幅4.9	厚さ(0.8)								石材:頁岩 重さ42.6g
SK1	31	磁器・碗?	(3.2)	(6.6)		ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・菊花・紅葉					反転復元 筒型碗?
SK2	32	陶器・碗	(3.7)		(5.1)	ロクロ	透明釉・ワラ灰釉						
SK2	33	陶器・碗	(1.6)		(4.7)	ロクロ	ワラ灰釉						
SK3	34	磁器・碗	6.2	12.0	6.0	ロクロ	染付・透明釉	外:松・圏線 内:圏線 見込:五弁花					貫入有り
SK3	35	磁器・碗	5.8	(10.4)	(4.2)	ロクロ	染付・透明釉	外:波・雲・圏線 内:? 見込:波					
SK3	36	磁器・碗	5.9	10.2	4.2	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・丸文 内:圏線・? 見込:?・圏線			肥前	1820～1860年代	端反碗
SK3	37	磁器・碗	5.8	(10.4)	(3.7)	ロクロ	染付・透明釉	外:横しま・梅花 内:圏線 見込:圏線					端反碗
SK3	38	磁器・碗	5.6	9.1	3.8	ロクロ	染付・透明釉	外:網目・圏線 内:圏線 見込:?					
SK3	39	磁器・碗	5.6	9.6	4.1	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・網目 内:圏線 見込:?・圏線			肥前	1850～1860年代	くらわんか手?
SK3	40	磁器・碗	4.5	9.0	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外:亀・?・圏線 見込:?					端反碗
SK3	41	磁器・碗	4.8	(9.2)	(3.6)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅花 内:圏線 見込:?・圏線			肥前?	1820～1860年代	端反碗
SK3	42	磁器・碗	4.5	9.0	3.3	ロクロ	色絵・透明釉	外:草花文・圏線 内:圏線 見込:?					端反碗
SK3	43	磁器・碗	4.5	(8.9)	(3.3)	ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・? 内:圏線 見込:?					端反碗 釉色は青・白・緑灰色
SK3	44	磁器・碗	4.7	7.6	3.4	ロクロ	白磁						

SK3	45	磁器・猪口	4.3	(6.7)	(3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:人物・「寒夜客来」		銘有り			反転復元
SK3	46	磁器・小坏	2.8	6.6	2.6	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文・圏線 内:草花文		「○造」			反転復元
SK3	47	磁器・小坏	4.0	6.4	2.7	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・?					
SK3	48	磁器・小坏	4.1	6.9	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外:文字?					
SK3	49	磁器・小坏	2.9	(5.9)	(2.7)	ロクロ	赤絵・透明釉	内:銘					反転復元
SK3	50	陶器・小坏	4.5	6.7	2.9	ロクロ	白土・染付・ 透明釉	外:竹					
SK3	51	磁器・小坏	4.4	6.3	3.0	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文・圏線					
SK3	52	磁器・湯飲み	5.0	5.8	3.0	ロクロ	染付・透明釉	外:丸文(筍)・竹・笹の葉					
SK3	53	磁器・湯飲み	(5.8)	(8.0)		ロクロ	青磁染付	内:四方襷文・圏線			肥前	18C後半	反転復元
SK3	54	磁器・湯飲み	5.3	6.4	(3.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・花文 内:圏線・輪宝つなぎ文		底面に目跡 1つ			反転復元
SK3	55	磁器・皿	2.3	(10.3)	6.4	型打	白磁	見込:子房状の隆起	口銹				菊花皿
SK3	56	磁器・皿	4.2	13.3	8.0	型打	白磁	見込:子房状の隆起	口銹	見込に目跡 3つ			菊花皿 蛇ノ目凹型高台
SK3	57	磁器・皿	2.1	8.9	3.7	型打	白磁	見込:子房状の隆起	口銹				菊花皿
SK3	58	磁器・鉢	5.4	12.6	5.2	型打	青磁・染付・ 透明釉	内:風景(海浜・家・山?)					口縁は5弁の輪花
SK3	59	磁器・皿	2.6	9.0	4.4	型打	染付・透明釉	見込:鶴・?					口縁部輪花
SK3	60	磁器・皿	2.5	10.2	6.0	型打	染付・透明釉	見込:風景(家屋・帆船他)	口銹		肥前	1820～1860年代	輪花皿
SK3	61	磁器・皿	3.7	(12.2)	(6.8)	型打	染付・透明釉	見込:巻物		見込に目跡	肥前	18C末～19C前半	反転復元 口縁部輪花・蛇ノ目凹型高台
SK3	62	磁器・皿	3.4	13.1	7.5	ロクロ	染付・透明釉	内:草花文					口縁部輪花 蛇ノ目凹型高台
SK3	63	磁器・皿	2.8	9.5	4.5	ロクロ	染付・透明釉	内:圏線・双葉 見込:双葉		見込に蛇ノ 目釉剥ぎ			
SK3	64	磁器・皿	2.3	(9.0)	(4.8)	型打	染付・透明釉	内:雷文(型押) 見込:梅花(型押・染付)			瀬戸美 濃?	19C前半～中 頃?	反転復元 焼き継ぎ有り
SK3	65	磁器・皿	3.5	20.6	9.4	ロクロ	染付・白土・ 透明釉	内:風景(家屋・帆船・松・山他)					全面に貫入有り
SK3	66	磁器・皿	高さ 1.7	口縁長 8.4	底部長 4.2	型打	染付・透明釉	内:?					平面五角形
SK3	67	磁器・紅皿	2.1	6.4	1.8	型打	白磁	外:蛸唐草文			肥前	18C後半以降	
SK3	68	磁器・紅皿	1.2	4.8	2.4	ロクロ	白磁						
SK3	69	磁器・蓋	(1.8)	8.8		ロクロ	染付・透明釉	外:風景・蛸唐草文・圏線 内:雷文・圏線					反転復元
SK3	70	磁器・蓋	2.5	8.7	つまみ径 3.9	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・紅葉 内:圏線・雷文 見込:松竹梅円形・圏線			肥前	18C後半以降	
SK3	71	磁器・蓋	3.0	9.0	つまみ径 3.9	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・「壽」・松葉 内:圏線・雷文 見込:松竹梅円形			肥前	19C代?～	一部反転復元
SK3	72	磁器・蓋	1.7	5.4		ロクロ	染付・透明釉	外:鳥・花・圏線					合子の蓋か
SK3	73	磁器・蓋	1.5	4.1		手づくね?	瑠璃釉						つまみの周りに6個の円孔 香炉の蓋?
SK3	74	陶器・蓋	1.8	3.7		型打	透明釉	外:菊花(型打)					貫入有り
SK3	75	磁器・蓋	(1.8)	(8.4)		ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・花唐草?			肥前	19C代	76とセット
SK3	76	磁器・段重	2.7	9.4	8.6	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・花唐草?			肥前	19C代	75とセット
SK3	77	磁器・段重?	(4.0)	(12.0)		ロクロ	色絵・透明釉	外:窓絵(花?)・植物					反転復元 釉色は茶・青・薄緑
SK3	78	磁器・蓋	1.6	5.5		ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・草花文(梅・菊・笹) 内:「六○」の銘			関西系?	19C代	つまみ部外縁に刻み 79とセット?
SK3	79	磁器・急須	(4.8)	(5.6)		ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文・「青月○ 永○造」			関西系?	19C代	反転復元 注口基部の孔は7つ 78とセット?
SK3	80	磁器・火入れ	7.4	(10.2)	(9.6)	ロクロ	色絵・透明釉	外:列点・彩色(茶色)					反転復元 太鼓を模す
SK3	81	磁器・仏飯器	5.4	(5.9)	3.0	ロクロ	白磁						底面に砂目跡
SK3	82	磁器・仏飯器	(4.8)		3.6	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・蛸唐草文?			肥前	18C後半以降	
SK3	83	磁器・仏飯器	5.3	6.0	3.3	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・蛸唐草文			肥前	18C後半以降	
SK3	84	磁器・ままごと 道具(急須)	2.8	1.7	4.6	型打	白磁	外:花・蝶(型打)		底面に布目 痕			反転復元
SK3	85	磁器・瓶	7.3	1.8	2.8	ロクロ	染付・透明釉	外:笹?・梅花?			肥前	19C前半	
SK3	86	磁器・瓶	16.0	2.5	5.8	ロクロ	染付・透明釉	外:鳥・笹・松・鋸歯文?・圏線					
SK3	87	磁器・瓶	(9.8)	(3.5)		ロクロ	白磁						
SK3	88	陶器・瓶	(6.2)		(7.3)	ロクロ	白土・染付・ 透明釉	外:圏線・竹?					反転復元
SK3	89	磁器・戸車	0.8	3.2		ロクロ	透明釉				肥前	18C後半以降	
SK3	90	磁器・器種不 明	(2.5)			不明	染付・透明釉	外:竹					香炉等の脚部? 焼き継ぎ有り
SK3	91	磁器・器種不 明	(4.6)			ロクロ	青磁						
SK3	92	陶器・小坏	4.3	6.8	3.2	ロクロ	銅緑釉						
SK3	93	陶器・擂鉢	7.6	18.8	7.8	ロクロ	鉄釉			糸切り			
SK3	94	陶器・鉢?	5.5	(11.0)	5.4	ロクロ	灰釉?						反転復元 貫入・焼き継ぎ有り
SK3	95	陶器・行平	5.3	9.8	4.1	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り。底面にスス付着
SK3	96	陶器・行平	(6.9)	(14.0)		ロクロ	鉄釉・透明釉	外:飛び鉋					反転復元 内面透明釉
SK3	97	陶器・行平	(10.2)	(20.6)		ロクロ	透明釉				関西系	19C代	反転復元
SK3	98	陶器・蓋	3.2	13.2	つまみ径 2.9	ロクロ	鉄釉	外:圏線			関西系		つまみは低平
SK3	99	陶器・蓋	3.6	12.8	つまみ径 3.7	ロクロ	鉄釉・灰釉?	外:飛び鉋					内面灰釉?
SK3	100	陶器・蓋	(2.3)	(10.4)		ロクロ	鉄釉・白土・灰 釉?	外:飛び鉋・イッチン掛け(白 土)			関西系	18C後半	反転復元 内面透明釉?
SK3	101	陶器・蓋	2.5	9.4	7.4	ロクロ		外:外縁に沈線					つまみは半球状
SK3	102	陶器・蓋	1.6	4.7	2.4	ロクロ	白土・緑釉・ 褐釉・透明釉	外:梅花?		ヘラ切り	関西系	19C代	貫入有り
SK3	103	陶器・蓋	2.2	11.0	3.8	ロクロ	白土・透明釉	外:線状に白土		糸切り	関西系	19C代	つまみは型打の亀

SK3	104	陶器・急須	(6.4)	(4.8)	(5.3)	不明	鉄釉	外:「清光○○○」(鉄釉)					反転復元 注口基部の孔は49個 外面に縦方向の櫛目
SK3	105	陶器・土瓶	(8.3)	(9.7)		ロクロ	白土・鉄釉・透明釉	外:イッチン掛(白土)・梅花？(鉄釉)			関西系	19C代	反転復元
SK3	106	陶器・土瓶	13.0	(12.6)	(11.0)	ロクロ	白土・鉄釉			底面に墨書有り			
	107	欠番											
SK3	108	陶器・土瓶	11.4	(8.8)	7.2	ロクロ	灰釉	外:飛び鉋		底面に墨書有り			注口基部の孔は1つ
SK3	109	陶器・土瓶	6.4	5.4	5.0	型打？	白土・鉄釉・透明・緑釉	外:牡丹？			関西系？	19C以降	体部は輪花状(8弁) 注口基部の孔は2つ
SK3	110	陶器・土瓶	14.7	(12.7)	(10.5)	ロクロ	白土・鉄釉・灰釉	外:イッチン掛(白土)・梅花？(鉄釉)			関西系	19C代	注口基部の孔は3つ
SK3	111	陶器・ままごと道具(急須)	2.6	2.6	2.5	型打？		外:波状文・鹿の子					底面に布目痕
SK3	112	瓦質土器・火鉢	(10.3)	(20.2)		ロクロ		外:海浜風景(型押し)					反転復元 外面ヘラミガキ、内面ヨコハケ・ナデ
SK3	113	陶器・灯明受け皿	2.0	(11.0)	(3.9)	ロクロ	透明釉				関西系	19C代	反転復元 貫入有り
SK3	114	陶器・灯明受け皿	4.7	6.4	4.0	ロクロ	透明釉				関西系	19C代	貫入有り
SK3	115	陶器・器種不明	(1.9)			ロクロ？	二彩(緑・黄)	外:花文？の貼付 内:縦方向に塗分け					口縁と花文に緑釉
SK3	116	陶器・器種不明	(2.7)			型打？	緑釉・透明釉	外:縦方向の隆起線					
SK3	117	瓦器・火鉢	7.3	27.4	24.2	ロクロ		外:凸帯					立面が逆台形の脚3つ有り 外面タテハケ
SK3	118	瓦質土器・甕？	(13.1)			ロクロ							外面タテハケ後ナデ、内面に青海波の叩き
SK3	119	土師質土器・蓋	(1.0)	6.7		手づくね					関西系		平面形は五角形 つまみ有り 内面に布目痕
SK3	120	土師質土器・土瓶	(10.2)	11.1		不明					関西系		体部外面に布目痕 注口基部の孔は9つ
SK3	121	土師質土器・蓋	2.6	16.4	つまみ径 2.9	ロクロ							火消し壺の蓋？ 外面ヨコナデ
SK3	122	土師器(皿)	0.6	7.2	5.8	ロクロ				糸切り			
SK3	123	土師質土器・焜炉の火皿？	1.5	12.2		ロクロ？							中央に2つ、外周に7つの円孔有り
SK3	124	土師質土器・焜炉	19.1	18.3		ロクロ		外:沈線3条					上端部に3つの突起 脚が3カ所
SK3	125	不明土製品	長さ (20.8)	幅 (9.3)	高さ (2.9)								形状はちり取り状
SK3	126	土製品・人形(狛犬？)	(11.6)	幅 10.0		型打							
SK3	129	石製品・砥石	長さ (10.3)	幅 5.4	厚さ 4.5								長軸方向の4面を砥面として使用 石材:凝灰岩？
SK3	130	銅製品・煙管	長さ 3.7	高さ 1.9									重さ5.9g
SK3	131	鉄製品？・器種不明	長さ 4.0	幅 3.7	厚さ 0.3								方形の板状 重さ19.9g
SK3	132	鉄製品・釘？	長さ (8.0)										重さ16.2g
SK3	133	鉄製品・釘	長さ 6.0										重さ5.4g
SK3	134	鉄製品・釘	長さ (5.5)										重さ4.1g
SK3	135	鉄製品・釘	長さ (4.5)										重さ4.6g
SK3・4	136	磁器・碗	4.8	(9.0)	(4.0)	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文・圏線 内:圏線					
SK3・4	137	磁器・碗	6.0	(8.2)	(3.6)	ロクロ	染付・透明釉	外:横シマ 内:横シマ					反転復元
SK3・4	138	磁器・湯飲み	5.4	7.2	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外:植物					反転復元
SK3・4	139	磁器・小坏	5.0	(7.0)	3.0	ロクロ	染付・透明釉	外:千鳥？・圏線					反転復元
SK3・4	140	磁器・小坏	4.1	7.2	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外:？・圏線					高台内側に砂目跡
SK3・4	141	磁器・小坏？	2.5	(6.0)	(2.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:竹？					反転復元
SK3・4	142	磁器・皿	1.4	5.8	2.6	ロクロ	白磁						紅皿？
SK3・4	143	磁器・合子？	1.0	5.0	4.0	ロクロ	白磁						
SK3・4	144	磁器・仏飯器	5.1	6.2	3.8	ロクロ	赤絵・透明釉	外:割菊文			肥前？	18C後半～ 19C前半？	
SK3・4	145	磁器・火入れ	(4.4)		(6.0)	ロクロ	青磁						反転復元
SK3・4	146	磁器・段重	3.4	(5.8)	(5.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:「福壽」・圏線					反転復元
SK3・4	147	磁器・盃洗	12.5	14.4	9.4	ロクロ	染付・透明釉	外:風景・床几・櫛歯文・渦巻文・花文 内:鳥？・草花文			肥前	18C末～19C前半	脚付き
SK3・4	148	磁器・瓶	(9.0)		3.4	ロクロ	染付・透明釉	外:蛸唐草文・圏線			肥前	19C前半	
SK3・4	149	磁器・瓶	(11.5)	3.1		ロクロ	色絵・透明釉	外:草花文					
SK3・4	150	磁器・仏花瓶	10.8	2.0	4.4	ロクロ	染付・透明釉	外:蛸唐草文・圏線			肥前	19C前半	
SK3・4	151	磁器・器種不明	(2.6)			型打	青磁						焼き継ぎ有り
SK3・4	152	陶器・蓋	3.0	6.9	つまみ径 2.3	ロクロ	鉄釉						つまみはボタン状 153の土瓶とセット
SK3・4	153	陶器・土瓶	10.6	8.5	7.1	ロクロ	鉄釉	外:飛び鉋					耳内に繊維質の弦が残存 注口基部の孔は1つ 152の蓋とセット
SK3・4	154	陶器・蓋	(2.4)	10.0		ロクロ	褐釉	外:飛び鉋					反転復元
SK3・4	155	陶器・片口	8.3	19.4	7.9	ロクロ	透明釉			見込に目跡5つ	関西系？		

SK3・4	156	陶器・鍋	(9.2)	17.7		ロクロ	鉄釉			ヘラ切り 見込に目跡5つ残存			反転復元 口縁部外面から内面に鉄釉
SK3・4	157	陶器・片口	11.2	22.0	8.8	ロクロ	透明釉			見込に目跡5つ			
SK3・4	158	陶器・急須	7.1	(7.4)	(8.0)	ロクロ	透明釉	外:雷文(刻印)・布目？		底面に墨書有り	関西系		内面に透明釉
SK3・4	159	陶器・器種不明	(2.2)			型打	緑釉	外:唐草文？					
SK3・4	160	陶器・火入れ	6.2	5.2	5.2	ロクロ	白土・透明釉						高台に切込6つ 貫入有り
SK3・4	161	瓦質土器・甕	(9.0)		(14.0)								内外面ハケ目
SK3・4	162	土師器・皿	1.3	6.6	6.0	ロクロ				糸切り			
SK3・4	163	土師器・甕	(16.6)		21.4	ロクロ					在地？		外面はタテハケ後ナデ、内面は粗いヨコハケ
SK3・4	164	土師質土器・焙烙	6.2	22.9		ロクロ					高村		小さい取手が2つ付く 外面ヘラケズリ、内面ミガキ 内外面ともススが付着
SK3・4	165	土師質土器・焙烙	7.9	34.2		ロクロ					高村		小さい取手が2つ付く 外面ヘラケズリ、内面ミガキ 内外面ともススが付着
SK3・4	166	土師質土器・焙烙？	8.5	42.8		ロクロ							口縁を玉縁状に肥厚させる 内面ナデ 内外面ともススが付着
SK3・4	167	土製品・土錘		長さ 3.4	幅 1.3	手づくね							重さ5.3g
SK3・4	168	土製品・土錘		長さ 5.0	幅 1.9	手づくね							重さ15.8g
SK3・4	169	土製品・人形(帆掛け船)	高さ (2.0)	長さ (4.0)	幅 1.8	型打							緑・茶・黄色で彩色し、透明釉を施す
SK3・4	170	土製品・人形(外輪船)	高さ (4.4)	長さ (11.8)	幅 4.1	型打							下半に波文様
SK3・4	171	土製品・人形(人物)	高さ (5.6)	長さ	幅 (7.1)	型打							天神坐像か 土師質
SK3・4	172	銅製品・煙管		長さ 5.3	幅 0.9								重さ9g
SK3・4	173	銅製品・笄		長さ 10.9	幅 0.9								重さ2.4g
SK3・4	174	銅製品・笄		長さ 17.9	幅 0.9								重さ6g
SK4	175	磁器・碗	6.2	11.3	4.2	ロクロ	染付・透明釉	外:扇・草花文 内:圏線 見込:圏線・？		見込に目跡4つ	肥前	1820～1860年代	端反碗
SK4	176	磁器・碗	6.1	10.5	3.9	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅花・丸 内:圏線 見込:圏線・？			肥前	19C中頃?	反転復元 端反碗
SK4	177	磁器・碗	(2.7)		4.2	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅花？		見込に蛇ノ目釉剥ぎ	肥前	18C後半?	反転復元
SK4	178	磁器・碗	4.8	(8.9)	3.3	ロクロ	染付・透明釉	外:「實」・？ 見込:渦福？			瀬戸美濃	19C代	反転復元 端反碗
SK4	179	磁器・碗	4.0	(8.3)	3.3	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅花・氷裂文 内:圏線・梅花・氷裂文					反転復元 端反碗
SK4	180	磁器・碗	(3.7)		3.2	ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・？ 見込:？					反転復元 釉色は赤・緑・他
SK4	181	磁器・碗	5.6	7.4	3.7	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・葵？・？ 内:圏線			瀬戸美濃？		反転復元
SK4	182	磁器・小坏	3.9	6.5	2.5	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅樹・菊花		「○○○」銘	関西系?	19C代	反転復元
SK4	183	磁器・小坏	4.7	6.5	3.5	ロクロ	染付・透明釉	外:丸文(ススキ)			肥前(波佐見？)	1820～1860年代	
SK4	184	磁器・小坏	4.1	7.0	3.3	ロクロ	染付・透明釉	外:？					
SK4	185	磁器・小坏？	3.7	(6.4)	(2.9)	ロクロ	白磁		口銹				反転復元
SK4	186	磁器・小坏	4.1	6.3	2.7	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・？					
SK4	187	磁器・小坏	2.9	7.1	2.3	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文？					高台に砂目跡
SK4	188	磁器・猪口	3.9	6.8	3.4	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文・圏線					反転復元
SK4	189	磁器・小坏	2.9	6.4	2.8	ロクロ	染付・透明釉	見込:梅花・笹・金泥銘？	口紅		関西系?		
SK4	190	磁器・小坏	2.7	(6.1)	2.8	ロクロ	染付・透明釉	内:山水・帆船					反転復元 器壁が薄い。焼き継ぎ有り。
SK4	191	磁器・小坏	2.6	(5.6)	2.4	ロクロ	染付・透明釉	外:高台に櫛歯文 内:菊・雷文		銘有り			反転復元
SK4	192	磁器・皿	2.1	8.7	3.9	型打	白磁	内:菊花状の隆線文	口銹				輪花皿
SK4	193	磁器・角皿	2.3	8.8	3.8	型打	染付・透明釉	内:？ 見込:鯉の滝登り？					高台は隅丸正方形
SK4	194	磁器・角皿	2.2	7.9	3.8	型打	染付・透明釉	内:? 見込:貝・波・？		見込に目跡3つ	肥前	19C中頃	
SK4	195	磁器・皿	2.0	(8.2)	(5.3)	ロクロ	鉄釉・透明釉						反転復元 外面の全面に鉄釉
SK4	196	磁器・角皿	1.7	7.8	4.8	型打	白磁	内・見込:？(型打)	口銹				口縁・高台の平面形は菱形
SK4	197	磁器・角皿	2.1	8.7	4.3	型打	青磁	内・見込:菊花文(型打)					平面形は六角形の輪花 釉が厚い
SK4	198	磁器・皿	(3.8)			ロクロ	染付・透明釉	外:唐草文 内:龍？・雲			肥前	18C代？	
SK4	199	磁器・紅皿？	1.9	(5.5)	(2.6)	型打	白磁	外:蛸唐草文(型打)			肥前？	1850年代～	反転復元
SK4	200	磁器・蓋	2.0	7.8	つまみ径 3.2	ロクロ	染付・透明釉	外:笛吹童子・牛・圏線 内:圏線・輪宝つなぎ文 見込:麒麟・圏線		銘有り			
SK4	201	磁器・蓋	2.3	(8.9)	つまみ径 4.7	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・？ 内:圏線 見込:十字花・圏線		銘有り	肥前	18C末以降	反転復元
SK4	202	磁器・蓋	2.5	(8.8)	つまみ径 3.4	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文？ 内:圏線・雷文 見込:松竹梅円形・圏線			肥前	1820～1860年代	反転復元
SK4	203	磁器・火入れ	(2.3)	(13.0)		ロクロ	青磁？						反転復元
SK4	204	磁器・仏飯器	5.5	5.9	3.8	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・蛸唐草文			肥前	18C後半以降	
SK4	205	磁器・仏飯器	5.3	5.7	3.6	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・蛸唐草文			肥前	18C後半以降	
SK4	206	磁器・仏飯器	5.3	6.1	3.4	ロクロ	白磁						

SK4	207	磁器・蓋	1.7	5.3		ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・牡丹？			関西系?		つまみは梅花の型打 208の急須とセット
SK4	208	磁器・急須	6.7	5.8	5.9	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・牡丹？・詩歌			関西系?		注口基部の孔は7つ 焼き継ぎ有り 207の蓋とセット
SK4	209	磁器・急須	(5.7)	6.3	5.5	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・鳥・川・「○○造」			関西系?		注口基部の孔は7つ
SK4	210	磁器・瓶	(4.4)			ロクロ	染付・透明釉	外:笹葉			肥前	19C前半	反転復元
SK4	211	磁器・瓶？	(5.9)			ロクロ	青磁						
SK4	212	磁器・瓶	(4.6)	4.0		ロクロ	白磁？						
SK4	213	磁器・蓮華	(2.9)	長さ (7.6)	幅 4.7	型打	染付・透明釉	内:菊					
SK4	214	磁器・筆筒	9.7	4.9		型打	染付・透明釉	外:菊花の透かし(葉の部分に染付)			肥前	19C代	形態は方柱状 四隅に脚がつく
SK4	215	陶器・碗	(4.2)		5.4	ロクロ	陶胎染付	外:圏線・？					反転復元 高台端部に鉄釉
SK4	216	陶器・碗	5.3	(7.8)	(3.4)	ロクロ	白土・鉄釉？・透明釉	外:花？			関西系？		反転復元
SK4	217	陶器・碗？	(1.5)		4.6	ロクロ	白釉？				志野？		反転復元 内面に顕著な貫入
SK4	218	陶器・小坏	3.9	(6.3)	2.1	ロクロ	銅緑釉・灰釉				上野・高取系		内外面に貫入
SK4	219	陶器・小坏	2.6	6.0	2.4	ロクロ	白土						
SK4	220	陶器・鉢？	(9.1)			ロクロ	鉄釉・灰釉	内:？		見込に目跡			外面に灰釉、内面に鉄釉と一部灰釉
SK4	221	陶器・擂鉢	6.5	(18.0)	(6.6)	ロクロ	鉄釉			糸切り			反転復元
SK4	222	陶器・鉢？	(3.5)		6.8	ロクロ	透明釉			見込に目跡 4つ			
SK4	223	陶器・灯明皿	(2.4)	(11.4)	(4.2)	ロクロ	透明釉	内:？(ヘラ描き沈線)		ヘラ切り 見込に目跡			口縁部外面にスス付着
SK4	224	陶器・擂鉢	14.3	(31.4)	(12.1)	ロクロ	鉄釉						反転復元 高台付き
SK4	225	陶器・火入れ	(5.3)	10.0		ロクロ	陶胎染付・鉄釉	外:圏線			肥前	18C後半	反転復元 内面に鉄釉
SK4	226	陶器・植木鉢	12.1	15.8	7.8	ロクロ	鉄釉	外:飛び鉋					底部に円孔 高台の3ヶ所に半円形の抉り
SK4	227	陶器・蓋	3.7	14.0	つまみ径 3.8	ロクロ	鉄釉・白土・透明釉	外:圏線・飛び鉋・イッチン掛け			関西系	18C後半	つまみは高台状
SK4	228	陶器・蓋	3.7	12.0	つまみ径 2.1	ロクロ	鉄釉・白土・灰釉	外:圏線・松葉？(白土)			関西系？		つまみはボタン状 外面に鉄釉、内面に灰釉
SK4	229	陶器・蓋	1.8	9.1	つまみ径 1.6	ロクロ	透明釉	外:三重の沈線			関西系？		つまみは高台状 全面に貫入
SK4	230	陶器・蓋	3.2	5.8	つまみ径 1.6	ロクロ	鉄釉？						つまみはやや扁平な球状
SK4	231	陶器・蓋？	(2.4)			ロクロ	鉄釉	外:圏線、菊花他の円形(貼付)					
SK4	232	陶器・蓋	1.5	6.6	3.4	ロクロ	鉄釉・透明釉			ヘラ切り	関西系？		つまみは小粘土塊を貼付 口縁端部に鉄釉
SK4	233	陶器・蓋	3.6	7.4	つまみ径 2.0	ロクロ	透明釉						つまみはやや扁平な球状 234の土瓶とセット
SK4	234	陶器・土瓶	11.2	8.1	7.0	ロクロ	鉄釉？・白土・透明釉	外:梅花？(白土・鉄釉)					注口基部の孔は3つ 貫入有り。底面にスス付着 233の蓋とセット
SK4	235	陶器・土瓶	(3.9)	().2)		ロクロ	白土・緑釉・鉄釉？・透明釉	外:？	口銹				反転復元
SK4	236	陶器・土瓶	10.4	8.3	7.2	ロクロ	染付・白土・透明釉	外:鳥崩し？(イッチン掛け？)			関西系	18C後半	注口基部の孔は1つ
SK4	237	土師質土器・急須？	(3.6)			手づくね					関西系？		取手
SK4	238	土師質土器・急須？	(4.0)			手づくね					関西系？		取手。上部に「○山」の陰刻有り
SK4	239	陶器・灯明受け皿	1.2	(6.4)	(2.6)	ロクロ	透明釉				関西系？	19C代	内面に透明釉・貫入
SK4	240	陶器・灯明受け皿	3.9	5.9	4.4	ロクロ	透明釉				関西系	19C代	反転復元
SK4	241	陶器・秉燭	7.5	3.7	4.5	ロクロ	鉄釉			糸切り			取手付。注口の切込破片が内部に付着
SK4	242	陶器・鉢	7.9	16.3	7.0	ロクロ	透明釉			見込に目跡 4つ残存			内外面に透明釉
SK4	243	陶器・皿？	(1.1)			ロクロ	緑釉	内:？					底面を除く前面に緑釉
SK4	244	陶器・行平	(12.2)	16.6	5.7	ロクロ	透明釉			ヘラ切り 見込に目跡 3つ			取手は扁平 底部に3ヶ所ボタン状の脚 内外面とも底部にスス付着
SK4	245	陶器・行平	10.2	14.8	6.0	ロクロ	鉄釉・透明釉	外:飛び鉋 取手:？			関西系	18C後半	内面に透明釉
SK4	246	陶器・行平	6.1	10.1	4.6	ロクロ	透明釉	外:「エコ」・「○○」の墨書					取手は扁平。貫入有り。 内外面とも底部にスス付着
SK4	247	陶器・行平？	(5.4)			型打	鉄釉・透明釉	？			関西系	18C後半	248の片口の取手か？
SK4	248	陶器・行平？	(6.9)	(14.6)		ロクロ	鉄釉・わら灰釉？・透明釉	外:飛び鉋			関西系	18C後半	227の蓋とセット？
SK4	249	陶器・鍋	13.5	21.3	7.8	ロクロ	透明釉			見込に目跡 3つ	関西系？		ボタン状の小さい脚が3つ 貫入有り。底面にスス付着
SK4	250	陶器・壺？	(8.4)	(17.6)		ロクロ		外:二重の凹線					内面に青海波の叩き
SK4	251	陶器・器種不明	(13.2)	14.0	14.2	ロクロ	銅緑釉	外:？ 口縁:斜方向の切込					つり手欠損 逆台形の脚が4つ付く
SK4	252	陶器・瓶	(12.6)		6.3	ロクロ	鉄釉・透明釉	外:風景？					反転復元
SK4	253	陶器？・灯明皿	1.4	5.8	2.8	ロクロ	透明釉						口縁部にスス付着 内面に貫入
SK4	254	土師質土器・蓋	3.2	(8.3)		手づくね					関西系		急須の蓋か？ つまみは獅子または犬か？ 表面に布目痕
SK4	255	土師質土器・急須	6.1	(8.5)	8.2	板作り	灰釉	外:口縁に雷文(型押)		布目痕・墨書	関西系		注口基部の孔は7つ 外面に織物の圧痕 内面に灰釉
SK4	256	土師質土器・急須	6.1	7.6	(7.5)	板作り		外:モミジ葉(型押)			関西系		反転復元 注口基部の孔は6つ 注口の外面に布目？圧痕

SK4	257	陶器・急須	(1.8)			ロクロ	白土・透明釉						ままごと道具？
SK4	258	陶器・急須	(1.9)	(3.2)		ロクロ	白土・透明釉	外：？					ままごと道具？
SK4	259	陶器・茶壺？	5.7	(2.8)	3.4	手づくね	白土・透明釉	外：花弁・点(白土)					クロヤデン 内面に「黒屋傳一郎主也」の墨書
SK4	260	土師質土器・こね鉢	12.2	35.2	14.3	ロクロ		外：波状の突帯		ヘラケズリ	高村		口縁外面を肥厚させる 外面ヘラケズリ、内面ミガキ 口縁内面に赤色顔料塗布
SK4	261	土師器・皿	1.2	7.3		ロクロ				糸切り			
SK4	262	土師器・皿	2.2	11.0	7.4	ロクロ				糸切り			
SK4	263	土製品・人形(船)	高さ (2.3)	長さ (5.5)	幅 (1.8)	型打		外：下半に波の文様					表面に銀色の付着物有り
SK4	264	土製品・人形(人物)	(3.3)			型打							人物？の顔面
SK4	265	銅製品？・器種不明	径 3.2	厚さ 0.5									円板状 重さ2.1g
SK4	266	金属製品・用途不明	厚さ 0.4	長さ 3.7	幅 2.8								平面形が縦長の二等辺三角形に近い板状の製品。錫または銅の合金？
SK4	267	銅製品・煙管	長さ 8.7	径 0.7									重さ10.0g
SK4	268	石製品・碁石	径 2.1	厚さ 0.3									黒石 重さ2.3g
SK4	269	石製品・硯	厚さ 0.7	長さ (4.9)	幅 4.5			裏面に線刻による文字					平面形が長方形 石材：淡灰紫色凝灰岩
SK4	271	木製品・蓋	長さ (17.6)	幅 26.4	厚さ 0.7								方形の板状 全面に黒色の漆を塗布 樹種：不明
SK4	272	木製品・底板？	径 (26.0)		厚さ 0.9								曲げ物の底板か 樹種：スギ？
SK4	273	木製品・箸	長さ (13.1)		太さ 0.55								樹種：不明
SK4	274	木製品・建築部材？	長さ 10.5	幅 2.3	厚さ 4.8								敷居？ 樹種：スギまたはヒノキか
SK5	275	磁器・碗	4.7	9.0	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外：？・圏線 内：？					
SK5	276	磁器・碗	(2.6)		(4.6)	ロクロ	色絵・透明釉	外：？・圏線					反転復元 焼き継ぎ有り
SK5	277	磁器・小坏	2.9	4.8	2.9	型打	染付	外：草花文 内：草花文					
SK5	278	磁器・小坏	4.3	(7.1)	(3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外：？・圏線					反転復元
SK5	279	磁器・小坏	(4.0)	(6.2)		ロクロ	染付・透明釉	外：帆掛け船・櫛歯文・圏線 内：雷文・圏線					反転復元
SK5	280	磁器・猪口	3.5	(5.5)	(3.0)	ロクロ	染付・透明釉	外：呉須の班点 内：呉須の班点					反転復元
SK5	281	磁器・段重	4.8	(11.8)	(10.6)	ロクロ	色絵・透明釉	外：横しま					反転復元
SK5	282	磁器・急須	5.2	(6.4)	(6.0)	ロクロ	染付・透明釉	外：梅樹・圏線					反転復元 注口基部の孔は7つ
SK5	283	陶器・土瓶	9.5	8.6	7.4	ロクロ	白土・灰釉	外：梅花	流し掛け				注口基部の孔は3つ
SK5	284	陶器・蓋	2.9	(13.4)		ロクロ	透明釉	外：圏線(沈線)					反転復元 貫入有り
SK5	285	陶器・蓋	1.5	8.5	3.1	ロクロ	白土・透明釉	外：亀のつまみ		糸切り	関西系	19C代？	
SK5	286	土師質土器・火消し壺？	(8.0)			ロクロ							内面スス付着
SK5	287	土師質土器・焙烙	(4.4)	(24.2)		ロクロ							反転復元 内面ナデ、外面ヘラケズリ 内面スス付着
SK5	288	土師質土器・こね鉢	(12.6)	(47.2)	(19.4)	ロクロ		外：突帯		底面に突帯			反転復元 内面ヘラミガキ・丹塗、外面ナデ・ヘラケズリ
SK5	289	土師器・皿	1.3	(8.4)	(6.4)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK5	290	鉄製品・小刀？	長さ (10.8)	幅 (2.3)	厚さ 0.7								重さ31g
SK6	291	磁器・ソバ猪口	(6.3)	(9.2)	(6.1)	ロクロ	白磁						反転復元
SK6	292	陶器・碗	(4.5)	(11.4)		ロクロ	白土・染付・透明釉	外：草文					反転復元
SK6	293	土師器・皿	1.3	7.1	5.3	ロクロ				糸切り			
SK6	294	土師器・皿	(1.4)	(8.2)	(7.0)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK6	295	陶器・蓋	1.9	5.2		ロクロ	透明釉			糸切り			
SK6	296	銅銭・寛永通寶	径 2.3	厚さ 0.15									重さ4g
SK7	297	陶器・碗	(3.6)			ロクロ	白土・透明釉	外：刷毛目 内：刷毛目		見込に目跡		17世紀代？	反転復元
SK7	298	土師器・皿	1.2	9.0	7.4	ロクロ				糸切り			
SK8	299	磁器？・碗	(4.0)	(8.4)		ロクロ	染付・透明釉	外：網目・丸文(花)			肥前	1710～1750年代	反転復元
SK8	300	磁器・ソバ猪口	5.6	7.4	3.9	ロクロ	白磁						反転復元
SK9	301	磁器・碗	4.9	(10.2)	4.1	ロクロ	染付・透明釉	外：氷裂文					反転復元
SK9	302	磁器・碗	(2.1)		4.5	ロクロ	染付・透明釉	外：丸文・氷裂文			肥前	18C代	
SK9	303	磁器・瓶	(4.8)		(6.6)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線					
SK9	304	陶器・碗	5.5	(10.0)	4.0	ロクロ	灰釉・透明釉	外：流し掛け			高取系?		
SK9	305	陶器・碗	5.9	10.4	3.8	ロクロ	灰釉？	外：流し掛け					貫入有り ゆがみ有り
SK9	306	陶器・皿	1.9	11.0		ロクロ	？						
SK9	307	陶器・花瓶？	(6.4)			型打	染付・灰釉？	外：？(型打)					平面四角形
SK9	308	陶器・擂鉢	(6.9)			ロクロ							口縁外側面に2条の凹線
SK9	309	土師器・皿	1.3	9.2	8.0	ロクロ				糸切り			
SK9	310	土師器・皿	1.5	9.0	6.8	ロクロ				糸切り			スス付着
SK9	311	土師器・皿	1.5	(9.2)	7.1	ロクロ				糸切り			反転復元
SK10	312	磁器・小杯	(4.8)			ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・草花文？					

SK10	313	土師質土器・片口	(6.1)	(29.2)		ロクロ							反転復元 内外面ともヘラケズリ・ナデ
SK11	314	磁器・小坏	3.3	6.6	2.5	ロクロ	染付・透明釉	外：草文					見込に白色泥付着
SK11	315	陶器・擂鉢	(8.3)			ロクロ	鉄釉						口縁外側面に4条の凹線
SK12	316	磁器・湯飲み	6.7	(7.4)	(4.2)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・松・竹・草文 内：圏線・四方襷文 見込：五弁花	コンニャク印判		肥前	1740～1780年代	反転復元
SK12	317	磁器・皿	4.1	(15.2)	(9.0)	ロクロ	染付・透明釉	外：花唐草文 内：草花文 見込：五弁花	コンニャク印判	渦福	肥前	1680～1710年代	反転復元
SK12	318	磁器・皿	4.1	(27.4)	(15.4)	ロクロ	染付・透明釉	外：花唐草文 内：唐草文			肥前	18C代	反転復元
SK12	319	磁器・鉢？	(2.9)		(13.0)	ロクロ	染付・透明釉	外：花唐草文 内・見込：風景		渦福	肥前	18C代	反転復元
SK12	320	磁器・鉢	9.4	(21.4)	(9.6)	型打？	青磁・染付	見込：？・圏線					反転復元 口縁は細かい輪花
SK12	321	磁器・火入れ？	(5.4)		(8.7)	ロクロ	青磁						蛇ノ目凹型高台
SK12	322	磁器・鉢	(5.3)		6.4	ロクロ	染付・透明釉	外：草花文 見込：草花文					
SK12	323	陶器・碗	5.7	(9.6)	4.9	ロクロ	灰釉・鉄釉？	外：流し掛け（灰釉）					反転復元 貫入有り
SK12	324	陶器・碗	(1.6)		4.6	ロクロ	透明釉	内：梅花					貫入有り
SK12	325	陶器・碗	(2.6)		4.5	ロクロ	白土・灰釉	外：刷毛目 内：刷毛目			肥前	17C後半？	反転復元
SK12	326	陶器・湯飲み	(6.0)	(8.2)		ロクロ	灰釉						反転復元 貫入有り
SK12	327	陶器・鉢？	(4.6)		13.0	ロクロ	白土・鉄釉	外：刷毛目 内：刷毛目			肥前	17C後半？	反転復元 見込と高台端部に胎土目跡
SK12	328	土師質土器・焜炉	(5.7)	(23.4)		ロクロ							反転復元 口縁にスス付着
SK12	329	土製品？	(3.5)										上端部に孔
SK13	330	磁器・碗	(3.4)		4.4	ロクロ	染付・透明釉	外：？		見込は蛇ノ目釉剥ぎ			反転復元 高台側面に砂目跡
SK13	331	磁器・碗	(2.3)		3.2	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線					反転復元
SK13	332	磁器・小杯	(2.5)		(7.0)	ロクロ	白磁						反転復元
SK13	333	陶器・鉢	(2.8)			ロクロ	灰釉	内：蓮弁					
SK13	334	陶器・器種不明	(2.0)		2.6	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SK14	335	磁器・碗	6.0	(11.0)	(4.7)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・草花文・櫛歯文 内：四方襷文 見込：草花文			肥前	1740-1780年代	
SK14	336	磁器・碗	6.0	(8.9)	(3.6)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・唐草（藤？） 内：四方襷文 見込：？			肥前	18C後半?	反転復元
SK14	337	磁器・碗	5.1	(9.6)	3.7	ロクロ	染付・透明釉	外：草木文		銘？有り	肥前	18C後半?	反転復元 くらわんか手・貫入有り
SK14	338	磁器・碗	(4.4)	(9.2)		ロクロ	青磁						反転復元・平形碗？
SK14	339	磁器・皿	3.8	(14.4)	8.8	ロクロ	染付・透明釉	外：唐草文 内：梅花・草木文 見込：松竹梅円形			肥前	1740-1780年代？	口縁は輪花 蛇ノ目凹型高台 外底部に目跡
SK14	340	磁器・器種不明	(2.4)	長さ (4.1)		型打	染付・透明釉	外：蛸唐草文					注口部？
SK14	341	磁器・器種不明	(6.5)	5.3		ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・桐					反転復元
SK14	342	磁器・鉢？	(4.1)			ロクロ	青磁						蛇ノ目凹型高台
SK14	343	陶器・碗	6.1	11.4	4.8	ロクロ	灰釉？		口銹				
SK14	344	陶器・土瓶	(7.1)	(8.5)		ロクロ	白土・鉄釉	外：草文（笹？）			関西系	18C後半以降	反転復元
SK14	345	陶器・徳利	(14.1)		9.4	ロクロ	白土・透明釉	外：白土の掛流し・沈線			高取系?	18C後半以降	反転復元
SK14	346	陶器・擂鉢	(10.8)			ロクロ							口縁外側面に2条の凹線
SK14	347	陶器・鉢	9.2	(23.0)	(8.4)	ロクロ	白土・透明釉	外：刷毛目 内：刷毛目		見込に目跡			反転復元
SK14	348	陶器・徳利	(14.9)		7.5	ロクロ	鉄釉	外：櫛目・大黒天（貼付）		分銅形の刻印	高取系（上の原窯跡）	17C末～18C前半	一部反転復元
SK14	349	土師質土器・焜炉	(22.5)	(29.8)	(27.9)	ロクロ		外：花唐草文(型押)					反転復元 外面ミガキ、内面ナデ
SK15	350	磁器・碗	7.0	(12.0)	(8.1)	ロクロ	染付・透明釉	外：中国童子・圏線 内：圏線 見込：圏線			肥前	1780～1810年代	反転復元 広東碗・貫入有り
SK15	351	磁器・碗	(4.6)		(4.2)	ロクロ	染付・透明釉	外：丸文（ススキ）・圏線			肥前	18C後半?	反転復元
SK15	352	磁器・皿	(1.5)			ロクロ	染付・透明釉	外：草花文 内：草花文					
SK15	353	陶器・碗	(2.0)			ロクロ	鉄釉・透明釉	内：風景					
SK15	354	陶器・碗	6.5			ロクロ	白土・透明釉	外：波状文（刷毛目）			唐津系(現川)	18C前半	
SK15	355	土師器・皿	2.0	10.6	7.8	ロクロ				糸切り			
SK15	356	磁器・皿	(3.3)	(21.4)		ロクロ	染付・透明釉	外：唐草文 内：草花文			肥前	1700～1740年代	反転復元 口縁は8弁の輪花・貫入有り
SK15	357	磁器・蓋	3.9	10.4	つまみ径 3.8	ロクロ	染付・透明釉	外：草花文・圏線		「〇老〇製」銘			
SK15	358	磁器・猪口	(2.9)		4.4	ロクロ	染付・透明釉	外：？・圏線		「大明年製」銘	肥前	1690～1780年代	反転復元
SK15	359	磁器・仏花瓶	(3.2)		(7.4)	ロクロ	青磁				肥前	1650～1690年代？	反転復元
SK15	360	磁器・香炉	(2.5)			ロクロ	青磁						脚部・貫入有り
SK15	361	陶器・瓶	(8.0)		4.8	ロクロ	灰釉						取手欠損
SK15	362	土師器・皿	1.3	(8.4)	(6.6)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK15	363	土師器・皿	1.2	7.8	5.7	ロクロ				糸切り			
SK15	364	瓦質土器・火鉢	(12.2)			ロクロ？							獅子形(型押)の脚部 内側に刺突孔有り
SK16	365	磁器・皿	3.3	(14.4)	5.1	型打	青磁	見込：紗彩文（型打）			肥前	1640年代頃	反転復元・輪花皿 高台内側に砂目跡
SK16	366	磁器・蓋	3.1	(9.8)		ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・草花文			肥前	17C後半?	反転復元・焼き継ぎ？
SK16	367	磁器・瓶	(4.5)	3.3		ロクロ	白磁						反転復元

SK16	368	陶器・碗	8.7	(12.6)	5.2	ロクロ	透明釉						反転復元 高台に切込有り
SK16	369	陶器・碗	(3.9)		5.3	ロクロ	灰茶色の釉						反転復元・貫入有り
SK16	370	陶器・鉢	9.4	(25.1)	11.1	ロクロ	鉄釉・白土・ 透明釉	外:波状文(刷毛目)					反転復元 高台に胎土目跡6つ
SK16	371	陶器・壷？	(6.9)		(6.5)	ロクロ	灰釉・白土？・ 透明釉	外:波状文(刷毛目)					反転復元
SK16	372	陶器・鉢	(6.5)		(14.2)	ロクロ	鉄釉・白土・ 透明釉	内:波状文・同心円文(白土)		見込に砂目 跡	肥前		反転復元
SK16	373	陶器・鉢	(6.3)			ロクロ	銅緑釉・ 透明釉						
SK16	374	土師器・皿	1.8	10.4	7.5	ロクロ				糸切り			
SK16	375	土師器・皿	1.5	(10.8)	8.0	ロクロ				糸切り			反転復元
SK16	376	土師器・皿	1.9	10.4	7.7	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK16	377	土師器・皿	2.1	(9.4)	(8.0)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK16	378	土製品・人形 (舟)	(1.5)	長さ (4.0)	幅 (2.8)	型打							
SK16	379	土製品・土錘	長さ (3.3)	径 1.1		手づくね							重さ4.8g
SK16	380	土製品・土錘	長さ (2.9)	径 1.2		手づくね							重さ4.9g
SK16	384	鉄製品・釘?	長さ (8.6)										重さ16.9g
SK16	385	鉄製品・釘?	長さ (7.6)										重さ12.5g
SK16	386	銅製品・器種 不明	長さ (6.3)	幅 (5.5)	厚さ 0.1								方形の平面で円孔5つ有り 重さ20.7g
SK16	387	銅製品・煙管	長さ 4.5+6.4										重さ4.7g+2.7g
SK17	388	銅銭・元豊通 寶	径 2.4	厚さ 0.15									重さ2.0g
SK18	389	磁器・碗	5.3	(9.8)	(4.2)	ロクロ	染付・透明釉	外:二重網目・圏線 内:一重網目・圏線 見込:菊花文・圏線		銘有り	肥前	18C前半	反転復元
SK18	390	磁器・碗	(4.4)		4.6	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文？		「大明年製」	肥前	1690～1780年 代	
SK18	391	磁器・碗	1.6		2.8	ロクロ	染付・透明釉	外:菊花文 見込:菊花文			肥前	1810年代頃	
SK18	392	磁器・碗	(3.3)		(4.0)	ロクロ	色絵・透明釉	外:松・笹・花・櫛歯文？		銘有り			反転復元
SK18	393	磁器・碗	5.3	(10.2)	3.8	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・動物？・草木文 内:圏線 見込:？					
SK18	394	磁器・碗	(2.2)		(4.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:雪輪文・？		渦福	肥前	18C代前半？	反転復元
SK18	395	磁器・碗	(4.5)		(4.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:？					
SK18	396	磁器・碗	6.0	(10.8)	4.6	ロクロ	染付・透明釉	外:梅樹 見込:花文？		見込は蛇ノ 目釉剥ぎ	肥前 (波佐見)	1680～1770年 代	
SK18	397	磁器・碗	5.3	(10.2)	(4.6)	ロクロ	染付・透明釉	外:草木文			肥前	18C前半?	反転復元
SK18	398	磁器・小杯	3.2	(6.4)	3.4	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文					反転復元
SK18	399	磁器・小杯	(1.8)		2.6	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文 見込:花文？					
SK18	400	磁器・猪口	(3.3)			ロクロ	白磁						貫入有り
SK18	401	磁器・皿	1.8	(9.0)	3.1	型打	白磁	内:草木(型打)					口縁は輪花
SK18	402	磁器・鉢	9.7	(31.6)	(15.0)	ロクロ	染付・透明釉	外:花唐草文 内:蛸唐草文 見込:草花文		銘有り	肥前	18C代	反転復元
SK18	403	磁器・鉢	8.4	(15.6)	8.4	ロクロ	染付・透明釉	外:草木文 見込:五弁花	コンニャク 印判	「大明年製」	肥前	18C代	反転復元
SK18	404	磁器・器種不 明	(3.5)			ロクロ	染付・透明釉	外:蛸唐草文					
SK18	405	磁器・器種不 明	7.1	(5.1)	5.0	ロクロ	青磁	外:縦方向の凹線					反転復元
SK18	406	磁器・火入れ	(3.0)	(8.0)		ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・風景					
SK18	407	陶器・碗	82.0	(11.0)	(5.2)	ロクロ	陶胎染付・ 鉄釉・透明釉	外:圏線・唐草文・風景？			肥前系	18C前半?	反転復元 高台端部に鉄釉
SK18	408	陶器・碗	(4.9)		5.0	ロクロ	鉄釉	外:？			小石原系?	18C前半?	
SK18	409	陶器・碗	(2.5)		5.0	ロクロ	白土？・ 透明釉						
SK18	410	陶器・碗	(5.4)			ロクロ	鉄釉						天目碗？
SK18	411	陶器・皿	3.3	(11.8)	4.1	ロクロ	銅緑釉・ 透明釉			見込は蛇ノ 目釉剥ぎ			
SK18	412	陶器・擂鉢	(9.0)			ロクロ	鉄釉						口縁端部を外方に折り曲げ、 鉄釉を塗布
SK18	413	陶器・擂鉢	13.6	(35.3)	(16.0)	ロクロ							口縁外側面に2条の凹線
SK18	414	陶器・擂鉢	(6.1)			ロクロ							口縁端部を内方に折り曲げる
SK18	415	土師質土器・ 焙烙	(9.1)	(34.0)		ロクロ					高村		反転復元 外面ヘラケズリ、内面ナデ？
SK18	416	土師質土器・ 片口	(4.6)			ロクロ							
SK18	417	土師器・皿	1.6	8.8	6.6	ロクロ				ヘラ切り			口縁部にスス付着
SK18	418	土師器・皿	1.5	8.6	6.3	ロクロ				糸切り			
SK18	419	土師器・皿	1.1	(7.6)	(5.6)	ロクロ				糸切り			反転復元 口縁部にスス付着
SK18	420	土師器・皿	1.5	9.2	6.6	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK18	421	土師器・皿	2.2	10.9	8.1	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK18	422	磁器・碗	(7.1)	(10.3)	(5.1)	ロクロ	白磁		口銹				反転復元
SK18	423	土製品・人形 (僧)	高さ (8.2)	幅 5.0	厚さ (2.3)	型打							中央に深い孔有り
SK18	424	石製品・砥石	長さ (4.8)	幅 5.0	厚さ (1.1)								石材:泥岩？(天草石？) 重さ39.6g
SK18	425	石製品・砥石	長さ (5.9)	幅 (3.6)	厚さ (0.8)								石材:泥岩？(天草石？) 重さ32.3g
SK18	426	鉄製品・器種 不明	長さ (14.5)	幅 6.0	高さ (6.2)								火のし？ 重さ266.8g

SK19	427	磁器・蓋	(0.9)	(5.6)		ロクロ	白磁						反転復元
SK19	428	陶器・皿？	(1.8)		(4.8)	ロクロ	灰釉			見込に砂目跡		17C代	反転復元
SK20	429	磁器・碗	5.4	9.9	5.0	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・桐	コンニャク印判		肥前	18C前半	
SK20	430	磁器・碗	5.0	10.0	4.3	ロクロ	染付・透明釉	外：網目文			肥前	18C前半?	反転復元
SK20	431	磁器・猪口	2.6	(4.2)	(2.5)	ロクロ	白磁						反転復元
SK20	432	陶器・碗	6.7	(10.0)	(5.7)	ロクロ	灰釉？						反転復元
SK20	433	土師器・皿	1.4	(7.4)	(5.8)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK20	434	土師器・皿	1.9	(8.5)	6.0	ロクロ				糸切り			底部に孔有り
SK21	435	磁器・碗	5.8	(8.6)	(3.1)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・松・竹・梅 内：圏線・四方襷文 見込：五弁花			肥前	18C後半?	反転復元
SK21	436	磁器・碗	(4.7)		(4.2)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・「壽」崩し 内：圏線・四方襷文？ 見込：「壽」			肥前	1770～1780年代	反転復元
SK21	437	磁器・小杯	4.0	7.7	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・草花文・鳥文			肥前（波佐見）	1680～1770年代	
SK21	438	磁器・小杯	5.3	(8.7)	3.2	ロクロ	青磁						
SK21	439	磁器・小杯	(3.5)			ロクロ	色絵・透明釉	外：布袋？					
SK21	440	磁器・小杯	4.2	8.4	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・菊花文	コンニャク印判		肥前	18C前半	
SK21	441	磁器・猪口	3.8	(4.5)	2.3	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・壽字文 内：圏線 見込：壽字文			肥前	18C後半	反転復元
SK21	442	磁器・皿	(2.8)	(22.0)		ロクロ	染付・透明釉	外：草木文 内：草木文			肥前	18C後半?	反転復元
SK21	443	磁器・皿	3.0	(11.0)	(6.6)	型打	染付・透明釉	外：唐草文 内：？	口銹	「太明年製」			角皿
SK21	444	磁器・皿	(0.8)			型打	染付・透明釉	内：？					角皿・高台は菱形
SK21	445	磁器・蓋	2.9	10.0	つまみ径4.2	ロクロ	染付・透明釉	外：植物 見込：松竹梅円形			肥前	18C後半?	
SK21	446	磁器・火入れ	7.8	(9.3)	(7.6)	ロクロ	青磁						反転復元 蛇ノ目凹型高台
SK21	447	磁器・火入れ	7.9	(10.1)	(7.2)	ロクロ	青磁	外：縦方向の凹線					反転復元 蛇ノ目凹型高台
SK21	448	陶器・碗	5.5	(10.0)	(3.6)	ロクロ	透明釉						反転復元・貫入有り
SK21	449	陶器・碗	(6.0)			ロクロ	鉄釉・ ワラ灰釉？	外：流し掛け（ワラ灰釉？） 内：流し掛け（ワラ灰釉？）			高取系		
SK21	450	陶器・小坏	4.0	7.1	2.8	ロクロ	鉄釉？・ 透明釉	外：？					反転復元
SK21	451	陶器・碗	5.2	(8.2)	(3.0)	ロクロ	透明釉						反転復元
SK21	452	陶器・皿	1.2	(8.0)		ロクロ							反転復元 口縁部にスス付着
SK21	453	陶器・碗	(1.9)			ロクロ	陶胎染付・ 透明釉	外：圏線・? 見込：圏線・五弁花					
SK21	454	陶器・蓋	(2.0)	(10.0)		ロクロ	鉄釉・灰釉	外：笹					反転復元
SK21	455	陶器・皿	5.4	20.0	8.0	ロクロ	白土・ワラ灰釉	内：刷毛目		見込は蛇ノ目釉剥ぎ	肥前	1690～1780年代	
SK21	456	陶器・鉢	(9.0)		(8.6)	ロクロ	白土・鉄釉・ 透明釉	内：刷毛目			肥前		反転復元
SK21	457	陶器・鉢	(6.9)		(14.0)	ロクロ	白土	内：刷毛目		見込に重ね焼き痕	唐津	18C前半	反転復元
SK21	458	陶器・擂鉢	(10.9)	(31.0)		ロクロ	透明釉？				関西系（堺？）		口縁外側面に2条の凹線
SK21	459	土師質土器・片口	(7.2)			ロクロ					高村		外面ヘラケズリ、内面ミガキ
SK21	460	土師器・皿	1.3	7.1	5.0	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK21	461	土師器・皿	1.1	7.8	5.8	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK21	462	土師器・皿	1.7	8.9	6.0	ロクロ							口縁部にスス付着
SK21	463	土製品・土錘	長さ(4.6)	径1.2									重さ6.7g
SK21	464	土製品・紡錘車？	1.4	4.8	6.0	ロクロ							断面台形
SK21	465	石製品・碁石	長径2.0	厚さ0.45									黒石 重さ3.0g
SK21	466	鉄製品・釘?	長さ(6.7)										重さ6.2g
SK21	467	銅製品・煙管	長さ(4.4)										重さ2.8g
SK22	468	磁器・小杯	(3.4)	(8.4)		ロクロ	染付・透明釉	外：草花文？					反転復元
SK22	469	磁器・器種不明	(4.0)	(11.1)		ロクロ	染付・透明釉	外：草木文				1780～1810年代？	反転復元
SK22	470	磁器・蓋	(1.7)	(8.0)		ロクロ	染付・透明釉	外：花唐草文 内：四方襷文			肥前	19C代	反転復元
SK22	471	陶器・碗	(5.7)			ロクロ	鉄釉						天目碗？
SK22	472	陶器・碗	(5.5)	(8.3)		ロクロ	透明釉						反転復元
SK22	473	陶器・碗	(1.7)		4.4	ロクロ	白土・黒色釉・ 透明釉	外：？ 内：流し掛け（白土）					底面に渦巻き状の彫り込み
SK22	474	陶器・猪口	4.6	6.0	3.2	ロクロ	褐色釉・ 透明釉	外：鶴？			萩？		高台の3ヶ所に切込 底面に渦巻き状の彫り込み
SK22	475	陶器・皿	3.6	(12.7)	(3.9)	ロクロ	白土・灰釉			見込は蛇ノ目釉剥ぎ			反転復元
SK22	476	土師器・皿	1.7	8.6	(6.4)	ロクロ				糸切り			スス付着
SK22	477	土師質土器・器種不明	6.0	長さ24.6	幅17.1	手びねり							ちりとり形
SK22	478	土師質土器・焜炉	(10.0)	(28.0)		ロクロ							反転復元 スス付着
SK23	479	磁器・皿	3.5			ロクロ	染付・透明釉	外：唐草文 内：風景			肥前	1680～1740年代	
SK23	480	陶器・秉燭	5.5	3.5	3.6	ロクロ	ワラ灰釉？			糸切り			
SK23	481	土師質土器・焙烙？	(6.9)			ロクロ							外面ヘラケズリ、内面ミガキ スス付着
SK24	482	磁器・碗	5.0	9.6	3.6	ロクロ	染付・透明釉	外：蝙蝠・雲 見込：龍			肥前	18C前半	

SK24	483	磁器・碗	(5.2)	(11.0)	(4.6)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文		見込に蛇ノ目釉剥ぎ			反転復元 貫入有り
SK24	484	磁器・碗	5.7	(10.4)	(4.2)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文 内:圏線・青海波 見込:?・圏線					反転復元 端反碗
SK24	485	磁器・碗	5.5	(10.5)	(4.2)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・柘榴の花 内:圏線・鎖つなぎ 見込:圏線			肥前	1820～1860年代	反転復元 焼き継ぎ有り
SK24	486	磁器・碗	6.2	(11.0)	4.4	ロクロ	染付・透明釉	外:丸文(ススキ) 内:圏線 見込:?・圏線			肥前	1850～1860年代	209と同じ文様
SK24	487	磁器・碗	(5.2)	(11.0)		ロクロ	染付・透明釉	外:蛸唐草文・櫛歯文・圏線 内:四方襷文・圏線			肥前	19C前半	反転復元
SK24	488	磁器・碗	5.2	10.8	3.8	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文 内:圏線 見込:?・圏線					端反碗
SK24	489	磁器・碗	5.7	(10.4)	(4.2)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文 内:圏線 見込:圏線					反転復元
SK24	490	磁器・碗	5.2	(10.2)	4.2	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・二重格子 内:圏線・二重格子 見込:圏線			肥前(波佐見)	1820～1860年代	反転復元
SK24	491	磁器・碗	(4.7)	(9.2)	3.4	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅花 見込:?					端反碗
SK24	492	磁器・碗	4.2	8.4	3.6	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・花文 内:圏線 見込:?・圏線					端反碗
SK24	493	磁器・碗	4.6	(8.4)	(3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅花・氷裂文 内:圏線・梅花・氷裂文					反転復元 端反碗
SK24	494	磁器・碗	4.3	(7.0)	(3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・葵 内:圏線			瀬戸美濃?		反転復元 貫入有り
SK24	495	磁器・碗	4.2	(8.4)	(2.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:?	口銹				反転復元 端反碗
SK24	496	磁器・碗	4.1	(7.8)	(3.2)	ロクロ	白磁	見込:「壽」(型押)			瀬戸美濃?	1855～	反転復元
SK24	497	磁器・碗	(5.0)	(8.4)	3.8	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文?・櫛歯文・圏線 見込:花文?		底面に銘有り	肥前	1740～1780年代	
SK24	498	磁器・碗	4.8	9.5	4.8	ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・源氏香文・草花文 見込:?			肥前	1810～1860年代	端反碗 釉色は朱・青・金色
SK24	499	磁器・碗	(4.4)	(8.6)	(4.0)	ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・花文 見込:?			肥前	1810～1860年代	端反碗 釉色は朱・金色
SK24	500	磁器・碗	(4.4)	(8.7)	(4.8)	ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・「壽」・花文					反転復元 器壁が薄手 釉色は朱・青・金色
SK24	501	磁器・碗	4.1	8.2	(3.4)	ロクロ	赤絵・透明釉	外:「○に　大坂　常」					反転復元 端反碗
SK24	502	磁器・湯飲み	5.8	6.8	3.3	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・菊花文?・唐草文					
SK24	503	磁器・湯飲み	4.9	(6.4)	(3.0)	ロクロ	染付・透明釉	外:丸文(ススキ)			肥前	19C代	反転復元 高台に砂目跡
SK24	504	磁器・小杯	3.7	(6.8)	(2.5)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文		底面に銘有り	関西系?		反転復元
SK24	505	磁器・小杯	(3.4)	(6.8)		ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・詩歌					反転復元 詩歌は蘇軾の後赤壁賦
SK24	506	磁器・小杯	3.7	(7.5)	(3.0)	ロクロ	白磁						反転復元
SK24	507	磁器・小杯	3.5	(6.6)	(2.6)	ロクロ	染付・透明釉	外:?					反転復元
SK24	508	磁器・小杯	(3.3)	(6.8)	(3.5)	ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・雲・?					反転復元 釉色は朱・金色
SK24	509	磁器・小坏	2.7	5.6	2.8	ロクロ	赤絵・透明釉	外:草花文?					
SK24	510	磁器・小杯	2.8	(5.6)	(2.4)	ロクロ	染付・透明釉	見込:鯉の滝登り	口銹				反転復元
SK24	511	磁器・小杯	(2.2)	(6.2)		ロクロ	赤絵・透明釉	外:?・圏線					反転復元
SK24	512	磁器・小杯	2.6	5.8	2.6	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文?					
SK24	513	磁器・小杯	3.5	5.8	2.6	ロクロ	色絵・透明釉	外:圏線・唐草?・花弁					釉の色は黒・朱・黄・金・青色
SK24	514	磁器・皿	3.4	12.2	7.1	型打	染付・透明釉	外:? 見込:巻物・梅樹		見込に目跡3つ	肥前	18C末～19C前半	輪花皿。蛇ノ目凹型高台 外底面に砂目跡
SK24	515	磁器・皿	3.4	(12.4)	7.2	型打	白磁		口銹	見込に目跡4つ			反転復元 菊花皿。蛇ノ目凹型高台
SK24	516	磁器・碗	(2.7)		4.4	ロクロ	染付・透明釉	外:かぶ 見込:かぶ			朝妻	18C前半	
SK24	517	磁器・皿	2.5	(8.0)	4.4	ロクロ	染付・透明釉	外:? 見込:蝶・丸文	口銹(染付)				反転復元
SK24	518	磁器・皿	2.6	9.4	5.2	型打	染付・透明釉	見込:風景			肥前	1780～1860年代	輪花皿
SK24	519	磁器・紅皿	1.2	(4.0)		型打	白磁	外:花弁?(型押)					反転復元
SK24	520	磁器・角皿	2.3	(9.9)	(7.0)	型打	染付・透明釉	外:蝙蝠 内:圏線 口縁:櫛歯文					平面形は方形
SK24	521	磁器・皿	4.7	(11.8)		型打	青磁	内:亀甲文					亀形の皿(頭・足付き)
SK24	522	磁器・鉢	6.5	(16.0)	(8.4)	型打	染付・透明釉	外:風景・櫛歯文 内:雷文・丸文(ススキ)・松 見込:?					反転復元 八角皿・蛇ノ目凹型高台 底面に砂目跡有り
SK24	523	磁器・鉢?	(3.3)	(12.0)		ロクロ	染付・透明釉	外:窓絵(鶏) 内:七宝文・圏線					反転復元
SK24	524	磁器・鉢	(3.9)		(9.9)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文? 内:植物?・圏線			肥前	18C後半～19C前半	反転復元 蛇ノ目凹型高台
SK24	525	磁器・蓋	3.2	9.1	つまみ径3.6	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・梅花・氷裂文 内:雷文・圏線 見込:松竹梅円形・圏線		銘有り	肥前	1820～1860年代	
SK24	526	磁器・蓋	2.6	8.2	つまみ径3.3	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・ねじり花? 内:圏線 見込:?・圏線					焼き継ぎ有り
SK24	527	磁器・蓋	(2.9)	(9.3)	つまみ径3.4	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・丸文(ススキ) 内:圏線			肥前	1850～1860年代	反転復元 486とセットか
SK24	528	磁器・蓋	(1.3)	(4.9)		ロクロ	瑠璃釉?・透明釉	外:丸文					反転復元 口縁部に赤色顔料?付着
SK24	529	磁器・蓋	(1.4)	(5.6)		ロクロ	染付・透明釉	外:花					反転復元 焼き継ぎ有り
SK24	530	磁器・蓋	(0.7)	(5.5)		ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・「○楽年製」・銘?					反転復元
SK24	531	磁器・蓋	(2.6)			ロクロ	染付・透明釉	外:蛸唐草・花文・圏線			肥前	1780～1860年代	段重の蓋? 焼き継ぎ有り

SK24	532	磁器・蓋	3.8	(11.6)		ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・蝶・牡丹					段重の蓋？
SK24	533	磁器・合子？	1.7	(6.0)	(5.4)	ロクロ	白磁						反転復元
SK24	534	磁器・段重	(4.1)	(12.4)		ロクロ	染付・透明釉	外：花文・鋸歯文・雷文・？					反転復元 焼き継ぎ有り
SK24	535	磁器・段重	3.3	7.7	6.8	ロクロ	染付・透明釉	外：丸文（人物・乗馬武士）・花文・圏線					
SK24	536	磁器・碗	(3.6)		6.0	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・草花文？ 見込：十字花		底面に銘有り			
SK24	537	磁器・仏飯器	5.2	6.0	3.7	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・蛸唐草文			肥前	18C後半以降	
SK24	538	磁器・仏飯器	6.0	(6.3)	(3.8)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・蛸唐草文			肥前	18C後半以降	底面に砂目跡
SK24	539	磁器？・仏飯器？	(3.8)	(5.7)		ロクロ	緑釉・透明釉						反転復元
SK24	540	磁器・蓮華	(3.5)	長さ (3.2)		型打？	染付・透明釉	内：？					
SK24	541	磁器・器種不明	(5.8)	(3.8)	(5.2)	ロクロ	瑠璃釉・ 透明釉	外：梅樹（白土・茶色の釉）					3カ所に脚付き
SK24	542	磁器・火入れ？	(4.8)		(7.0)	ロクロ	青磁						反転復元 内面に砂目跡
SK24	543	磁器・瓶？	(5.1)	5.8		ロクロ	染付・透明釉	外：？					反転復元
SK24	544	磁器・瓶	10.0	1.9	3.4	ロクロ	染付・透明釉	外：草文？			肥前	1780～1860年代	高台に砂目跡
SK24	545	磁器・瓶	(6.2)		(4.0)	ロクロ	染付・透明釉	外：草花文？・圏線			肥前	1780～1860年代	反転復元
SK24	546	磁器・瓶	(6.0)			ロクロ	染付・透明釉	外：草花文			肥前	1780～1860年代	
SK24	547	磁器・瓶	(3.5)		(7.4)	ロクロ	染付・透明釉	外？					反転復元
SK24	548	磁器・器種不明	(10.3)			ロクロ	染付・透明釉	外：鷹・なすび・吹墨					器壁が薄い 貫入有り
SK24	549	磁器・器種不明	(5.6)		(12.6)	ロクロ	染付・透明釉	外：草文					反転復元 脚付き・焼き継ぎ有り
SK24	550	磁器・瓶	(7.5)	体部径 13.0	(7.0)	ロクロ	染付・透明釉	外：？・圏線					反転復元
SK24	551	陶器・碗	(5.0)	(9.2)		ロクロ	色絵・透明釉	外：草花文					反転復元 釉色は灰白色・薄緑色 貫入有り
SK24	552	陶器・碗	5.4	(9.4)	(4.4)	ロクロ	透明釉						反転復元 端反碗・貫入有り
SK24	553	陶器・碗	(2.0)		4.4	ロクロ	陶胎染付・ 透明釉	見込：五弁花・圏線	コンニャク印判				高台内側に砂目跡
SK24	554	陶器・小坏	3.8	(7.0)	3.2	ロクロ	灰釉						反転復元
SK24	555	陶器・小坏	4.0	7.4	3.0	ロクロ	白色釉・ 透明釉						貫入有り
SK24	556	陶器・小坏	3.8	(6.0)	(2.0)	ロクロ	灰釉・緑釉						反転復元 貫入有り
SK24	557	陶器・猪口	3.0	(6.0)	(2.8)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・文字・櫛歯文・？ 内：圏線・竹・？					反転復元
SK24	558	陶器・猪口	4.5	(6.2)	(3.0)	ロクロ	虫喰釉？・ 透明釉			ヘラケズリ			高台に切込有り
SK24	559	陶器・皿	(2.0)		(3.4)	ロクロ	色絵・透明釉	内：竹？					貫入有り 釉色は朱・黄緑色
SK24	560	陶器・皿	(2.0)	(8.6)		ロクロ	白土・透明釉	見込：圏線・花・唐草（白土の象嵌）			肥後・八代窯？	18C後半以降	反転復元
SK24	561	陶器・皿	4.7	(18.0)	(8.2)	ロクロ	鉄釉・透明釉	見込：「壽」		見込に目跡	関西系		反転復元
SK24	562	陶器・鉢	4.7	(13.8)	5.0	ロクロ	鉄釉			見込は蛇ノ目釉剥ぎ			反転復元
SK24	563	陶器・皿	4.6	(17.9)	(6.8)	ロクロのち手づくね	黒色釉	外：双葉の貼付			楽焼？		反転復元 器形は桃？の意匠 外面に◎に「楽」の印判
SK24	564	陶器・角皿	(5.0)	(18.8)		型打	緑釉・透明釉	内：花唐草（型押） 見込：獅子（型押）			瀬戸美濃	19C代	口縁は釉剥ぎ 脚は巻貝様
SK24	565	陶器・皿？	(3.0)		(4.2)	ロクロ	白土・透明釉			見込に目跡2つ残存			反転復元
SK24	566	陶器・鉢	5.5	(13.0)	(5.2)	型打	透明釉			見込に目跡3つ			反転復元 八角鉢・貫入有り
SK24	567	陶器・鉢	8.6	(14.8)	(6.2)	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SK24	568	陶器・擂鉢	(5.7)			ロクロ	鉄釉？				堺？		口縁外側面に2条の凹線
SK24	569	陶器・擂鉢	6.6	(18.8)	(7.1)	ロクロ	鉄釉？						反転復元
SK24	570	陶器・蓋	3.2	12.9	つまみ径 3.7	ロクロ	鉄釉	外：圏線・飛び鉋			関西系	18C後半	
SK24	571	陶器・蓋	2.1	(8.8)	3.6	ロクロ	白土・透明釉			回転ヘラ切り			反転復元 つまみは亀
SK24	572	陶器・蓋	(2.8)	(12.0)	(9.7)	ロクロ	灰釉？	外：飛び鉋					反転復元
SK24	573	陶器・蓋	2.1	5.5	3.3	ロクロ	ワラ灰釉？			糸切り			
SK24	574	陶器・蓋	2.0	7.9	3.5	ロクロ	透明釉			回転ヘラケズリ	関西系		貫入有り
SK24	575	陶器・蓋	(1.6)	8.3	6.4	ロクロ		外・沈線					
SK24	576	陶器・蓋	1.0	3.1		型打？	褐釉？						
SK24	577	陶器・蓋	4.3	(14.3)	つまみ径 (4.5)	ロクロ	鉄釉・白土・ 緑釉・透明釉	外：：圏線・花文？・飛び鉋			関西系	18C後半	反転復元
SK24	578	陶器・蓋	(1.7)			ロクロ	鉄釉・白土・ 緑釉・透明釉	外：飛び鉋？			関西系	18C後半	反転復元
SK24	579	陶器・行平	(5.8)			ロクロ	鉄釉・透明釉	外：飛び鉋			関西系		
SK24	580	陶器・行平？	(3.9)			型打	鉄釉・透明釉	上：人物・花（型打） 下：？の銘（型打）			関西系？		取手部
SK24	581	陶器・行平	(6.6)			ロクロ	鉄釉	外：飛び鉋			関西系		取手部
SK24	582	陶器・行平？	(2.2)			型打	鉄釉	上：人物（背景に布目痕、型打）			関西系？		取手部
SK24	583	陶器・片口	9.4	(22.0)	(8.0)	ロクロ	灰釉・透明釉						反転復元 貫入有り 口縁を外方に折り曲げ
SK24	584	陶器・鍋	(7.9)	(18.4)		ロクロ	鉄釉						反転復元・取手付き
SK24	585	陶器・鍋	(10.7)	(21.8)		ロクロ	鉄釉						反転復元・取手付き
SK24	586	陶器・急須？	(2.3)			不明		下：？の銘（型打）					取手部
SK24	587	陶器・急須？	(4.8)			不明		上：「松山」の銘（型打）					取手部

SK24	588	陶器・急須？	6.6	(7.0)	6.6	ロクロ	鉄釉				関西系		反転復元 取手欠損
SK24	589	陶器・急須	(3.0)	(5.4)		ロクロ	緑釉・透明釉	外：草花文？					反転復元 注口基部の孔は3つ
SK24	590	陶器・急須	(5.4)	5.1	(5.6)	ロクロ	褐釉？	外：イッチン掛風					注口基部の孔は10 体部外面に「虫？」の刻印
SK24	591	陶器・土瓶	(5.7)	(7.7)		ロクロ	鉄釉・白土・青緑釉・透明釉	外：圏線・風景			関西系		反転復元
SK24	592	陶器・土瓶？	(5.2)		6.4	ロクロ	鉄釉・白土・青緑釉・灰釉・透明釉	外：風景			関西系	幕末～明治前半	反転復元
SK24	593	陶器・土瓶	(9.2)	(7.8)	(7.1)	ロクロ	緑釉・透明釉	外：圏線・竹			関西系		反転復元 注口基部の孔は3つ円孔が接続
SK24	594	陶器・土瓶	(12.5)	(14.5)	(11.9)	ロクロ	白土・鉄釉・透明釉	外：草花文？			関西系	19C代	反転復元 注口基部の孔は3つ
SK24	595	陶器・瓶	(9.2)		4.8	ロクロ	鉄釉・白土？	外：白土？の流し掛け			小石原系	18C後半～19C前半	反転復元 器壁が薄い
SK24	596	陶器・瓶	(4.3)			ロクロ	緑釉・透明釉	外：緑釉の流し掛け					反転復元 貫入有り
SK24	597	陶器・瓶	(14.3)		4.6	ロクロ	鉄釉？・緑釉・透明釉	外：海老・草花文					平面形は隅丸方形 器壁が薄い。貫入有り
SK24	598	陶器・瓶	(13.0)	(2.8)		ロクロ	灰釉	外：梅樹・吹墨？					反転復元 器壁が薄い
SK24	599	陶器・徳利	(22.0)	体部径(15.2)		ロクロ	鉄釉・灰釉						反転復元
SK24	600	陶器・瓶	(6.4)		5.6	ロクロ	灰釉？			糸切り			反転復元
SK24	601	陶器・燗瓶	27.4	4.2	17.8	ロクロ	鉄釉・灰釉・透明釉			底面に㊥の印判			
SK24	602	陶器・器種不明	(7.6)	(6.0)		ロクロ	灰緑釉						反転復元
SK24	603	陶器・灯明受け皿	1.0	6.5	2.5	ロクロ	透明釉						貫入有り
SK24	604	陶器・灯明皿	2.0	(9.8)	(3.4)	ロクロ	透明釉			見込に目跡			反転復元・貫入有り スス付着
SK24	605	陶器・火入れ？	3.0	6.3	4.2	ロクロ	透明釉						口縁は釉剥ぎ
SK24	606	陶器・火入れ	4.3	(8.4)	(5.6)	ロクロ	透明釉						
SK24	607	陶器・皿	1.3	6.8	2.6	ロクロ	透明釉						反転復元・貫入有り スス付着
SK24	608	陶器・四耳壷	(3.3)			ロクロ	灰釉	外：折り曲げた耳を肩部に貼付					反転復元
SK24	609	陶器・壷？	(3.5)			ロクロ	色絵？	外・凸帯・櫛歯の刺突文					内面に布目痕有り 釉色は緑・鈍い朱色
SK24	610	陶器・壷	(3.4)			ロクロ	緑釉・透明釉	外：？					口縁を外方に折り曲げ
SK24	611	瓦質土器・鉢	不明	(33.2)	(22.1)	ロクロ				ハケ目			反転復元 内外面ともヘラケズリ・ハケ
SK24	612	瓦質土器・火鉢	(5.8)			ロクロ		外：刺突文？・沈線					
SK24	613	瓦質土器・火鉢	(6.2)			ロクロ		外：松竹梅・亀甲文(型押)					
SK24	614	瓦質土器・火鉢	(6.1)	(14.0)		ロクロ		外：点 内：沈線					反転復元
SK24	615	瓦器・器種不明	(8.7)			板作り		外：菊花(印判)					平面方形？
SK24	616	瓦器・火鉢？	(4.2)			ロクロ							
SK24	617	瓦質土器・火鉢	14.1			板作り？							平面方形
SK24	618	瓦器・器種不明	(6.4)		(18.0)	ロクロ							反転復元 火鉢か。脚台付き
SK24	619	瓦器・壷	(5.3)	(22.0)		ロクロ							反転復元 内外面ともナデ
SK24	620	瓦器・壷？	(8.7)		(21.0)	ロクロ							反転復元・高台付き 内外面ともヘラケズリ・ナデ
SK24	621	瓦器・焜炉	(9.1)	(19.8)		ロクロ					在地		反転復元 体部上位に円孔7?つ有り
SK24	622	瓦質土器・器種不明	(12.5)			ロクロ？			回転印文				
SK24	623	土師質土器・急須	(6.5)	(7.4)		不明					関西系		反転復元 内外面とも鱗状の布目痕
SK24	624	土師質土器・急須	(4.5)			不明		外：ひら仮名(ヘラ書き)			関西系		体部の成形は指押え
SK24	625	土師質土器・急須	(4.1)	(6.0)		板作り					関西系		反転復元・布目痕 注口基部の孔は5つ
SK24	626	土師質土器・急須	5.8	(5.7)	(5.3)	板作り					関西系		反転復元・布目痕 注口基部の孔は12 取手の下面に「琴橋」の刻印
SK24	627	土師質土器・蓋	1.8	(5.9)		不明					関西系		松ぼっくりのつまみ 布目痕有り
SK24	628	土師質土器・焜炉	14.8	15.2	13.2	ロクロ		外：龍？(刻印)・沈線					外面に「博多利三良」の刻印
SK24	629	土師質土器・焜炉	(9.8)	(15.6)		ロクロ							反転復元
SK24	630	土師質土器・火消し壷	(11.0)	(14.2)		ロクロ							反転復元
SK24	631	土師質土器・こね鉢	9.8	(34.0)	14.0	ロクロ		外：波状の突帯			高村		反転復元 外面ヘラケズリ、内面ミガキ 口縁に朱塗
SK24	632	土師質土器・こね鉢	(11.0)	(36.0)	(17.0)	ロクロ		外：低平な突帯			高村		反転復元 外面ヘラケズリ、内面ミガキ 口縁に朱塗
SK24	633	土師質土器・焙烙	(6.0)	(30.0)		ロクロ					関西系	18C前半?	反転復元 口縁の取手に穿孔有り

SK24	634	土師質土器・蓋？	1.5		7.6	型打？							反転復元 焼塩壺の蓋？
SK24	635	土師質土器・蓋？	1.4	9.0		ロクロ				糸切り			反転復元 側面に沈線
SK24	636	土師質土器・器種不明	(3.4)			？							取手部？
SK24	637	土師器・皿	1.1	(7.8)	(6.0)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK24	638	土師器・皿	1.2	(7.6)	(5.6)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK24	639	土師器・皿	0.9	6.4	5.2	ロクロ				糸切り			
SK24	640	土師器・皿	1.0	7.4	5.6	ロクロ				糸切り			
SK24	641	石製品・硯	長さ 13.3	幅 (4.3)	厚さ 1.1								石材：不明 重さ：77g
SK24	642	陶製品・人形（人物と犬？）	(5.5)			型打							内面に布目痕
SK25	643	磁器・碗	5.2	(9.4)	(3.7)	ロクロ	染付・透明釉	外：二重網目 内：一重網目 見込：花文		渦福	肥前	1700～1750年代	反転復元
SK25	644	磁器・碗				ロクロ	染付・透明釉	外：折枝文・雪輪草花文		銘有り		18C中頃～後半	くらわんか手
SK25	645	磁器・碗	4.1	(8.2)	(2.9)	ロクロ	色絵・透明釉	外：草花文・鳥					反転復元
SK25	646	陶器・碗	(4.5)			ロクロ	色絵・透明釉	外：花文					貫入有り
SK25	647	陶器・鉢	(3.0)		(8.0)	ロクロ	白土・透明釉	外：？					反転復元
SK25	648	土師質土器・甕	(11.9)			ロクロ							
SK25	649	陶器・擂鉢	(11.5)			ロクロ	鉄釉						
SK25	650	陶器・秉燭	(3.0)	(8.7)	(4.2)	ロクロ	鉄釉			糸切り	関西系	19C代	
SK25	651	土師質土器・こね鉢	(6.0)			ロクロ		外：波状の突帯			高村		外面ヘラケズリ、内面ミガキ
SK25	652	土師器・皿	1.4	(8.7)	(6.6)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK25	653	鉄製品・鎹	長さ 7.9	幅 4.0									重さ32.4g
SK26	654	磁器・碗	4.8	9.8	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外：風景（山水）・折れ松葉				18C後半?	
SK26	655	磁器・碗	5.6	(9.4)	(3.6)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・輪宝繋文 内：圏線・輪宝繋文 見込：五弁花			肥前	1780～1810年代	反転復元
SK26	656	磁器・碗	(4.4)	(11.0)		ロクロ	染付・透明釉	外：龍・雲 内：圏線					反転復元 貫入有り
SK26	657	磁器・碗	(3.0)		(4.5)	ロクロ	染付・透明釉	外：？ 見込：昆虫文			肥前	1770～1780年代	
SK26	658	磁器・蓋	(2.7)	(12.4)		ロクロ	染付・透明釉	外：丸文散らし					反転復元
SK26	659	磁器・紅皿	1.2	4.6	1.4	型打	白磁	外：輪花？					
SK26	660	陶器・碗	5.6	(7.3)	3.7	ロクロ	陶胎染付・透明釉	外：圏線・丸文 内：圏線 見込：？			肥前	18C後半	
SK26	661	陶器・碗	5.8	(10.4)	4.3	ロクロ	白土・透明釉	外：掛け流し 内：掛け流し			上野・高取系		反転復元 貫入有り
SK26	662	陶器・碗	6.1	(12.2)	(4.6)	ロクロ	白土・鉄釉・透明釉						反転復元
SK26	663	陶器・皿	3.2			ロクロ	灰釉？						見込と高台端部に砂目跡
SK26	664	陶器・甕	(6.7)	(17.8)		ロクロ	鉄釉・ワラ灰釉						反転復元
SK26	665	陶器・瓶	(0.7)			ロクロ	透明釉			墨書			高台に抉り有り
SK26	666	陶器・器種不明	(6.5)		(8.4)	ロクロ？		外：？（型打）					反転復元 胎土が黒色
SK26	667	陶器・茶壺	(3.7)	(5.2)		ロクロ	鉄釉？						反転復元
SK26	668	瓦質土器・火鉢	(7.7)		(20.0)	ロクロ		外：馬・「河濱亭」の刻印					反転復元 内面ヨコハケ
SK26	669	土師器・皿	1.0	6.6	5.2	ロクロ				糸切り			
SK26	670	土師質土器・焙烙	8.5		(32.0)	ロクロ							外面ヘラケズリ、内面ミガキ スス付着
SK26	671	石製品・砥石	長さ (19.1)	幅 8.5	厚さ (4.9)								石材：泥岩?(天草石) 重さ994.8g
SK26	672	銅銭・寛永通寶	径 2.3	厚さ 0.15									重さ2.8g
SK27	673	磁器・碗	(3.2)		3.6	ロクロ	染付・透明釉	外：風景（山水）・折れ松葉				18C後半?	
SK27	674	磁器・碗	(4.9)	(8.5)		ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・花・虫					反転復元 貫入有り
SK27	675	磁器・小杯	(4.2)	(7.6)		ロクロ	染付・透明釉	外：草文・唐草文(濃み地白抜き文)			肥前	1820～1860年代？	反転復元 端反
SK27	676	磁器・小杯	3.3	(7.0)	2.9	ロクロ	白磁						反転復元
SK27	677	磁器・皿	(2.6)		8.1	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・唐草文 内：？ 見込：五弁花			肥前	1730～1780年代？	反転復元 蛇ノ目凹型高台
SK27	678	磁器・蓋	3.0	(10.2)	つまみ径 (4.1)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・草花文 内：四方襷文 見込：丸文			肥前	18C後半?	反転復元 貫入有り
SK27	679	磁器・蓋	(1.5)	(7.2)		ロクロ	染付・透明釉	外：菊花文					反転復元
SK27	680	磁器・油壺？	(3.0)			ロクロ	色絵・透明釉	外：？					反転復元
SK27	681	磁器？・器種不明	(6.6)			？	ワラ灰釉						取手部？
SK27	682	陶器・碗	6.4	(8.7)	(3.6)	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SK27	683	陶器・碗	5.4	9.0	3.6	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SK27	684	陶器・器種不明	(2.9)			？	緑釉	外：唐草文（型打）					
SK27	685	陶器・灯明受け皿	(1.6)	(10.0)		ロクロ							反転復元 口縁部にスス付着
SK27	686	陶器・擂鉢	(8.5)			ロクロ	鉄釉						
SK27	687	土師器・皿	1.4	8.5	5.8	ロクロ				ヘラ切り			
SK27	688	土師器・皿	1.5	8.6	5.8	ロクロ				糸切り			
SK27	689	土師器・皿	1.4	8.4	5.7	ロクロ				糸切り			

SK27	690	土師器・皿	1.4	7.5	5.6	ロクロ				糸切り			
SK27	691	土師器・皿	1.3	7.9	5.7	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK27	692	石製品・砥石	長さ (12.7)	幅 (9.7)	厚さ (4.8)								石材：泥岩?(天草石？) 重さ815.8g
SK27	693	銅銭・寛永通寶	径 2.4	厚さ 0.15									裏面に「文」 重さ2.9g
SK28	695	磁器・碗	(1.7)		4.3	ロクロ	染付・透明釉	外：？・圏線 見込：草文・圏線					底面に砂目跡
SK28	696	磁器・碗	(3.7)	(10.2)		ロクロ	染付・透明釉	外：梅樹					反転復元 くらわんか手？
SK28	697	磁器・小坏	(4.5)	(7.2)		ロクロ	白磁						反転復元
SK28	698	磁器・蓋	1.8	7.7		ロクロ	染付・透明釉	外：網目文？					
SK28	699	陶器・碗	(2.7)		3.6	ロクロ	色絵・透明釉	外：草花文？					貫入有り
SK28	700	陶器・碗	5.3	(9.2)	(3.9)	ロクロ	透明釉						反転復元
SK28	701	陶器・器種不明	(3.2)		4.9	ロクロ	鉄釉			ヘラケズリ			反転復元
SK28	702	土師質土器・焙烙	(4.8)			ロクロ							
SK28	703	土師質土器・こね鉢	(6.4)			ロクロ		外：波状の突帯			高村		外面ヘラケズリ・内面ヘラミガキ
SK28	704	土師質土器・こね鉢	(5.6)			ロクロ							内面ヘラミガキ、外面ナデ・ヘラケズリ
SK28	705	土師質土器・こね鉢	(2.8)		(13.8)	ロクロ				回転ヘラケズリ			反転復元 内面ヘラミガキ、外面ナデ
SK28	706	土師質土器・壷	(10.3)	(13.8)		ロクロ							反転復元 内外面ともヘラケズリ
SK28	707	土師器・皿	2.7	(11.0)	(7.7)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK28	708	土師器・皿	1.5	(9.2)	(6.6)	ロクロ				糸切り			反転復元
SK29上層	709	磁器・碗	5.9	10.2	4.0	ロクロ	染付・透明釉	外：梅・草花文		銘有り			
SK29上層	710	磁器・碗	5.1	(10.2)	4.2	ロクロ	染付・透明釉	外：雪輪文・松竹梅？					
SK29上層	711	磁器・猪口？	(2.5)		(6.1)	ロクロ	染付・透明釉	外：？ 見込：五弁花		渦福	肥前	18C代	
SK29上層	712	陶器・碗	6.7	(10.4)	(4.9)	ロクロ	白土・透明釉	外：刷毛目 内：刷毛目			肥前	1690～1740年代	反転復元 貫入有り
SK29上層	713	陶器・碗	5.4	9.4	4.0	ロクロ	鉄釉・透明釉	外：？		見込に目跡3つ			
SK29上層	714	陶器・皿	(3.6)	(19.6)		ロクロ	白土・鉄釉・透明釉	内：波状文（刷毛目）			肥前	1690～1780年代	反転復元
SK29上層	715	陶器・徳利	(13.6)			ロクロ	鉄釉・ワラ灰釉	外：流し掛け（ワラ灰釉）			高取系?	18C前半?	一部反転復元 体部にくぼみ3ヶ所
SK29上層	716	磁器・器種不明	(2.8)		(5.6)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・？			肥前	18C後半?	
SK29中層	717	磁器・碗	5.1	(10.5)	4.5	ロクロ	染付・透明釉	外：丸文（草花文？）					反転復元
SK29中層	718	磁器・小杯	3.9	(8.1)	(3.2)	ロクロ	色絵・透明釉	外：花見風景？（鳥・梅樹・縁台？） 内：花			肥前	1710～1740年代？	反転復元
SK29中層	719	磁器・水滴	(3.7)	幅 (4.1)	厚さ 2.1	型打	染付・透明釉	外：鳥・木（型打・染付）					
SK29中層	720	土師器・皿	1.4	9.2	7.0	ロクロ				ヘラ切り？			
SK29中層	721	陶器・擂鉢	17.6	(36.2)	17.7	ロクロ					肥前	1690～1780年代	高台に漆喰状の付着物有り
SK29中層	722	土師質土器・焙烙	(7.5)			ロクロ							外面調整不明、内面ナデ
SK29中層	723	土師質土器・甕	(20.2)	(44.0)		不明		外：凹線					反転復元 内面は青海波？タタキのちナデ
SK29中層	724	銅製品・煙管	長さ (4.7)										重さ5.2g
SK29下層	725	磁器・皿	4.0	13.2	7.7	ロクロ	染付・透明釉	外：草花文 内：草花文			肥前	1680～1740年代？	口縁はわずかに輪花状
SK29下層	726	磁器・蓋	(1.2)			ロクロ	染付・透明釉	外：草花文・網目文			肥前	1710～1740年代？	反転復元
SK29下層	727	磁器・紅皿	1.5	(4.3)	(1.8)	型打	白磁	外：輪花？					反転復元
SK29下層	728	陶器・片口	10.7	20.6	9.0	ロクロ	白土・鉄釉	外：波状文（刷毛目） 内：渦文（刷毛目）			肥前	1690～1780年代	
SK29下層	729	陶器・鉢	9.4	(30.5)	12.0	ロクロ	白土・透明釉	内：圏線・波状文（刷毛目）		見込に目跡	唐津	18C前半	反転復元
SK29下層	730	土師質土器・片口	(6.7)	(28.2)		ロクロ					高村	18C前半?	反転復元 外面ヘラケズリ、内面ミガキ スス付着
SK30	731	磁器・皿	(2.4)		7.4	ロクロ	染付・透明釉	外：？ 見込：鳥・雲					
SK30	732	土師器・皿	1.7	(10.9)	(9.4)	ロクロ				糸切り			反転復元・スス付着
SK32	733	陶器・碗	(2.6)		4.7	ロクロ	鉄釉						
SK32	734	陶器・火入れ？	(6.1)	(11.3)		ロクロ	灰釉？						反転復元
SK32	735	陶器・鉢	7.0			ロクロ	灰釉？						
SK32	736	陶器・擂鉢	(4.9)			ロクロ	鉄釉				肥前	1600～1650年代	
SK31	737	磁器・湯飲み	7.2	(7.3)	(4.5)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・菊花文・櫛歯文 内：輪宝繋文	型紙摺り		肥前？	19C後半？	反転復元
SK31	738	土師質土器・焙烙	9.5	31.4		ロクロ					関西系		口縁端に刺突のくぼみ有り 内外面ともナデ？ スス付着
SK33	739	磁器・小杯	3.5	7.4	2.8	ロクロ	白磁						
SK33	740	土師器・坏	2.6	(11.4)	(8.0)	ロクロ				糸切り・板目			反転復元
SK34	741	磁器・碗	4.9	10.2	4.3	ロクロ	染付・透明釉	外：花唐草文			肥前	18C前半	
SK34	742	磁器・碗	(1.7)		(5.8)	ロクロ	青磁	見込：花文？			中国（竜泉窯系）		反転復元
SK34	743	磁器・碗	(4.0)	(9.8)		ロクロ	染付・透明釉	外：丸文・？	コンニャク印判		肥前	18C前半	反転復元
SK34	744	磁器・猪口	4.5	(7.8)	2.9	ロクロ	染付・透明釉	外：？			肥前	18C前半?	反転復元
SK34	745	磁器・双耳瓶	(4.3)			ロクロ	青磁						反転復元 耳は半環状を連ねる

SK34	746	磁器・皿	4.0	13.8	7.5	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・唐草文 内：菊花文 見込：五弁花		「大明年製」？	肥前	18C代	反転復元
SK34	747	陶器・灯明受け皿	2.9	(11.2)		ロクロ							反転復元 スス付着
SK34	748	土師質土器・甕	(8.8)		16.0	手びねり					在地系		内外面ともハケ・ナデ
SK34	749	土師器・皿	1.4	8.2	5.7	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK34	750	土師器・皿	1.5	7.7	5.4	ロクロ				糸切り			
SK34	751	土師器・皿	1.3	6.8	5.0	ロクロ				糸切り			
SK34	752	土製品・人形(大黒天)	5.2	幅 2.9		型打							底面に穿孔有り
SK35	753	磁器・碗	(3.6)		4.2	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・？ 見込：コウモリ？					反転復元
SK35	754	磁器・小杯	4.8	7.9	(3.8)	ロクロ	飴釉？	外：喫茶する人物・他・「○○風雅」			関西系？		反転復元
SK36	757	磁器・碗	(2.6)		(3.7)	ロクロ	染付・透明釉	外：？					反転復元
SK36	758	磁器・湯飲み	(5.0)	(7.5)		ロクロ	鉄釉？・透明釉	外：浅い沈線の横線					反転復元
SK36	759	磁器・油壺	(4.7)			ロクロ	鉄釉？・青磁						
SK36	760	陶器・皿？	(3.2)			ロクロ	白土・鉄釉・透明釉	内：刷毛目					
SK36	761	土師質土器・焙烙	(6.7)	(30.2)		ロクロ							反転復元 外面ケズリ、内面ナデ・ミガキ
SK36	762	土師器・皿	1.8	10.5	7.9	ロクロ				糸切り			全面にスス付着
SK36	763	土師器・皿	1.7	10.5	7.0	ロクロ				糸切り			
SK37	764	磁器？・碗	(6.0)		(4.8)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・花文					反転復元
SK37	765	磁器・猪口	(2.1)		3.1	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・？					
SK37	766	土師器・皿	1.6	10.1	7.6	ロクロ				糸切り			
SK37	767	土師器・皿	2.2	12.0	9.0	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK37	768	土師器・皿	2.1	10.2	5.9	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK37	769	土師器・皿	2.4	11.0	7.6	ロクロ				糸切り			
SK38	770	磁器・瓶？	(3.5)		(5.6)	ロクロ	青磁						反転復元 高台内側に砂目跡
SK38	771	陶器・碗	(5.0)			ロクロ	鉄釉						天目碗
SK38	772	陶器・皿	(4.7)			ロクロ	灰釉・染付	内：？			肥前	1610～1650年代	
SK38	773	陶器・徳利	(11.7)		9.4	巻き上げ	鉄釉？	外：？					反転復元
SK38	774	陶器・徳利	(22.9)		(8.9)	ロクロ							一部反転復元 形態が瓢形
SK38	775	土師器・皿	2.6	10.6	7.5	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SK38	776	銅製品・煙管	長さ (4.7)										木質が残存 重さ3.0g
SK39	777	土師器・高坏	(4.8)			ロクロ						8C代？	
SK39	778	土製品・土錘	長さ (2.8)	径 1.4		手づくね							重さ5.2g
SK40	779	磁器・小杯	(2.4)		2.6	ロクロ	染付・透明釉	外：？					反転復元
SK40	780	銅製品・煙管	長さ (4.0)										重さ5.2g
SK41	781	磁器・碗	(4.2)		(4.4)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・？		銘有り			反転復元
SK41	782	磁器？・碗	(2.4)			ロクロ	白磁						口縁は玉縁状
SK41	783	陶器・皿	(2.5)			ロクロ	鉄釉・透明釉						
SK41	784	陶器・徳利？	(3.6)			ロクロ	鉄釉						
SK42	785	磁器・皿	(2.7)		5.4	ロクロ	染付・透明釉	見込：？					反転復元 高台内側に砂目跡 貫入有り
SK42	786	陶器・碗	(2.7)		5.0	ロクロ	透明釉						高台内側に砂目跡 貫入有り
SK42	787	土師器・皿	1.9	9.7	7.0	ロクロ				糸切り			反転復元
SK42	788	土製品・人形(動物)	長さ (8.3)	幅 (4.2)	高さ (4.3)	手びねり							
SK42	789	石製品・碁石	長径 2.2	厚さ 0.7									黒石 重さ4.6g
SK42	790	銅銭・種別不明	径 2.1	厚さ 0.05									重さ1.9g
SK43	791	土師器・皿	1.5	9.4	7.0	ロクロ				糸切り			
SK43	792	鉄製品・釘	長さ 7.3										重さ7.7g
SK45	793	磁器・皿	3.2	(13.6)	(5.4)	ロクロ	染付・透明釉	内：花弁(型打) 見込：花文			肥前	1610～1630年代	反転復元 高台内側に粗い砂目跡
SK45	794	磁器・皿	2.9			型打	染付・透明釉	内～見込：唐草文					角皿。高台は円形 貫入有り
SK45	795	磁器・皿	1.9			ロクロ	瑠璃釉	見込：雲？(型打)			肥前	1650～1740年代	
SK45	796	磁器・猪口	(3.2)		(3.8)	ロクロ	白磁						反転復元
SK45	797	磁器・瓶	(13.0)		6.5	ロクロ	染付・透明釉	外：花文					高台内側に砂目跡
SK45	798	磁器・鉢？	(1.2)			ロクロ	青磁・鉄釉	内：？(ヘラ彫り)					底面に輪状に鉄釉
SK45	799	陶器・碗	5.8			ロクロ	陶胎染付・透明釉	外：唐草文			肥前	1690～1780年代	貫入有り
SK45	800	陶器・碗	(2.6)		(5.6)	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SK45	801	陶器・鉢	(5.2)			ロクロ	白土・灰釉？	内：刷毛目・流し掛け		見込に砂目跡	肥前	1690～1780年代	
SK45	802	陶器・擂鉢	(5.1)			ロクロ	灰釉・鉄釉						口縁外側面に2条の凹線
SK45	803	陶器・甕	(5.7)			ロクロ	褐釉？						
SK45	804	土師器・塩壺	(9.8)	(6.9)		ロクロ？							反転復元 内面に布目痕
SK45	805	土製品・円板	1.2	3.9									瓦質土器を転用
SK46	806	磁器・小杯	4.5	6.3	(2.2)	ロクロ	染付・透明釉	外：松葉・折れ松葉			肥前	18C後半	反転復元
SK46	807	陶器・土瓶	(12.0)	(7.7)	(8.3)	ロクロ	ワラ灰釉？・透明釉	外：？					反転復元 注口基部の孔は2つ
SK46	808	陶器・土瓶?	(2.5)			ロクロ	鉄釉						
SK46	809	陶器・蓋	3.4	15.3	つまみ径 4.7	ロクロ	鉄釉	外：飛び鉋					

SK46	810	瓦器・火鉢	(4.5)		(22.2)	ロクロ							反転復元
SK46	811	土師質土器・蓋	2.3	(16.4)	(15.9)	ロクロ							反転復元 内外面ともナデ
SK46	812	土師器・坏？	(4.3)	(14.6)		ロクロ							反転復元 見込にスス状の付着物有り
SK47	813	磁器・碗	(5.2)	(14.8)		ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・丸文・鳥 内：四方襷文				18C後半?	反転復元
SK47	814	磁器・碗	(5.4)			ロクロ	色絵・青磁釉・透明釉	外：小槌		「波佐見焼」の刻印			
SK47	815	磁器・碗	5.6	(10.8)	(4.2)	ロクロ	色絵・透明釉	外：圏線・亀甲文・紅葉文 見込：？		口紅	肥前	1810～1860年代	反転復元
SK47	816	磁器・碗	6.1	10.4	3.9	ロクロ	色絵・透明釉	外：圏線・亀甲文・草花文 見込：？		口紅	肥前	1810～1860年代	端反碗 貫入有り
SK47	817	磁器・小杯	4.9	(7.6)	3.6	ロクロ	白磁						
SK47	818	陶器・皿	3.8	(13.7)	7.0	ロクロ	陶胎染付・透明釉	外：？ 内：圏線・草文？ 見込：梅花？					反転復元
SK47	819	磁器・皿	4.9	23.0	11.8	型打	青磁・染付	外：？ 内：風景		銘有り	肥前	1720年代以降	八角皿 ゆがみ・焼き継ぎ有り
SK47	820	磁器・皿	3.4	15.2	8.3	ロクロ	染付・透明釉	外：海浜風景（島・帆掛け舟） 内：同心円（型打） 見込：山水風景？			肥前	1740～1780年代?	輪花皿（六弁） 蛇ノ目凹型高台
SK47	821	磁器・皿	2.0	8.2	5.0	ロクロ	鉄釉・透明釉						
SK47	822	磁器・皿	3.7	18.0	9.3	型打	染付・透明釉	外：？ 内：草花文		銘有り			角皿 高台内側に砂目跡
SK47	823	磁器・蓋	(3.5)	13.0		ロクロ	色絵・透明釉	外：圏線・中国童子・草花文・蜻蛉			肥前	18C代	段重の蓋
SK47	824	磁器・蓋	1.5	6.4		ロクロ	染付・透明釉	外：蝶					
SK47	825	磁器・仏飯器	6.5	7.8	4.1	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・輪宝繋文					
SK47	826	磁器・瓶	(2.3)			ロクロ	青磁						
SK47	827	陶器・小杯	4.8	(6.5)	3.3	ロクロ	鉄釉・透明釉	外：鳥文？			萩？		反転復元 高台に切込3つ有り
SK47	828	陶器・小杯	3.1	(6.6)	2.5	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SK47	829	陶器・皿	2.2	10.8	3.9	ロクロ	透明釉			見込に目跡			
SK47	830	陶器・蓋	1.6	7.6	3.2	ロクロ	白土・透明釉	外：？（白土）		ヘラ切り	関西系	19C代？	つまみは亀
SK47	831	陶器・行平	(4.8)	(11.7)		ロクロ	鉄釉	外：飛び鉋					取手に型打文様
SK47	832	陶器・行平	8.5	(14.7)	(6.8)	ロクロ	鉄釉	外：飛び鉋					取手に亀の型打文様
SK47	833	陶器・擂鉢	13.0	32.4	13.6	ロクロ				板目圧痕			口縁外側面に2条の凹線
SK47	834	陶器・瓶	18.3	(2.8)	6.2	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SK47	835	土師質土器・壷？	(16.0)			ロクロ							内外面ともヨコハケ
SK47	836	土師器・坏	4.3	(15.4)		ロクロ				ヘラ切り			反転復元
SK47	837	土師質土器・こね鉢	(6.6)			ロクロ							外面ヘラケズリ、内面ミガキ・丹塗
SK47	838	瓦質土器・鉢	14.8	32.0	22.3	ロクロ							ゆがみ有り 外面ハケ目・内面ナデ
SK47	839	土製品・土錘	長さ 7.5	幅 3.8	厚さ 2.2	手づくね							長軸方向の両面に深い溝 重さ51.2g
SK47	840	土製品・人形（人物）	高さ (6.6)	幅 5.7	厚さ (2.4)	型打							
SK47	842	石製品・器種不明	長さ (3.7)	幅 2.8	厚さ 0.9								石材：滑石？ 重さ(9.9g)
SK49	843	磁器・小坏	4.9	(8.2)	3.8	ロクロ	染付・透明釉	外：草木文					反転復元 貫入有り
SK49	844	磁器・水滴	(1.6)			型打	染付・透明釉	外：？（型打）					
SK49	845	陶器・小杯？	(1.2)		(4.0)	ロクロ	透明釉						貫入有り
SK49	846	陶器・小杯	5.7	(7.8)	3.0	ロクロ	透明釉			「萬古」の刻印			貫入有り
SK49	847	磁器・皿	3.7	(11.9)	(4.9)	ロクロ	染付・透明釉	内：二重格子？・圏線		見込は蛇ノ目釉剥ぎ			反転復元
SK49	848	陶器・ままごと道具（器種不明）	1.5	(3.7)	(2.6)	ロクロ？	透明釉						反転復元
SK50	849	磁器・碗	(3.8)			ロクロ	染付・透明釉	外：風景					
SK50	850	磁器・皿？	(0.9)			ロクロ	白磁						
SK50	851	磁器・皿	4.0			ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・唐草文？ 内：風景 見込：五弁花	口銹	「太明成○○製」	肥前	18C代	
SK50	852	陶器・碗？	(2.9)		2.6	ロクロ	透明釉						反転復元
SK50	853	陶器・皿	0.9	(10.0)	(6.6)	ロクロ	鉄釉						反転復元
SK50	854	陶器・花瓶？	(3.1)			不明	灰色の釉	外：円形の刺突文					平面形は六角形？
SK50	855	土師質土器・こね鉢	(4.6)		(21.0)	ロクロ					高村		底面に装飾突帯をめぐらす 外面ナデ、内面ミガキ
SK51	856	磁器・碗	6.4	(11.8)	6.6	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・蝙蝠・蓮の花・「壽」 内：圏線 見込：瓢箪			肥前	18C後半～19C初	反転復元 広東碗
SK51	857	磁器・碗	(4.8)	(11.0)		ロクロ	染付・透明釉	外：植物 内：圏線・？			肥前	1780～1810年代？	反転復元
SK51	858	磁器・小杯	4.6	8.0	3.0	ロクロ	染付・透明釉	外：達磨					反転復元
SK51	859	磁器・小杯	(3.0)	(7.6)		ロクロ	白磁						反転復元
SK51	860	磁器・碗	4.8	(8.6)	(4.3)	ロクロ	染付・透明釉	外：格子文？			肥前	1780～1810年代	反転復元
SK51	861	磁器・皿	3.7	(13.0)	(7.8)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・唐草文 内：花唐草文？ 見込：圏線・五弁花?		？			反転復元
SK51	862	磁器・蓋	1.7	(5.5)		ロクロ	染付・透明釉	外：？					反転復元
SK51	863	磁器・蓋	1.1	4.4		型打	染付・透明釉	外：鳥・花					紅入れの蓋 内面に紅付着
SK51	864	磁器・火入れ？	(3.6)		(6.6)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線					反転復元 蛇ノ目凹型高台
SK51	865	磁器・火入れ？	(6.3)		(7.7)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・？					反転復元

SK51	866	磁器・仏飯器	(2.0)		3.5	ロクロ	白磁						
SK51	867	磁器・瓶？	(3.1)		(5.7)	ロクロ	白磁						反転復元
SK51	868	磁器・瓶	(4.3)		(3.8)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・草木文？			肥前	1780～1860年代	反転復元 高台内側に砂目跡
SK51	869	磁器・壷？	(4.3)	(7.0)		ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・連続渦巻き文	口紅				反転復元
SK51	870	陶器・碗	(4.2)		4.7	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SK51	871	陶器・碗	(3.2)		(4.7)	ロクロ	白土・透明釉	外：刷毛目 内：刷毛目					反転復元 高台の内側に砂目跡
SK51	872	陶器・碗	5.2	(9.3)	3.3	ロクロ	鉄釉・透明釉	外：松葉？					反転復元
SK51	873	陶器・碗	(4.2)	(10.4)		ロクロ	ワラ灰釉？・透明釉						反転復元
SK51	874	陶器・擂鉢	(5.8)		16.0	ロクロ	鉄釉						
SK51	875	陶器・皿	(1.1)			型打	透明釉	見込：？（型打）		ヘラ切り			八角皿？
SK51	876	陶器・器種不明	(1.8)			型打？	二彩・透明釉	外：？（型打）					二彩陶器
SK51	877	陶器・火鉢？	(8.4)			ロクロ	褐釉？・ワラ灰釉？・透明釉						
SK51	878	瓦質土器・火鉢？	(5.3)			ロクロ		外：刺突文					
SK51	879	陶製品・人形（布袋？）	高さ (4.1)	幅 (6.1)		型打	鉄釉？						
SD3	880	土師質土器・鉢？	(4.2)			ロクロ							
SD4	881	土師器・皿	2.1			ロクロ				糸切り			
SD4	882	土師器・皿	2.6			ロクロ				糸切り			内面にスス付着
SD5	883	磁器・碗	(3.3)	(12.0)		ロクロ	染付・透明釉	外：草花文・圏線 内：圏線					反転復元
SD5	884	磁器・碗	(2.9)			ロクロ	青磁						
SD5	885	磁器・皿？	(0.7)	4.6		ロクロ	染付・透明釉	外：圏線 見込：花文					
SD5	886	陶器・碗？	(2.3)			ロクロ	透明釉	見込：？					
SD5	887	陶器・碗	(3.3)	(14.0)		型打	透明釉						反転復元
SD5	888	陶器・皿	(2.2)	(12.6)		ロクロ	染付？・透明釉	外：圏線 内：圏線・？					反転復元
SD5	889	陶器・擂鉢	(10.0)			ロクロ							
SD5	890	陶器・擂鉢	(8.1)			ロクロ							
SD5	891	陶器・徳利	(23.2)	体部径 (14.9)	7.8	ロクロ							反転復元
SD5	892	陶器・壷	(5.9)	(14.0)		ロクロ	鉄釉？						反転復元
SD5	893	陶器・徳利？	(3.8)			ロクロ							
SD5	894	瓦質土器・擂鉢	(5.5)		(10.0)	ロクロ							反転復元
SD5	895	土師器・皿	1.9	(10.4)	(7.0)	ロクロ				糸切り			
SD5	896	土師器・鉢？	(5.2)			ロクロ							
SD5	897	土師器・器種不明	(7.4)		9.5	ロクロ							脚状
SD5	898	坩堝	(3.6)	(7.4)		不明							反転復元
SD5	899	漆器・皿	2.6	(11.0)	(4.6)								反転復元 色調：暗赤褐色
SD5	900	木製品・櫛	長さ (3.9)	幅 (2.4)	厚さ 0.6								樹種：不明
SD5	901	木製品・不明	長さ (36.5)	幅 9.1	厚さ 0.9								板材 樹種：ヒノキ？
SD5	902	石製品・碁石	長径 1.9	厚さ 0.4									黒石 重さ2.4g
SD5	903	金属製品・笄	長さ (8.3)	幅 1.2	厚さ 0.4			魚？					重さ16.8g
SX1	904	磁器・碗	7.5	11.0	4.8	ロクロ	白磁					17C後半？	高台の内側に砂目跡 貫入有り
SX1	905	磁器・碗	(5.7)	(11.2)		ロクロ	青磁					17C中頃～後半	反転復元 貫入有り
SX1	906	磁器・碗	(5.5)		(4.5)	ロクロ	青磁						反転復元 高台の内側に砂目跡
SX1	907	磁器・小杯	(3.1)		3.4	ロクロ	染付・透明釉			「大明成化年製」			反転復元 高台内側に砂目跡
SX1	908	磁器・鉢？	(2.5)		5.1	ロクロ	染付・透明釉	内：？ 見込：「月」					反転復元 高台内に砂目跡
SX1	909	磁器・皿	2.1	(14.8)	(8.9)	ロクロ	染付・透明釉	見込：松？					反転復元
SX1	910	磁器・皿	(4.9)			ロクロ	染付・透明釉	内：斜格子 見込：風景					高台の内側に砂目跡
SX1	911	磁器・皿	(1.8)			ロクロ	染付・透明釉	内？					
SX1	912	磁器・皿	6.7			ロクロ	白土・透明釉						
SX1	913	磁器・仏飯器	(3.5)		(3.7)	ロクロ	白磁						反転復元
SX1	914	陶器？・碗	(3.3)		4.6	ロクロ	染付・白土	外：網目文			肥前	18C前半?	反転復元
SX1	915	陶器・碗	(4.1)	(11.0)		ロクロ	灰釉？・透明釉						反転復元
SX1	916	陶器・皿	2.8	(12.4)	(4.2)	ロクロ	灰釉？・鉄釉	内：圏線					反転復元
SX1	917	陶器・皿	(2.3)		4.8	ロクロ	灰釉			見込に目跡			反転復元
SX1	918	磁器・皿	(4.5)			ロクロ	青磁	内：？			肥前（波佐見）？	1680～1740年代？	
SX1	919	陶器・皿	3.7	13.7	4.9	ロクロ	鉄釉	見込：花文？					
SX1	920	陶器・皿	11.5	(36.6)	(11.2)	ロクロ	灰釉			見込に目跡	肥前	1610～1650年代	反転復元
SX1	921	陶器・鉢	(4.0)	(26.4)		ロクロ	灰釉？						反転復元
SX1	922	陶器？・秉燭？	(3.1)	(8.8)		ロクロ	鉄釉						反転復元
SX1	923	土師器・坏	2.6	10.4	6.9	ロクロ				糸切り			
SX1	924	土師器・坏	2.8	10.8	6.1	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SX1	925	土師器・坏	1.9	(10.4)	(8.0)	ロクロ				糸切り			反転復元
SX1	927	石製品・砥石	長さ (7.5)	幅 (5.0)	厚さ 0.7								石材：凝灰岩？
SX1	928	石製品・砥石	長さ (7.2)	幅 4.6	厚さ (1.6)								石材：凝灰岩？

SX1	929	石製品・碁石	径 2.2	厚さ 0.45									黒石 重さ3.3g
SX1	930	石製品・碁石	長径 2.4	厚さ 0.6									黒石 重さ4.5g
SX1	931	石製品・碁石	長径 2.9	厚さ 1.0									白石 重さ7.7g
SX1	932	銅製品・煙管	長さ (7.4)										重さ7.6g
SX2	933	磁器・碗	(4.5)			ロクロ	染付・透明釉	外：中国童子 内：圏線			肥前	1780～1810年代	貫入有り 934とセットか？
SX2	934	磁器・蓋	2.8	11.2	つまみ径 6.1	ロクロ	染付・透明釉	外：中国童子・草花文 内：圏線 見込：？		銘有り	肥前	1780～1810年代	933とセットか？
SX2	935	陶器・土瓶	(4.2)	5.9		ロクロ	鉄釉						注口基部の2つの孔は陥没
SX3	936	磁器・小杯	3.9	(8.0)	(3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・風景・連続渦巻文					反転復元
SX3	937	磁器・小杯	(2.7)	(8.8)		ロクロ	色絵・透明釉	外：圏線・？					反転復元
SX3	938	磁器・皿	2.4	9.8	4.5	ロクロ	染付・透明釉	内：圏線・双葉 見込：双葉		見込は蛇ノ目釉剥ぎ	肥前	18C後半?	
SX3	939	陶器・蓋	(2.4)	(8.5)		ロクロ	褐釉？・透明釉	外：花文？					貫入有り
SX3	940	土師質土器・カマド	長さ 72.8	幅 36.5	高さ 25.7	板作り							焚口は2口 外面ミガキ、内面ハケ
SX3	941	土製品・人形（力士？）	高さ (6.6)	幅 (3.1)		型打							
SP36	942	陶器・碗	(2.4)		5.4	ロクロ	透明釉						反転復元・貫入有り
SP44	943	磁器・猪口	(2.1)			ロクロ	白磁						
SP44	944	銅銭・○○○寶	径 2.4	厚さ 0.15									重さ3.3g
SP52	945	陶器・皿	(1.7)			ロクロ	灰釉	内：花弁状の凹凸			肥前	1600～1630年代	
SP52	946	鉄製品・鎹	長さ (4.0)	幅 (7.9)									重さ32.5g
SP54	947	陶器・碗	(5.9)			ロクロ	透明釉						
SP60	948	磁器・小杯？	(3.0)	(6.5)		ロクロ	白磁						反転復元
SP60	949	土師器・皿	1.5	(10.0)	(8.0)	ロクロ				糸切り			反転復元 底面にスス付着
SP62	950	磁器・碗	(3.5)			ロクロ	染付・透明釉	外：圏線					
SP62	951	陶器・小坏	(3.8)	(8.0)		ロクロ	白土・透明釉						反転復元
SP62	952	陶器・擂鉢	(9.2)			ロクロ							口縁部を内側に折り曲げる
SP62	953	陶器・壷？	(5.8)		(6.9)	ロクロ	白土・緑釉・透明釉	外：？					反転復元 高台に半円形の抉り
SP68	954	陶器・皿	(4.0)			ロクロ	灰釉？						
SP69	955	瓦質土器・火鉢？	(5.9)		(22.0)	ロクロ							反転復元
SP72	956	磁器・小杯	(2.8)			ロクロ	染付・透明釉	外：草花文？					
SP72	957	土師器・皿	1.8	(11.3)	(8.0)	ロクロ				糸切り			反転復元
SP73	958	磁器・碗	5.5	(9.4)	(3.2)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・つる草 見込：？			瀬戸美濃?	19C	反転復元 端反碗
SP73	959	磁器・小杯	4.3	(8.2)	(3.3)	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・松 内：？ 見込：？					反転復元
SP73	960	磁器・湯飲み？	4.8	(6.8)	3.0	ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・梅花・丸文					反転復元 貫入有り
SP73	961	磁器・湯飲み？	(3.8)	(6.7)		ロクロ	染付・透明釉	外：圏線・? 内：雷文					反転復元
SP73	962	磁器・皿	4.3	10.2	4.1	ロクロ	染付・透明釉	内：鎖状の連続文（濃み地白抜き文） 見込：？		見込は蛇ノ目釉剥ぎ		1820～1860年代？	
SP73	963	陶器・碗	(4.9)	(8.0)		ロクロ	白土・鉄釉?・透明釉	外：ビラ掛け（白土・鉄釉?）			萩	19C前半	反転復元
SP73	964	陶器・小杯	4.2	8.7	3.2	ロクロ	透明釉						貫入有り
SP73	965	陶器・小杯	3.3	6.7	2.2	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
SP73	966	陶器・皿	4.8	(14.2)	(5.0)	ロクロ	鉄釉			見込は蛇ノ目釉剥ぎ			反転復元
SP73	967	陶器・蓋	2.2	(9.2)		ロクロ	鉄釉				関西系		反転復元
SP73	968	陶器・急須	(3.0)			ロクロ	白土	外：飛び鉋					取手部
SP73	969	陶器・土瓶	(6.9)	4.6		ロクロ	鉄釉？・透明釉	外：圏線・鳳凰？・雲			関西系		反転復元 薄手
SP73	970	陶器・土瓶	(8.9)	(9.0)		ロクロ	白土・鉄釉・緑釉	外：笹					反転復元
SP73	971	陶器・鍋	7.5	12.7	(5.2)	ロクロ	灰釉			見込に目跡			小さい脚付き 底面にスス付着
SP73	972	陶器・皿	2.7	11.0	5.4	ロクロ				糸切り			口縁部にスス付着
SP73	973	土師質土器・焙烙	8.6	26.2		ロクロ							外面ヘラケズリ、内面ミガキのちナデ 体部外面にスス付着
SP73	974	土師質土器・こね鉢	(7.6)			ロクロ							口縁部に丹塗り
SP73	975	銅銭・寛永通寶	径 2.4	厚さ 0.35									3枚が重なる 重さ9.2g
SP82	976	磁器・瓶？	(1.3)		(6.4)	ロクロ	白磁						反転復元
包含層	977	磁器・碗	(3.6)		(3.8)	ロクロ	染付・透明釉	外：風景 見込：？					反転復元 貫入有り
包含層	978	磁器・碗	5.0	9.4	3.6	ロクロ	染付・透明釉	外：鶴？ 見込：？					端反碗
包含層	979	磁器・小杯	5.1	(6.6)	(3.0)	ロクロ	染付・透明釉	外：松葉文	口銹				反転復元
包含層	980	磁器・鉢	(4.5)		(7.0)	ロクロ	染付・透明釉	外：窓絵・圏線					反転復元
包含層	981	磁器・鉢	(5.7)				染付・透明釉	外：草花文					
包含層	982	磁器・皿	1.8	8.8	4.0	型打	染付・透明釉	見込：閉じた扇・？					口縁部輪花
包含層	983	磁器・皿	2.0	7.8	3.8	型打	染付・透明釉	見込：貝		見込に目跡	肥前	19C中頃	角皿
包含層	984	磁器・蓋	2.6	9.0	つまみ径 3.6	ロクロ	染付・透明釉	外：？・圏線 内：圏線 見込：？					焼き継ぎ有り

包含層	985	磁器・蓋	2.1	7.8	つまみ径3.0	ロクロ	染付・透明釉	外:花唐草文 内:四方襷文 見込:松竹梅円形			肥前	1820～1860年代	
包含層	986	磁器・蓋	2.5	9.0	つまみ径3.6	ロクロ	染付・透明釉	外:木の葉・圏線					
包含層	987	磁器・蓋	2.3	8.2	6.8	ロクロ	染付・透明釉	外:銀杏の葉と実					
包含層	988	磁器・仏花瓶？	(3.0)		5.4	ロクロ	染付・透明釉	外:？					反転復元
包含層	989	陶器・小坏	4.8	(9.0)	(3.0)	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
包含層	990	陶器・皿？	(1.6)		5.2	ロクロ	透明釉						反転復元 見込と高台に砂目跡
包含層	991	陶器・蓋	(1.2)	(6.8)	(5.0)	ロクロ	透明釉						反転復元 貫入有り
包含層	992	陶器・蓋	3.0	12.8		ロクロ	色絵・透明釉	外:草花文					
包含層	993	陶器・皿？	(3.6)		(12.0)	ロクロ	白土・緑釉・透明釉	内:？		見込に砂目跡			反転復元
包含層	994	陶器・鍋	(7.8)	(21.2)		ロクロ	鉄釉						反転復元
包含層	995	陶器・甕	(11.4)	(32.0)		ロクロ	鉄釉？	外:波状突帯					内面に青海波タタキ
包含層	996	瓦質土器・火鉢	10.0			ロクロ							
包含層	997	土製品・器種不明	1.5	4.5		型打							
包含層	998	木製品・椀	6.4	(11.3)	(6.4)								漆または赤色顔料塗布
表採	999	磁器・碗	4.8	(10.6)	(3.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草木文 内:圏線 見込:圏線・？			肥前	18C後半	反転復元 貫入有り
表採	1000	磁器・碗	6.0	11.8	4.0	ロクロ	白磁						反転復元
表採	1001	磁器・碗	6.1	(8.4)	(4.7)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・植物					反転復元 貫入有り
表採	1002	磁器・小坏	(1.7)		(3.2)	ロクロ	染付・透明釉	外:草木文					反転復元
表採	1003	磁器・小杯	5.7	8.2	3.2	ロクロ	青磁			見込に目跡			貫入有り
表採	1004	磁器・小坏	3.6	(9.0)	(4.0)	ロクロ	染付・透明釉	外:？					反転復元 高台内側に砂目跡
表採	1005	磁器・小杯	(2.0)		(3.8)	ロクロ	染付・青磁釉？・透明釉	見込:五弁花		銘有り		18C代?	反転復元
表採	1006	磁器・小杯	4.3	7.4	3.2	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・？					
表採	1007	磁器・小杯	3.7	(7.2)	3.7	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・草花文			肥前(波佐見)	1680～1770年代	
表採	1008	磁器・小杯	2.9	(6.2)	2.6	ロクロ	染付・透明釉	内:海浜風景					薄手
表採	1009	磁器・碗	5.8	(7.7)	(3.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:菊花・格子 内:圏線			肥前	1770～1810年代	反転復元 筒型
表採	1010	磁器・湯飲み？	(7.5)		4.1	ロクロ	染付・透明釉	外:詩歌・櫛歯文？・？(型紙摺り？) 内:輪宝繋文？					反転復元
表採	1011	磁器・そば猪口	6.2	(6.6)	(5.2)	ロクロ	染付・透明釉	外:植物・圏線					反転復元
表採	1012	磁器・皿	3.6	(12.2)	4.4	ロクロ	青磁			見込は蛇ノ目釉剥ぎ 砂目跡			反転復元
表採	1013	磁器・蓋	(2.6)	(10.6)		ロクロ	白磁						反転復元
表採	1014	磁器・段重	4.0	(14.0)	(12.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:圏線・詩歌					反転復元
表採	1015	磁器・仏飯器	5.3	5.3	3.6	ロクロ	白磁						
表採	1016	磁器・水滴	(1.9)			型打	染付・透明釉	外:菊花					穿孔2つ
表採	1017	磁器・紅皿	(0.8)	(3.6)		ロクロ	白磁						反転復元
表採	1018	磁器・香炉？	(2.9)			ロクロ	瑠璃釉						
表採	1019	磁器・器種不明	(6.3)	幅'(2.4)		ロクロ？	染付・透明釉	外:渦文・花文					取手部？
表採	1020	陶器・皿	2.4	(12.0)	3.9	ロクロ	灰釉			見込に砂目跡		1580～1650年代	反転復元
表採	1021	陶器・皿	2.5	12.8	4.5	ロクロ	灰釉			見込に砂目跡		1610～1650年代？	見込と高台内側に砂目跡
表採	1022	陶器・鉢	(3.7)		8.7	ロクロ	白土・鉄釉	内:刷毛目		見込は蛇ノ目釉剥ぎ			反転復元
表採	1023	陶器・擂鉢	(6.0)		(19.6)	ロクロ	鉄釉						反転復元
表採	1024	陶器・鉢？	(4.3)			ロクロ	透明釉						脚付き 貫入有り
表採	1025	陶器・蓋	(1.6)			型打	鉄釉	外:草木文？(型打)					
表採	1026	磁器・蓋	(1.7)			ロクロ	瑠璃釉・透明釉						
表採	1027	瓦質土器・火鉢	(4.6)	(20.0)		ロクロ							反転復元
表採	1028	土師器・蓋？	1.9	6.5	3.2	手づくね							
表採	1029	土製品・人形(灯籠)	高さ(4.4)	幅2.3		型打							
表採	1031	銅銭・寛永通寶											重さ3.8g
表採	1032	銅銭・寛永通寶											重さ3.2g

第２表　出土瓦観察表

出土遺構	遺物番号	種別	瓦当径	周縁幅	瓦当厚	珠文数	瓦当幅	文様帯幅	顎部幅	備考
SK3	127	丸瓦								布目痕
SK3	128	軒丸瓦		2.2	1.3					
SK4	270	軒丸瓦		2.5	1.9					右三ッ巴
SK16	381	丸瓦								穿孔あり
SK16	382	軒丸瓦	(11.2)	2.7	2.0					左三ッ巴
SK16	383	軒平瓦					3.2	2.1	1.1	三葉文
SK27	694	軒桟瓦	8.7	1.7	1.7					左三ッ巴
SK35	755	軒平瓦					3.9	2.4	1.5	柏葉文
SK35	756	軒平瓦					4.5	2.9	1.3	橘文
SK47	841	軒桟瓦	8.4	1.0	1.8		4.6	2.8	2.1	右三ッ巴
SX1	926	道具瓦？								
表採	1030	軒丸瓦	13.3	1.8	1.6	12				左三ッ巴

※法量の単位はcm。

第４章　調査のまとめ

今回の調査地は中津城下町の中でも比較的城に近く、幹線道路に面して交通の便の良い場所であることから、城下町整備の早い時期から屋敷地になっていたと考えられる。調査範囲内でも密集する土坑から江戸時代の各時期の遺物が多量に出土している。以下では出土遺物の時期と生産地、各種遺構の時期と性格、今回調査地の城下町における位置付けなどについて概観し、調査のまとめとする。

○出土遺物の時期と生産地

今回調査地の南面道路（県道外馬場錆矢堂線）の拡幅に伴い、1997 年から 1999 年に広範囲の発掘調査が実施されている。この殿町地区の調査報告書で出土遺物についてまとめられているが、今回の出土遺物も全体的には同様の傾向がみられる。

17 世紀代では磁器に比較して陶器の割合が高く、生産地も肥前が多い。陶器では碗（297・325）・皿（428・772・920・945・1020・1021）・鉢（327）・擂鉢（736）などがあり、磁器では碗（904・905）・皿（365・793）・蓋（366）などがあり、青磁の食器が注目される。

18 世紀前半になると遺物の量が増加し、なかでも肥前の製品が大多数を占める。陶胎染付の碗（407・799）や現川焼の刷毛目で白土をめぐらせる碗（354）なども増える。出土量は少ないが唐津の陶器の鉢（457・729）、高取系の徳利（715）、小石原系の碗（408）やかぶの染付が特徴的な久留米の朝妻焼の碗（516）も出土している。

18 世紀後半でも遺物の増加傾向は続く。日常食器としての磁器は肥前が卓越しているものの、急須や土瓶（236）・行平（245・247・248）・擂鉢など関西系の陶器が目立つようになる。上野・高取系の碗（304・449・661）も少量あり、1 点のみであるが肥後八代窯の陶器皿（560）がみられる。

19 世紀、特に前半代は引き続き遺構の数に比例して遺物量は多い。磁器と陶器に占める肥前系と関西系の割合は、前代と比較して関西系がやや高くなる傾向にあるようだ。外面に布目圧痕を残す灰色の土師質土器の急須（237・238・255・256・623・624・625・626）も関西系でこの時期のものかと考えられる。また、瀬戸美濃の磁器碗（178・181・958）・陶器皿（564）、志野焼の陶器碗（217）、楽焼の陶器皿（563）、萩の陶器碗（963）もこの時期のものであろう。高村の土師質土器の焙烙・こね鉢・片口も相当量出土しているが、時期的にどこまで遡るのかは不明である。

これら以外に時期が不明なものでは、「萬古」の刻印がある陶器の小坏（846）、器種不明の黒色の土器（666）は産地も不明である。中国龍泉窯系の青磁碗（742）は伝世品か。土器以外では人形に土師質のものと陶質のものがあるが、これは生産地の相違を反映するものであろうか。また今回に限らず、城下町の調査では古墳時代後期から奈良時代の遺物が散見されるが、今回も高坏（777）や坏があり、山国川上流の遺跡からの流入によるものか、城下町内に当時の遺跡が存在した証拠であるか、今後の調査で注意が必要であろう。

○各種遺構の時期と性格

今回確認された遺構には建物跡・井戸跡・土坑・溝状遺構などがある。このなかで建物跡としたものは瓦葺き建物の柱の据え跡にともなうもので、40㎝～ 110㎝程度の大きさで、浅い土坑の床面に円礫を貼り付ける構造である。本来はその上に礎石が置かれていたはずであるが、調査時点では大型の石材は確認されなかった。こうした遺構が列をなしたり、矩形に配置されている部分が２か所で検出された。ただし、建物全体の平面的な広がりは把握できなかった。

井戸跡は２基確認され、１号井戸跡が素掘り、２号井戸跡は周壁に石積みされていた。１号からは遺物の出土がなく時期は不明であるが、２号からは多量の遺物が出土し１８世紀代から１９世紀後半

まで比較的長期間にわたって使用されたものと考えられる。

土坑として番号を付した遺構は 54 基にのぼり、狭い調査区内で密集し、切り合って検出された。検出された遺構のうち 24 基程度が廃棄土坑と考えられる遺構で、規模は 1 m程度から大きいものでは長さ 3 mを超えるものまである。他の用途が推定される遺構としては、９号土坑は石灰分が付着した土師質土器の大甕が設置されていたことから便槽と考えられる。10 号土坑の壁面からは木材が腐食したような粘土質が検出され、方形の木棺をともなう埋葬施設の可能性が考慮される。また、16 号土坑は平面形が長さ 3.70 m・幅 1.00 mの長方形で、深さは 1.72 mまで掘削したが、床面に達しない特異な形状の遺構である。調査中も遺構内には床面から常に湧水する状況がみられたことから、水の利用に関係する遺構かと推定されが、「御水道」に関わる遺構とは断定できない。

溝状遺構のうち５号溝状遺構は最大幅 3.07 m、長さは 9.00 m分を検出し、深さは西側の最深部で 1.16 mをはかるが、調査区外の東西両方向に延長しているであろう。その規模から考えて当遺構はこの屋敷地だけではなく城下町の町割りに関わる遺構と考えられる。用排水路としての機能面では底面の標高が西端で 2.49 m、東端で 2.76 mであることから、溝内では東から西に水が流れていたと考えられる。また、屋敷地内にこれだけの大規模な構造物が設置されていたことにはやや疑問もあり、南面道路と屋敷地を区画する施設の性格を兼ねていたことも可能性として考慮する必要がある。

今回確認した各遺構を時期ごとにまとめると次のようになる。１７世紀代は前半が 38 号土坑、後半が 16 号土坑と遺構数は少ない。１８世紀代になると前半が８号・12 号・18 号・20 号・25 号・29 号・30 号・34 号・45 号土坑・１号不整形土坑、後半では 15 号・14 号・21 号・26 号・46 号土坑・３号不整形土坑と急増する。ただし、９号・50 号土坑・２号不整形土坑は１８世紀代を通じて使用された遺構かもしれない。１９世紀代では前半が３号・４号・22 号・24 号・27 号・47 号・73 号ピットと引き続き多いが、後半は 31 号土坑だけである。なお、１号・33 号・35 号土坑などは明治期以降現代までの新しい遺構である。

○今回調査地の城下町における位置付け

最後に、中津城とその城下町の整備について概観する。1587（天正 15）年、豊臣秀吉は九州をその支配下に繰り入れ、豊前国下毛郡など六郡の領主として郡奉行であった黒田勘兵衛孝高を配した。黒田氏は天正 16 年中津江太郎の居城である丸山城を補修し、入城した。同年秀吉の命により九州各地に配された武将達が一斉に築城を始め、中津城はその一つであり、九州最古の近世城郭の一つである。最古の「黒田如水縄張図」には城の本丸･二の丸･三の丸とともに、「京町」･「博多町」の名称が見え、「侍屋敷或町屋」･「寺モアリ」という表記の他、「町」という文字も４カ所記載されている。1600（慶長 5）年、黒田氏の福岡転封により、次に入国した細川忠興は豊前一国と豊後国国東・速見郡の領主として当初中津城を居城とした。しかし、忠興は翌年居城を小倉に移し、中津には忠利を入れた。これにともない中津城の増改築を行っていたが、1615（元和元）年の「一国一城令」を経て、1620（元和 6）年忠興は忠利に家督を譲り中津城にもどった。この間城下の町割りも整備され、新博多町・古博多町・京町・米町・姫路町・豊後町・新魚町・角木町・諸町・塩町・堀川町・舟町・古魚町・桜町の 14 町と枝町（出町・出小屋）、侍町（武家町）の原型ができた。武家屋敷は、三の丸に家老屋敷、片端・殿町に上級武士、金屋あたりには下級武士の屋敷が置かれた。1632（寛永 9）年、細川氏の熊本転封により、中津には譜代大名小笠原長次が入部し、城下町の整備がさらに進められた。1652（承応元）年には山国川の上流から取水し城下へ水を流す、九州最初の水道の整備が行われている。1663（寛文 3）年の「中津城総曲輪絵図」によると、城下 14 町のほか下正路町・留守居町・カコ町・弓町・中間町・持筒町・鉄砲町・鷹匠町・寺町・侍町などの地名が見え、武家町に町名がつけられている。

第64図　幕末期の中津城下町絵図

今回調査地は現在の地名では「殿町」に含まれ、上級武士に割り振られた屋敷地である。掲載した幕末期の絵図（第 64 図）に示された場所は現在の中津城の南側で、今回の調査地周辺である。絵図の上が北方で、中央よりやや左側で上下に延びる道路が城跡中央から南側に続く道路にあたる。また、中央よりやや上側で左右に延びる道路が山国川を渡って西側の福岡県吉富町へ続く県道外馬場錆矢堂線と一致する。今回の調査地はこの絵図の中で中央やや右上に記載がある「黒屋兵大夫」の屋敷地に相当する。４号土坑から出土した手づくねの陶器（259）は茶壺の可能性があるが、上下に分けて製作された上半の内面に「黒屋傳一郎主也」とふりがなの「クロヤデン」の墨書が記されていた。４号土坑は１９世紀前半の遺構であり絵図とは時期的に若干前後するが、この陶器は文献資料に記載された「黒屋」家の存在を考古資料の面から裏付けることとなった。その他の出土遺物でも色絵の磁器が多数出土し、染付の盃洗（147）なども上質のものであり、居住者の中津藩における地位の高さをうかがわせるものである。

〔参考文献〕
・中津市教育委員会『中津城下町遺跡　殿町地区発掘調査報告書』中津市文化財調査報告第 32 集　2004.3.29
・九州近世陶磁学会『九州陶磁の編年　－九州近世陶磁学会 10 周年記念－』　2000.2.11

写　真　図　版

図版１

(１)中津城下町遺跡37次調査地全景（北から）

(２)調査区全景(南から)

図版２

(１)調査区全景(北から)

(２)調査区北部(南東から)

(３)調査区北部(東から)

(１)調査区中央部(東から)

(２)調査区中央部(東から)

(３)調査区中央部(南東から)

(４)調査区中央部(東から)

(５)調査区南部(南東から)

(６)調査区南部(西から)

図版４

(１)調査区北端部(東から)

(２)調査区北端部(西から)

(３)２号建物跡(北東から)

(４)２号建物跡集石(東から)

(５)１号井戸跡(東から)

(６)２号井戸跡(東から)

(７)２号井戸跡(南から)

(1)２号井戸跡出土遺物

(2)１号土坑(南から)

(3)２号土坑(南から)

(4)３号・４号土坑(南西から)

(5)３号土坑(南西から)

(6)４号土坑(東から)

(7)４号土坑木製品出土状況(西から)

図版６

(1)３号土坑出土遺物１

(2)３号土坑出土遺物２

(3)３号土坑出土遺物３

(4)３号土坑出土遺物４

(5)３号土坑出土遺物５

(6)３号・４号土坑出土遺物

(7)４号土坑出土遺物１

(8)４号土坑出土遺物２

(1)４号土坑出土遺物３

(2)４号土坑出土遺物４

(3)４号土坑出土遺物５

(4)４号土坑出土遺物６

(5)５号・６号土坑出土遺物

(6)８号・９号土坑(東から)

(7)９号土坑(南から)

(8)10号土坑(西から)

(9)11号・12号土坑(北西から)

図版８

(1)15号土坑(南から)

(2)16号土坑(北から)

(3)16号土坑土層

(4)17号土坑(東から)

(5)21・22号土坑(西から)

(6)18号土坑(西から)

(7)18号土坑土層

(8)24号土坑(北西から)

(9)26号・27号・28号土坑(南から)

(1)９号・12号・13号土坑出土遺物

(2)14号・15号土坑出土遺物

(3)16号土坑出土遺物

(4)18号土坑出土遺物

(5)20号・21号土坑出土遺物

(6)21号土坑出土遺物

(7)22号土坑出土遺物

(8)24号土坑出土遺物１

図版10

(1)24号土坑出土遺物2

(2)24号土坑出土遺物3

(3)24号土坑出土遺物4

(4)24号土坑出土遺物5

(5)24号土坑出土遺物6

(6)25号・26号土坑出土遺物

(7)27号土坑出土遺物

(8)28号土坑出土遺物

(1)31号土坑(西から)

(2)32号土坑(南から)

(3)33号土坑(東から)

(4)34号土坑(東から)

(5)35号土坑(北から)

(6)37号土坑(北から)

(7)38号・39号土坑(東から)

(8)40号土坑(北から)

図版12

(1)41号土坑・１号不整形土坑(南から)

(2)43号土坑(南東から)

(3)45号土坑(北東から)

(4)45号土坑獣骨出土状況

(5)47号土坑(北から)

(6)50号土坑(南東から)

(7)51号土坑(北東から)

(1)29号土坑上層・中層・下層出土遺物

(2)29号土坑下層出土遺物

(3)29号土坑中層出土遺物

(4)32号・34号土坑出土遺物

(5)35号・36号・37号土坑出土遺物

(6)38号・41号・42号・45号土坑出土遺物

(7)46号・47号土坑出土遺物

(8)47号土坑出土遺物１

図版14

(1)47号土坑出土遺物２

(2)47号土坑出土遺物３

(3)49号・50号・51号土坑出土遺物

(4)５号溝状遺構出土遺物

(5)１号・２号・３号・４号溝状遺構(西から)

(6)１号溝状遺構(北から)

(7)１号・２号・３号・４号溝状遺構(東から)

(8)５号溝状遺構(東から)

(1)５号溝状遺構(西から)

(2)５号溝状遺構東端土層

(3)５号溝状遺構西部土層

(4)５号溝状遺構遺物出土状況

(5)５号溝状遺構編み籠出土状況

図版16

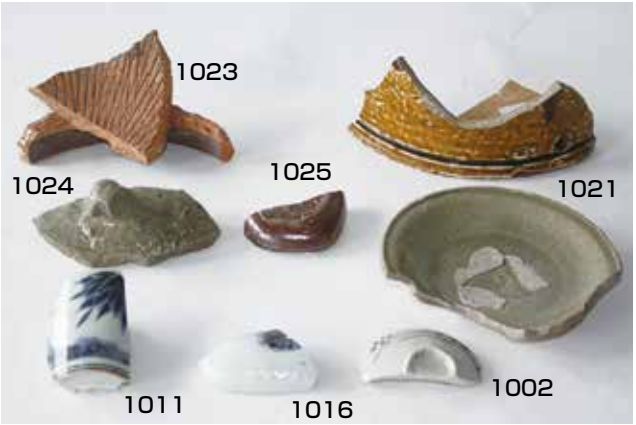
(1)３号不整形土坑(西から)

(2)１号不整形土坑出土遺物

(3)３号不整形土坑出土遺物

(4)２号・３号不整形土坑、52号・73号ピット出土遺物

(5)包含層出土遺物



(6)表面採集遺物１

(7)表面採集遺物２

報　告　書　抄　録

書名（ふりがな）	中津城下町遺跡37次調査（なかつじょうかまちいせきじちょうさ）
副書名	大分県中津市殿町における児童館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	中津市文化財調査報告
シリーズ番号	第102集
編集者名	末永　弥義
編集機関	中津市教育委員会
所在地	〒871-8501　大分県中津市豊田町14番地3　TEL：0979-22-1111
発行年月日	令和3年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中津城下町遺跡37次（なかつじょうかまちいせきじ）	中津市殿町1380-1（なかつしとのまち）	44203	101002	33°36′10″	131°11′07″	2018.1.22～2018.3.29	350㎡	児童館建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中津城下町遺跡37次（なかつじょうかまちいせきじ）	城下町	近世・近代	建物跡　2棟 井戸　2基 土坑　54基 溝状遺構　5条	土師器・土師質土器・瓦器・瓦質土器・磁器・陶器・瓦・土製品・木製品・石製品・鉄製品・銅製品・銅銭・獣骨	なし

要約	・上級武士の屋敷にともなう建物跡や井戸跡、多数の廃棄土坑を確認した。 ・遺物は肥前系を中心に、東海地方以西の各地の近世陶磁器を多量に出土した。

中津城下町遺跡37次調査

中津市文化財調査報告　第102集

発行日　2021年3月31日
発　行　中津市教育委員会
印　刷　高橋印刷所